

茨城県教育財団文化財調査報告第380集

しまなくまやま
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXX

平成25年3月

茨城県
公益財団法人茨城県教育財団



第204号井戸跡完掘状況（北から）



墨書土器集合

序

茨城県は、つくば市を世界的な科学技術研究の中核都市と位置づけ、さらには、国際交流の拠点にふさわしい都市としての整備を推進しています。

その一環である「つくばエクスプレス」の整備も平成17年に完了し、沿線開発としての土地区画整理事業が継続して進められています。

しかしながら、この事業地内には、埋蔵文化財包蔵地である島名熊の山遺跡が所在することから、これを記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が茨城県から委託を受け、平成7年4月から平成23年8月までの17年間にわたって開発区域内における埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

その成果については、既に『茨城県教育財團文化財調査報告第120集』『同第133集』『同第149集』『同第166集』『同第174集』『同第190集』『同第214集』『同第236集』『同第264集』『同第280集』『同第291集』『同第322集』『同第328集』『同第360集』として順次刊行したところです。

本書は、島名熊の山遺跡の平成22・23年度の調査の成果を収録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成25年3月

公益財團法人茨城県教育財團

理事長 鈴木欣一

例　　言

1 本書は、茨城県の委託により、公益財団法人茨城県教育財團が平成 22・23 年度に発掘調査を実施した、
茨城県つくば市島名字香取前 1894 番地の 1 ほかに所在する島名熊の山遺跡の一部である 12 区の発掘調査
報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査 平成 22 年 4 月 1 日～6 月 30 日、平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日

平成 23 年 4 月 1 日～8 月 31 日

整理 平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

3 発掘調査は、平成 22 年度が調査課長池田晃一、平成 23 年度が調査課長櫻村宣行のもと、以下の者が担当した。

平成 22 年度

首席調査員兼班長	仲村浩一郎	平成 22 年 4 月 1 日～6 月 30 日、平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日
首席調査員	小澤重雄	平成 22 年 4 月 1 日～5 月 31 日
首席調査員	酒井雄一	平成 22 年 4 月 1 日～6 月 31 日
主任調査員	本橋弘巳	平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日
主任調査員	大間 隆	平成 22 年 4 月 1 日～5 月 31 日
調査員	鹿島直樹	平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日
調査員	宮崎 剛	平成 22 年 4 月 1 日～6 月 30 日

平成 23 年度

首席調査員兼班長	稲田義弘	平成 23 年 4 月 1 日～8 月 31 日
首席調査員	綿引英樹	平成 23 年 4 月 1 日～6 月 30 日
首席調査員	荒薛克一郎	平成 23 年 7 月 1 日～8 月 31 日
調査員	清水 哲	平成 23 年 4 月 1 日～8 月 31 日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、調査員（主任）清水哲が担当した。

5 本書の作成にあたり、墨書き器の鑑定については大学共同利用機関法入人間文化研究機構国立歴史民俗博物館館長平川南氏にご教示をいただいた。獣骨の同定については大学共同利用機関法入人間文化研究機構国立歴史民俗博物館教授西本豊弘氏にご教示をいただいた。木製品の取り上げ及び保存処理については、筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授松井敏也氏にご教示をいただき、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団と株式会社吉田生物研究所に委託した。また、木製品の樹種同定については株式会社吉田生物研究所に委託し、考察は付章として掲載した。

凡　　例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = + 7,320 m, Y = + 20,200 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …, 西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j、西から東へ 1, 2, 3, … 0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を（ ）を付けて併記した。

3 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 HG - 遺物包含層 P - ピット PG - ピット群 SB - 挖立柱建物跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡
SF - 道路跡 SI - 壑穴住居跡 SK - 土坑 SX - 遺物集中地點
遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 N - 自然遺物 Q - 石器・石製品 TP - 拓本記録土器
W - 木器・木製品
土層 K - 搾乱

4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は 300 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。種類や時期で細分した場合は、個々に凡例を表示した。

 赤彩・施釉・朱墨  窯部材・黒色処理
●土器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 ▲木器・木製品 ■自然遺物 -----硬化面

5 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

6 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は（ ）を、推定値は〔 〕を付して示した。
 - (2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
 - (3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。
- 7 壑穴住居跡の「主軸」は、炉・窯を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。
- 8 今回の報告分で、調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたもののは以下のとおりである。

変更 SK7059・7060・7063・7067・7069・7072・7074・7075・P 18 → SB583 SK7054・7056・7061・7062・7064・
7068・7080・7082 → SB584 2 次面→第 1・2 号遺物集中地點 SK7057・7058 → SD556 P 1・P 2
仮 SF 1・2・8・9 → SF21～24 SK6881～6884 → PG61 P 1～P 4 SK7052・7053・7055・7066・
7070・7071・7076～7078・7084～7087・7089・7090・7092～7104・P 1～P 17・P 19 → PG62 P 1～P 46
欠番 SI3115 SE202 仮 SF 3・4

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
鳥名熊の山遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 遺構と遺物	18
1 古墳時代の遺構と遺物	18
(1) 井戸跡	18
(2) 遺物包含層	23
2 奈良時代の遺構と遺物	24
(1) 掘立柱建物跡	24
(2) 井戸跡	28
(3) 溝跡	39
3 平安時代の遺構と遺物	41
(1) 竪穴住居跡	41
(2) 井戸跡	44
(3) 土坑	89
(4) 遺物集中地点	90
4 室町時代の遺構と遺物	176
(1) 堀跡	176
(2) 溝跡	176
5 その他の遺構と遺物	180
(1) 井戸跡	180
(2) 土坑	181
(3) 道路跡	184
(4) 溝跡	185

(5) ピット群	187
(6) 造構外出土遺物	193
第4節　まとめ	198
付 章	229
写真図版	PL 1 ~ PL78
抄 錄	

しまなくま やま 島名熊の山遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

島名熊の山遺跡は、つくば市の南西部に位置し、東谷田川右岸の台地上から低地部にかけて立地しています。今回の調査は、つくばエクスプレス沿線の島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴うものです。調査期間は平成 22 年 4 月～6 月と平成 23 年 1 月～8 月の延べ 11 か月間で、調査面積は 2,154m²です。

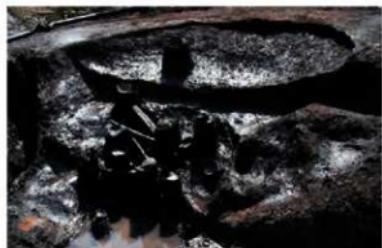


調査の内容

遺跡南東部の谷部を調査し、古墳時代後期から平安時代初頭（約 1,400～1,100 年前）の水場の跡を確認しました。水場は、水が湧き出す井戸とその水が流れていく凹地などで構成されています。水場からは 852 点の墨書き器や布の長さと人名が記された木簡、鍬や杵などの農工具、漆器や曲物などの容器、櫛や刀形の祭祀具などの木製品、1,000 点以上のモモの種やクリが出土しました。



奈良時代の水場の跡



土器が投げ込まれている古墳時代の井戸



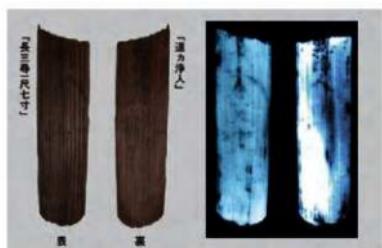
多量の土器が出土している水場



板材で組まれている平安時代の井戸



井戸から7枚重ねの状態で出土している土器



布の長さと人名が記されている木簡



当時の地名が記されている土器

調査の結果

今回確認した水場は、「しまな」の集落に暮らす人々が季節に応じて祭りを行った神聖な場所であり、出土した多量の土器や木製品は、神との飲食に用いられた祭りの道具と考えられます。『常陸國風土記』には清らかな水が湧く場所に人々が集まり、宴げや祭りを行う様子が数多く記されています。今回の成果は、そうした古代の人々と水との関わりが具体的にわかる貴重な例といえます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内(つくば市島名)における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受け、平成6年9月19日～27日、茨城県教育委員会は現地踏査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成6年9月22日、平成22年5月14日・21日、茨城県教育委員会は試掘調査を実施した。平成7年3月8日、平成22年5月26日、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、事業地内に島名熊の山遺跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成7年3月14日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第57条の3第1項(現第94条)に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成7年3月16日、茨城県知事あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成22年2月10日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成22年2月24日、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、島名熊の山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財團法人茨城県教育財團(現 公益財團法人茨城県教育財團)を紹介した。

財團法人茨城県教育財團は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成22年4月1日から6月30日までと平成23年1月1日から8月31日まで、発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

島名熊の山遺跡の一部である12区の調査は、平成22年4月1日から6月30日までと平成23年1月1日から8月31日までの11か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	平成22年度						平成23年度					
	4月	5月	6月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
調査準備 表土除去 遺構確認	■	■			■			■				
遺構調査		■	■		■	■	■	■	■	■	■	
遺物洗浄 注写真整理		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
撤収			■	■			■					■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

鳥名熊の山遺跡12区は、茨城県つくば市鳥名字香取前1894番地の1ほかに所在している。

つくば市は、筑波山を北端として、その南東側に広がる標高20~25mの平坦な台地上に位置している。この台地は、筑波・稻敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川によって区切られており、東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れている。台地の地質は、海成砂層の成田層を基盤として、その上に砂層・砂疊層の竜ヶ崎層、さらに泥質粘土層の常総粘土層、関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。

つくば市南西部の鳥名地区は、東谷田川と西谷田川によって開析された狭長な台地の中央部に位置している。両河川流域の地形は、当地区から上流域で平坦な台地面が残っている一方、下流域では支谷が樹枝状に発達し、谷密度が高い状況が見て取れる。したがって、当地区周辺は陸路と水運との結節点にあたり、交通の要衝であったことが想定できる²⁾。

当遺跡は、鳥名地区東部の台地縁辺部に位置し、東谷田川の沖積低地に面した台地上から低地部にかけて立地している。遺跡の範囲は南北880m、東西560mである。標高は、遺跡東北部(11区)や遺跡南西部(16区)の台地上が最も高く、24mで、遺跡南東部(12区)の低地部が13mである。当遺跡の地形は、周囲を深い谷津に囲まれ、台地基部から独立した島状を呈している。さらに、これまでの調査から、台地上に複数の埋没谷が入り込んでいる様子が明らかになっており、起伏に富んだ地形であったことがうかがえる³⁾。

今回報告する12区は、遺跡南東部に鎮座する香取神社の南側に位置し、標高13~15mの台地斜面部から低地部にかけて立地している。また、北部及び西部の台地上から延びている埋没谷が合流する部分にあたり、調査区全体が北西・南東方向を軸とする谷地形になっている。調査前の現況は畠地である。

第2節 歴史的環境

鳥名熊の山遺跡周辺の東谷田川や西谷田川、蓮沼川流域の台地上には、旧石器時代から中世にかけて数多くの遺跡が存在している。特に、当遺跡が所在する鳥名地区は調査事例が多く、各時代の様相をつかみやすい地域でもある。ここでは、当遺跡と周辺の遺跡の状況について概略を述べる。

旧石器時代は、平北田遺跡⁴⁾(37)、下河原崎谷中台遺跡⁵⁾(75)、元宮本前山遺跡⁶⁾(77)で石器集中地点が確認されており、ナイフ形石器、角錐状石器、搔器、尖頭器をはじめ、石核や剥片などが出土している。また、島名前野東遺跡⁷⁾(7)、鳥名一町田遺跡⁸⁾(9)、島名境松遺跡⁹⁾(10)、島名ツバタ遺跡¹⁰⁾(16)でナイフ形石器や尖頭器、サイドスクレーパー、面野井北ノ前遺跡¹¹⁾(25)で荒屋形彫器、当遺跡¹²⁾でナイフ形石器や尖頭器、細石刃石核などが採集されており、当地域における石器製作と狩猟生活の様子を示す資料が蓄積されている。

縄文時代は、元宮本前山遺跡¹³⁾で早期の炉穴、下河原崎谷中台遺跡¹⁴⁾で早期の炉穴や中期から晩期にかけての住居跡、島名ツバタ遺跡¹⁵⁾で早期と中期の住居跡やフラスコ状土坑、島名境松遺跡¹⁶⁾で中・後期の住居跡や土器焼成構や土坑などがそれぞれ確認されている。これらの遺跡は河川を望む台地の縁辺部に立地し、特に早期と中期に集落形成が顕著になるのが当地域の特徴といえる。当遺跡においても陥り穴5基のほか、遺跡の

南東部（16 区）で早期前半の撫糸文系、北東部（11 区）で早期後半の条痕文系の土器片が出土している¹⁷⁾。そのほか、各調査区で前期から後期にかけての土器片や石鐵、石斧、磨石、石皿などの石器類が採集されており、当時代の人々の生活の痕跡をうかがうことができる。

弥生時代の遺跡は当地域では少なく、当遺跡南部の埋没谷周辺から後期後半の土器片が採集されているだけである。出土した土器片には刷痕が認められ、当地域の稲作を考える上で興味深い¹⁸⁾。

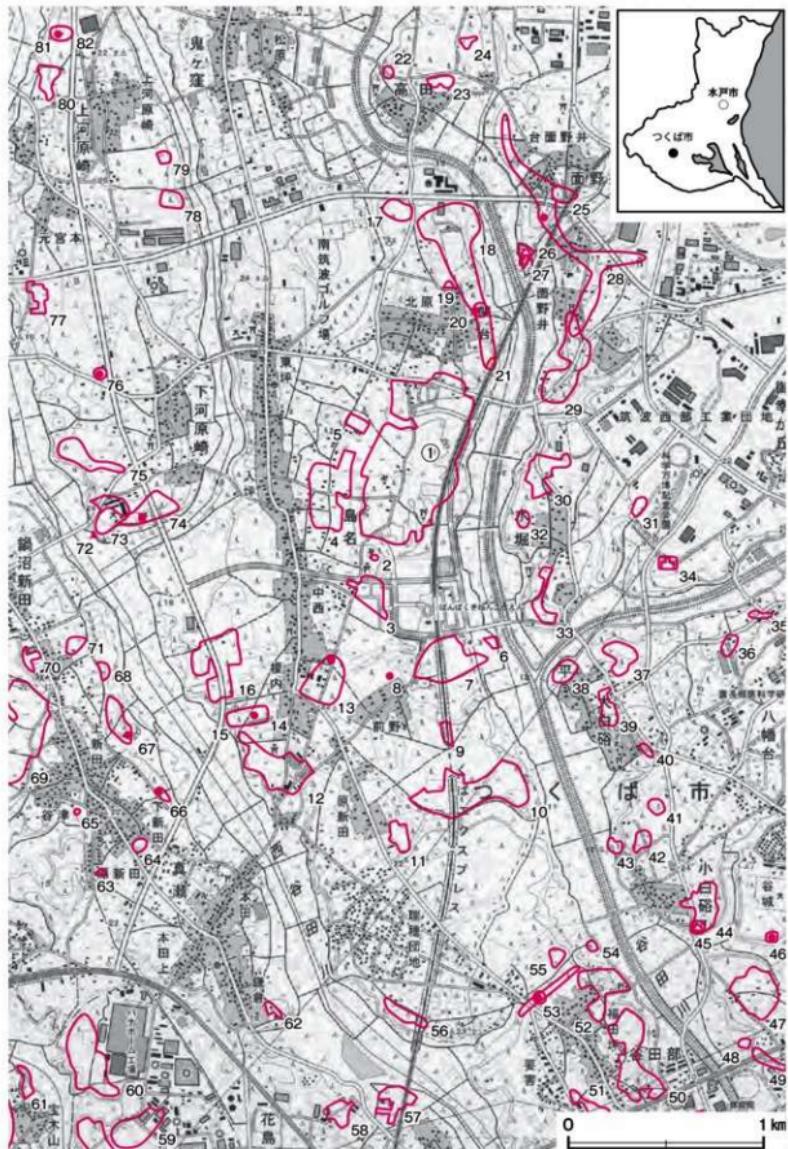
古墳時代前期になると、東谷田川沿いに小規模集落が点在するようになる。島名一町田遺跡¹⁹⁾や約 6.5km 南の境松貝塚²⁰⁾では南関東系の土器を伴う初期の集落が出現し、当遺跡や島名前野遺跡²¹⁾（6）では集落跡、島名前野東遺跡²²⁾では集落に付随した形で方形周溝墓 3 基が確認されている。

中期には、遺跡が西谷田川沿いにも広がりを見せ、前述した遺跡に加えて島名ツバタ遺跡²³⁾や谷田部塗跡²⁴⁾（56）、上置丸古屋敷遺跡²⁵⁾（57）、真瀬三度山遺跡²⁶⁾（58）などで集落跡が確認されている。特に、元宮本前山遺跡²⁷⁾では滑石製模造品の製作跡が確認され、下河原崎谷中台遺跡²⁸⁾では県内初の琴柱形石製品が出土しており注目されている。これらの集落は、台地縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており、その立地や経営には台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く示唆される。

後期になると、台地の内部にまで集落が形成されるようになり、当遺跡でも、6 世紀後半以降に台地全体に集落域が拡大し、急速に発展していく様子が明らかにされている²⁹⁾。当遺跡周辺では島名八幡前遺跡³⁰⁾（3）、島名前野遺跡³¹⁾、島名前野東遺跡³²⁾、平北田遺跡³³⁾などの集落が継続して営まれており、当遺跡の集落は、近接するこれらの遺跡と補完し合う形をとりながら、古墳時代の終わりまで存続したと考えられる。また、当期は古墳が急増する時期であり、当遺跡では南東部の台地先端部で墳丘径約 19 m と約 8 m の円墳 2 基が確認されている。当遺跡周辺では島名前野古墳〈8〉、島名複内古墳群〈13〉、島名複内西古墳群〈14〉、島名関ノ台古墳群〈18〉、面野井古墳群³⁴⁾（28）、下河原崎高山西古墳群³⁵⁾（74）などがあり、いずれも径 10 ~ 20 m の小円墳からなる地域的な群集墳の在り方を示している。中でも、当遺跡北側に隣接する島名関ノ台古墳群は、全長約 40 m の前方後円墳と円墳 27 基が存在したといわれ、被葬者は島名地区の盟主的存在であった可能性が高い³⁶⁾。

奈良時代になると、島名地区は急速に集落の再編が進むようになる。その背景には、律令国家の成立と地方の国郡制の整備があったことは明らかで、当地区は河内郡嶋名郷に編入される³⁷⁾。当遺跡³⁸⁾や島名八幡前遺跡³⁹⁾の集落は、大形住居とそれに付随する掘立柱建物を中心として、規模や形状が等質化したその他の住居とともに、いずれも主軸を真北にした配置をとるようになる。さらに、当集落の中央部には L 字状に配置された掘立柱建物群が整備され、郷閭連の官衙的施設の可能性も指摘されている。一方、7 世紀に一旦集落が途絶えていた島名前野遺跡³⁰⁾や島名前野東遺跡³¹⁾では、8 世紀中頃に再び集落が形成される。それは、約半世紀の間空閑地となっていた当地が、律令体制の進展と共に再開発の標的となつたためと思われる。しかし、これらの遺跡以外に当地区では集落が認められなくなり、当遺跡周辺だけに集落が集中するという現象が認められる。

平安時代になると、遺跡数はさらに減少し、集落として明確に捉えられるのは当遺跡⁴⁰⁾と島名八幡前遺跡³⁹⁾だけとなる。両遺跡は、鍛冶生産や紡績などの手工業関連の遺構・遺物が確認でき、9 世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。また、8 世紀以来の集落が、大規模な集落を残し消滅していく状況は、律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成を考えることもできる。この9世紀の集落編成も10世紀を迎えると新たな展開を示し、島名八幡前遺跡も集落としての終焉を迎えることになる。一方、当遺跡ではそれ以降も集落が存続し、11世紀まで継続的に営まれている。その後の集落の様相は、不明瞭であるが、墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており、遺物の面から有力者層の存在をうかがうことができる。



第1図 島名熊の山跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「谷田部」）

表1 島名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世			旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	島名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	○	42	小白宿民部山遺跡					○		
2	島名薬師遺跡			○					43	小白宿赤表遺跡			○				
3	島名八幡前遺跡			○	○	○			44	小白宿海道塙遺跡	○			○	○		
4	島名本田遺跡			○	○	○	○	○	45	小白宿海道塙塚群				○	○		
5	島名中代遺跡				○				46	谷田部カロウド塙古墳			○				
6	島名前野遺跡	○		○	○	○	○	○	47	谷田部台成井遺跡	○						
7	島名前野東遺跡	○		○	○	○	○	○	48	谷田部下成井遺跡	○				○		
8	島名前野古墳			○					49	谷田部台町古墳群			○				
9	島名一町田遺跡	○	○		○		○	○	50	谷田部福田前遺跡	○		○	○			
10	島名坂松遺跡	○		○					51	谷田部塗出口道路	○		○	○	○		
11	島名タカドロ遺跡	○		○					52	谷田部福田遺跡	○		○				
12	島名桜内南遺跡	○		○	○				53	谷田部大堀遺跡				○	○		
13	島名桜内古墳群			○					54	谷田部山合遺跡	○			○	○		
14	島名桜内西古墳群			○					55	谷田部陣馬遺跡	○		○				
15	島名桜内遺跡			○					56	谷田部塗遺跡	○		○	○			
16	島名フバタ遺跡	○		○	○	○			57	上萱丸古屋敷遺跡			○	○	○		
17	島名閑ノ台遺跡			○					58	真瀬三度山遺跡	○		○				
18	島名閑ノ台古墳群			○					59	二本松道路	○						
19	島名閑ノ台塚						○	○	60	西山道路	○			○	○		
20	島名閑ノ台南A遺跡			○	○				61	苗代山遺跡	○						
21	島名閑ノ台B遺跡	○	○		○	○			62	真瀬戸崎遺跡	○		○	○			
22	高田和田台遺跡			○					63	真瀬西原塚				○	○		
23	高田遺跡					○	○		64	真瀬中畠遺跡	○		○				
24	高田原山遺跡			○	○				65	真瀬新田谷津遺跡	○						
25	面野井北ノ前遺跡			○	○	○	○		66	真瀬新田古墳群				○			
26	面野井西ノ台塚						○	○	67	真瀬堀附南遺跡	○		○				
27	面野井城跡						○		68	真瀬堀附北遺跡	○						
28	面野井古墳群			○					69	真瀬山田道路	○		○	○			
29	面野井南遺跡			○	○	○	○		70	真瀬山田北遺跡	○		○				
30	水堀下道遺跡			○	○				71	鍋沼新田長峰遺跡	○		○				
31	水堀遺跡				○				72	下河原崎高山窯跡				○			
32	水堀屋敷添道路	○		○					73	下河原崎高山道路			○				
33	水堀道後前遺跡					○			74	下河原崎高山古墳群				○			
34	大和田氏屋敷跡						○	○	75	下河原崎谷中台遺跡	○	○	○	○			
35	柳橋仲畠遺跡			○		○	○		76	下河原崎古墳群				○			
36	柳橋遺跡			○		○			77	元宮本前山遺跡	○	○					
37	平北田遺跡	○	○		○	○	○	○	78	元中北東藤四郎遺跡				○			
38	平後遺跡			○	○	○	○	○	79	元中北鹿島明神古墳				○			
39	大白宿西ノ糞遺跡			○					80	上河原崎本田遺跡			○	○			
40	大白宿桜下遺跡			○					81	上河原崎小山古墳			○				
41	大白宿民部山遺跡			○					82	上河原崎八幡盛遺跡			○				

中世になると、島名地区周辺は八条院領として莊立された田中莊に組み込まれる。鎌倉幕府の成立後、田中莊は小田氏の支配下に入り、室町時代には小田氏配下の平出氏が島名・面野井地区に住んでいたと伝えられている⁴⁰。当期の周辺の遺跡は、平出氏の居城と伝えられている面野井城跡〈27〉や島名前野東遺跡⁴¹がある。島名前野東遺跡では、方一町に巡る堀に囲まれた方形居館が確認されており、居館内に居住する在地有力者が島名地区一帯を治めていったものと思われる。また、永仁五年（1297）には、当遺跡の中央部西寄りに妙徳寺が開山され⁴²、寺域周辺は墓域として利用されていく。当遺跡の中央部では鍛造土坑が確認でき、燈籠の進華座や梵鐘の乳、鰐口などの鋳型片が出土しているほか、南西部では15世紀後半から17世紀前半にかけての大規模な堀跡や墓域が確認され、妙徳寺との関連をうかがうことができる⁴³。

※ 本章は、既刊の「島名熊の山遺跡」を参照し、加筆した。文中の〈　〉内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。

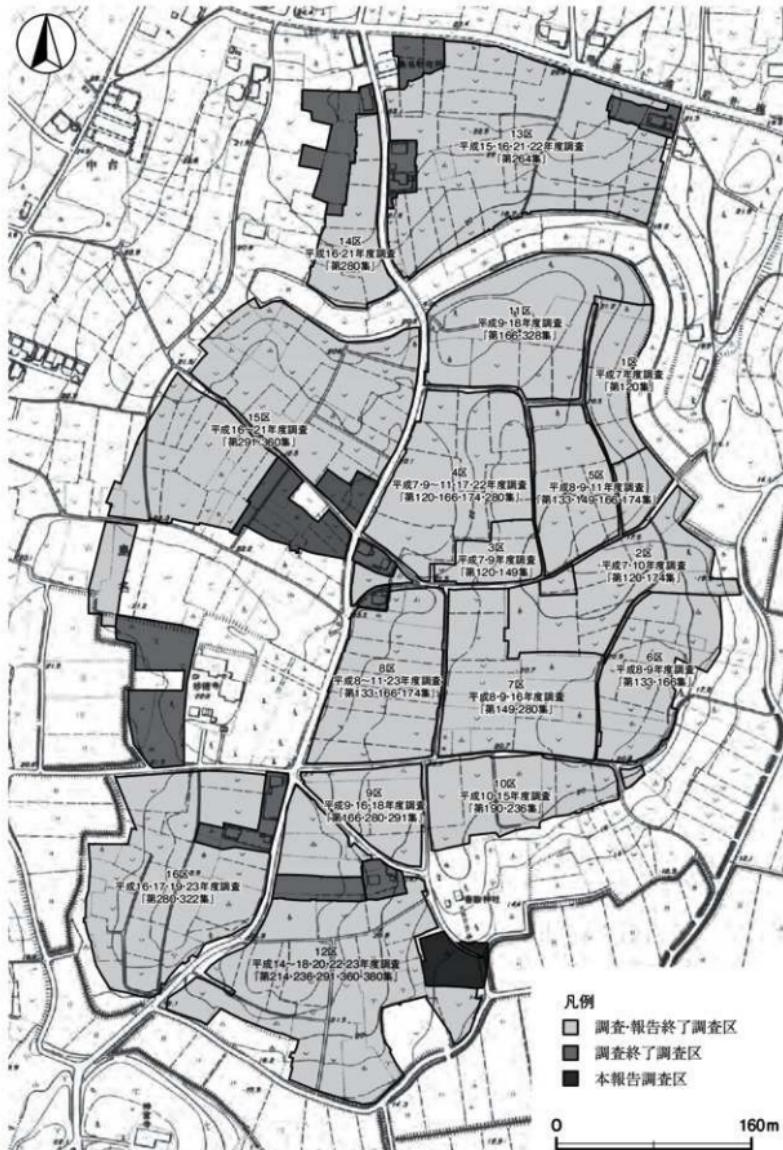
註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会「日本の地質3 関東地方」共立出版 1986年10月
- 2) 茨城県農地部農地計画課「土地分類基本調査 5万分の1 國土調査 土浦」1983年12月
- 3) a 新井聴・川村満博「(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書I 熊の山遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第120集 1997年3月
b 小島敏・猿崎紀雄・白田正子・野田良直「(仮称) 島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書II 熊の山遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第133集 1998年3月
c 吉原作平・原田信夫「(仮称) 島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書III 熊の山遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第149集 1999年3月
d 矢ノ倉正男・小林孝・川上直登「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書IV 熊の山遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第166集 2000年3月
e 藤田哲也・三谷正・原田信夫・川上直登・福田義弘「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書V 熊の山遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第174集 2001年3月
f 福田義弘「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書VI」『茨城県教育財團文化財調査報告』第190集 2002年3月
g 福田義弘・飯泉達司「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書X」『茨城県教育財團文化財調査報告』第214集 2004年3月
h 松本直人「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XI」『茨城県教育財團文化財調査報告』第236集 2005年3月
i 田中幸夫・酒井雄一・月田淳一・松本直人・桑村裕「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XII」『茨城県教育財團文化財調査報告』第264集 2006年3月
j 酒井雄一・渡邊浩実・齋藤貴史・清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIII」『茨城県教育財團文化財調査報告』第280集 2007年3月
k 齋藤貴史・酒井雄一・渡邊浩実・松本直人・齋藤貴史・清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIV」『茨城県教育財團文化財調査報告』第291集 2008年3月
l 早川麗司「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XV」『茨城県教育財團文化財調査報告』第322集 2009年3月
m 小澤重慶「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XVI」『茨城県教育財團文化財調査報告』第328集 2010年3月
n 仲村浩一郎・坂本勝彦・江原奈美子「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XVII」『茨城県教育財團文化財調査報告』第360集 2012年3月
- 4) 舟橋理「平北田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財團文化財調査報告』第336集 2011年3月
- 5) a 高野裕里「下河原崎谷中台遺跡、島名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財團文化財調査報告』第282集 2007年3月
b 齋藤真弥「下河原崎谷中台遺跡、下河原崎高山古墳群 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4」『茨城県教育財團文化財調査報告』第292集 2008年3月
- 6) 高野裕里「元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財團文化財調査報告』第265集 2006年3月
- 7) a 寺門千鶴・田原康司・梅澤譲司「島名前野東遺跡、島名境松遺跡・谷田部塗遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書5」『茨城県教育財團文化財調査報告』第191集 2002年3月
b 飯泉達司「島名前野東遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書6」『茨城県教育財團文化財調査報告』第215集 2004年3月

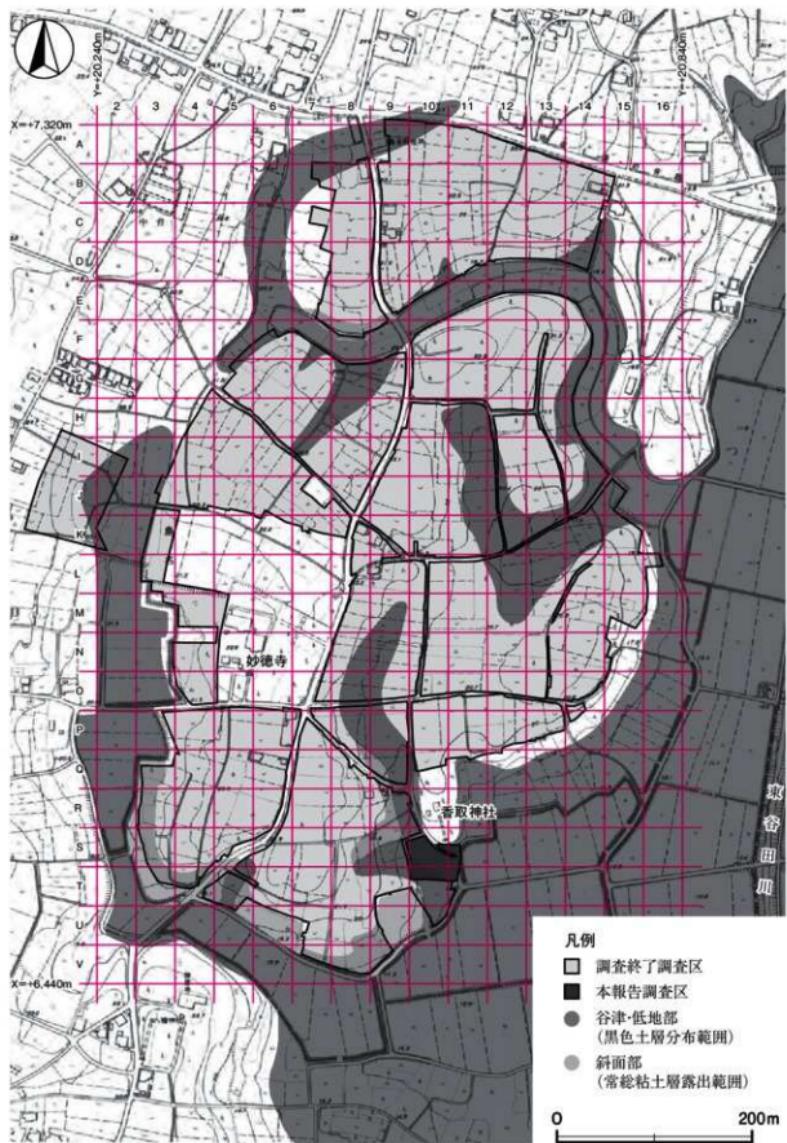
- c 小松崎和治「鳥名境松道路・鳥名前野東道路・鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書X IV」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 281 集 2007 年 3 月
- 8) 鹿島直樹「鳥名一町田道路・鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財団文化財調査報告』第 230 集 2004 年 3 月
- 9) 訂 7 a・c に同じ
- 10) a 佐野正「科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 ツバタ道路・高山古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 22 集 1983 年 3 月
b 菅川修「鳥名ツバタ道路 上河原崎・中西特定期区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 203 集 2003 年 3 月
註 5 a に同じ
- 11) 鹿島直樹「鳥名関ノ台南 B 道路・面野井北ノ前道路 常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 231 集 2004 年 3 月
- 12) 訂 3 j に同じ
- 13) 訂 6 に同じ
- 14) 訂 5 に同じ
- 15) 訂 10 に同じ
- 16) 訂 7 a・c に同じ
- 17) 訂 3 j・m に同じ
- 18) 訂 3 g に同じ
- 19) 訂 8 に同じ
- 20) 久野俊度「主要地方道取手茨城線道路改良工事地内文化財調査報告書 境松道路」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 41 集 1987 年 3 月
- 21) 稲田義弘「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 VI 鳥名前野道路」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 175 集 2001 年 3 月
- 22) 訂 7 に同じ
- 23) 訂 10 に同じ
- 24) 訂 7 に同じ
- 25) 白田正子「(仮称) 茨九地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 II 三度山道路・古屋敷道路」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 132 集 1998 年 3 月
- 26) 訂 25 に同じ
- 27) 訂 6 に同じ
- 28) 訂 5 a に同じ
- 29) 訂 3 に同じ
- 30) a 青木仁昌「鳥名八幡前道路・鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 201 集 2003 年 3 月
b 菊池直哉「鳥名八幡前道路 都市計画道路鳥名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 283 集 2007 年 3 月
- 31) 訂 21 に同じ
- 32) 訂 7 に同じ
- 33) 訂 4 に同じ
- 34) 谷田部の歴史編さん委員会「谷田部の歴史」谷田部町教育委員会 1975 年 9 月
- 35) 訂 5 b、註 10 a に同じ
- 36) 訂 34 に同じ
- 37) 藤邊彌「相名類聚抄郡郷里隸名考證」吉川弘文館 1981 年 2 月
中山信名「新編常陸國誌」善書房(復刻版) 1978 年 12 月
- 38) 訂 3 に同じ
- 39) 訂 30 に同じ
- 40) 訂 21 に同じ
- 41) 訂 7 に同じ
- 42) 訂 3 に同じ
- 43) 訂 30 に同じ
- 44) 訂 34 に同じ
- 45) 訂 7 に同じ
- 46) 訂 34 に同じ
- 47) 訂 3 j に同じ

参考文献・資料

- 「つくば市道路地図」つくば市教育委員会 2001 年 7 月
 「茨城県道路地図」茨城県教育委員会 2001 年 3 月
 東 道路の最新情報は、茨城県統合型 GIS 「いばらきデジタルマップ」の「茨城県道路地図」(平成 22 年度版)を参考にした。



第2図 島名熊の山遺跡調査区設定図（つくば市研究学園都市計画図 2,500 分の 1 から作成）



第3図 烏名熊の山遺跡グリッド設定図（つくば市研究学園都市計画図 2,500 分の 1 から作成）



第4図 島名熊の山遺跡遺構全体図

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

当遺跡は、つくば市の南西部に位置し、東谷田川右岸の標高約13～24mの台地上から低地部にかけて立地している。調査区は、便宜上1～16区（第2図）に分けている。今回は、遺跡南東部に位置する12区の平成22～23年度に調査した2,154m²について報告する。

調査は、平成22年4月1日から6月30日までと平成23年1月1日から8月31日までの11か月間にわたり実施し、竪穴住居跡1軒（平安時代）、掘立柱建物跡2棟（奈良時代）、井戸跡12基（古墳時代5、奈良時代4、平安時代1、時期不明2）、遺物集中地点2か所（平安時代）、遺物包含層1か所（古墳時代）、土坑22基（平安時代1、時期不明21）、道路跡4条（時期不明）、堀跡1条（室町時代）、溝跡18条（奈良時代1、室町時代1、時期不明16）、ピット群2か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に169箱出土している。主な遺物は、土師器（壺・高壺・高台付壺・蓋・皿・高台付皿・小皿・壺・鉢・甕・瓶・手捏土器）、須恵器（壺・高台付壺・蓋・高台付皿・盤・無台盤・短頸壺・長頸瓶・鉢・浅鉢・甕・瓶・円面硯）、灰釉陶器（碗・段皿・長頸瓶）、土師質土器（小皿・内耳鍋）、陶器（甕）、土製品（土玉・管状土錘・羽口・紡錘車）、石器（鐵・磨石・石臼・砥石・紡錘車）、金属製品（刀子・耳環・錢貨・椀状滓・鉄滓）、木器・木製品・木材（木簡・鋤先・柄・横槌・堅杵・馬鋤齒・田舟転用材・糸巻桿木・弓・檜扇・横櫛・下駄・箸）、瓶底板・挽物高台付壺・挽物皿・引物皿・曲物底板・曲物側板・曲物箇・刀形・荷札状木製品・牽車・火鑄臼・有孔小板・井戸桿材・建築用材・杭）、自然遺物（桃核・クリ・ヒヨウタン・サルノコシカケ・ウリ・ヤマトシジミ・ハマグリ・鹿骨・鹿角）などである。

第2節 基本層序

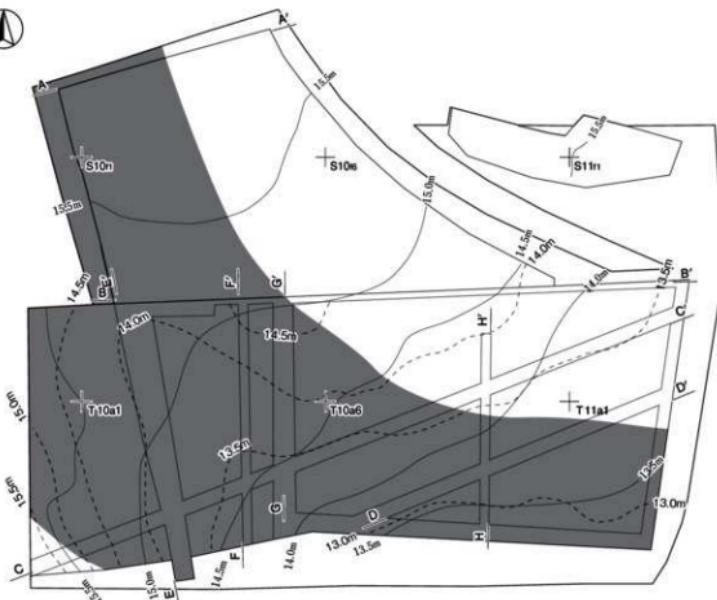
当調査区は、標高13～15mの台地斜面部から低地部にかけて立地している。調査区北西部から南東部にかけて埋没谷を確認したことから、8か所のトレンチ（A～Hトレンチ）を設定して基本土層の観察を行った。7層に大別でき、上層からI～VII層とした。

I層は、現地表の耕作土層である。黒～暗褐色砂質土で、ローム粒子を少量含んでいる。粘性・締まりとともに普通で、層厚は32～46cmである。

II層は、旧耕作土層で2層に細分できる。上層のIIa層はにぶい褐色土で、ローム粒子・細砂を少量含んでいる。下層のIIb層は灰黄褐色土で、ロームブロックを中量含んでいる。粘性・締まりはともに普通で、層厚は48～90cmである。調査区北東部では4層に細分でき、各層の上面に道路跡が確認できた。道路跡は、北接する香取神社への参道と考えられる。上層から、IIc層は暗褐色土、IId層は灰黄褐色土、IIe層は暗褐色土、IIIf層はにぶい黄褐色土で、IId-d層はローム粒子を少量、IIef層はロームブロックを中量含んでいる。粘性・締まりとともに普通で、層厚は71～116cmである。各層から明治時代以降の陶磁器片などが出土している。

井戸跡や遺物集中地点などの遺構は、旧耕作土層を除去した面で確認した。遺構確認面の状況は、調査区南西部にハードローム層、北東部にローム再堆積層が露出しており、調査区の大部分は埋没谷の覆土上層にあたる黒褐色土が北西・南東方向に広がっている。標高は13.5～16.0mで、南東方向へ緩やかに傾斜している。

A



凡例

標高 ——— 表土除去面等高線

標高 - - - 埋没谷覆土除去面等高線

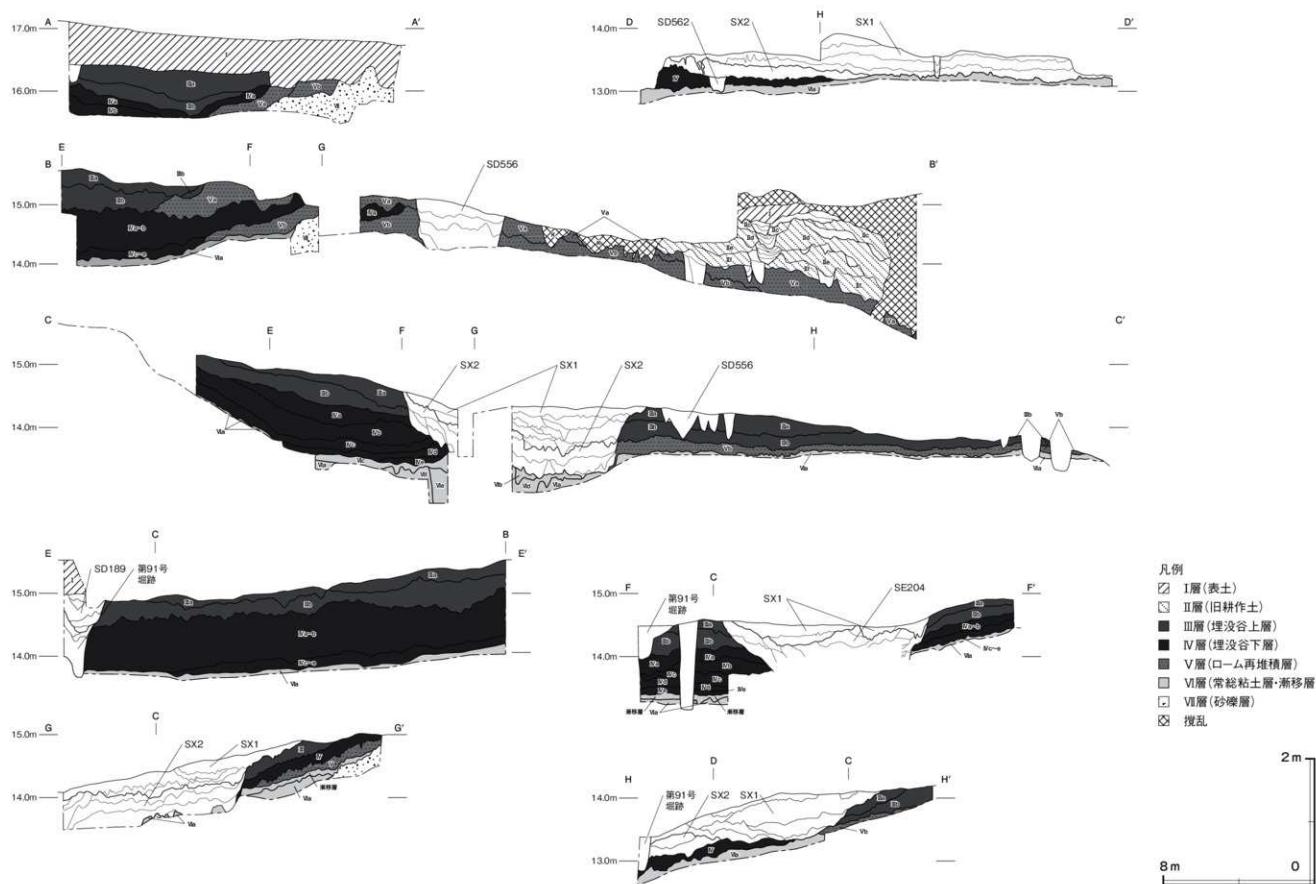
■ 埋没谷部 (黒褐色土分布範囲)

0 20 m



0 10 cm

第5図 調査区地形図・埋没谷出土遺物実測図



第6図 トレンチ土層実測図

III層は、埋没谷の覆土上層であり、2層に細分できる。上層のIII a層は黒褐色土で、ローム粒子、焼土粒子を微量含んでいる。下層のIII b層は暗オリーブ褐色土で、ローム粒子、焼土粒子を少量含み、下部にはわずかに鉄分が沈着している。粘性・締まりとともにやや強く、層厚は18~75cmである。III a層から縄文時代中期後葉（加曾利E 2~3式）の縄文土器片が8点出土している。いずれも摩滅した細片で、台地上から流れ込んだものである。同層を掘り込んでいる各遺構からも同時期の縄文土器片が出土しており、谷の最終的な埋没時期の上限を示している。

IV層は、谷の深部に堆積した層で、5層に細分できる。上層から、IV a層は暗褐色土、IV b層は暗オリーブ褐色粘質土、IV c層はオリーブ黒色粘土、IV d層は黒色粘土、IV e層はオリーブ黒色粘土である。下部ほど粘性が強く、締まりは弱くなる。層厚は16~103cmである。IV b層は下部に鉄分が沈着しており、地下水の透水層になっている。調査時には、土層断面からにじみ出るよう湧水が認められた。

V層は、ロームの再堆積層で、谷の東側斜面部に堆積している。調査区北東部ほど層厚が厚く、2~3層に細分できるが、南側に標高が低くなるにつれて薄くなり、流出している様子がみられる。上層から、V a層は褐色土、V b層はにじみ出る褐色土、V c層はにじみ出る褐色粘質土で、各層ともロームのブロックや粒子、粗砂を多く含んでいる。粘性はやや強く、締まりは普通である。層厚は12~43cmである。

VI層は、常総粘土層で、南東方向（S - 42° - E）へ延びる谷の基盤層である。谷底部の標高は12.8~14.5mで、遺構確認面（III層上面）からの深さは117~135cmである。基盤層にあたるVI a層は灰白色粘土で、粘性・締まりとともに強く、層厚は10~16cmである。谷底部には流水堆積層が確認でき、暗灰~灰色粘土層（VI b・d層）を主体とし、常総粘土や灰色粘土がブロック状に巻き上げられている層（VI c・f層）や灰白色粗砂の薄層を互層に挟む層（VI e層）が認められる。このことから、谷の埋没が始まる段階には、激しい流水があったことがうかがえる。層厚は最大80cmである。

VII層は、旧河川活動に伴う砂礫層であり、竜ヶ崎層に相当する。黄橙色中疊~粗砂で、下位ほど粒径が大きく、上部には鉄分の沈着が著しい。激しい湧水が認められ、土層観察トレントの底面には小さな噴出孔が複数確認でき、當時、水が流れている状態であった。今回の調査で確認した井戸跡の多くが同層まで掘り込まれており、その水源となっている。下部は未掘のため、層厚は不明である。

埋没谷出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・石英	にじみ出る	LRの単筋縄文 慈悲文	西部上層	
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英	にじみ出る	LRの単筋縄文 沈縄文	西部上層	
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	LRの単筋縄文 慈悲文	西部上層	
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英	にじみ出る	Lの無筋縄文	西部上層	
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・石英	にじみ出る	Rの無筋縄文	西部上層	

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、井戸跡5基と遺物包含層1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 井戸跡

第203号井戸跡（第7・8図）

位置 調査区南部のT10c4区、標高14mほどの斜面部に位置している。

確認状況 埋没谷部の土層観察用トレーナーを掘削したため、西半部と底部しか確認できなかった。

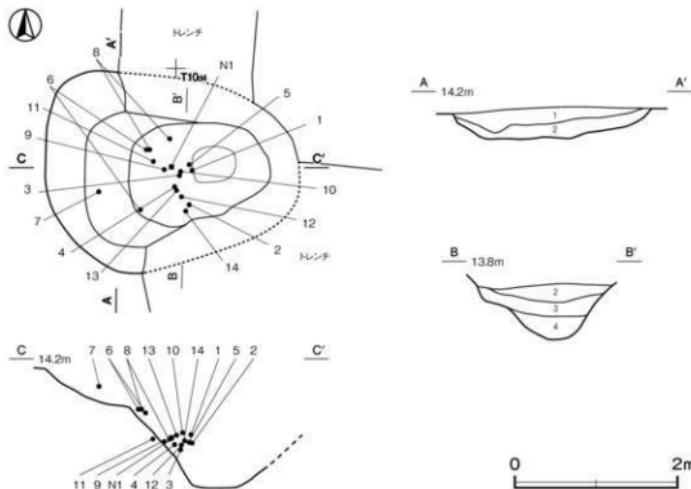
規模と形状 トレーナー掘削のため、長径は2.73m、短径は2.42mしか確認できなかった。不整梢円形と推定でき、長径方向はN-85°-Eである。底面は描鉢状で、壁は緩やかに立ち上がっている。深さは157cmで、常総粘土層を掘り込んでおり、堀部の下位から湧水が認められる。

覆土 4層に分層できる。軟質の粘質土や粘土を主体とする自然堆積である。

土層解説

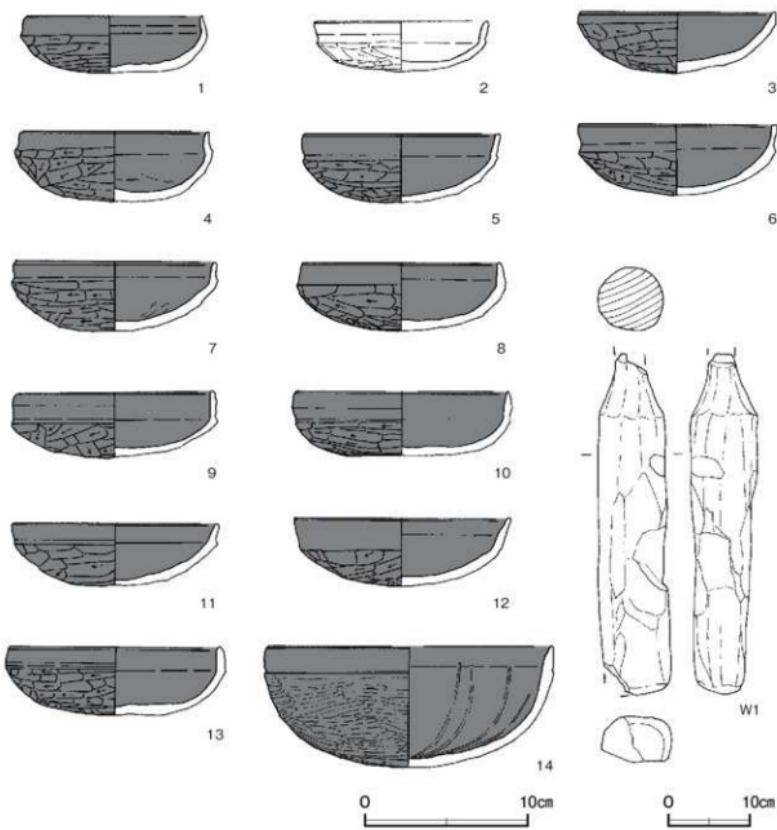
1 黒褐色	粘質土	鐵分沈着中量	3 オリーブ黒色	粘土	細綈微量
2 黒褐色	粘質土	鐵分沈着微量	4 黒色	粘土	

遺物出土状況 土師器片139点(环99、甕40)、木製品1点(堅杵)、自然遺物19点(桃核18、サルノコシカケ1)のほか、クリや自然木が、中層の第2層からまとまって出土している。土師器は、9割以上に黒色処理されており、いずれも残存率が高く、器面が摩滅していない。1~14、W1、N1は、いずれも覆土中層の第2層からまとめて出土している。



第7図 第203号井戸跡実測図

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に北定できる。出土遺物は一括して投棄された状況を示しており、井戸の廃絶時の祭祀行為が想定できる。



第8図 第203号井戸跡出土遺物実測図

第203号井戸跡出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	施成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	环	107	34	-	長石・石英・雲母	にぶい・青白	普通	口縁部外・内面横子テ 体部ヘラ削り 外・内 面黒色処理(手)	中層	10%
2	土師器	环	106	31	-	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	口縁部外・内面横子テ 体部ヘラ削り	中層	10% PL18
3	土師器	环	119	38	-	長石・石英	にぶい・褐	普通	口縁部外・内面横子テ 体部ヘラ削り 外・内 面黒色処理(手)	中層	80% PL18
4	土師器	环	116	43	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	普通	口縁部外・内面横子テ 体部ヘラ削り 外・内 面黒色処理(手)	中層	90% PL18
5	土師器	环	120	42	-	長石・石英	にぶい・褐	普通	口縁部外・内面横子テ 体部ヘラ削り 外・内 面黒色処理(手)	中層	95% PL18

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	土器器	壺	119	43	-	長石・石英	にぶい褐色	普通 口縁部外・内面横ナデ 底部黒色処理(漆)	体部ヘラ削り 外・内	中層	90% PL18
7	土器器	壺	124	42	-	長石・石英・雲母	橙	普通 口縁部外・内面横ナデ 底部黒色処理(漆)	体部ヘラ削り 外・内	中層	90% PL18
8	土器器	壺	121	42	-	長石・雲母	明褐色	普通 口縁部外・内面横ナデ 底部黒色処理(漆)	体部ヘラ削り 外・内	中層	70%
9	土器器	壺	120	40	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通 口縁部外・内面横ナデ 底部黒色処理(漆)	体部ヘラ削り 外・内	中層	80% PL18
10	土器器	壺	[131]	40	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通 口縁部外・内面横ナデ 底部黒色処理(漆)	体部ヘラ削り 外・内	中層	50%
11	土器器	壺	126	38	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通 口縁部外・内面横ナデ 底部黒色処理(漆)	体部ヘラ削り 外・内	中層	60%
12	土器器	壺	131	42	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通 口縁部外・内面横ナデ 底部黒色処理(漆)	体部ヘラ削り 外・内	中層	70%
13	土器器	壺	129	43	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通 口縁部外・内面横ナデ 底部黒色処理(漆)	体部ヘラ削り 外・内	中層	80% PL18
14	土器器	壺	[176]	7.5	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通 口縁部外・内面横ナデ 底部ヘラ削り後ヘラ磨き 内面黒色処理(漆)	外・内面黒色処理(漆)	中層	40% PL18

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	等級	出土位置	備考
W 1	農具	整件	(421)	8.9	8.4	クヌギ	芯無削出 ぬき端部摩滅	中層	PL19
N 1	種類	サルノコシカケ	11.0	8.0	3.8	408	半月形 表面ヒダ状	中層	PL18

第206号井戸跡（第9図）

位置 調査区南部のT10b5区、標高13mほどの埋没谷部に位置している。

重複関係 上部に第1・2号遺物集中地点が形成されている。

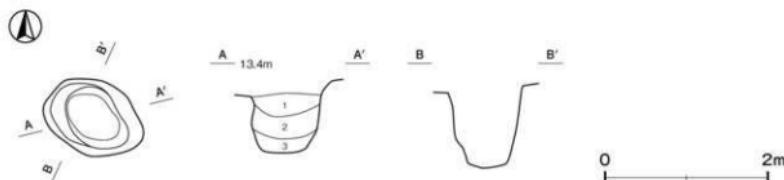
規模と形状 長径1.22m、短径0.89mの不整梢円形で、長径方向はN-55°-Wである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。深さは94cmで、常総粘土層を掘り込んでおり、壁部からは湧水が認められる。壁面には鉄分の沈着が著しい。

覆土 3層に分層できる。軟質の粘質土や粘土を主体とする自然堆積である。

土壤解説

- | | | |
|----------------|---------------|-----------------|
| 1 オリーブ色
粘土 | 常総粘土ブロック・細繊維状 | 3 黒
色
粘質土 |
| 2 オリーブ色
粘質土 | | |

所見 本跡の周囲には古墳時代後期から奈良時代にかけての素掘りの井戸が集中しており、古墳時代後期のものは径1.5m前後、奈良時代のものは径2m以上で、規模に大小の差違が認められる。本跡は前者にあたることから、時期は古墳時代後期と考えられる。



第9図 第206号井戸跡実測図

第207号井戸跡（第10図）

位置 調査区南部のT10b5区、標高13mほどの埋没谷部に位置している。

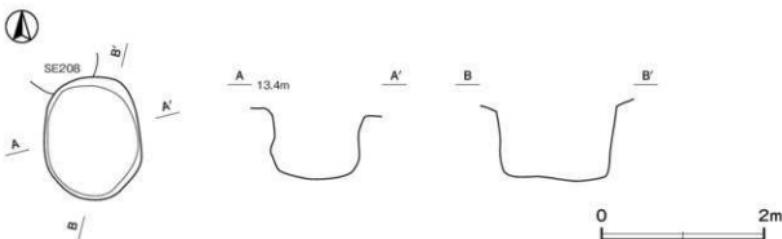
重複関係 第208号井戸跡を掘り込み、上部に第1・2号遺物集中地点が形成されている。

規模と形状 長径1.50m、短径1.20mの梢円形で、長径方向はN-6°-Wである。底面は皿状で、壁はほ

は直立している。深さは86cmで、常総粘土層を掘り込んでおり、壁部からは湧水が認められる。壁面には鉄分の沈着が著しい。

覆土 湧水による崩落のため図化できなかったが、軟質の暗灰色粘土を主体とする自然堆積である。

所見 時期は、規模と形状から、古墳時代後期と考えられる。



第10図 第207号井戸跡実測図

第208号井戸跡（第11図）

位置 調査区南部のT10b5区、標高13mほどの埋没谷部に位置している。

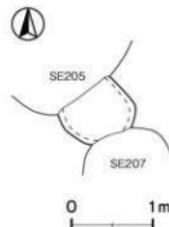
確認状況 湧水で壁部が崩落したため、形状や堆積状況は明確にできなかった。

重複関係 第205・207号井戸に掘り込まれており、上部に第1・2号遺物集中地点が形成されている。

規模と形状 北東・南西径は約0.9mで、北西部が第205号井戸、南東部が第207号井戸に掘り込まれているため、北西・南東径は約0.7mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定できる。底面は皿状で、壁はほぼ直立している。深さは80cmほどで、常総粘土層を掘り込んでおり、壁部および底部からは湧水が認められる。

覆土 軟質の暗灰色粘土を主体とし、常総粘土のブロックが多量に含まれている。埋め戻されたものか、壁部が崩落した自然堆積かは判断できなかった。

所見 規模と形状から、時期は古墳時代後期と考えられる。



第11図

第208号井戸跡実測図

第211号井戸跡（第12図）

位置 調査区南部のT10b4区、標高13mほどの埋没谷部に位置している。

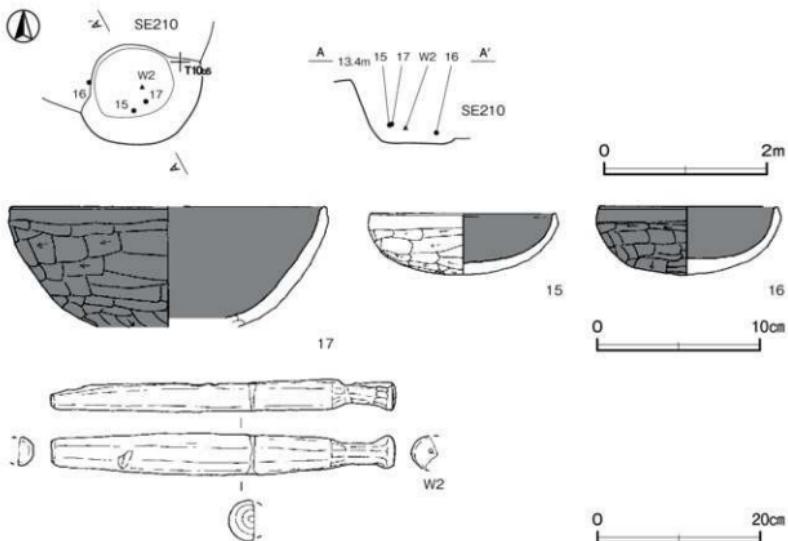
重複関係 第210号井戸に掘り込まれており、上部に第204号井戸、第1・2号遺物集中地点が形成されている。

規模と形状 東西径は1.56mで、北半部が第210号井戸に掘り込まれているため、南北径は1.27mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定できる。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。深さは78cmで、常総粘土層を掘り込んでおり、壁部および底部からは湧水が認められる。

覆土 軟質の暗灰色粘土を主体とし、常総粘土のブロックが多量に含まれている。埋め戻されたものか、壁部が崩落した自然堆積かは判断できなかった。

遺物出土状況 土師器片 10 点（坏 5, 売 5), 木製品 1 点（横柾）が出土している。15 ~ 17, W2 は、中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀中葉に比定できる。



第 12 図 第 211 号井戸跡・出土遺物実測図

第 211 号井戸跡出土遺物観察表（第 12 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
15	土師器	坏	113	3.8	-	長石・石英・雲母	棕褐色	普通	口縁部外・内面模様ナデ 体部ヘラ削り 内面黒色処理	下層	80% PL19
16	土師器	坏	109	4.2	-	長石・赤色粘土	ぶいき	普通	口縁部外・内面模様ナデ 体部ヘラ削り 外・内面黒色処理（漆）	下層	100% PL19
17	土師器	坏	[19.4]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	ぶいき	普通	口縁部外・内面模様ナデ 体部ヘラ削り 外・内面黒色処理（漆）	下層	50%
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴			出土位置	備考
W2	農具	横柾	424	(5.1)	39	クリ	芯持削出	引き部端部摩滅		下層	PL19

表2 井戸跡一覧表

番号	位置	長辺方向	平面形	規格		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長辺×短辺 (m)	深さ (cm)						
23	T10e4	N - 85° - E	不整規円形	(2.73) × 2.42	157	擦跡状	斜斜状	自然	土師器片、素有、鐵柱、セルフランクガタ、クリ、自然木	7世紀前葉	重複周辺（右一列）
206	T10e5	N - 53° - W	不整規円形	1.22 × 0.89	94	擦痕状	斜斜状	自然		後期	本網 → SX 1・2
207	T10e5	N - 6° - W	規円形	1.50 × 1.20	86	擦痕状	直立	自然		後期	SZ28 → SZ25 → SX 1・2
208	T10e5	-	[円形・楕円形]	(0.90) × (0.70)	[80]	擦痕状	直立	-		後期	本網 → SE25 → 207, SX 1・2
211	T10e4	-	[円形・楕円形]	1.56 × (1.27)	78	平坦	外縁	-	土師器片、横柾	7世紀中葉	網 → SZ24・207, SX 1・2

(2) 遺物包含層

第3号遺物包含層 (第13・14図)

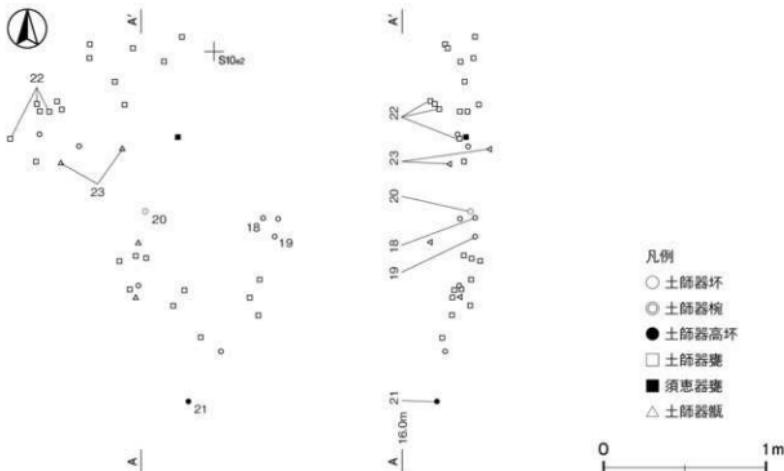
位置 調査区北部のS 10e1区、標高16mの埋没谷部に位置している。

確認状況 遺構確認面において遺物が散在した状態で確認できた。遺物を含む土層の層厚が薄いため、堆積状況は明確にできなかった。

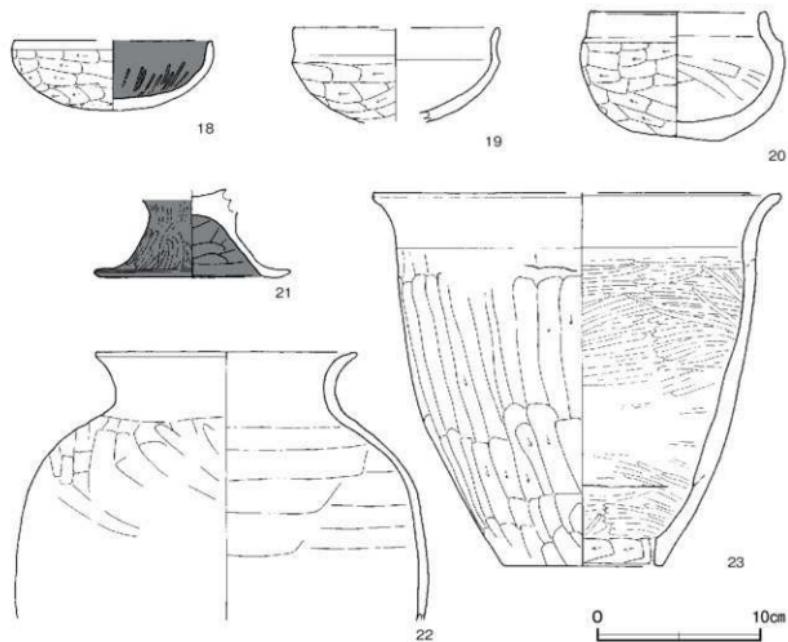
規模と形状 北西・南東軸22m、北東・南西軸1.3mの範囲に土器片が散在している。北西・南東軸方向はN - 37° - Wで、埋没谷の輪方向とはほぼ一致している。

遺物出土状況 繩文土器片1点(深鉢)、土師器片356点(古墳時代壺57、平安時代壺3、高台付椀1、高环4、鉢1、甕285、瓶2、手捏土器3)、須恵器片45点(壺9、高台付壺2、蓋2、盤1、高盤1、壺1、提瓶1、鉢2、甕26)が散在した状態で出土している。多くは摩滅した細片であり、台地上から流れ込んだものである。そのなかで、古墳時代のものは比較的残りが良く、接合関係が認められるもの(18・19・21~23)やほぼ完形のもの(20)も出土している。

所見 谷の埋没過程で、台地上から谷底部の窪地に流れ込んだ遺物が集積したものと考えられる。繩文時代から平安時代の土器片が出土しているが、古墳時代後期(6世紀後葉)に比定できるものが主体である。本跡の南東約20m、S 9h9区周辺にも7世紀前葉と考えられる第2号遺物包含層が位置しており、古墳時代後期に谷部が一時的に廃棄場として利用されていたことを示している。



第13図 第3号遺物包含層実測図



第14図 第3号遺物包含層出土遺物実測図

第3号遺物包含層出土遺物観察表（第14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
18	土器器	壺	[120]	4.3	—	長石・石英・ 赤色粒子	褐	普通 引抜のハラ焼き	口縁部外・内面積ナデ 体部へラ削り	内面抜	覆土中	30%
19	土器器	壺	[126]	(5.8)	—	長石・石英	褐灰	普通 引抜き	内面積ナデ 体部へラ削り	内面へ ラ削き	覆土中	60%
20	土器器	壺	104	7.9	5.6	長石・石英・雲母 にぶい粒	褐	普通 引抜	口縁部外・内面積ナデ 体部へラ削り	内面へ ラ削き	覆土中	100% PL19
21	土器器	高壺	—	(5.4)	120	長石・石英	黒褐	普通 輪郭部外へラ削き	内面ナデ	内面へ ラ削き	覆土中	40% PL19
22	土器器	壺	158	(165)	—	長石・石英・雲母	褐	普通 口縁部外・内面積ナデ	体部外・内面へラナデ	内面へ ラ削き	覆土中	30% PL19
23	土器器	壺	[248]	230	9.8	長石・石英	にぶい粒	普通 引抜	口縁部外・内面積ナデ 体部・底部内面へラ削 り	内面へラ削き	覆土中	70% PL19

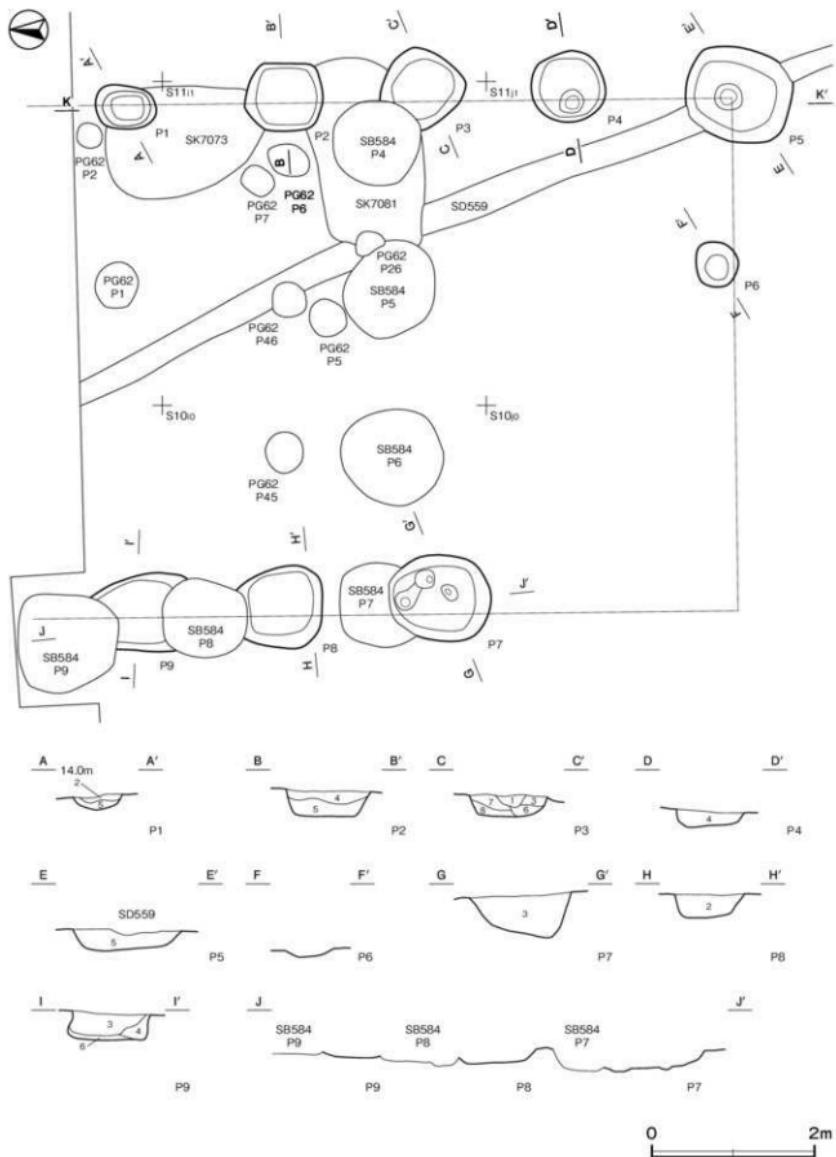
2 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡2棟、井戸跡4基、溝跡1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

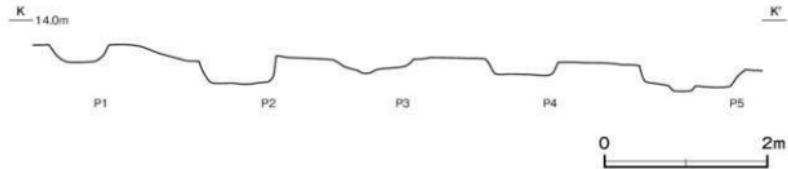
(1) 掘立柱建物跡

第583号掘立柱建物跡（第15・16図）

位置 調査区北東部のS 1111区、標高14mほどの緩斜面部に位置している。



第 15 図 第 583 号掘立柱建物跡実測図 (1)



第 16 図 第 583 号掘立柱建物跡実測図(2)

重複関係 第 7073・7081 号土坑を掘り込み、第 584 号掘立柱建物、第 559 号溝に掘り込まれている。

規模と構造 梁行 3 間で、桁行は北部が調査区域外へ延びているため 4 間しか確認できなかった。側柱建物跡で、桁行方向 N - 2° - W の南北棟と推定できる。規模は、梁行 6.3 m で、桁行は 7.2 m しか確認できなかった。柱間寸法は、桁行が 1.8 m (6 尺)、梁行は 2.1 m (7 尺) で、均等に配置されている。柱筋は揃っている。

柱穴 9 か所で、南東部は斜面部のため柱穴が確認できなかった。P 1 ~ P 9 は身舎の柱穴で、平面形は隅丸長方形または円形で、長軸 76 ~ 131cm、短軸 51 ~ 115cm である。深さは 10 ~ 34cm で、断面形は逆台形である。第 1 ~ 6 層は柱抜き取り穴の覆土、第 7・8 層は掘方への埋土である。

土層解説

1	樺暗褐色	ロームブロック少量	5	樺暗褐色	ローム粒子微量
2	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ローム粒子少量	7	暗褐色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 6 点 (甕)、須恵器片 3 点 (蓋 1、甕 2) のほか、混入した縄文土器 1 点 (深鉢)、古墳時代の土師器片 2 点 (坏) が各柱穴の柱抜き取り穴の覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できなかったが、土師器甕は体部にヘラ削きが施されており、須恵器蓋は天井部が丸味を帯びている。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 8 世紀前葉と考えられる。

第 584 号掘立柱建物跡 (第 17・18 図)

位置 調査区北東部の S 1111 区、標高 14 m ほどの緩斜面部に位置している。

重複関係 第 583 号掘立柱建物跡、第 7073・7081 号土坑を掘り込み、第 559 号溝、第 62 号ビット群の P 3・P 26・P 43 に掘り込まれている。

規模と構造 梁行 4 間で、桁行は北側が調査区域外へ延びているため 2 間しか確認できなかった。側柱建物跡で、桁行方向 N - 88° - W の東西棟と推定できる。規模は、桁行 7.8 m で、梁行は 3.9 m しか確認できなかった。柱間寸法は桁行、梁行とともに 1.95 m (6.5 尺) で、均等に配置されている。柱筋は揃っている。

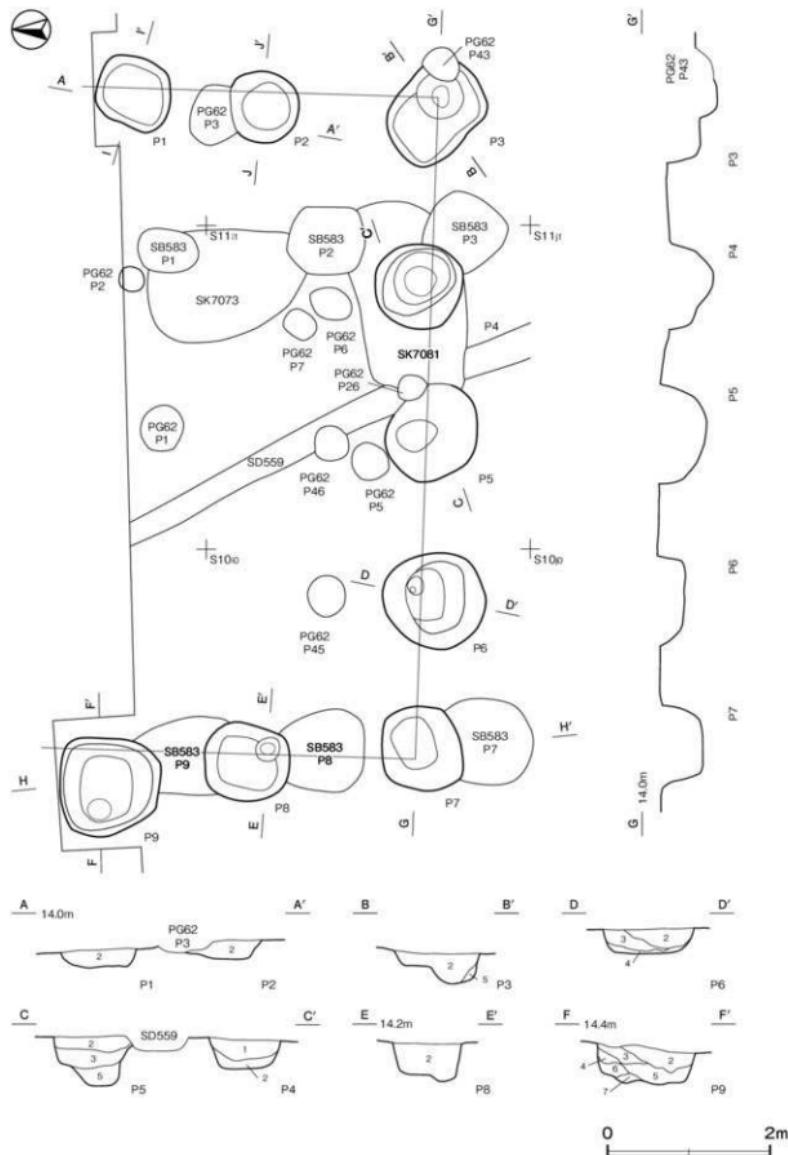
柱穴 9 か所。平面形は隅丸方形または円形で、長軸・径 92 ~ 132cm、短軸・径 88 ~ 123cm である。深さは 22 ~ 46cm で、掘方の断面形は逆台形である。第 1 ~ 7 層は柱抜き取り穴の覆土である。

土層解説

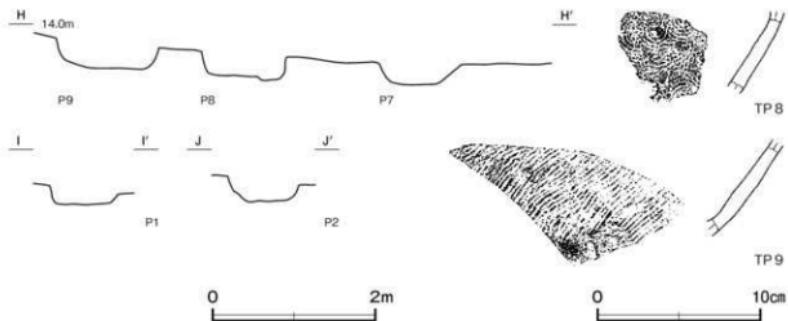
1	褐色	ローム粒子少量	5	黒褐色	ロームブロック中量
2	樺暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック少量	7	黒褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 土師器片 11 点 (甕)、須恵器片 6 点 (坏 2、甕 4) のほか、混入した古墳時代の土師器片 3 点 (坏) が各柱穴の柱抜き取り穴の覆土中から出土している。TP 8 は P 4、TP 9 は P 5 の柱の抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 8 世紀中葉と考えられる。



第17図 第584号掘立柱建物跡実測図



第18図 第584号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第584号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第18図）

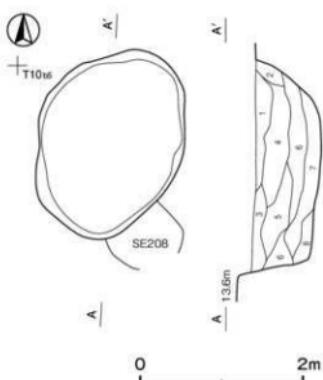
番号	種別	器種	粘土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP 8	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体部同心円突起、内面無文で具痕を残し、ハラナガ	P 4	
TP 9	須恵器	甕	長石・石英	オリーブ灰	良好	底部研磨の平行突起、内面無文で具痕を残し、ハラナガ	P 5	

表3 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	柱行方向	柱間数 幅×奥(間)	規 模 幅 × 奥 (m)	面 積 (m ²)	柱間寸法: 柱行(m) 奥行(m)	柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考 重複関係(古→新)	
							構造	柱穴数	平面形				
583	S1111	N - 2° - W	(4) × 3	(7.2) × 6.3	(45.3)	18	21	側柱	9	楕円形・ 楕円方形	10 ~ 34	土師器片、須恵 器片	8世紀中葉 SK7073・7081 →本群
584	S1111	N - 88° - W	4 × (2)	7.8 × (3.9)	(30.4)	195	195	側柱	9	楕円形・ 楕円方形・ 円形	22 ~ 46	土師器片、須恵 器片	8世紀中葉 SK65 SK7072・708 → 本群 → SU559 PG62

(2) 井戸跡

第205号井戸跡（第19・20図）



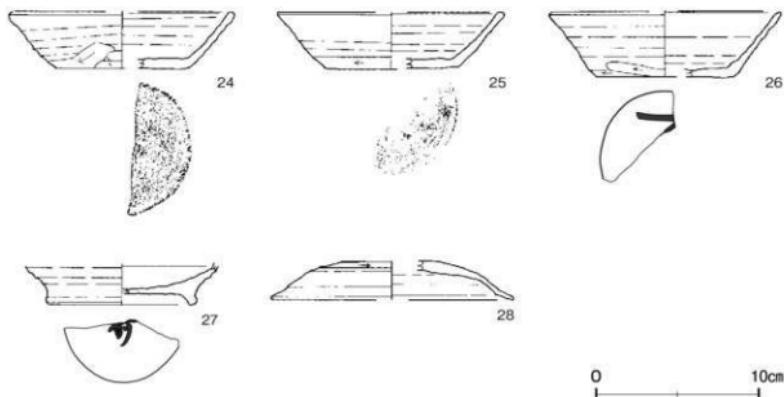
第19図 第205号井戸跡実測図

位置 調査区南部のT10b5区、標高14mほどの埋没谷部に位置している。

重複関係 第208号井戸跡を掘り込み、上部には第1・2号遺物集中地点が形成されている。

規模と形状 長径2.77m、短径1.82mの梢円形で、長径方向はN - 9° - Eである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がりっている。深さは82cmで、砂礫層を掘り込んでおり、壁部および底部からは激しい湧水が認められる。

覆土 8層に分層できる。各層に常緑粘土のブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。



第20図 第205号井戸跡出土遺物実測図

土層解説

1 灰 色 粘質土 常総粘土ブロック・細繊維粗中量	5 オリーブ黒色 粘土
2 灰 色 粘土 常総粘土ブロック中量	6 黒 色 常総粘土ブロック・細繊維少量
3 オリーブ黒色 粘質土 常総粘土ブロック中量。粗砂少量	7 灰 色 常総粘土ブロック多量
4 暗灰 色 粘質土 常総粘土ブロック少量	8 オリーブ褐色 粘土 常総粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師器片 91点(坏44、甕47)、須恵器片 33点(坏25、壺1、甕7)、貝殻1点(ハマグリ)

が出土している。24~28はいずれも覆土上層(第1~4層)から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第205号井戸跡出土遺物観察表(第20図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
24	須恵器	环	[13.6]	35	[8.2]	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向の手持ちへ	上層	40%
25	須恵器	环	[13.8]	35	[8.2]	長石・石英	灰	良好	体部下端、底部回転ヘラ削り	上層	30%
26	須恵器	环	[14.1]	40	[8.4]	長石・石英・雲母	暗灰青	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向の手持ちへ	上層	10% PL65
27	須恵器	直口環	-	(2.6)	[8.9]	長石・石英・雲母	褐灰	良好	底部回転ヘラ削り 墨書き「前」	上層	20% PL57
28	須恵器	甕	[14.8]	(2.4)	-	長石・石英	褐灰	良好	天井部回転ヘラ削り	上層	20%

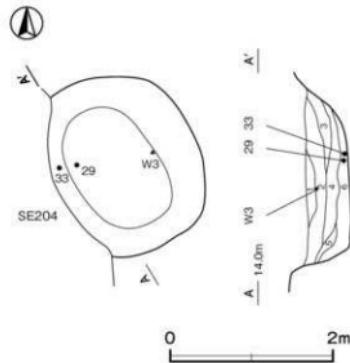
第209号井戸跡(第21~22図)

位置 調査区南部のS 104区、標高14mほどの埋没谷部に位置している。

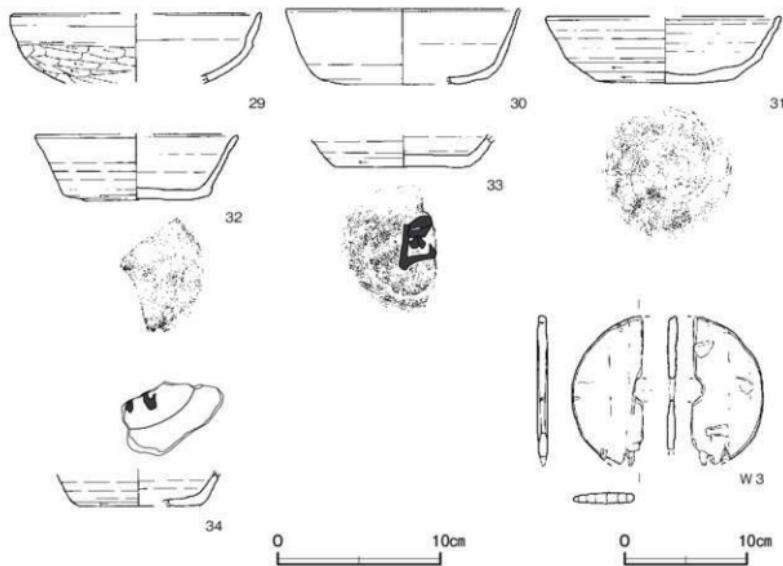
重複関係 第204号井戸に掘り込まれており、上部には第1・2号遺物集中地点が形成されている。

規模と形状 長径2.25mで、西部は第204号井戸に掘り込まれているため、短径1.5mほどしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長軸方向はN-30°-Wである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっていいる。確認面からの深さは53cmである。砂礫層を掘り込んでおり、壁部および底部からは激しい湧水が認められ、壁面には鉄分が層状に沈着している。

覆土 6層に分層できる。壁際から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。なお、常総粘土ブロックは、壁部の常総粘土層が崩落したものである。



第21図 第209号井戸跡実測図



第22図 第209号井戸跡出土遺物実測図

第209号井戸跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
29	土師器	壺	[15.4]	(4.3)	—	長石・石英・赤鉄鉱	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部へラ削り	下層	20%
30	須恵器	壺	14.3	4.6	[10.3]	長石・石英	灰	良好	底部ナデ	覆土中	50%
31	須恵器	壺	[14.4]	4.1	8.4	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端・底部回転へラ削り	覆土中	50%

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	須恵器	环	(12.4)	4.0	[9.1]	長石・石英・雲母	灰	良好	底部回転ヘラ削り	下層	30%
33	須恵器	环	-	(2.0)	[8.3]	長石・石英	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り 縦部削り痕を残し、一方のヘラナタ 垂直[凹]	下層	15% PL45
34	須恵器	环	-	(2.2)	[7.5]	長石・石英・雲母	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り 縦部削り痕を残し、一方の手持ちヘラ切り痕を残し、外端部削り[凹] 垂直[凹] 1用[1]	覆土中	5% PL65
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴			出土位置	備考
W3	容器	瓶底板	(12.4)	(5.9)	0.8	アスナロ	複数	釘織じ 釘孔3か所 中央部に円孔 径[2.1]cm	上層	PL19	

第210号井戸跡（第23・24図）

位置 調査区南部のT 10a4区。標高14mはどの埋没谷部に位置している。

重複関係 第211号井戸跡を掘り込み、上部に第204号井戸、第1・2号遺物集中地点が形成されている。

規模と形状 開口部は長径2.84m、短径2.80mの不整円形である。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。確認面からの深さは114cmで、常総粘土層を掘り込んでおり、壁部からは湧水が認められる。

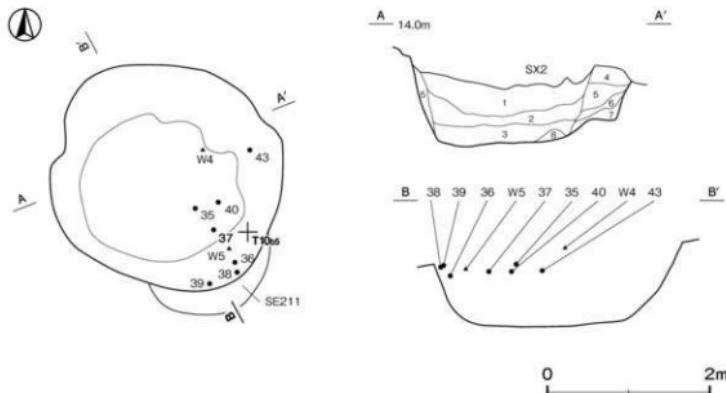
覆土 8層に分層できる。上層の第1・2層は黒色土ブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第3・4層は軟質の粘土層を主体とした自然堆積である。第5～8層は常総粘土のブロックが多く含まれていることから、壁部の崩落土である。なお、第1～4層と第5～8層とは層界が明瞭であることから、井戸浅いが行われている。

土層解説

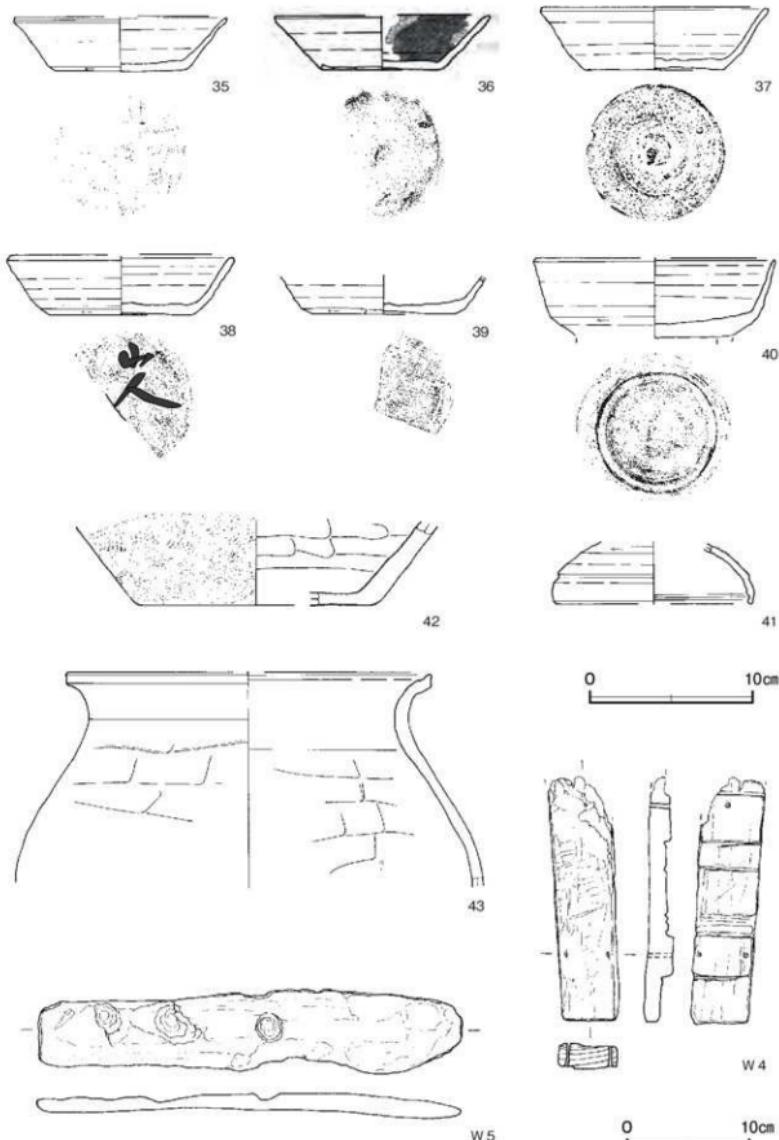
1 黒	褐色	粘質土	黒色土ブロック多量	5 黄	灰	色	粘質土	粗鈍中量、常総粘土ブロック少量
2 黒	褐色	粘質土	黒色土ブロック中量	6 オリーブ	黑色	色	粘質土	常総粘土ブロック微量
3 オリーブ	黑色	粘土	常総粘土ブロック少量	7 灰	褐色	色	粘土	常総粘土ブロック多量
4 灰	褐色	粘土	常総粘土ブロック中量	8 黒	褐色	色	粘土	常総粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片96点（壺）、須恵器片81点（环43、蓋4、瓶1、壺33）、木製品3点（下駄、火鑓白、板材）。自然遺物47点（桃核）が出土している。35～40・43・W4・W5は東部から南部にかけての覆土上層からまとまって出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第23図 第210号井戸跡実測図



第24図 第210号井戸跡出土遺物実測図

第210号井戸跡出土遺物観察表(第24図)

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
35	須恵器	环	[13.0]	3.2	8.0	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ 口沿付	上層	60% PL20
36	須恵器	环	[13.2]	3.3	[7.2]	長石・石英	黄灰	普通	底端回転へラ削り直し。一方向の手持ちへ 口沿付	上層	55%
37	須恵器	环	13.8	3.8	8.6	長石・石英・雲母	灰	普通	底端回転へラ削り	上層	80% PL20
38	須恵器	环	[13.6]	3.6	[8.8]	長石・石英・雲母	青灰	普通	底部下端手持ちへラ削り 小切削部「山人」	上層	40% PL60
39	須恵器	环	—	(2.4)	[8.6]	長石・石英・雲母	青灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部一方向のへラ削り 内面「山人」	上層	30% PL78
40	須恵器	高台付环	[14.8]	(4.9)	—	長石・石英・雲母	頬灰	普通	底部下端手持ちへラ削り 高台剥離後、再利用	上層	70%
41	須恵器	釜	[12.2]	(3.7)	—	長石・鉄分吹出	黄灰	良好	天井部回転へラ削り 自然軸付着	覆土中	10%
42	須恵器	釜	—	(5.2)	[14.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部同心円文吹き 下方手持ちへラ削り 内面 ハラナデ 底部ナデ	覆土中	10%
43	土師器	釜	[22.2]	(13.4)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面へラナデ	上層	20%

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W 4	服飾具	下駄	(20.0)	5.0	2.2	モミ	板目 織孔円孔3か所 前・後側削出	上層	PL20
W 5	道具	火鑼臼	347	65	15	タヌギ	板目 火鑼孔3か所	上層	PL20

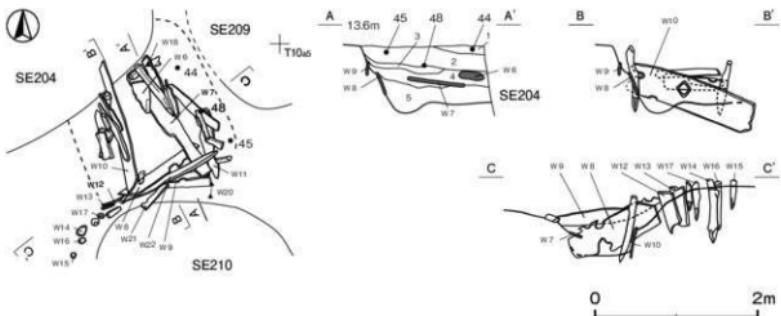
第212号井戸跡(第25~28図)

位置 調査区南部のT 10a4区、標高13mほどの埋没谷部に位置している。

確認状況 溝水で土質が軟弱になったため、掘方の形状や裏込めの状況は明確にできなかった。

重複関係 第204号井戸に掘り込まれており、上部に第1・2号遺物集中地点が形成されている。

規模と形状 貯水部は、四辺の壁部に板材を設置し、その内側の四隅を杭で固定した升状の構造と推定できる。壁部の板材は、北辺が第204号井戸に掘り込まれて失われており、東・西・南の三辺が廃絶時に破壊されていたため旧状をとどめていなかったが、北西部と南西部の杭はほぼ原位置を保った状態で確認できた。南北軸の長さは杭間距離から84cmで、東西軸の長さは遺存している板材の状況から70cmほどに復元できる。平面形は長方形と推定でき、長軸方向はN - 26° - Wである。底面は凹凸があり、壁は現存している板材の状況からほぼ直立している。深さは68~84cmで、南側が16cmほど凹んでいる。底部は常緑粘土層を掘り込んでおり、激しい渓水が認められる。貯水部を構成する材は、壁部の板材4点(W 7~W 10)と杭2点である。壁部の板材は東・西辺と南辺とがそれぞれT字状に接しており、杭はその接合部の内側に打設されている。板材は長さ109.0~157.0cm、幅17.0~41.0cm、厚さ2.4~3.9cmである。材質は南辺のW 8がモミで、その他は



第25図 第212号井戸跡実測図

クヌギである。W 8は上面中央部にU字状の抉り部が設けられている。杭は腐食のため取り上げることができなかつたが、長さ73~82cm、径7~11cmで、材質はクヌギやクリなどの広葉樹である。また、南辺の西側延長線上には杭8点が打設されている。貯水部周辺の護岸のための施設と考えられるが、構造は不明である。掘方は、東西軸約1.8mで、北部が第204号井戸に掘り込まれているため南北軸は約2.0mしか確認できなかつた。平面形は方形または長方形と推定でき、壁部の板材との間には常緑粘土のブロックを含む暗オリーブ褐色の細砂混じり粘土が埋土されている。

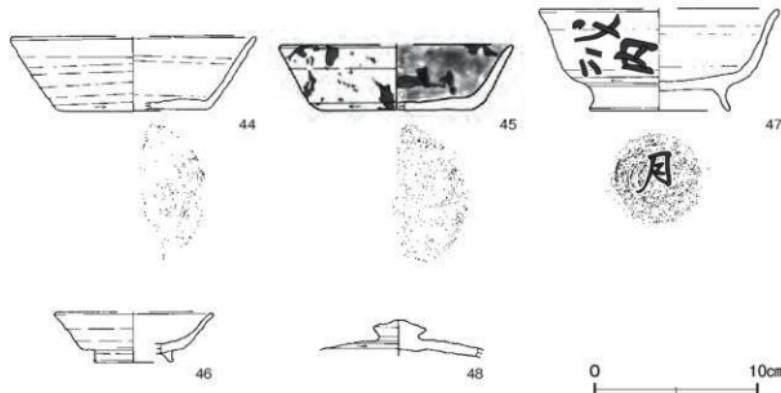
覆土 5層に分層できる。常緑粘土のブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

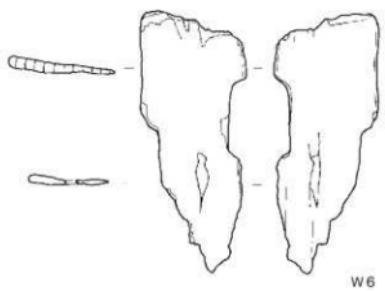
1 黄灰色	粘質土 常緑粘土ブロック中量、繊維少量	3 オリーブ黒色	粘質土、常緑粘土ブロック中量
2 黒褐色	粘質土 植物遺体少量、常緑粘土ブロック・繊 維微量	4 黒褐色	粘土 常緑粘土ブロック、植物遺体少量

遺物出土状況 土師器片28点(甕), 須恵器片23点(坏10, 高台付坏2, 蓋6, 甕4, 瓶1), 木材41点(板材5, 田舟転用材1, 杭12, 加工木23), 自然遺物3点(桃核2, ヒヨウタン1)が出土している。出土土器はいずれも残存率の低い小片で、覆土上層から散在した状態で出土している。44・45・48は、東部の覆土上層, W6は貯水部の覆土中層からそれぞれ出土している。W7~W10は、壁部を構成していた板材, W12~W17は、貯水部南辺の西側延長線上に打設されていた杭である。W18~W23は、いずれも掘方の埋土から出土しており、貯水部の構築時に補強や護岸のために用いられた部材と考えられる。

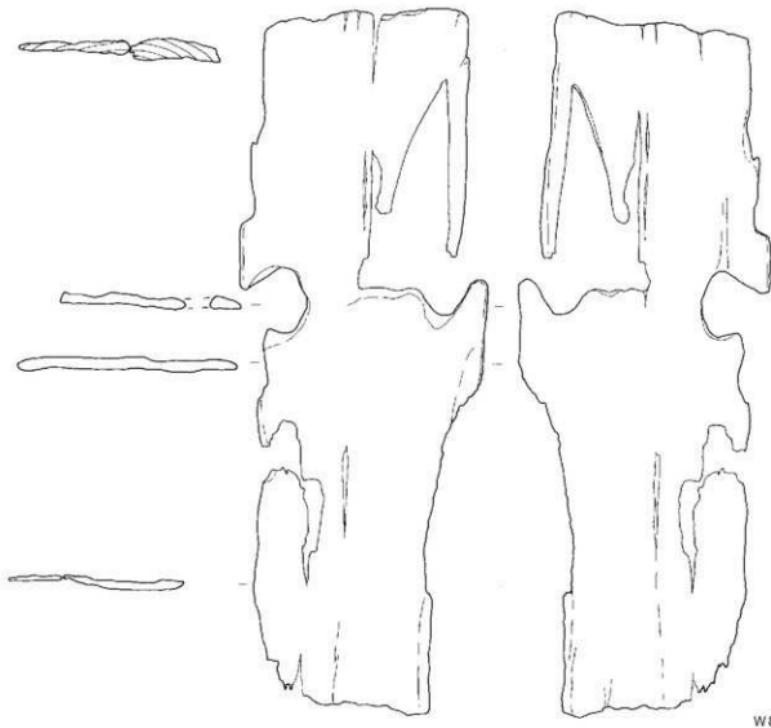
所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。南側には第2号遺物集中地点が延びており、同遺構の覆土下層からは同時期の土器が出土している。南辺の板材(W8)の上面中央部にはU字状の抉り部が設けられていることから、貯水部内に水が溜まると第2号遺物集中地点へと流れ出す構造であったと想定でき、一連の水場として同時に機能していたと考えられる。



第26図 第212号井戸跡出土遺物実測図(1)



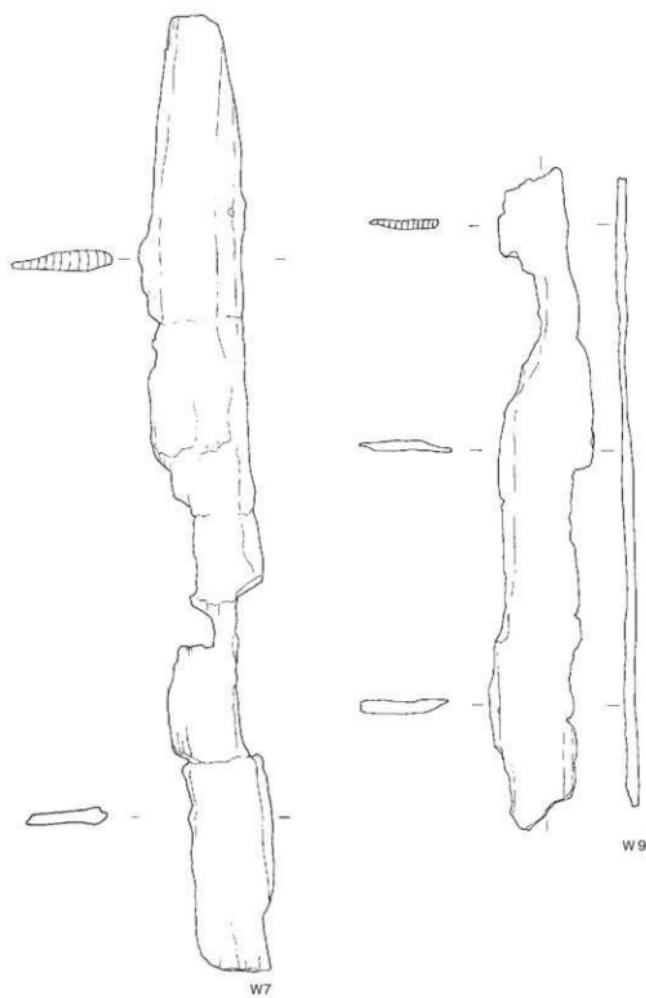
W6



W8

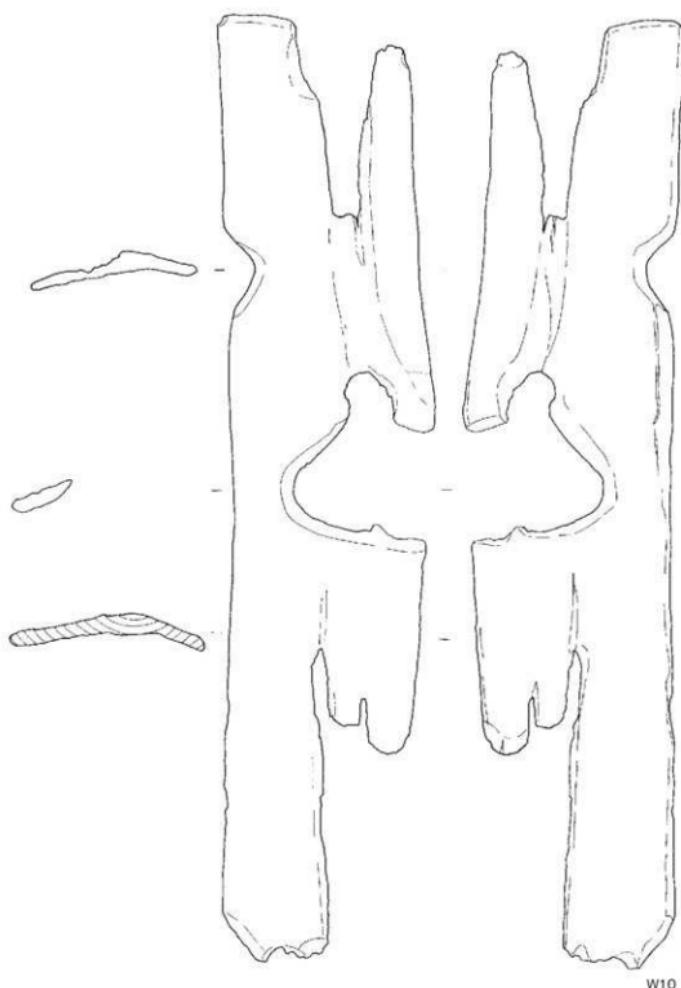


第27図 第212号井戸跡出土遺物実測図(2)



0 30cm

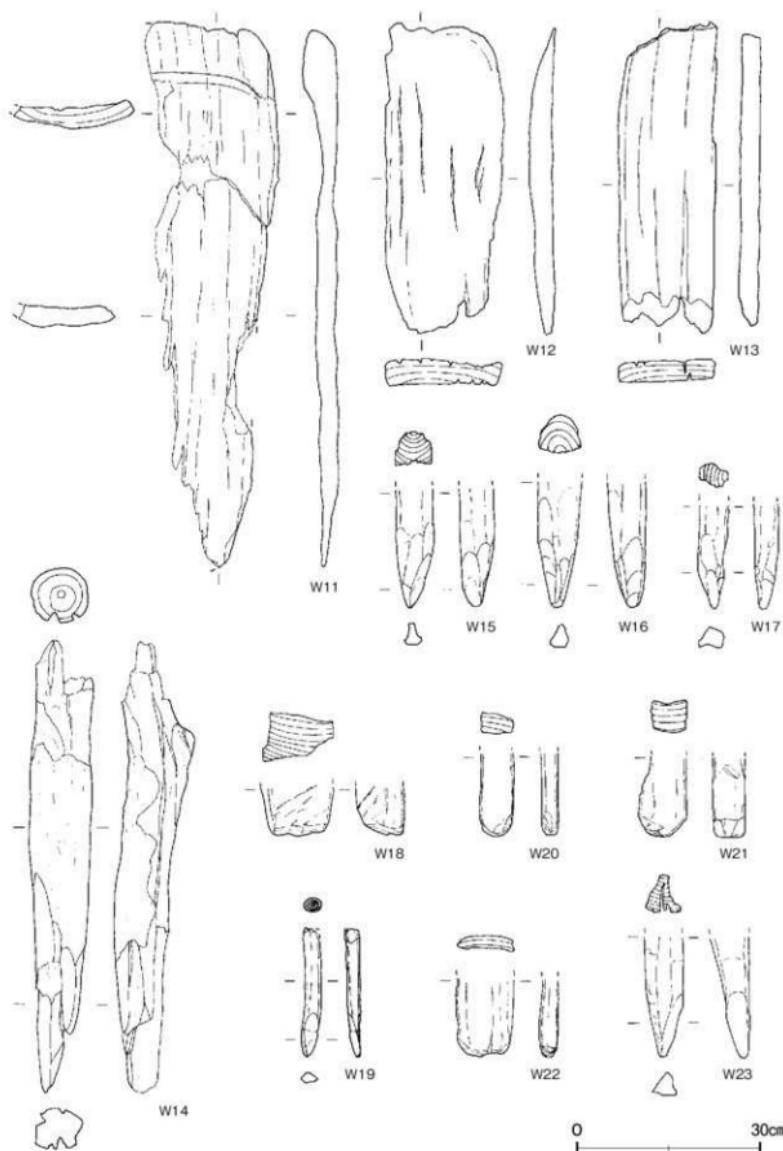
第28図 第212号井戸跡出土遺物実測図(3)



W10



第29図 第212号井戸跡出土遺物実測図(4)



第30図 第212号井戸跡出土遺物実測図(5)

第 212 号井戸跡出土遺物実測図観察表（第 26 ~ 30 図）

番号	種 別	器 様	口径	覆高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
44	須恵器	环	[15.0]	4.5	[9.2]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端回転へラ削り 底面回転へラ削り	上層	30%
45	須恵器	环	[14.2]	4.0	[9.2]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方向の手持ちへラ削り 進行着	上層	40% PL20
46	須恵器	高台付环	[9.8]	3.0	[4.6]	長石・石英	褐色	普通	ロクロテナ	覆土中	30%
47	須恵器	高台付环	[14.6]	6.3	8.6	長石・石英	灰	普通	体部下端回転へラ削り 涂墨「□(城。内二月)」	覆土中	50% PL20・65
48	須恵器	蓋	-	(2.4)	-	長石・石英	褐色	普通	天井部回転へラ削り	上層	30%

番号	種 別	器 様	長さ	幅	厚さ	材 質	特 徴	出土位置	備 考
W 6	部材	板材	44.5	18.0	2.1	クヌギ	板目	貯水部上層	
W 7	部材	板材	157.0	17.0	3.5	クヌギ	板目	東辺壁部	
W 8	部材	板材	116.5	41.0	3.9	モミ	板目 上面にU字状の抉り部	南辺壁部	PL21
W 9	部材	板材	109.0	18.0	2.4	クヌギ	板目	南辺壁部	
W 10	部材	板材	156.0	34.0	3.5	クヌギ	板目	西辺壁部	PL21
W 11	部材	田舎軒用材	(89.5)	(22.0)	5.8	クヌギ	板目	棚方埋土	PL21
W 12	土木材	杭	51.5	20.0	4.5	モミ	板目	南西部	PL21
W 13	土木材	杭	51.0	16.0	3.5	モミ	板目	南西部	PL21
W 14	土木材	杭	74.5	10.3	9.0	クリ	芯持丸木 先端部5方向からの削り加工	南西部	PL21
W 15	土木材	杭	34.0	7.0	6.0	広葉樹	みかん削 先端部3方向からの削り加工	南西部	
W 16	土木材	杭	62.0	8.0	7.0	広葉樹	みかん削 先端部4方向からの削り加工	南西部	
W 17	土木材	杭	44.0	7.0	7.0	広葉樹	みかん削 先端部4方向からの削り加工	南西部	
W 18	土木材	杭	24.0	14.0	10.0	クリ	芯持丸木 先端部3方向からの削り加工	棚方埋土	
W 19	土木材	杭	20.9	3.3	2.5	広葉樹	板目 板状 先端部削り加工	南西部	
W 20	土木材	杭	37.0	7.0	4.0	広葉樹	板目 板状 先端部削り加工	棚方埋土	
W 21	土木材	杭	47.0	8.0	6.0	広葉樹	板目 板状 先端部2方向からの削り加工	棚方埋土	
W 22	土木材	杭	72.0	13.0	4.0	広葉樹	板目 板状 先端部削り加工	棚方埋土	
W 23	土木材	杭	61.0	11.0	6.0	広葉樹	みかん削 先端部3方向からの削り加工	棚方埋土	

表4 井戸跡一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
205	T 10b5	N - 9° - E	精円形	2.77 × 1.82	82	皿状	外傾	人為	土鏡器片、須恵器片、ハマダリ	SE208・本路 → SX 1・2
209	S 104	N - 30° - W	【精円形】	2.25 × [1.30]	53	皿状	外傾	自然	土鏡器片、須恵器片、弧状板	本路 → SE204、SX 1 - 2
210	T 10a4	-	不整円形	2.84 × 2.80	114	皿状	外傾	人為	土鏡器片、須恵器片、下盤、火葬臼、木材、鐵鉗	SE211 → SE4 → SE31、SX 1 - 2
212	T 10a4	N - 26° - W	【長方形】	0.84 × [0.70]	68 - 84	凹凸	直立	人為	須恵器片、板材、田舎軒用材、杭	SE4 → SE5.2 → SE20、SX 1

(3) 溝跡

第 562 号溝跡（第 4・31・32 図）

位置 調査区南部の T 10b5 区から T 10c9 区にかけて、標高 13 m ほどの埋没谷部に位置している。

重複関係 第 91 号堀に掘り込まれており、上部には第 1・2 号遺物集中地點が形成されている。

規模と形状 西部は第 2 号遺物集中地點の底面の凹凸との判別が不鮮明であり、東部は第 91 号堀に掘り込まれているため、長さ 15.75 m しか確認できなかった。東方向 (N - 9° - E) へ直線的に延び、T 10b8 区で屈曲して、東南東方向 (N - 115° - E) へ延びている。上幅 0.50 ~ 0.87 m、下幅 0.28 ~ 0.45 m で、深さは 15 ~ 25 cm である。断面形は浅い逆台形で、壁は緩やかに立ち上がり、底面の標高は 16.0 ~ 16.2 m である。

覆土 3 層に分層できる。常緑粘土のブロックを含んでいることから埋め戻されている。

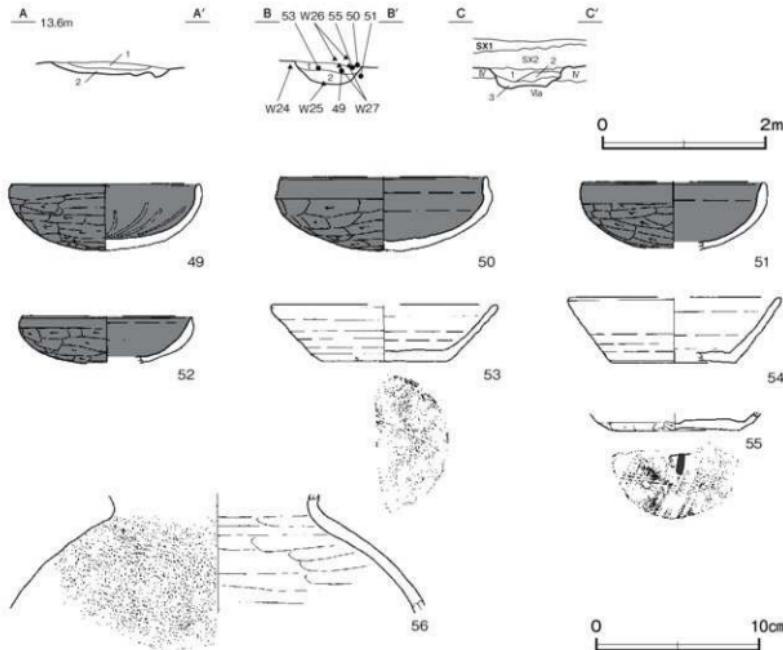
土層解説

1 黒褐色 細砂混じり粘質土 常総粘土ブロック少量
2 オリーブ黒色 粘質土 常総粘土ブロック・細砂中量

3 黒 色 粘土 常総粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 511 点（古墳時代坏 138、奈良時代坏 5、不明坏 176、甕 192）、須恵器片 53 点（坏 37、蓋 1、瓶 5、甕 10）、木製品 4 点（馬鍔歯 1・荷札状木製品 1・板状木製品 2）、自然遺物 114 点（桃核）のほか、シジミ、自然木が出土している。出土土器はいずれも残存率の低い小破片で、西半部の覆土上層から散在した状態で出土している。W 25 は西部の覆土下層、49・51・55・W 24 は西部、50・53・W 26・W 27 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

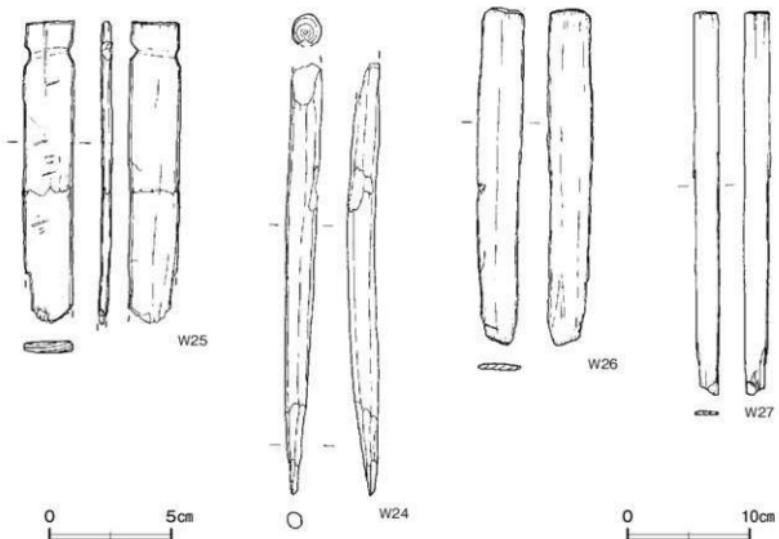
所見 時期は、出土土器から 8 世紀前葉に廃絶したと考えられるが、古墳時代後期の土器片が多く含まれていることから、当該期から機能していた可能性がある。上流部には古墳時代の第 203・206～208・211 号井戸跡、8 世紀前葉の第 209 号井戸跡があり、これらの自然湧水を集めて、低地部へ排水していたと考えられる。



第 31 図 第 562 号溝跡・出土遺物実測図

第 562 号溝跡出土遺物観察表（第 31・32 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	土師器	坏	11.5	4.1	-	灰白・石英・赤色粒子	褐色	普通 剥脱のハラ削り	内面糊模様(手)	上層	70%
50	土師器	坏	12.6	4.5	-	灰白・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通 剥脱のハラ削り	内面糊模様(手)	上層	50%



第32図 第562号溝跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
51	土陶器	环	[11.2]	(41)	-	長石・石英・赤色粒子	灰	にい(黄褐色)	上端部外・内面横ナデ	体部ヘラ削り 外・内 面黒色處理(墨)	上層	40%
52	土陶器	环	[10.4]	(28)	-	長石・石英	褐灰	普通	口端花外・内面横ナデ	体部ヘラ削り 外・内 面黒色處理(墨)	覆土中	25%
53	須恵器	环	[13.8]	35	[86]	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端斜ヘラ削り	底部一方向の手持ちヘ ラ削り	上層	25%
54	須恵器	环	[13.0]	40	[76]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端ロクロナデ	底部不定方向の手持ちヘ ラ削り	覆土中	25%
55	須恵器	环	-	(11)	78	長石・石英・雲母	黄灰	普通	手持ちヘラ削り	底部一方の手持ち ヘラ削り	上層	10% PL65
56	須恵器	壺	-	(67)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部同心円文叩き	内面ヘラナデ	覆土中	5%

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W 24	農具	馬頭歯	(356)	25	2.1	イヌガヤ	芯削出 先端部八方向からの削り加工	上層	PL20
W 25	用途不明品	荷札状木製品	(125)	21	0.4	ヒノキ	板目 上部左右からの切り込み 墨痕有り	下層	PL20
W 26	用途不明品	板状木製品	27.7	37	0.6	ヒノキ	経目 剥り調整	上層	PL22
W 27	用途不明品	板状木製品	31.5	21	0.4	アスナロ	経目 剥り調整	上層	PL22

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡1軒、井戸跡1基、遺物集中地点2か所、土坑1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

第3110号住居跡（第33・34図）

位置 調査区北西部のS 10g1区、標高16mほどの埋没谷部に位置している。

規模と形状 西側が調査区域外へ延びており、南側が削平されているため、南北軸 4.58 m、東西軸 2.87 m しか確認できなかった。一辺 5 m 前後の方形または長方形と推定でき、主軸方向は N - 85° - E である。確認できた壁高は 10 ~ 34 cm で、ほぼ直立している。

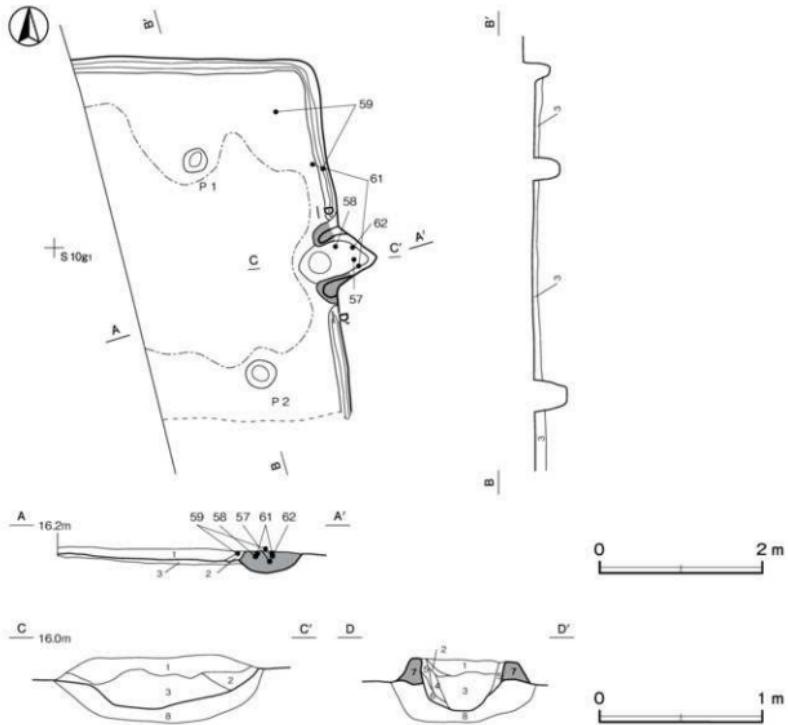
床 平坦な貼床で、龜前から中央部にかけて踏み固められている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。

貼床は、平坦に掘りくぼめた部分に、ロームブロックを少量含む暗褐色土を埋土して構築されている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 97 cm で、燃焼部幅は 44 cm である。袖部は床面を深さ 23 cm の鍋底状に掘りくぼめた部分に黒褐色土を埋土し、にぶい褐色の砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面から 15 cm くぼんでおり、火床面は赤変、硬化とともに弱い。煙道部は壁外に 50 cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっていいる。

遺土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・燒土ブロック・砂質粘土粒子少量	5 暗赤褐色 燃土ブロック多量、砂質粘土ブロック中量
2 灰褐色 ロームブロック・燒土粒子・砂質粘土粒子少量	6 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・砂質粘土粒子少量
3 暗赤褐色 燃土ブロック・砂質粘土ブロック中量	7 にぶい褐色 砂質粘土ブロック中量、燒土ブロック少量
4 暗褐色 燃土粒子微量	8 黑褐色 燃土ブロック少量



第33図 第3110号住居跡実測図

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ33cm・45cmで、配置から主柱穴である。

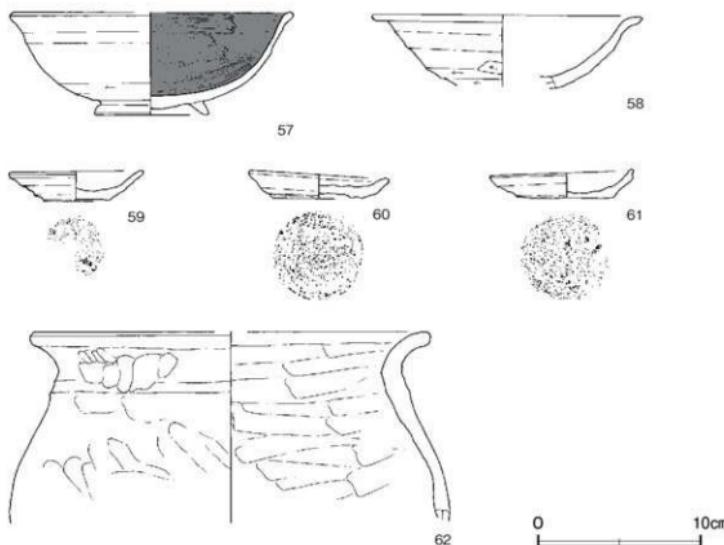
覆土 2層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック、炭化物が多く含まれていることから埋め戻されている。第3層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|--------------------|
| 1 噴 間 色 | 燒土ブロック・ローム粒子少量 | 3 植 暗褐色 | ロームブロック少量、燒土ブロック微量 |
| 2 煙 赤褐色 | 黑色粘土ブロック・炭化物・燒土粒子少量 | | |
| | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片52点(坏1、高台付椀1、足高高台付椀1、小皿8、甕41)が出土しているほか、混入した古い時期の土師器片14点(坏)、須恵器片12点(坏4、蓋2、盤1、瓶1、甕4)も出土している。57・58・62は甕の覆土中から破碎された状態でそれぞれ出土している。61は甕の覆土中と東壁際の覆土下層、59は東壁際の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合している。

所見 時期は、出土土器から11世紀前半に比定できる。



第34図 第3110号住居跡出土遺物実測図

第3110号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
57	土師器	高台付椀	[17.0]	63	68	長石・石英・雲母	にぶい橙	体部下端回転へラ削り 内面へラ削き 底部高	甕覆土中	50% PL22	
58	土師器	足高高台付椀	16.2	(44)	-	長石・石英・雲母	橙	普通 体部下端回転へラ削り	甕覆土中	40% PL22	
59	土師器	小皿	8.2	1.9	4.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通 体部下端回転糸切り		下層	10% PL22
60	土師器	小皿	8.2	1.7	5.5	長石・石英・雲母	橙	普通 底部静止糸切り	甕土中	80% PL22	
61	土師器	小皿	8.6	1.8	5.6	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通 底部回転糸切り	甕覆土中・ 下層	60% PL22	
62	土師器	甕	[24.2]	(11.7)	-	長石・石英	橙	普通 口縁部横ナデ 一部括頭痕 体部外・内面へラ	甕覆土中	40%	

(2) 井戸跡

第204号井戸跡（第35～68図）

位置 調査区南半部のS 103～T 10b4区、標高14～15mの埋没谷部に位置している。

確認状況 埋没谷部の土層観察用トレンチを掘削したため、東部から南部にかけての状況は不鮮明であり、また、井戸部は調査過程で井戸枠が崩落したため、下部構造や掘方の裏込めの状況は明確にできなかった。

重複関係 第209～212号井戸跡、第2号遺物集中地点を掘り込み、上部に第1号遺物集中地点が形成されている。

規模と形状 第2号遺物集中地点が廃絶された後の凹地を利用して構築されている。構造は、北西部に井戸部、南東部に作業場とみられる平坦部があり、北西・南西部の壁下には井戸枠への雨水等の流入を防ぐ排水溝が巡っている。全体の規模は、トレンチ掘削のため長径は9.46m、短径は6.78mしか確認できなかった。形状は楕円形と推定でき、主軸方向はN-43°-Wである。壁高は32～50cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。排水溝は上幅28～62cm、下幅7～30cm、深さ7cmで、断面形状は浅いU字状である。

井戸部は、開口部が北西・南東軸3.34m、北東・南西軸3.32mの隅丸台形で、確認面から60cmまで漏斗状を呈し、それより下部に内法1.04mと推定できる方形の井戸枠が設置されている。底部は井戸枠が崩落したため明確でないが、深さ1mほど掘り下げた段階で地山の砂礫層が湧水とともに噴出している状況を確認した。湧水量は非常に多く、調査時には、排水用ポンプを止めると数時間で開口部の上端まで満水になる状況であった。また、東部の覆土最上層から、クリの根株が投げ込まれた状態で出土している。根株は長さ・幅1.7mほどで、部分的に炭化している。

井戸枠は、横板井籠組構造である。南東面は遺存状態が良好であり、7段まで確認できた。北西面は最上部以外が崩れており、北東・南西面は北西側から押されて一部がずれた状態であった。最上部(W 42～W 44・W 49)は相欠き仕口型で、長さ131～187cm、幅17.0～28.5cm、厚さ9.5～11.5cmの大形の板材を使用し、東・西面(W 43・W 49)の上に北・南面(W 42・W 44)を設置している。それより下部(W 47・W 48・W 50～W 52・W 54～W 56)は、仕口を有しているもののそれぞれが組み合っておらず、また、仕口の内法の長さも井戸枠の規模と一致していない。したがって、古い井戸枠を転用して構築されている。

掘方は、北東・南西径6.02m、北西・南東径4.55mの楕円形で、長径方向はN-56°-Eである。確認面から80cmまで漏斗状に掘り込まれており、それより下部は崩落のため確認できなかった。裏込めの埋土は軟質のオリーブ黒色粘質土(第10～19層)が主体であり、泥のような状態で埋め戻されたと推定できる。また、柱材や井戸枠の転用材、樹皮がついた丸太材などの多量の木材が用いられており、湧水がある軟弱地盤において、短時間で構築するための工夫が見て取れる。木材は井戸枠の各辺に対して平行する方向に充填されており、四隅が杭で固定されている。

平坦部は、幅2.50mで、長さはトレンチ掘削のため4.80mしか確認できなかった。第2号遺物集中地点が廃絶された後の凹地に常緑粘土のブロックを含む粗砂(第7～9層)を充填して構築されている。極めて水はけが良く、井戸部が満水になった状態でも水が溢れることはなかった。下部の第2号遺物集中地点の木組み部が暗渠的な機能を果たしていたためと考えられる。

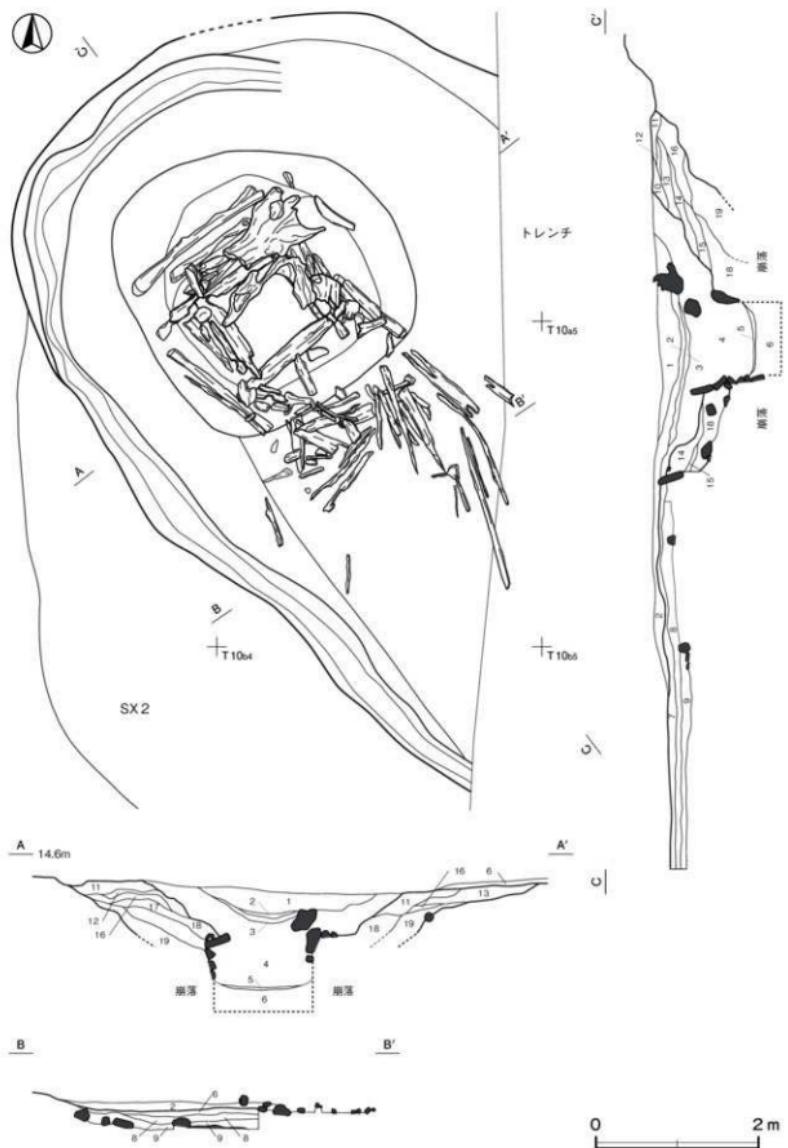
覆土 6層に分層できる。軟質の黒褐色粘土を主体とした水成の自然堆積で、間層に一時的な水の流入を示す砂の薄層を挟んでいる。上～中層には植物遺体が含まれておらず、上層の第2層から、イガが付いたままのクリが集積した状態で出土している。第7～9層は平坦部の構築土、第10～19層は井戸部の掘方への埋土である。

土層解説

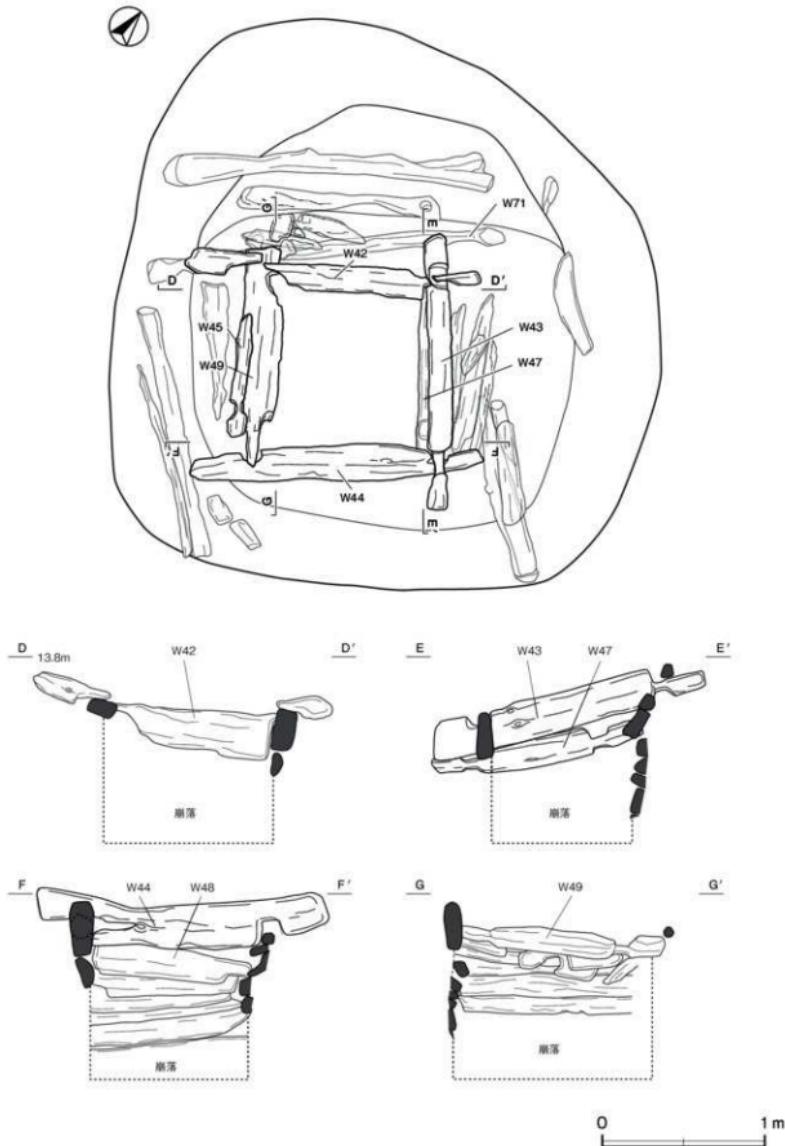
1 須カリーブ色	粘土	植物遺体少量、細砂微量	11 須カリーブ色	砂質土
2 黒褐色	粘土	植物遺体中量	12 黒褐色	粗砂・黒色粘質土ブロック中量
3 黄褐色	粘土	粘土混じり細砂	13 オリーブ色	粘土・植物遺体多量、粗砂少量
4 黒褐色	粘土	植物遺体少量	14 黒褐色	粘質土・繊維少量
5 青灰色	粘土	植物遺体微量	15 黒褐色	粘質土・植物遺体中量、細砂少量
6 黒褐色	粘土	植物遺体微量	16 オリーブ色	粘質土・常緑粘土ブロック・細砂・植物遺体少量
7 灰色	粘土	粘土混じり粗砂	17 オリーブ色	粘土・植物遺体中量、細砂少量
8 灰オリーブ色	粗砂	灰褐色粘質土ブロック少量	18 オリーブ色	粗砂・常緑粘土ブロック中量
9 オリーブ色	粗砂	常緑粘土・灰色粘土ブロック中量	19 オリーブ色	粘質土・粗砂・植物遺体少量
10 黒褐色	粘質土	植物遺体中量		

遺物出土状況 土師器片 1,695 点（古墳時代坏 298、奈良時代坏 25、平安時代坏 180、高台付椀 26、高坏 1、蓋 2、皿 7、高台付皿 3、壺 2、鉢 6、甕 1,144、瓶 1）、須恵器片 6,482 点（古墳時代坏 7、奈良時代坏 171、平安時代坏 270、不明坏 2,932、高台付坏 133、蓋 145、高台付皿 6、盤 57、無台盤 1、高盤 2、壺・甕 7、鉢 138、甕 2,609、瓶 3、円面硯 1）、灰釉陶器片 9 点（碗 1、段皿 1、長頭瓶 1、瓶 6）、土製品 1 点（羽口）、鐵滓 2 点（48.0 g）、木器・木製品 177 点（木簡 1、刀子柄 1、小形堅杵 1、堅杵 1、檜扇 1、糸巻 1、羽物皿 1、曲物蓋板 2、曲物底板 3、曲物側板 1、有孔小板 1、井戸枠材 14、建築用材 7、杭 2、加工木 140）、自然遺物 114 点（桃核 92、ヒヨウタン 6、クリ 13、クルミ 1、鹿角 1、馬歯 1）のほか、木材や自然木が多数出土している。また、漆付着土器 3 点（須恵器坏）、油煙付着土器 2 点（須恵器坏）、墨書き土器 309 点、転用硯 1 点（須恵器盤）が出土している。墨書き土器は、「秋」「麻生」「井」「井上」「夫」「香」「川」「川／川」「川／四」「川入」「楓」「子鼻門」「子佐古」「鳴」「城」「新殿」「葉（小栗の合わせ文字）」「千」「大」「壺」「田前」「長口」「土」「智／福」「智」「ナ」「成」「西」「ノ」「野邊」「前口」「邑」「邑・鳴名」「邑／中家／邑」「南」「山」「山山」「山人」などの文字が確認できる。平面的な分布状況について器種別にみると、須恵器の供膳具類は、全域から出土しており、特に、平坦部南半部の構築土中から多量に出土している。残存率の高い破片が多く、器面の摩滅が少ない。須恵器の貯蔵具・煮炊き具は、掘方の埋土から多く出土している。残存率は低く、接合関係も認められないが、器面の摩滅は少ない。これは、器壁が厚い大形破片が、埋土の補強剤として選ばれたためと考えられる。土師器の供膳具類は、井戸枠内の覆土上～下層と平坦部の南肩部からまとまって出土している。井戸枠内からはほぼ完形のもの、平坦部からは残存率が高く、接合関係が認められるものが多く出土しており、いずれも器壁の摩滅は少ない。土師器の貯蔵具・煮炊き具類は、いずれも摩滅した小片であり、周囲から流れ込んだものと考えられる。次に、特筆すべき遺物としては、63～69 と W 28 があげられる。63～69 は、井戸枠内の覆土最下層から、上から 63～69 の順に 7 点が重なって、倒位の状態で出土している。63 が「川／川」、64・66・69 が「土」、65・67・68 が「千」「千・千」と墨書きされている。63～66・69 は、口縁端部の一部が欠けており、縦で括られた状態で井戸に沈められたと想定できる。W 28 は、表面に物の長さである「□長三尋一尺七寸〔寸〕」、裏面に人名の「道淨人」と書かれている。表面の「尋」は布の長さを表す単位であり、国立歴史民俗博物館館長平川南氏より、「飛鳥池遺跡南地区（152 号木簡）、藤原京左京七条一坊西南坪（1480 号木簡）などの事例から、長さ「三尋」が当時の布の一定規格を示すものであったと理解でき、本木簡は、この規格が東国社会でも用いられていたことを証する初見資料といえる。」とのご教示を得た。

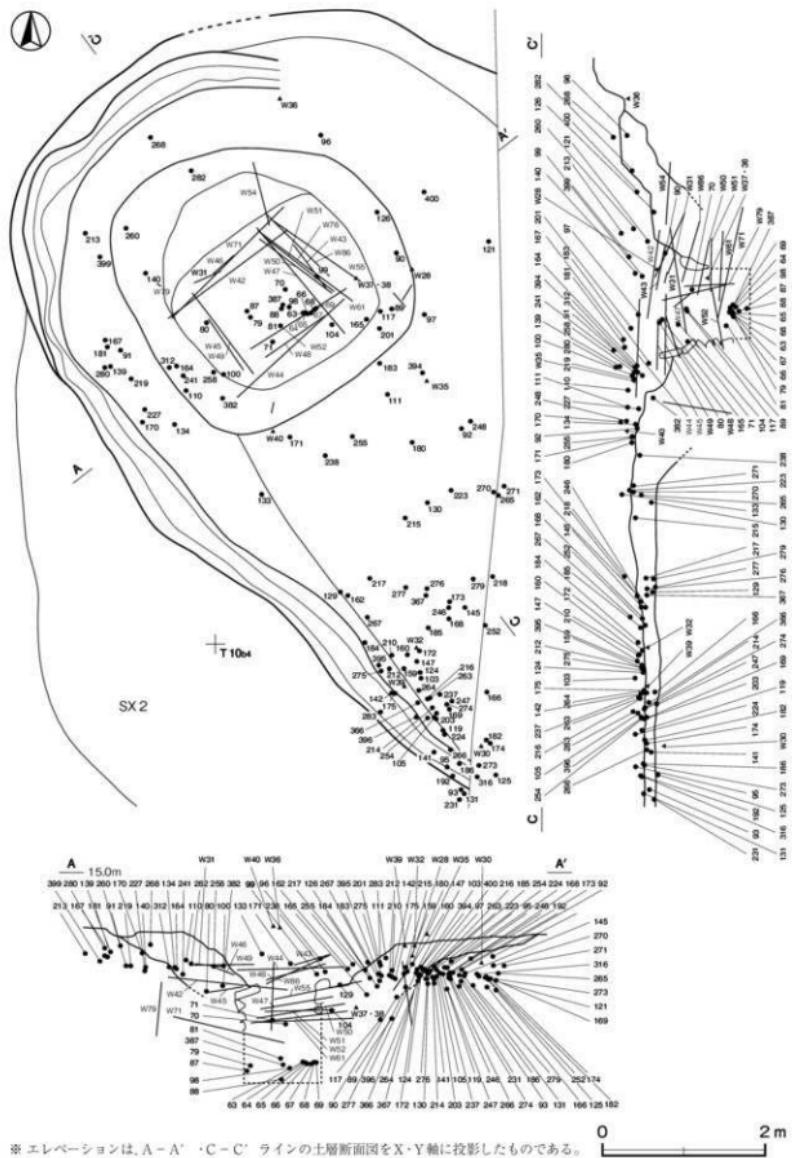
所見 時期は、出土土器から構築時期が 9 世紀中葉、廃絶時期が 9 世紀後葉にそれぞれ比定できる。出土した井戸枠材は、仕口の内法が 110cm 前後と 69cm 前後の二者があり、後者が井戸枠の下段や掘方の裏込めに転用されている。このことは、今回確認した井戸部が小形のものから作り替えられたことを示しており、改修を繰り返しながら、使用されていた状況がうかがえる。また、井戸枠内の最下層からは、墨書き土器 7 点が、重なった状態で出土しており、井戸の祭祀に関連して供献されたものと考えられる。



第35図 第204号井戸跡実測図(1)

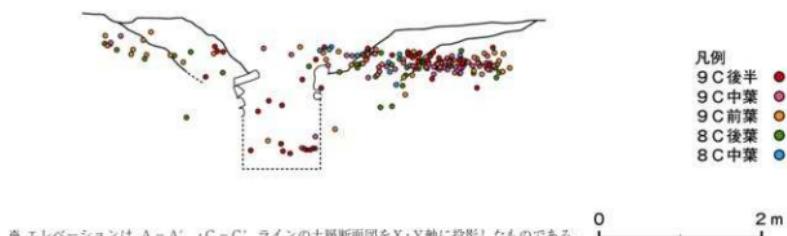
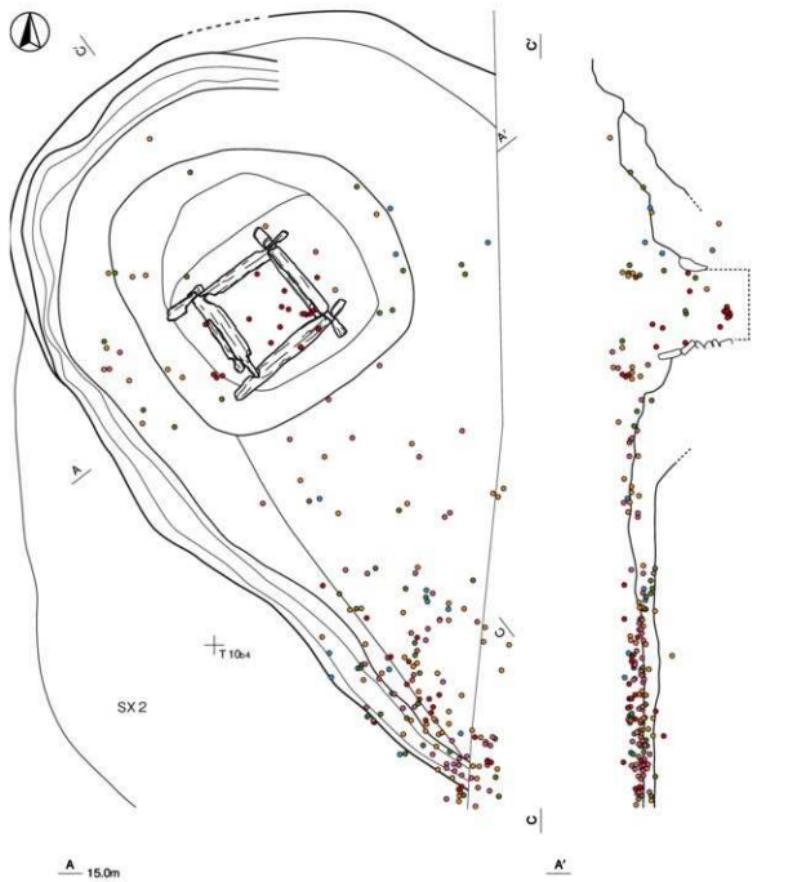


第36図 第204号井戸跡実測図(2)



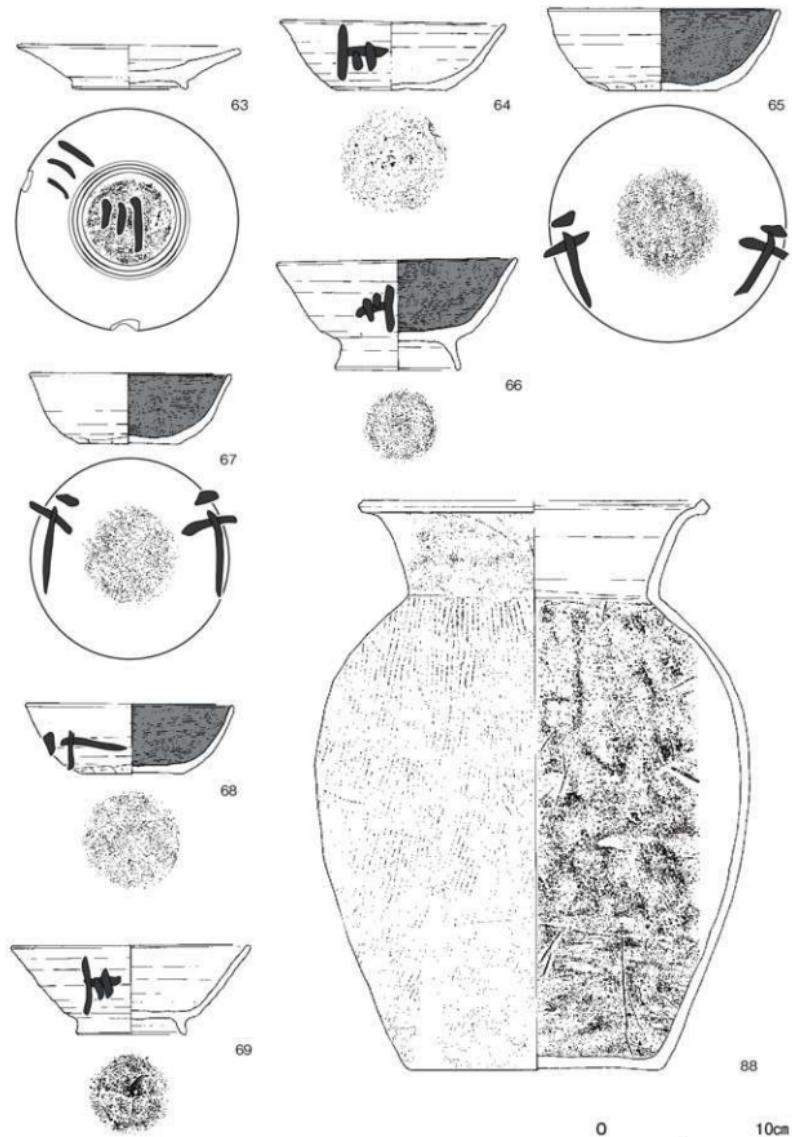
※ エレベーションは、A-A'・C-C' ラインの土層断面図をX-Y軸に投影したものである。

第37図 第204号井戸跡遺物出土状況図(1)

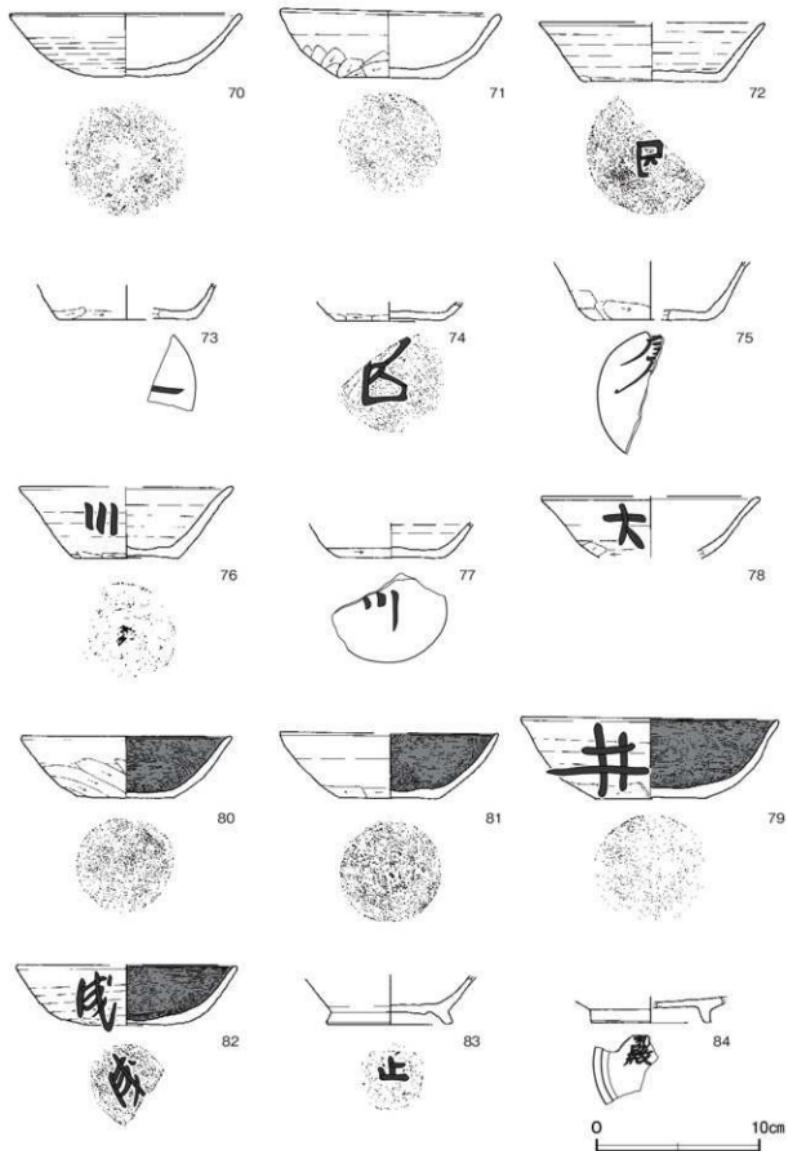


* エレベーションは、A-A'・C-C' ラインの土層断面図をX-Y軸に投影したものである。

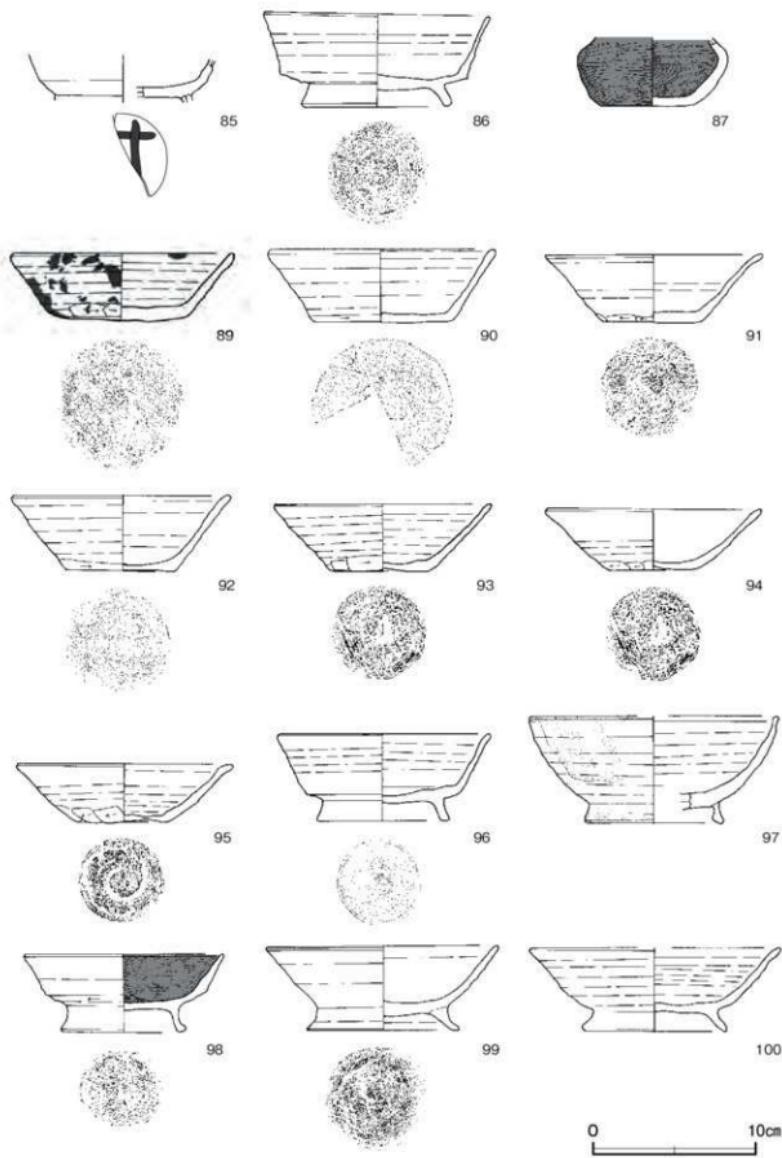
第38図 第204号井戸跡遺物出土状況図(2)



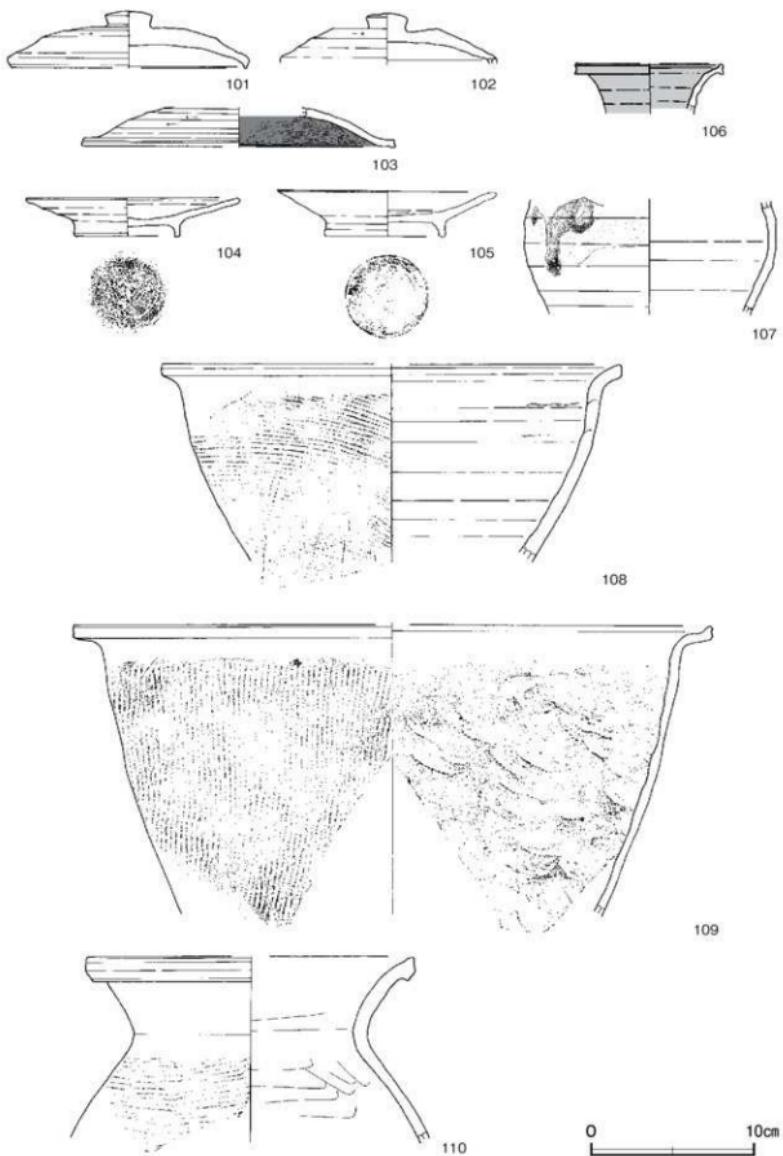
第39図 第204号井戸跡出土遺物実測図(1)



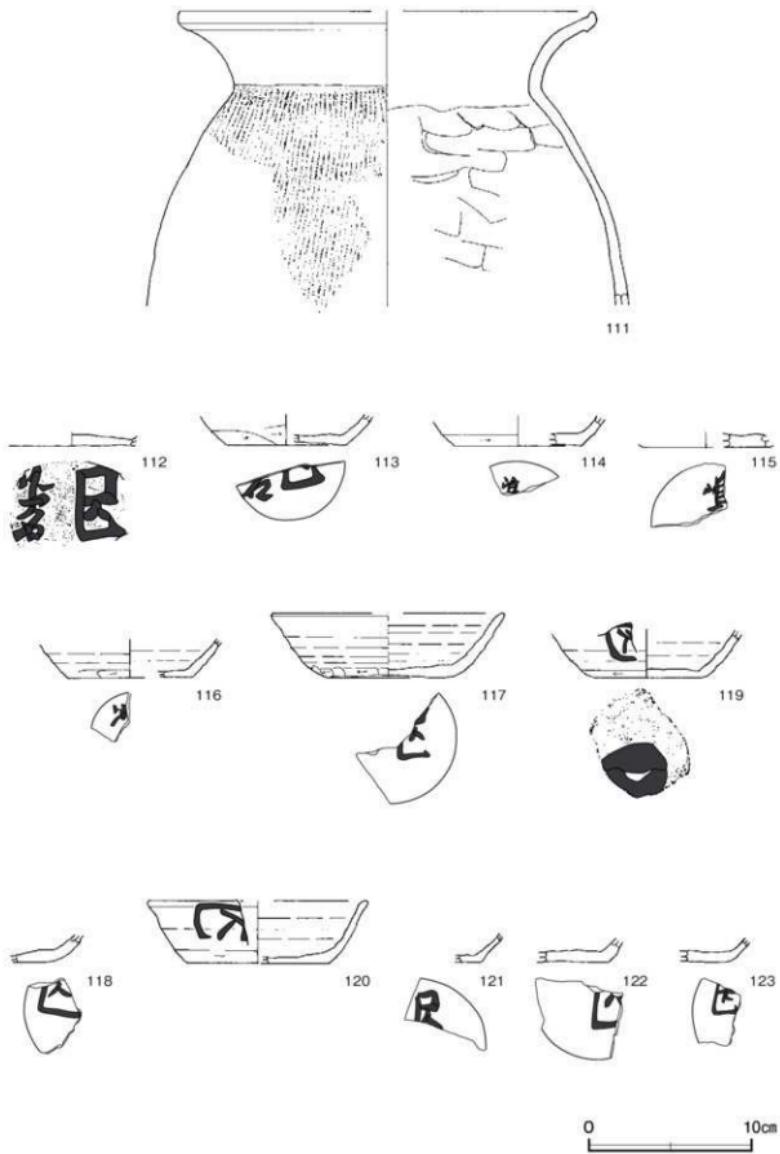
第40図 第204号井戸跡出土遺物実測図(2)



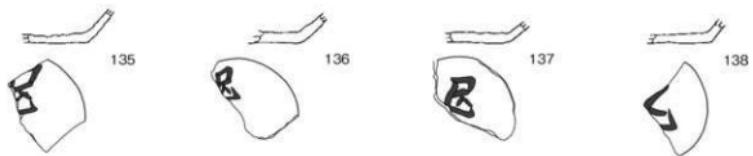
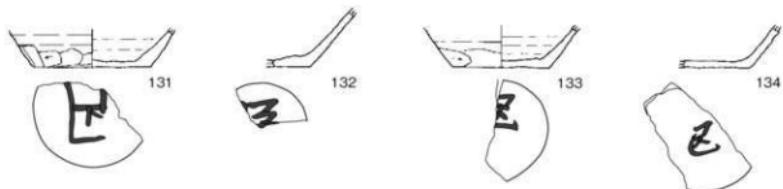
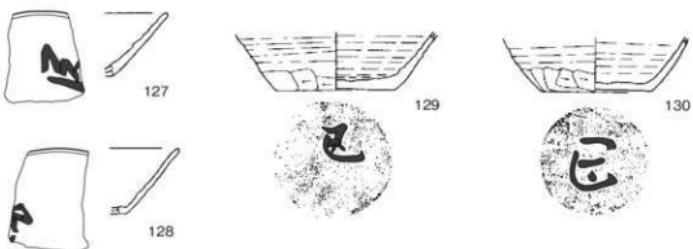
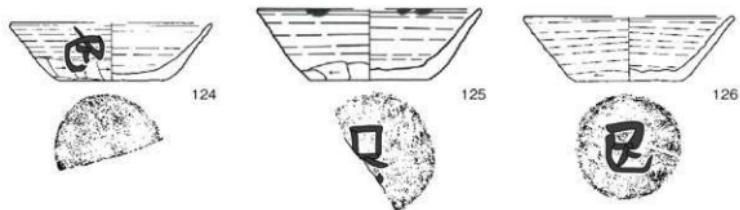
第41図 第204号井戸跡出土遺物実測図(3)



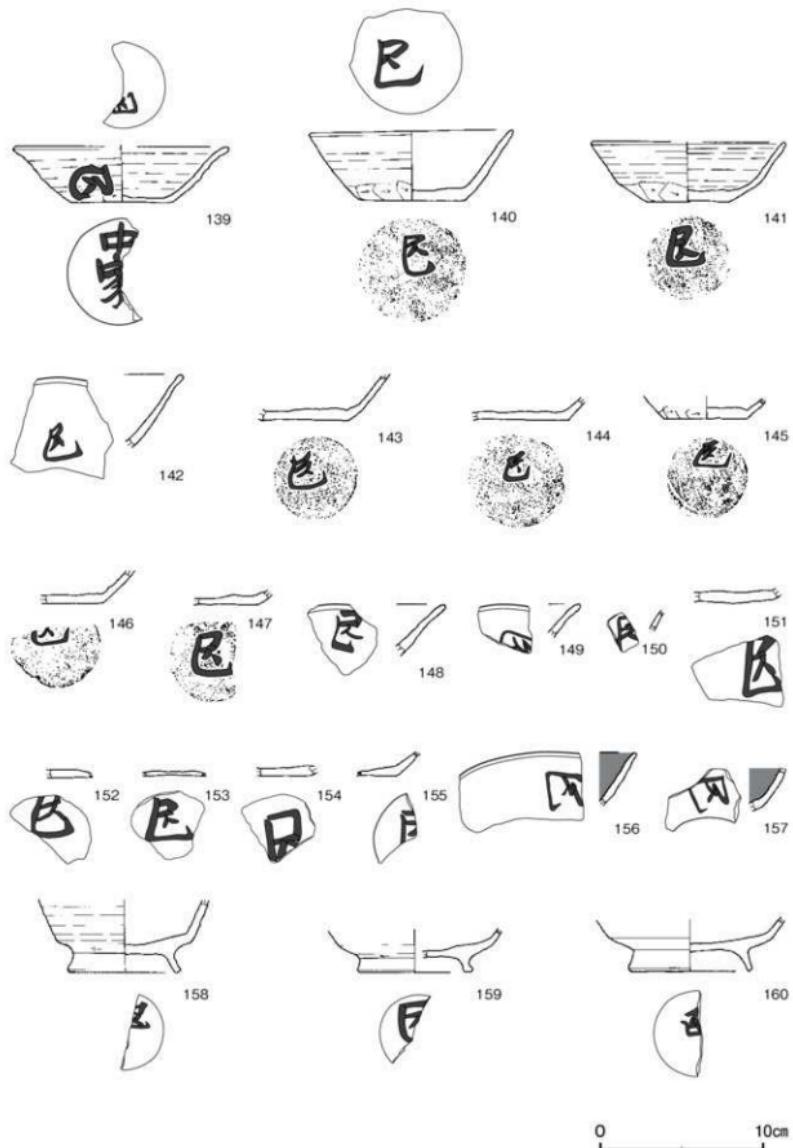
第42図 第204号井戸跡出土遺物実測図(4)



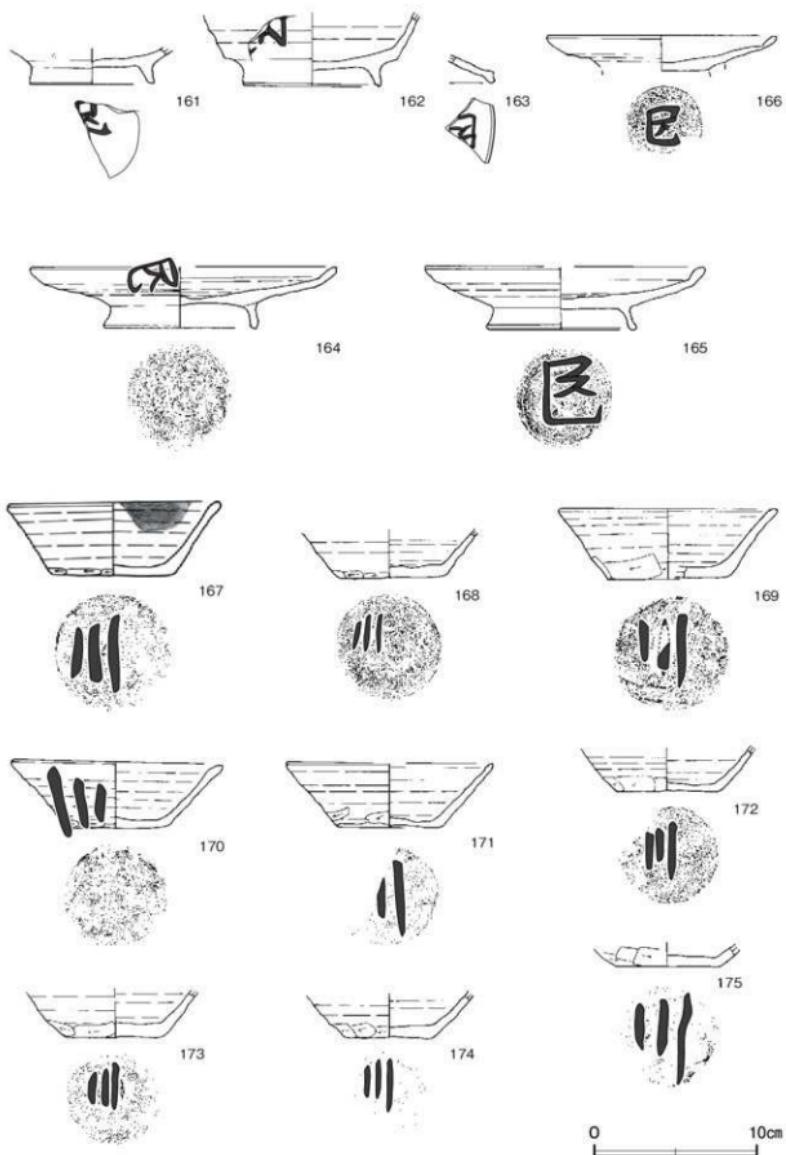
第43図 第204号井戸跡出土遺物実測図(5)



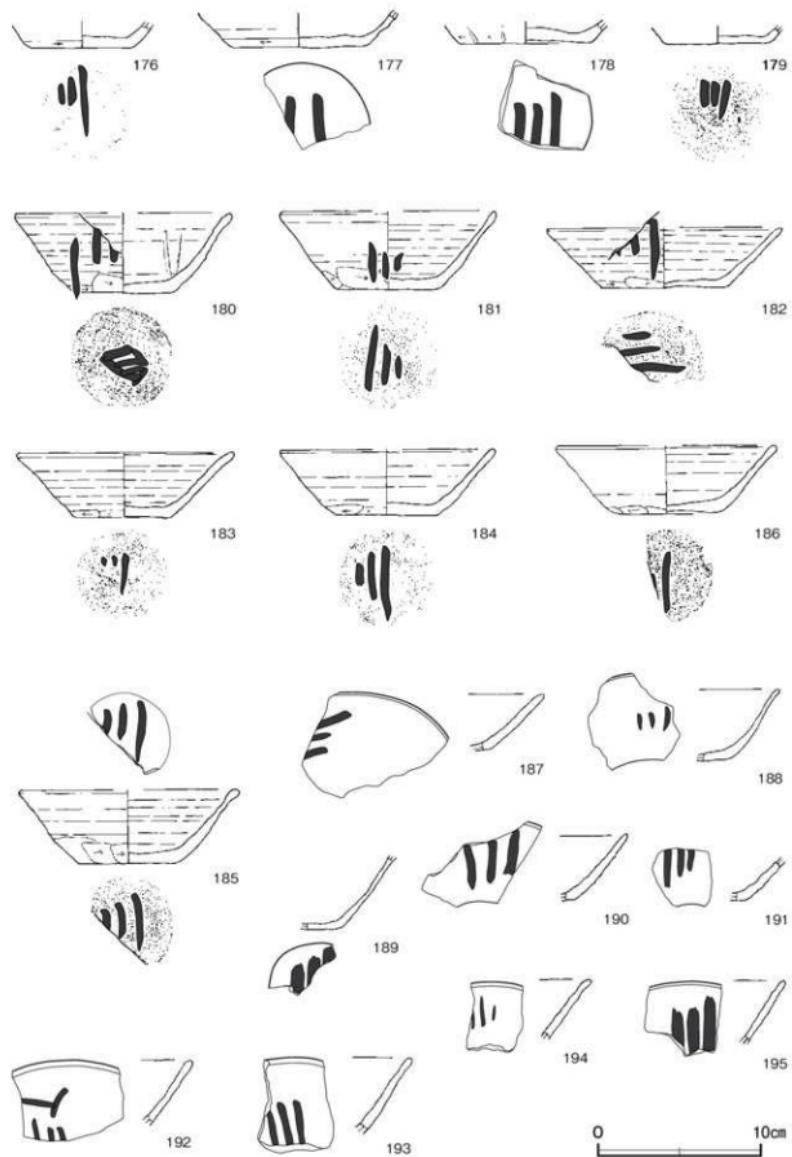
第44図 第204号井戸跡出土遺物実測図(6)



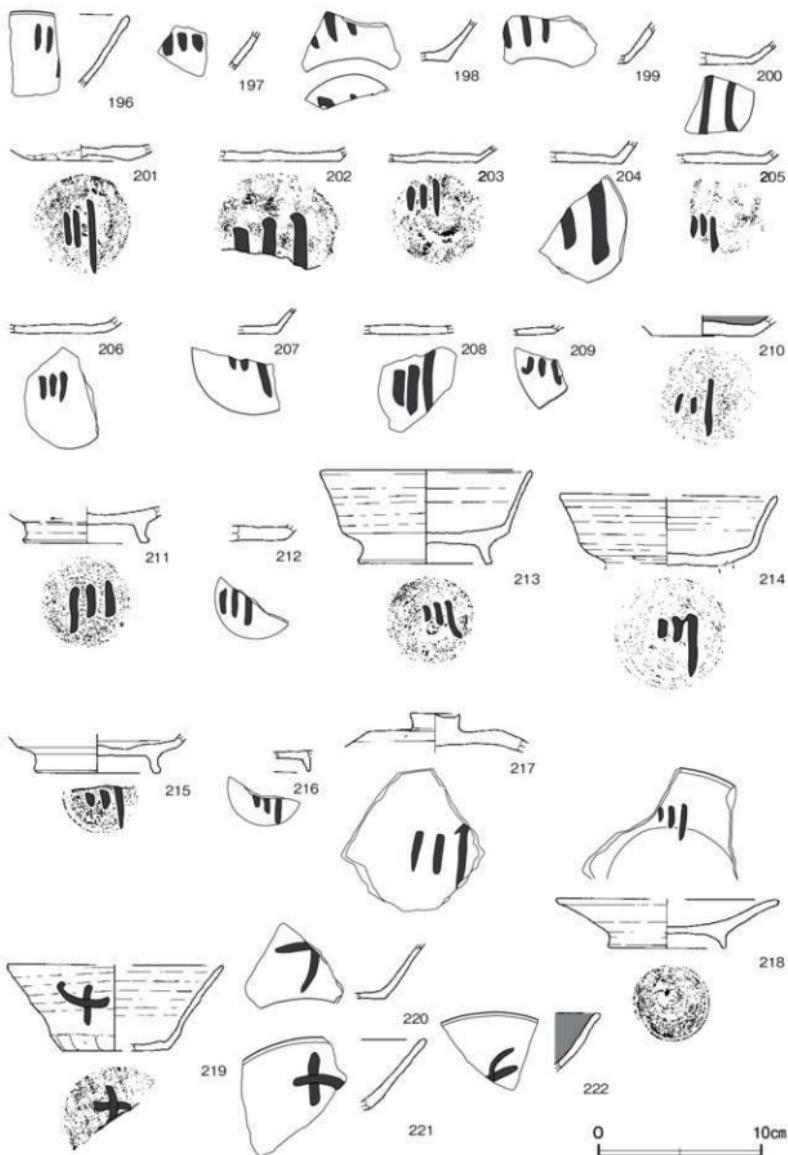
第45図 第204号井戸跡出土遺物実測図(7)



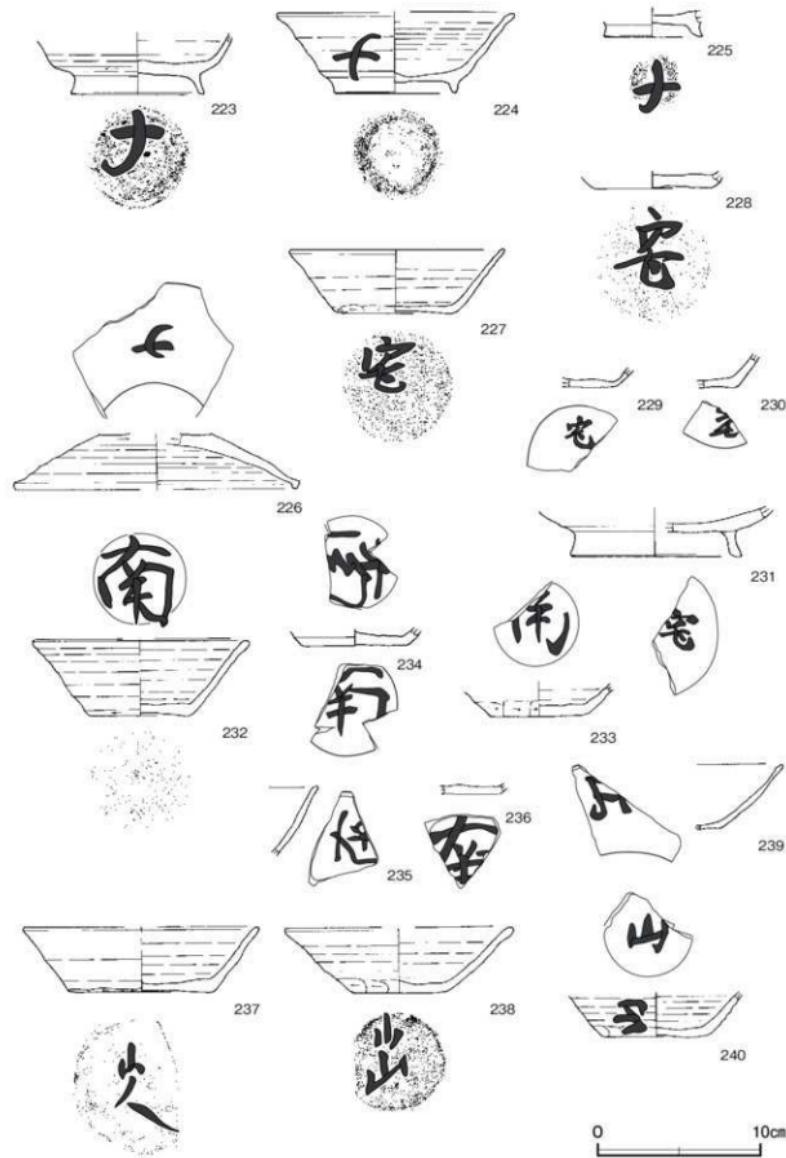
第 46 図 第 204 号井戸跡出土遺物実測図 (8)



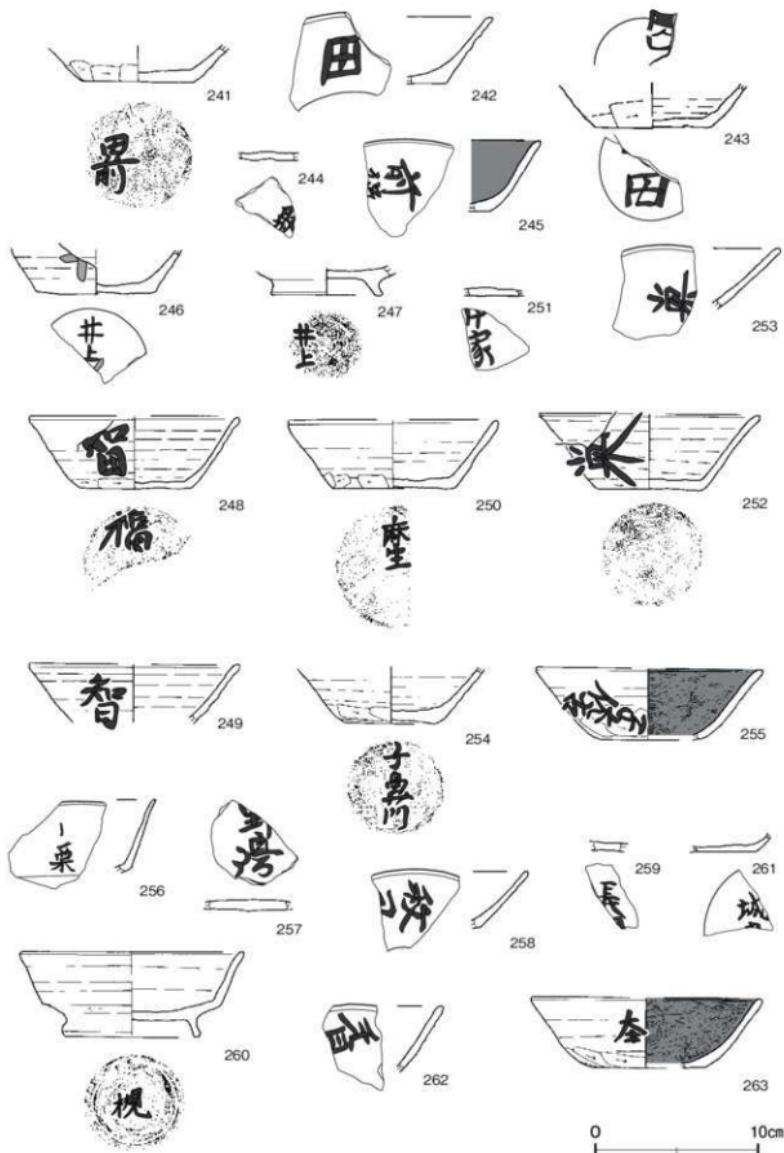
第47図 第204号井戸跡出土遺物実測図(9)



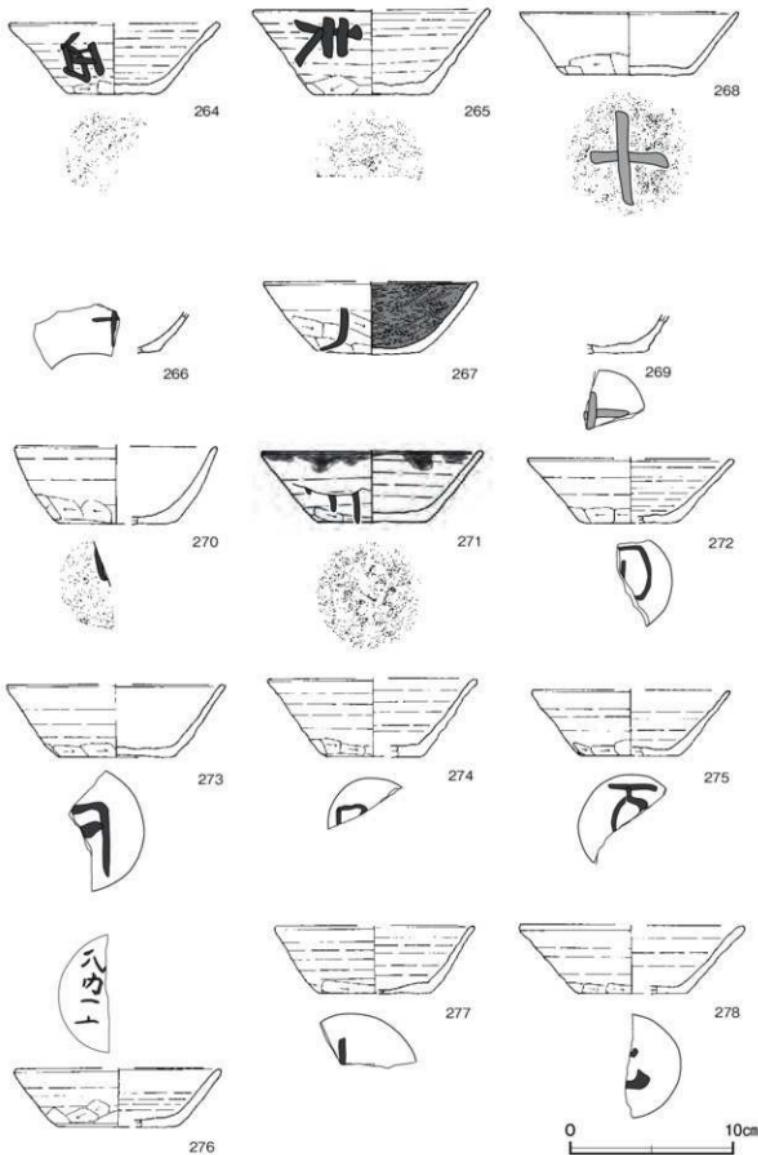
第48図 第204号井戸跡出土遺物実測図(10)



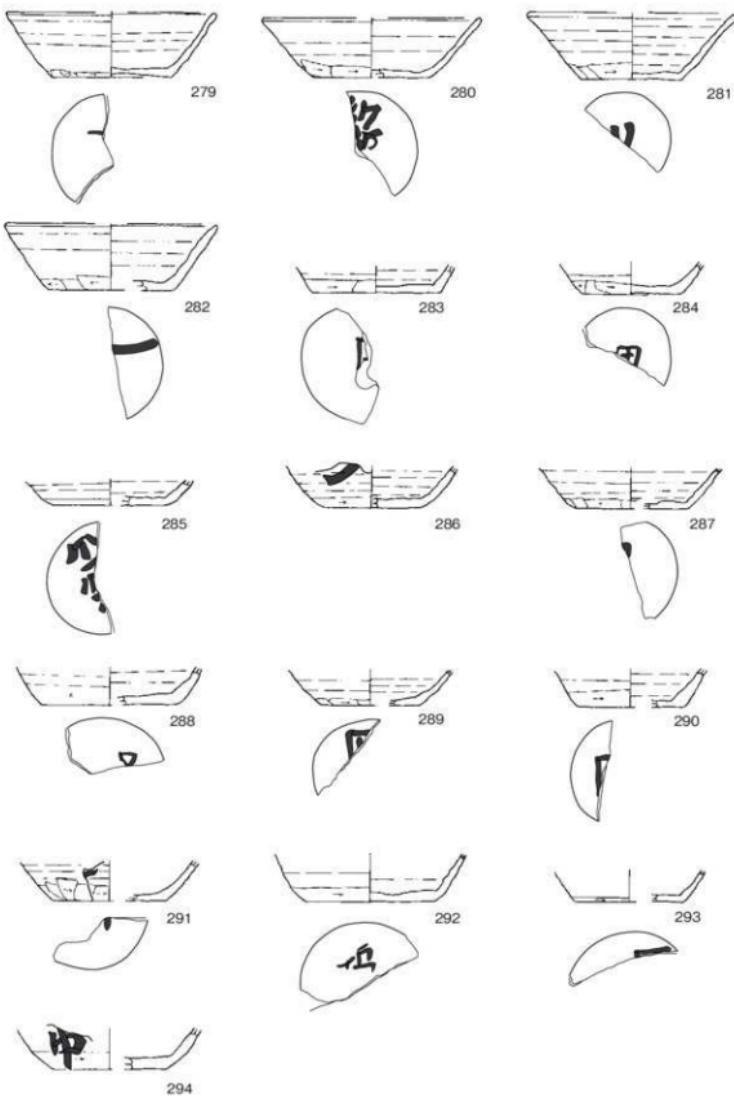
第49図 第204号井戸跡出土遺物実測図(1)



第50図 第204号井戸跡出土遺物実測図(2)

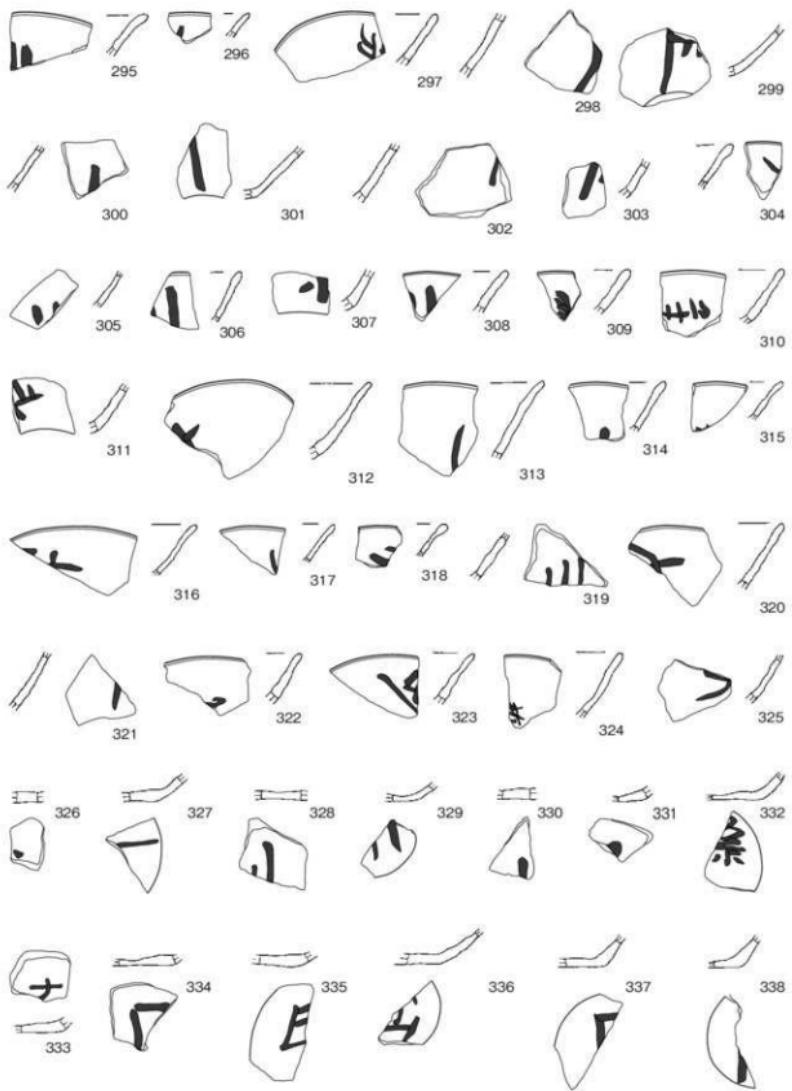


第51図 第204号井戸跡出土遺物実測図(13)



0 10cm

第52図 第204号井戸跡出土遺物実測図(4)

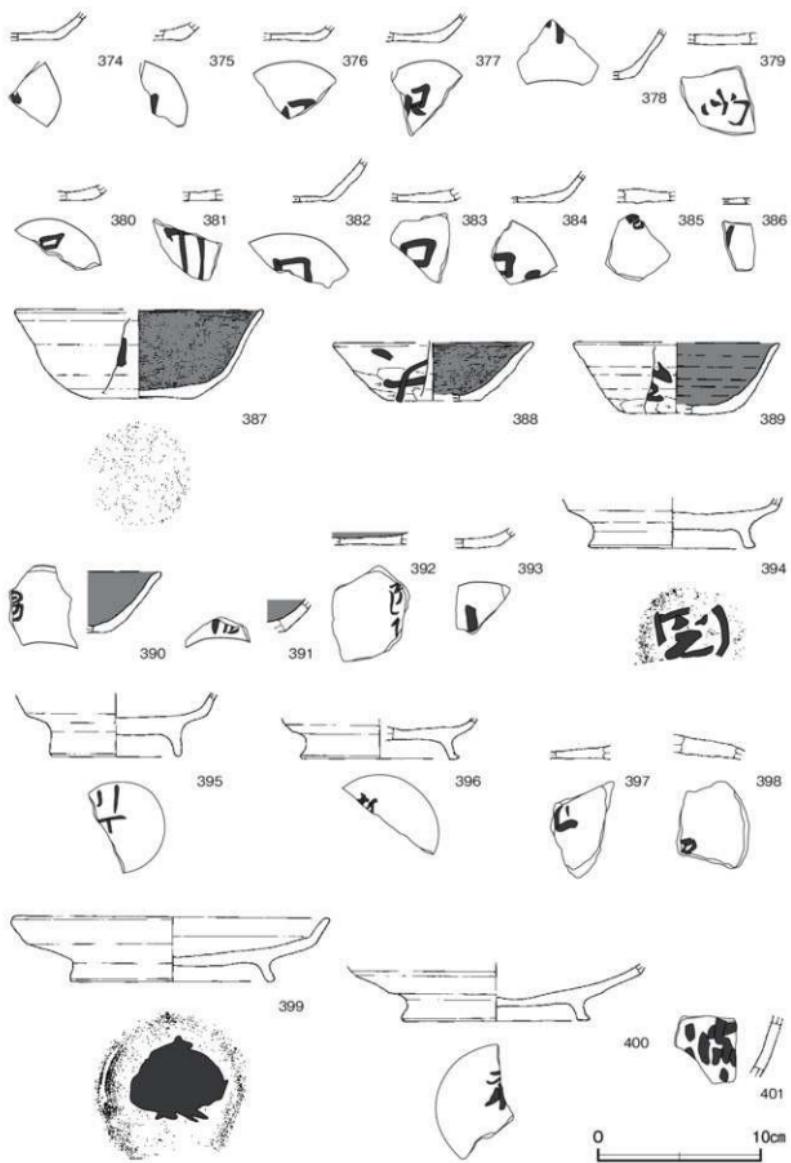


0 10cm

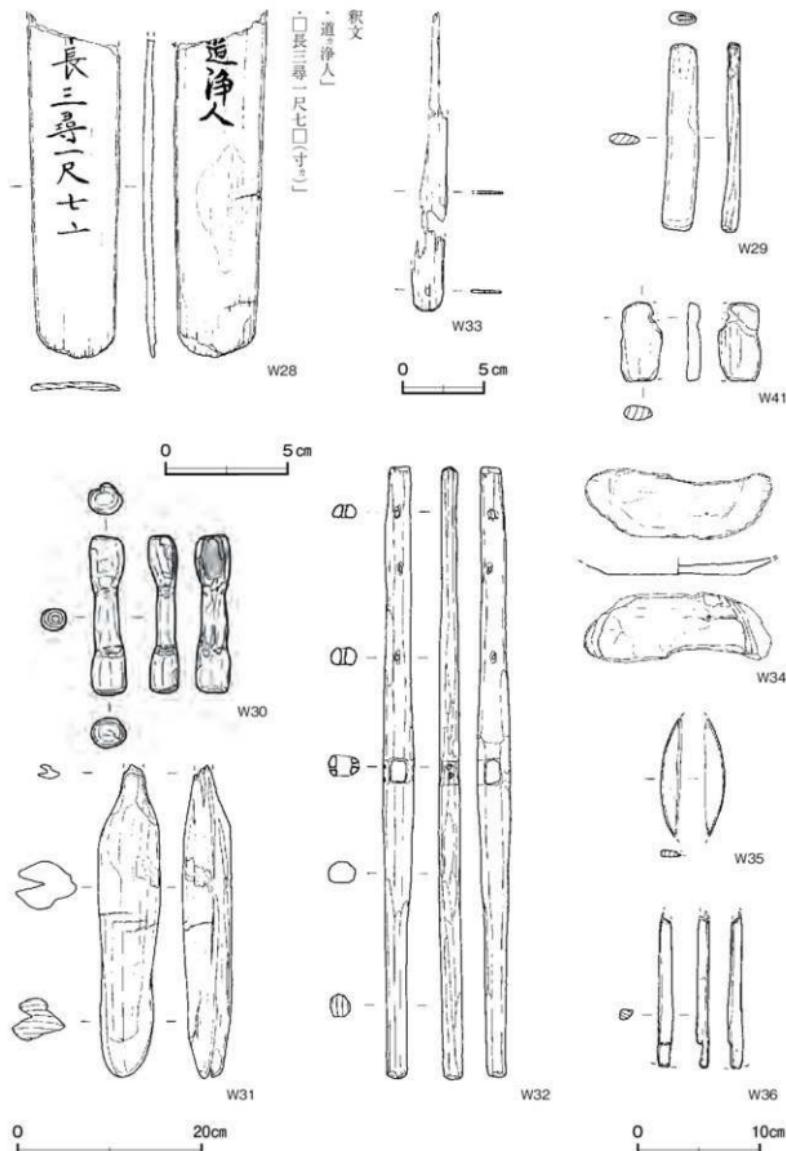
第53図 第204号井戸跡出土遺物実測図(15)



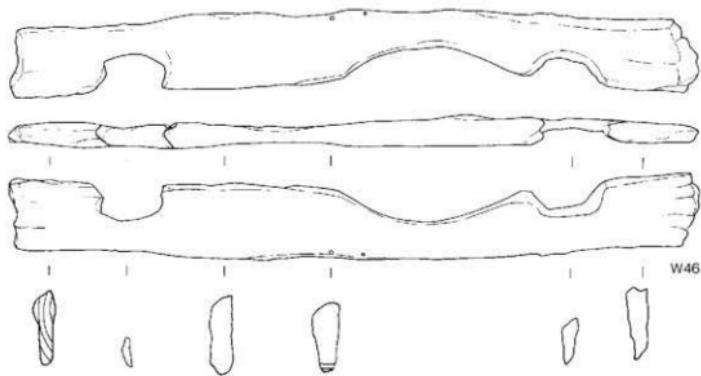
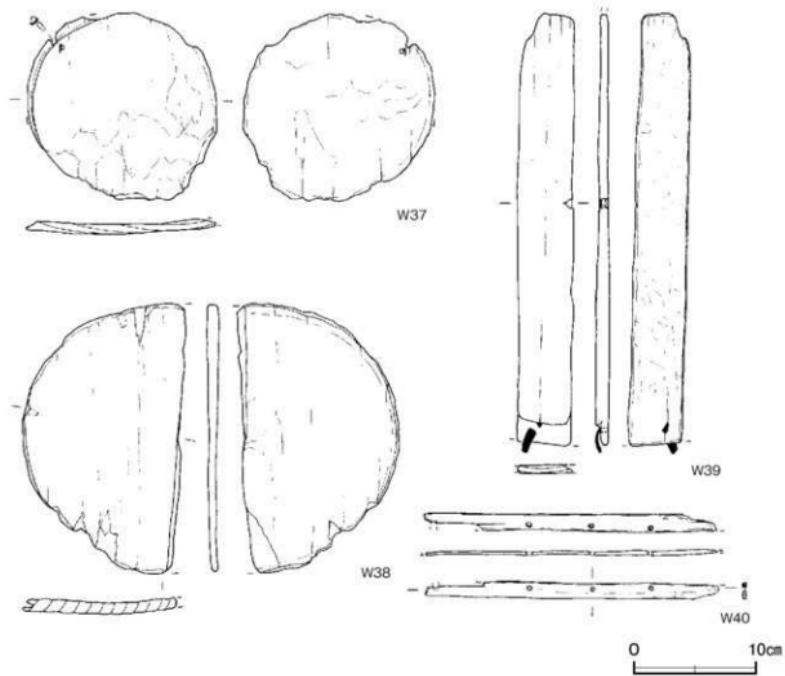
第 54 図 第 204 号井戸跡出土遺物実測図 (16)



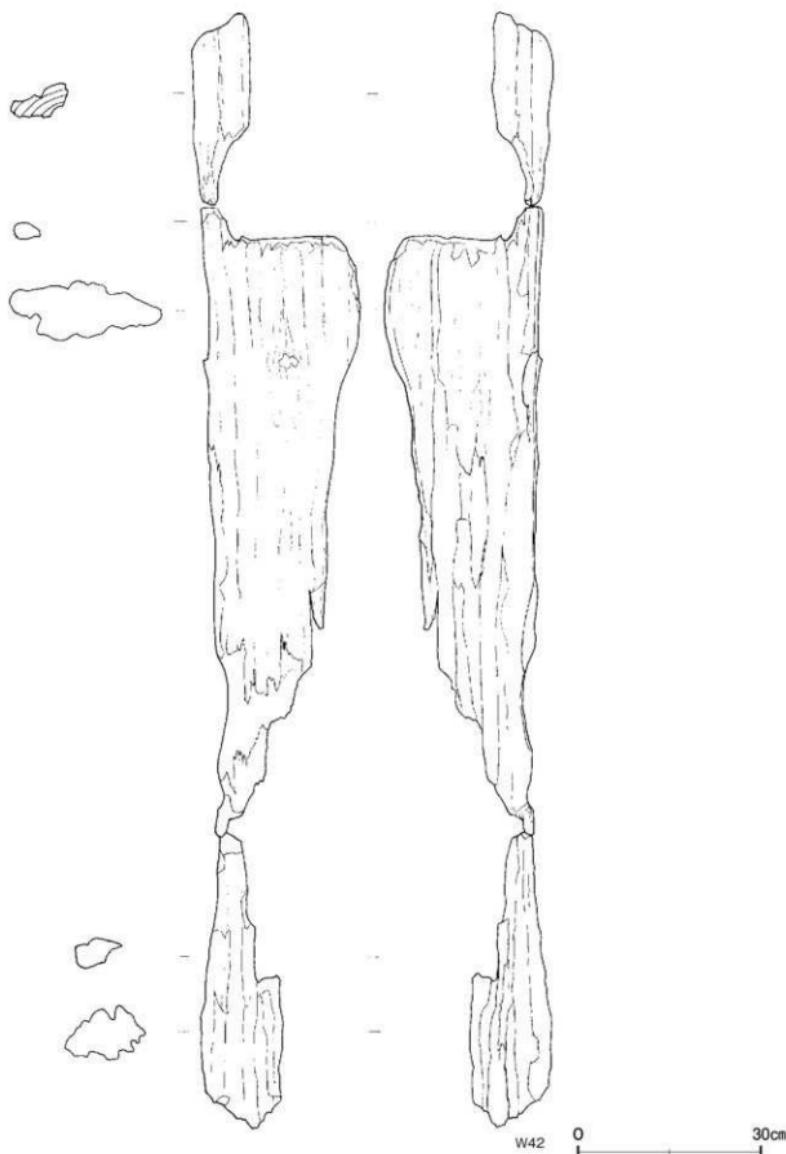
第 55 図 第 204 号井戸跡出土遺物実測図 (17)



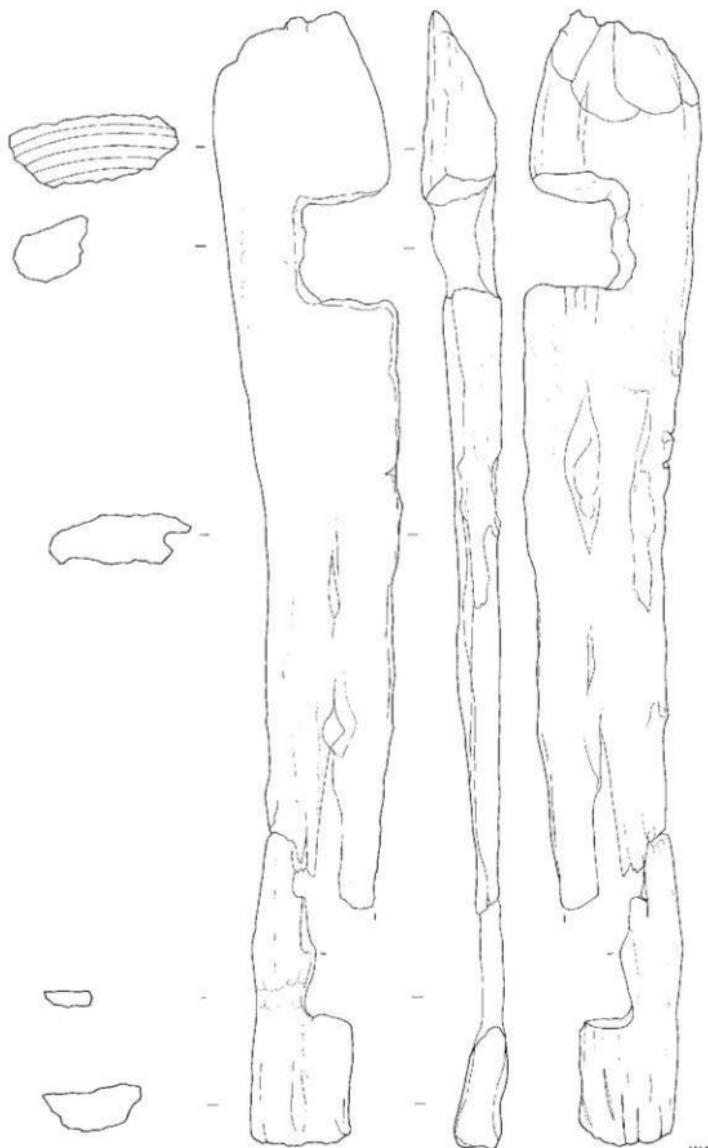
第56図 第204号井戸跡出土遺物実測図(8)



第 57 図 第 204 号井戸跡出土遺物実測図 (19)

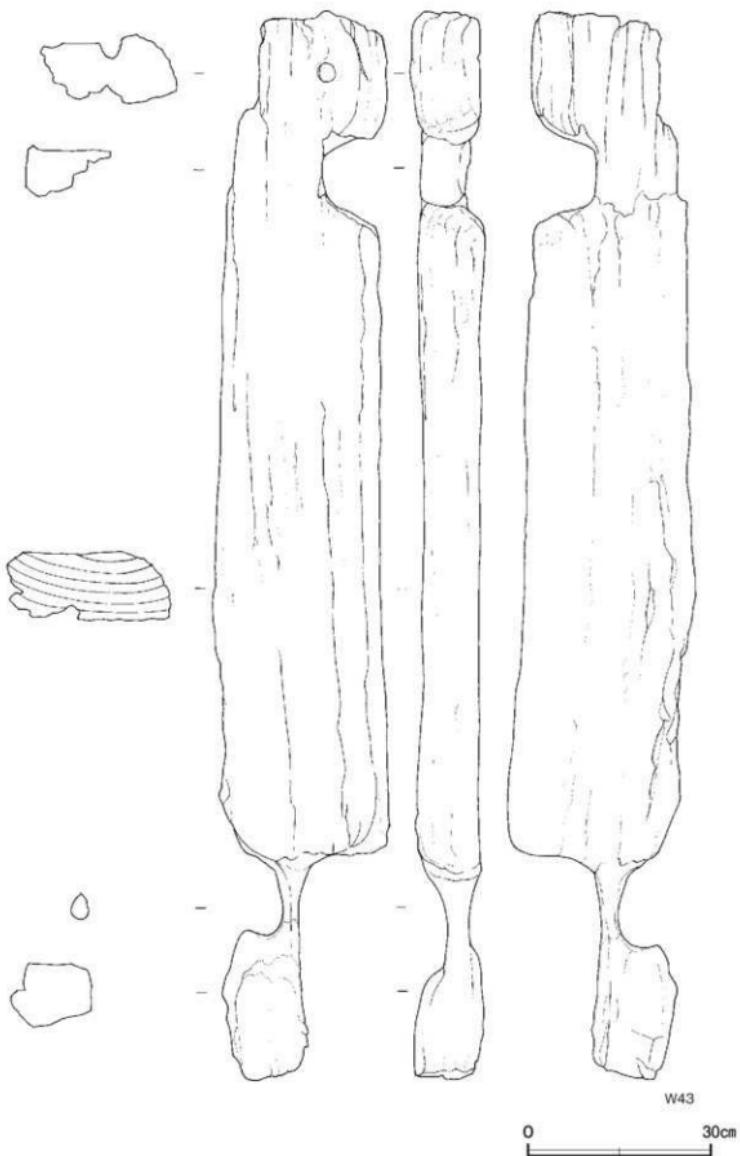


第58図 第204号井戸跡出土遺物実測図(20)

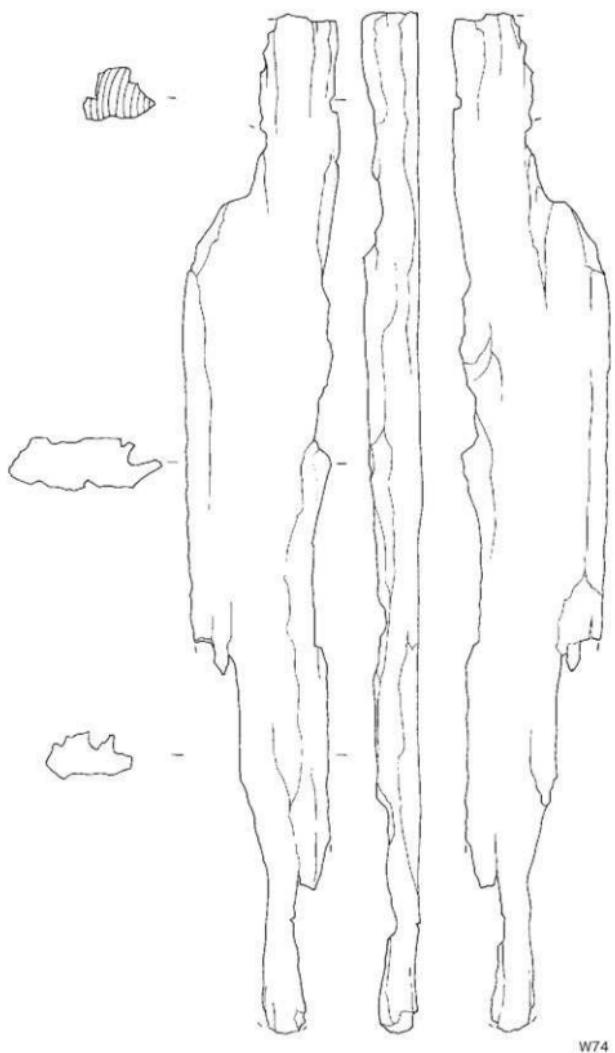


W44

第59図 第204号井戸跡出土遺物実測図(21)



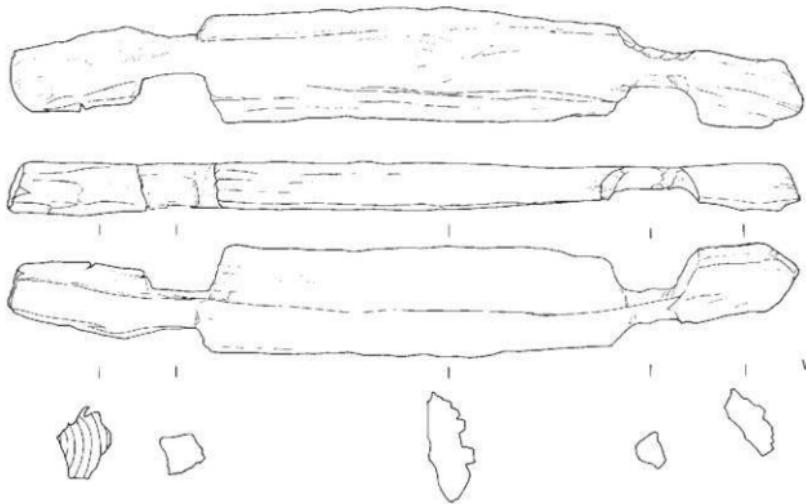
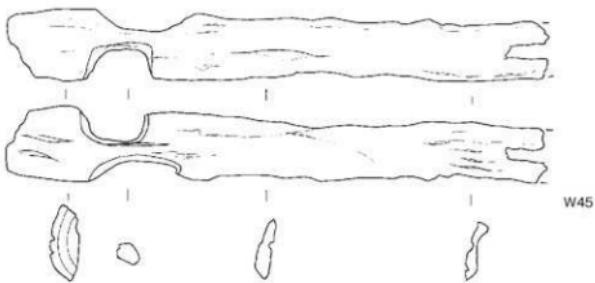
第 60 図 第 204 号井戸跡出土遺物実測図 (22)



W74

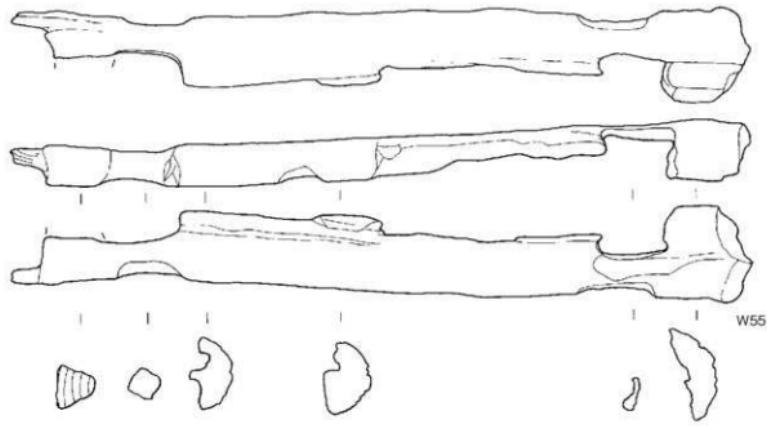
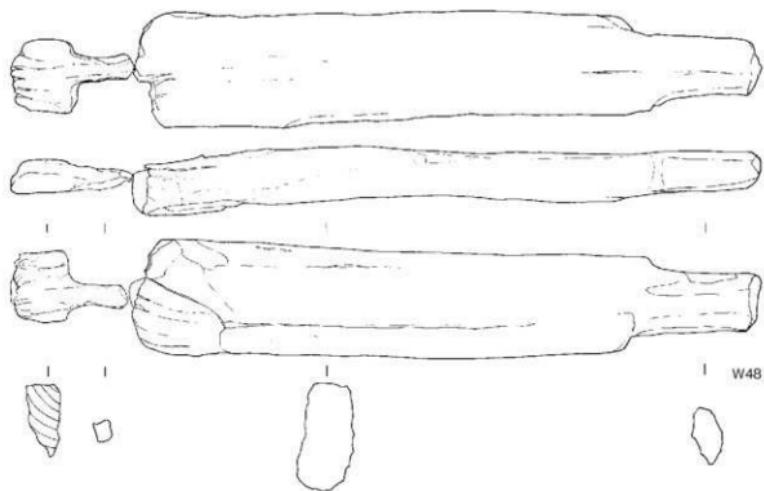


第61図 第204号井戸跡出土遺物実測図(23)



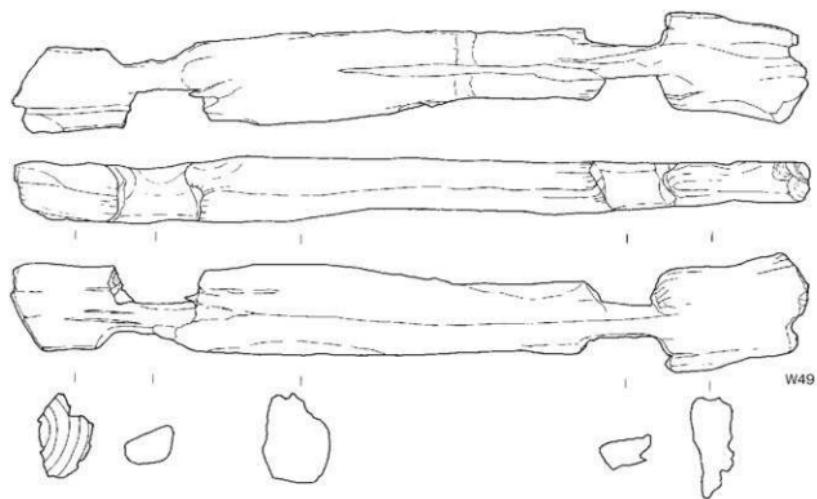
0 30cm

第62図 第204号井戸跡出土遺物実測図(24)

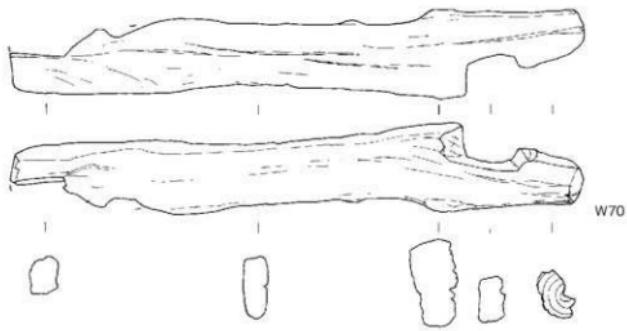


0 30cm

第63図 第204号井戸跡出土遺物実測図(25)



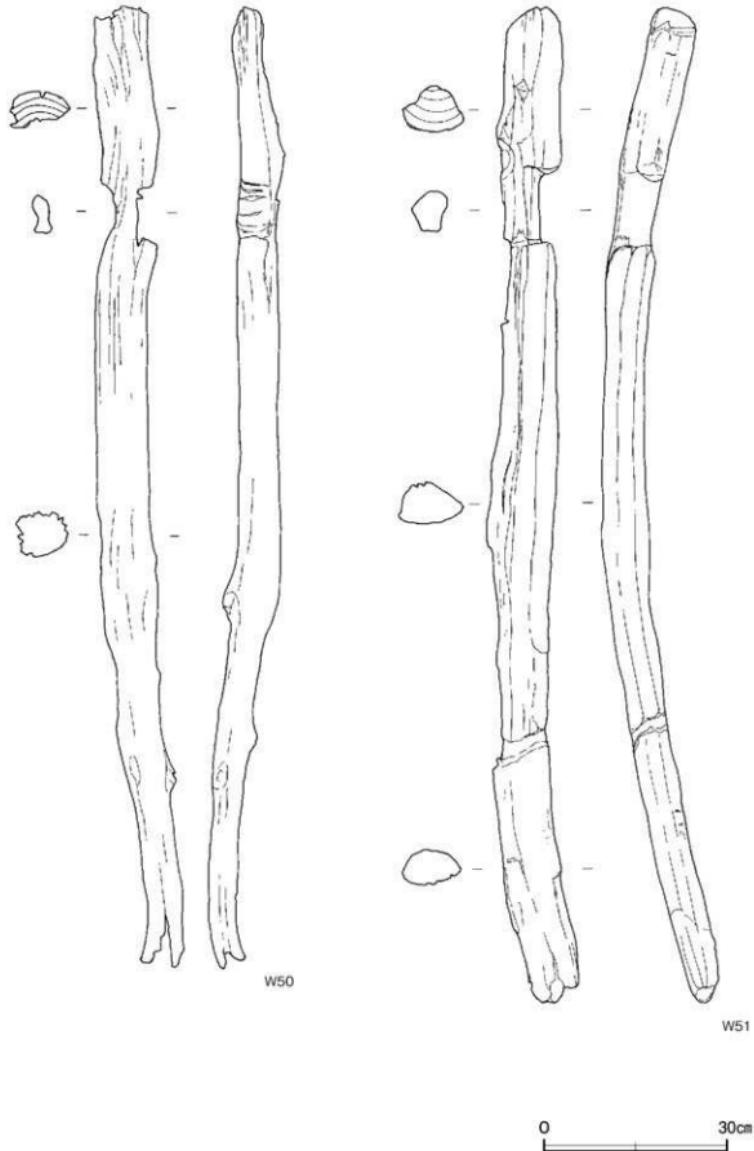
W49



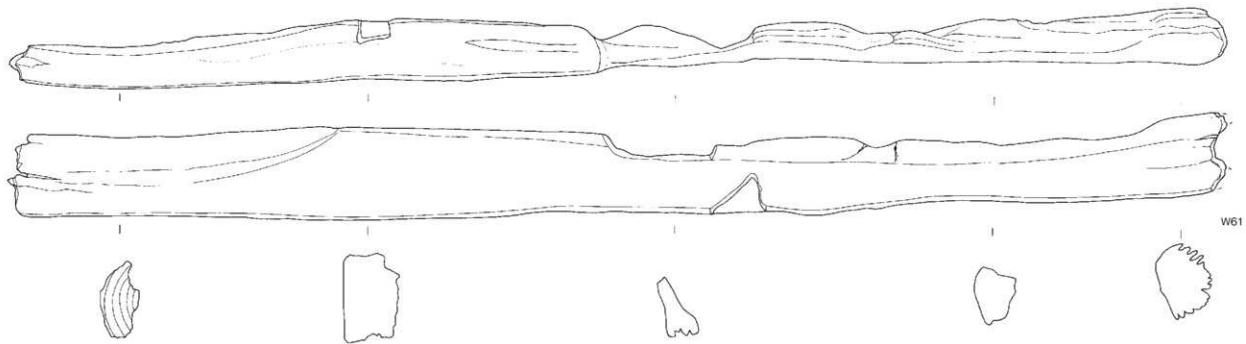
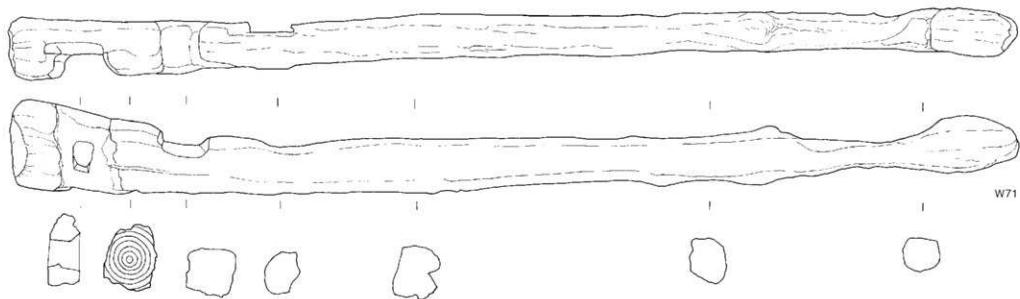
W70

0 30cm

第 64 図 第 204 号井戸跡出土遺物実測図 (26)

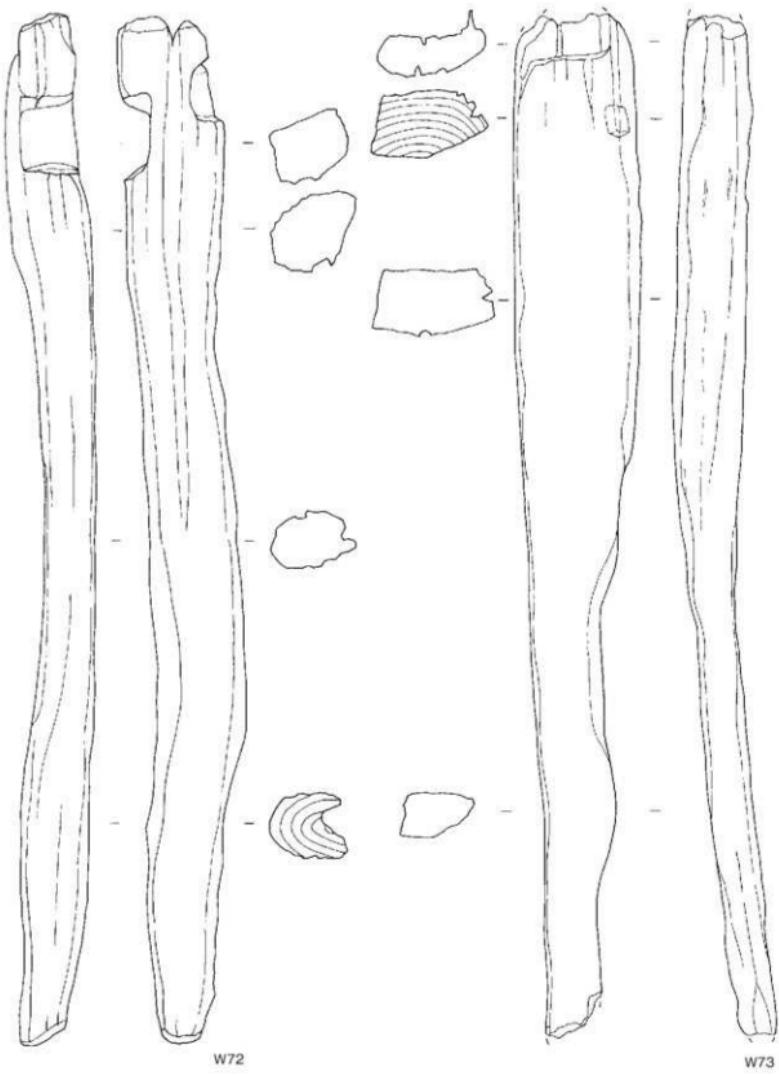


第65図 第204号井戸跡出土遺物実測図(27)

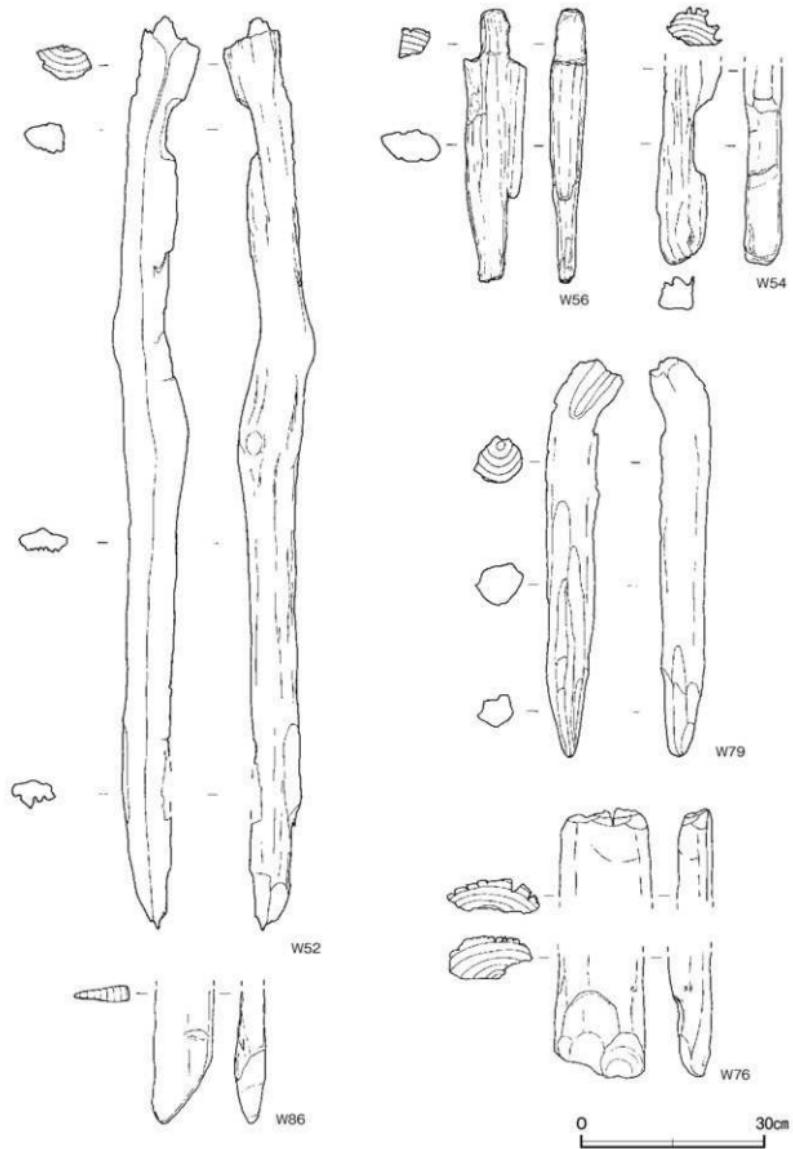


0 30cm

第66図 第204号井戸跡出土遺物実測図 (28)



第67図 第204号井戸跡出土遺物実測図(29)



第68図 第204号井戸跡出土遺物実測図(30)

第204号井戸跡出土遺物観察表(第39~68図)

番号	種 別	器種	口径	高 厚	底 壁	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 寄 雜 ほ か	出土位置	備 考
63	灰釉陶器	段瓶	138	28	70	長石	灰	良好	体部内面刷毛書きにより施釉。底部回転ヘラ削り ヨコササギ	井戸部下層	100% PL23・32 直通層
64	須恵器	环	138	43	67	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕 を残す。ハナデ 納書「土」	井戸部下層	100% PL23・63
65	土師器	环	141	51	67	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面へ刷き。底部 一方の手持ちヘラ削り	井戸部下層	90% PL23・63
66	土師器	高台付環	147	69	75	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面へ刷き。底部 内面へ刷き。底部回転ヘラ削り	井戸部下層	100% PL23・63
67	土師器	环	123	43	62	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面へ刷き。底部 一方の手持ちヘラ削り	井戸部下層	100% PL23・63
68	土師器	环	127	43	62	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面へ刷き。底部 一方の手持ちヘラ削り	井戸部下層	100% PL23・63
69	須恵器	高台付环	148	55	67	長石・石英・雲母	黒褐	普通	底部回転ヘラ削り 納書「土」	井戸部下層	100% PL23・63
70	須恵器	环	140	39	74	長石・石英・ 赤色粒子	褐灰	普通	体部回転クロロナデ 施釉回転ヘラ切り痕を残す	井戸部中層	100% PL22
71	須恵器	环	132	42	64	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち ヨコササギ	井戸部中層	100% PL22
72	須恵器	环	[138]	36	84	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 納書「四」	井戸部覆土中	40% PL45
73	須恵器	环	-	(22)	[82]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ち ヨコササギ	井戸部覆土中	10% PL45
74	須恵器	环	-	(12)	68	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち ヨコササギ	井戸部覆土中	40% PL45
75	須恵器	环	-	(37)	[78]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち ヨコササギ 納書「二」	井戸部覆土中	30% PL45
76	須恵器	环	[130]	44	64	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕 を残すハナデ 納書「四」	井戸部覆土中	50% PL52
77	須恵器	环	-	(22)	64	長石・石英・ 赤色粒子	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち ヨコササギ 納書「用」	井戸部覆土中	30% PL52
78	須恵器	环	[134]	(38)	59	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 納書「大」	井戸部覆土中	20% PL45
79	須恵器	环	156	50	69	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面へ刷き 底部 一方の手持ちヘラ削り 納書「舟」	井戸部下層	80% PL23・63
80	土師器	环	128	38	59	長石・石英	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面へ刷き 底部 一方の手持ちヘラ削り	井戸部上層	70% PL24
81	土師器	环	[133]	40	63	長石・雲母	にぶい黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面へ刷き 底部 ヨコササギ	井戸部下層	60%
82	土師器	环	[134]	37	50	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面へ刷き 底部 一方の手持ちヘラ削り	井戸部覆土中	50% PL45
83	須恵器	高台付环	-	(30)	74	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転表示を残す高台付 納書「止」	井戸部覆土中	40% PL45
84	須恵器	高台付环	-	(16)	[74]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り 納書「新歎」	井戸部覆土中	5% PL57
85	須恵器	高台付环	-	(29)	-	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り 納書「十」	井戸部覆土中	30% PL63
86	須恵器	高台付环	138	59	89	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	井戸部覆土中	70% PL25
87	黑色土器	壺	-	(42)	57	長石・石英	褐灰	普通	体部外、内面へ刷き 底部一方の手持ちヘラ削り	井戸部下層	80% PL25
88	須恵器	壺	[218]	35.0	15.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部端位の平行叩き 内面無文為て具痕 底部 ヨコササギ	井戸部下層	70% PL23
89	須恵器	环	134	42	8.1	長石・石英	青灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち ヨコササギ 油脂付着	撫方埋土	80% PL24
90	須恵器	环	139	44	8.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	撫方埋土	60%
91	須恵器	环	132	42	6.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕 ヨコササギ	撫方埋土	80% PL24
92	須恵器	环	134	48	6.6	長石・石英・雲母	褐	不良	体部下端回転ヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	平野広延層	70% PL24
93	須恵器	环	132	42	6.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ち ヨコササギ	平野広延層	60%
94	須恵器	环	132	38	5.3	長石・石英・雲母	灰白	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち ヨコササギ	平野広延層	80% PL24
95	須恵器	环	132	3.6	5.4	長石・石英・雲母	褐灰	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕 ヨコササギ	平野広延層	55%
96	須恵器	高台付环	129	54	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り	撫方埋土	90% PL25
97	須恵器	高台付环	[150]	66	[83]	長石	灰褐	良好	底部回転ヘラ削り	撫方埋土	30% PL25 直通層
98	土師器	高台付环	121	48	7.3	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り 内面へ刷き	井戸部下層	100% PL25
99	土師器	高台付环	141	52	9.5	長石・ 赤色粒子	にぶい黄	普通	底部回転ヘラ削り	撫方埋土	60% PL25
100	土師器	高台付环	[151]	51	8.5	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り痕を残し 不定方向の手持ち ヨコササギ	撫方埋土	60%
101	須恵器	壺	144	35	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	井戸部覆土中	80%
102	須恵器	壺	-	(31)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	平野広延層	40%
103	土師器	壺	[19.2]	(24)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄	普通	天井部回転ヘラ削り 内面へ刷き	平野広延層	20%
104	須恵器	高台付环	129	24	6.4	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り	撫方埋土	100% PL25
105	土師器	高台付环	134	29	7.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	平野広延層	70% PL25
106	灰釉陶器	直通瓶	[9.0]	(31)	-	長石・石英・ 赤色粒子	灰黄褐	良好	ヨコロナデ メキ谷28号窯式	平野広延層	5% 緑投窓
107	須恵器	長板瓶	-	(7.1)	-	長石	灰	普通	外縁鉄分を多く含んだ自然釉	平野広延層	10% 東海道
108	須恵器	鉢	[28.1]	(12.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部横位の平行叩き 下位手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	井戸部覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 審 慎 は か	出土位置	備 考	
109	瓶懸器	鉢	[39.2]	(18.0)	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	にぶい緑	良好	体部縦位の平行叩き 内面無文当て具板	芦川部覆土中	10%	
110	瓶懸器	甕	[20.2]	(11.5)	-	長石・石英・雲母	暗灰	普通	体部横位の平行叩き 内面へナダ	掘方埋土	5%	
111	瓶懸器	甕	[25.5]	(18.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい緑	普通	体部縦位の平行叩き 内面へナダ	平川部北端 構築上	10%	
112	瓶懸器	壺	-	(0.6)	[8.0]	雲母	黄灰	良好	底部回転へラ削り 墓書「記・鳴」	掘方埋土	20% PL44	
113	瓶懸器	壺	-	(1.9)	[7.2]	雲母・黒色粒子	灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記・名」	平川部南端 構築上	20% PL44	
114	瓶懸器	壺	-	(1.9)	[7.8]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「鳴」	掘方埋土	5% PL44	
115	瓶懸器	壺	-	(0.8)	[8.0]	長石・石英	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墓書「鳴」	覆土中	5% PL44	
116	瓶懸器	壺	-	(2.4)	[7.6]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへ ラ削り 墓書「記」	覆土中	10% PL44	
117	瓶懸器	壺	[14.1]	4.0	8.3	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへ ラ削り 墓書「記」	掘方埋土	25% PL45	
118	瓶懸器	壺	-	(1.7)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	5% PL45	
119	瓶懸器	壺	-	(2.9)	[7.3]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへ ラ削り 墓書「記・極」	平川部南端 構築上	25% PL45	
120	瓶懸器	壺	[13.4]	3.9	[8.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部回転へラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	20% PL45	
121	瓶懸器	壺	-	(1.7)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへ ラ削り 墓書「記」	掘方埋土	5% PL45	
122	瓶懸器	壺	-	(1.5)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへ ラ削り 墓書「記」	覆土中	5% PL45	
123	瓶懸器	壺	-	(1.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへ ラ削り 墓書「記」	覆土中	5% PL45	
124	瓶懸器	壺	[12.3]	3.6	[6.5]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	40% PL45	
125	瓶懸器	壺	[13.6]	4.5	7.4	長石・石英・雲母 白色針状物質	灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記・油煙有」	平川部南端 構築上	40% PL45	
126	瓶懸器	壺	[12.9]	4.0	6.7	長石・石英・雲母 黒色粒子	良好	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへ ラ削り 墓書「記」	掘方埋土	35% PL45	
127	瓶懸器	壺	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 墓書「記」	掘方埋土	5% PL45	
128	瓶懸器	壺	-	(4.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	5% PL45	
129	瓶懸器	壺	-	(3.6)	[7.3]	長石・石英・雲母 黒色粒子	褐灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	平川部北端 構築上	50% PL45	
130	瓶懸器	壺	-	(3.4)	6.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	平川部北端 構築上	50% PL45	
131	瓶懸器	壺	-	(2.4)	[7.0]	長石・石英・雲母	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	20% PL45		
132	瓶懸器	壺	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	覆土中	10% PL45	
133	瓶懸器	壺	-	(2.6)	[6.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部回転へラ切り直 し残す。一方の手持ちへラ削り 墓書「記」	平川部北端 構築上	20% PL45	
134	瓶懸器	壺	-	(2.7)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	掘方埋土	10% PL45	
135	瓶懸器	壺	-	(2.1)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	普通	体部下端回転へラ削り 底部回転へラ削り 底部切口へラ削り	掘方埋土	5% PL46
136	瓶懸器	壺	-	(1.9)	-	長石・石英	白灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	10% PL46	
137	瓶懸器	壺	-	(1.3)	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	白	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部回転へラ切り直 し残す。一方の手持ちへラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	10% PL46	
138	瓶懸器	壺	-	(1.4)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部回転へラ削り 底部切口へラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	10% PL46	
139	瓶懸器	壺	[13.0]	3.5	6.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部回転へラ削り 底部切口へラ削り 墓書「記」	掘方埋土	40% PL46	
140	瓶懸器	壺	12.5	4.4	6.5	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墓書「記」	掘方埋土	60% PL46	
141	瓶懸器	壺	[11.8]	3.7	5.2	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	35% PL46	
142	瓶懸器	壺	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	10% PL46	
143	瓶懸器	壺	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 成部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	20% PL46	
144	瓶懸器	壺	-	(1.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 墓書「記」	覆土中	10% PL46	
145	瓶懸器	壺	-	(1.5)	5.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	10% PL46	
146	瓶懸器	壺	-	(2.0)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	10% PL46	
147	瓶懸器	壺	-	(0.9)	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	黄灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	5% PL46	
148	瓶懸器	壺	-	(3.3)	-	長石・石英	灰	普通	クロワナダ 墓書「記」	平川部南端 構築上	10% PL46	
149	瓶懸器	壺	-	(2.2)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	クロワナダ 墓書「記」	平川部南端 構築上	5% PL46	
150	瓶懸器	壺	-	(1.3)	-	長石・石英	灰	普通	クロワナダ 墓書「記」	覆土中	5% PL46	
151	瓶懸器	壺	-	(1.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	20% PL46	
152	瓶懸器	壺	-	(0.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へラ切り 墓書「記」	平川部南端 構築上	15% PL46	
153	瓶懸器	壺	-	(0.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墓書「記」	掘方埋土	5% PL46	
154	瓶懸器	壺	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	5% PL46	
155	瓶懸器	壺	-	(1.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手打ちへラ削り 底部一方の手持ち ハラ削り 墓書「記」	平川部南端 構築上	5% PL46	

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
156	土器類	环	-	(3.4)	-	長石・石英・雲母 白色粘土質	にい・青白	普通	内部へラ筋きり墨書き「邑」	平田尻北部 機場土	5% PL46
157	土器類	环	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母 白色粘土質	橙	普通	内部へラ筋きり底部回転へラ削り墨書き「邑」	平田尻南部 機場土	10% PL47
158	須恵器	高台环	-	(4.5)	66	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転へラ削り墨書き「邑」	覆土中	30% PL47
159	須恵器	高台环	-	(2.7)	[6.8]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転へラ削り墨書き「邑」	機場土	25% PL47
160	須恵器	高台环	-	(3.3)	74	長石・石英・雲母 赤色粘土質	褐灰	普通	底部回転へラ削り墨書き「邑」	平田尻北部 機場土	30% PL47
161	須恵器	高台环	-	(2.3)	[7.8]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転へラ削り墨書き「邑」	平田尻北部 機場土	20% PL47
162	須恵器	高台环	-	(4.5)	[8.1]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へラ削り墨書き「邑」	平田尻北部 機場土	40% PL47
163	須恵器	壺	-	(1.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロナデ 墨書き「邑」	平田尻北部 機場土	5% PL47
164	須恵器	壺	[188]	37	93	長石・石英・雲母 赤色粘土質	褐灰	普通	底部回転へラ削り墨書き「邑」	撲方埋土	30% PL47
165	須恵器	壺	[173]	39	92	長石・石英・雲母 赤色粘土質	褐灰	普通	底部回転へラ削り墨書き「邑」	撲方埋土	50% PL47
166	須恵器	壺	140	(2.2)	-	長石・石英	灰	普通	底部回転へラ削り墨書き「邑」	平田尻北部 機場土	60% PL47
167	須恵器	环	128	4.6	72	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	機場土	100% PL44・32
168	須恵器	环	-	(3.0)	66	長石・石英	灰黄	普通	底部回転へラ削り 底部二方向の手持ちへラ削 リ 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	45% PL52
169	須恵器	环	132	4.4	[7.2]	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	80% PL24・32
170	須恵器	环	127	4.2	66	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	撲方埋土	80% PL24・32
171	須恵器	环	[127]	4.0	63	長石・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	50% PL52
172	須恵器	环	-	(2.9)	62	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	40% PL52
173	須恵器	环	-	(2.9)	5.9	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	30% PL52
174	須恵器	环	-	(2.8)	5.2	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	30% PL52
175	須恵器	环	-	(1.5)	63	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	30% PL52
176	須恵器	环	-	(1.7)	60	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	20% PL52
177	須恵器	环	-	(2.3)	[80]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	撲方埋土	30% PL52
178	須恵器	环	-	(1.4)	[7.8]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	撲方埋土	20% PL52
179	須恵器	环	-	(1.2)	62	長石・石英	褐灰	不良	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	機場土	20% PL52
180	須恵器	环	[134]	4.9	5.8	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り 墨 書き「田」	平田尻北部 機場土	60% PL52
181	須恵器	环	[131]	4.8	62	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	撲方埋土	50% PL52
182	須恵器	环	[146]	3.6	[7.6]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り 墨 書き「田」	平田尻北部 機場土	40% PL52
183	須恵器	环	134	4.0	5.8	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	60% PL52
184	須恵器	环	[132]	4.0	60	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	30% PL52
185	須恵器	环	[132]	4.5	60	長石・石英・雲母	灰	不良	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	25% PL53
186	須恵器	环	[134]	4.2	58	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り 墨 書き「田」	平田尻北部 機場土	40% PL53
187	須恵器	环	-	3.9	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「田」	撲方埋土	10% PL53
188	須恵器	环	-	4.4	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「田」	撲方埋土	5% PL53
189	須恵器	环	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ハラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	10% PL53
190	須恵器	环	-	4.0	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「田」	撲方埋土	20% PL53
191	須恵器	环	-	(2.7)	-	長石・石英・雲母 赤色粘土質	灰黄褐	不良	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	5% PL53
192	須恵器	环	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	5% PL53
193	須恵器	环	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	不良	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	5% PL53
194	須恵器	环	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	ロクロナデ 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	5% PL53
195	須恵器	环	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	灰黄	良好	ロクロナデ 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	5% PL53
196	須恵器	环	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	5% PL53
197	須恵器	环	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	5% PL53
198	須恵器	环	-	(2.6)	-	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	5% PL53
199	須恵器	环	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「田」	撲方埋土	5% PL53
200	須恵器	环	-	(1.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「田」	撲方埋土	5% PL53
201	須恵器	环	-	(1.0)	60	長石・石英・雲母 赤色粘土質	灰	良好	体部下端手持ちへラ削り 墓地へラ削り 墨書き「田」	撲方埋土	20% PL53
202	須恵器	环	-	(0.8)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	底部二方向の手持ちへラ削り 墓地へラ削り 墨書き「田」	平田尻北部 機場土	20% PL53

番号	種別	器種	口径	高さ	底桿	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
203	瓶窓器	壺	-	(1.1)	-	長石・石英	灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部回転へラブリ瓶底 良好! 二方向の手持ちへラブリ 罫書き「川」	平坦部南部 壠土上	10% PL53
204	瓶窓器	壺	-	(1.4)	-	長石・石英	灰	良好	底部下端手持ちへラブリ 岩部回転へラブリ 罫書き「川」	平坦部南部 壠土上	5% PL53
205	瓶窓器	壺	-	(0.9)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部一方向の手持ちへラブリ 罫書き「川」	斜方埋土	5% PL53
206	瓶窓器	壺	-	(1.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部一方向の手持ちへラブリ 岩部回転へラブリ瓶底 良好! 二方向の手持ちへラブリ 罫書き「川」	平坦部南部 壠土上	5% PL53
207	瓶窓器	壺	-	(1.6)	-	長石・石英	灰	良好	底部下端手持ちへラブリ 岩部回転へラブリ 罫書き「川」	平坦部南部 壠土上	5% PL53
208	瓶窓器	壺	-	(0.6)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部二方向の手持ちへラブリ 罫書き「川」	平坦部南部 壠土上	5% PL54
209	瓶窓器	壺	-	(0.6)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転へラブリ 罫書き「川」	平坦部南部 壠土上	5% PL54
210	土師器	壺	-	(1.4)	6.1	長石・雲母	にぶい青	普通	底部下端手持ちへラブリ 内面へラブリ 岩部 二方向の手持ちへラブリ 罫書き「川」	平坦部南部 壠土上	20% PL54
211	瓶窓器	高台付壺	-	(2.2)	7.6	長石・石英	褐灰	普通	底部回転へラブリ 罫書き「川」	斜方埋土	10% PL54
212	瓶窓器	高台付壺	-	(1.1)	-	長石・石英・雲母	灰白	良好	底部回転へラブリ 罫書き「川」	平坦部南部 壠土上	25% PL54
213	瓶窓器	高台付壺	12.8	5.8	8.1	長石・石英	灰	普通	底部回転へラブリ 罫書き「川」	斜方埋土	70% PL54
214	瓶窓器	高台付壺	[13.4]	(4.3)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部下端 岩部回転へラブリ 罫書き「川」	平坦部南部 壠土上	70% PL54
215	瓶窓器	高台付壺	-	(2.4)	7.0	長石・石英	灰	普通	底部回転へラブリ 罫書き「川」	平坦部北部 壠土上	20% PL54
216	土師器	高台付壺	-	(1.4)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄青	普通	底部内面へラブリ 岩部回転へラブリ 罫書き「川」	平坦部北部 壠土上	5% PL54
217	瓶窓器	壺	-	(2.5)	-	長石・石英	灰	普通	底部回転へラブリ 罫書き「川」	平坦部北部 壠土上	30% PL54
218	瓶窓器	高台付壺	[13.6]	3.0	7.1	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転へラブリ 罫書き「川」	平坦部北部 壠土上	60% PL54
219	瓶窓器	壺	[13.2]	5.3	(6.6)	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部二方向の手持ち 八方型 罫書き「ナ」	斜方埋土	35% PL58
220	瓶窓器	壺	-	(3.4)	-	長石・石英	褐灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部一方向の手持ち 八方型 罫書き「ナ」	平坦部南部 壠土上	20% PL58
221	瓶窓器	壺	-	(4.4)	-	長石・石英	褐灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 罫書き「」	井戸上覆土中	20% PL58
222	土師器	壺	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部下端手持ちへラブリ 内面へラブリ 罫書き「」	平坦部南部 壠土上	5% PL58
223	瓶窓器	高台付壺	-	(3.8)	8.1	長石・石英	灰	普通	底部回転へラブリ 罫書き「」	平坦部北部 壠土上	40% PL59
224	瓶窓器	高台付壺	[14.6]	5.0	7.6	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい黄青	普通	底部回転へラブリ 罫書き「ナ」	平坦部南部 壠土上	60% PL59
225	土師器	高台付壺	-	(1.7)	6.0	長石・石英・雲母	淡棕	普通	底部内面へラブリ 岩部一方向の手持ちへラブリ 八方型 罫書き「ナ」	平坦部南部 壠土上	10% PL59
226	瓶窓器	壺	[17.2]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へラブリ 罫書き「ナ」	平坦部南部 壠土上	20% PL59
227	瓶窓器	壺	13.1	3.9	6.9	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部一方向の手持ち 八方型 罫書き「宅」	斜方埋土	80% PL59
228	瓶窓器	壺	-	(1.0)	7.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部二方向の手持ち 八方型 罫書き「宅」	平坦部南部 壠土上	10% PL59
229	瓶窓器	壺	-	(1.2)	-	長石・石英	灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部一方向の手持ち 八方型 罫書き「宅」	平坦部南部 壠土上	5% PL59
230	瓶窓器	壺	-	(2.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部二方向の手持ち 八方型 罫書き「宅」	平坦部南部 壠土上	5% PL59
231	瓶窓器	高台付壺	-	(3.0)	[10.3]	長石・石英・雲母	にぶい赤茶	普通	底部回転へラブリ 罫書き「宅」	平坦部南部 壠土上	20% PL59
232	瓶窓器	壺	[13.1]	4.7	6.2	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	黄褐	良好	底部下端手持ちへラブリ 岩部回転へラブリ瓶底 良好! 二方向の手持ちへラブリ 罫書き「南」	斜方埋土	50% PL62
233	瓶窓器	壺	-	(2.2)	5.9	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部一方向の手持ち 八方型 罫書き「」	平坦部南部 壠土上	25% PL62
234	瓶窓器	壺	-	(1.1)	(6.6)	長石・石英	黄灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部一方向の手持ち 八方型 罫書き「南」	覆土中	10% PL62
235	瓶窓器	壺	-	(4.4)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 罫書き「南」	覆土中	5% PL62
236	瓶窓器	壺	-	(0.7)	-	長石・石英	灰	普通	底部一方向の手持ちへラブリ 罫書き「南」	覆土中	5% PL62
237	瓶窓器	壺	[14.2]	4.0	8.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部一方向の手持ちへラブリ 岩部二方向の手持ち 八方型 罫書き「」	平坦部南部 壠土上	60% PL60
238	瓶窓器	壺	[13.7]	4.0	5.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部一方向の手持ち 八方型 罫書き「山」	平坦部北部 壠土上	30% PL60
239	瓶窓器	壺	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部一方向の手持ち 八方型 罫書き「山」	平坦部南部 壠土上	10% PL60
240	瓶窓器	壺	-	(2.9)	(6.4)	長石・石英	褐灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部回転へラブリ 罫書き「山」	平坦部南部 壠土上	20% PL60
241	瓶窓器	壺	-	(1.8)	6.7	長石・石英・雲母	褐灰黃	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部回転へラブリ 罫書き「山」	斜方埋土	40% PL56
242	瓶窓器	壺	-	4.2	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部不定方向の手持ち 八方型 罫書き「山」	平坦部南部 壠土上	30% PL56
243	瓶窓器	壺	-	(2.9)	(7.0)	長石・石英・雲母	褐灰黃	普通	底部下端手持ちへラブリ 岩部一方向の手持ち 八方型 罫書き「山」	平坦部南部 壠土上	30% PL56
244	瓶窓器	壺	-	(0.5)	-	長石	褐灰	普通	底部一方向の手持ちへラブリ 罫書き「殺」	平坦部南部 壠土上	5% PL57
245	土師器	壺	-	4.4	-	長石・石英	にぶい黄青	普通	底部下端手持ちへラブリ 内面へラブリ 罫書き「」	平坦部南部 壠土上	20% PL57
246	瓶窓器	壺	-	(2.7)	(7.2)	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 罫書き「井上」	平坦部南部 壠土上	10% PL63
247	瓶窓器	高台付壺	-	(1.7)	6.7	長石・石英	灰白	普通	底部回転へラブリ 罫書き「井上」	平坦部北部 壠土上	40% PL63
248	瓶窓器	壺	[12.8]	4.4	6.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転へラブリ 岩部回転へラブリ瓶底 良好! 不定方向の手持ちへラブリ 罫書き「智」	平坦部北部 壠土上	40% PL64
249	瓶窓器	壺	[12.8]	(3.7)	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 罫書き「智」	覆土中	30% PL64

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 専 徴 ほ か	出土位置	備 考
250	須恵器	环	[12.8]	42	7.5	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方内の手持ちへラ削り 黒書「麻生」	平田郡南部 機械土	40% PL61
251	須恵器	环	-	(0.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 黑書「口家」	覆土中	5% PL62
252	須恵器	环	[13.5]	46	6.5	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方内の手持ちへラ削り 黑書「風」	平田郡南部 機械土	25% PL64
253	須恵器	环	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方内の手持ちへラ削り 黑書「蟲」	撫方埋土	10% PL64
254	須恵器	环	-	(3.5)	5.7	長石・石英・雲母	黄裡	不良	体部下端手持ちへラ削り 底部一方内の手持ちへラ削り 黑書「子暮身」	平田郡南部 機械土	40% PL63
255	土器	环	[13.6]	(4.4)	[7.0]	長石・石英・雲母	にいし 橙	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 黑書「子佐古」	平田郡南部 機械土	20% PL63
256	須恵器	高台目环	-	46	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナヂ 黑書「口環」	撫方埋土	20% PL64
257	須恵器	环	-	(0.7)	-	長石・石英	灰	普通	底部回転へラ削り 黑書「野・邊」	平田郡南部 機械土	10% PL65
258	須恵器	环	-	36	-	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下端回転へラ削り 黑書「牧・口」	撫方埋土	10% PL65
259	須恵器	环	-	(0.6)	-	長石・石英	黄灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 黑書「長口」	平田郡南部 機械土	5% PL64
260	須恵器	高台目环	13.6	5.3	8.0	長石・石英	灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部回転へラ削り 黑書「楓」	撫方埋土	80% PL25・64
261	須恵器	环	-	(1.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	底部軸転斜り 黑書「城口（内）」	平田郡南部 機械土	5% PL62
262	須恵器	环	-	(4.2)	-	長石・石英	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 黑書「香」	撫方埋土	10% PL65
263	土器	环	[14.0]	4.4	[7.0]	長石・石英	にいし 淡	良好	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部不正方向の手持ちへラ削り 黑書「木・木」	平田郡南部 機械土	50% PL25・62
264	須恵器	环	[12.6]	4.4	5.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	30% PL64
265	須恵器	环	[14.2]	5.3	7.0	長石・石英・雲母 毛豆粒子	黒褐	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り 簡便手持ちへラ削り 黑書「夫・子」	平田郡北部 機械土	45% PL64
266	須恵器	环	-	(2.5)	-	長石・石英	灰白	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方内の手持ちへラ削り 黑書「十」	平田郡北部 機械土	20% PL63
267	土器	环	[13.0]	4.5	[6.0]	長石・石英・雲母	にいし 橙	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「ノ」	平田郡北部 機械土	20% PL63
268	須恵器	环	13.2	3.9	7.8	長石・石英	褐灰	普通	体部下端回転ロクロナヂ 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	撫方埋土	70% PL63
269	須恵器	环	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「十」	覆土中	20% PL63
270	須恵器	环	[12.4]	4.8	[6.6]	長石・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	25% PL65
271	須恵器	环	[13.6]	4.5	6.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 反張鉛付へラ削り 簡便手持ちへラ削り 黑書「口」 油漆行差	平田郡北部 機械土	60% PL24・65
272	須恵器	环	[12.4]	4.0	[5.6]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	覆土中	30% PL65
273	須恵器	环	[13.4]	4.5	[7.0]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	30% PL65
274	須恵器	环	[13.0]	4.8	[5.8]	長石・石英・雲母	にいし 淡	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ちへラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	20% PL66
275	須恵器	环	[12.0]	4.1	[6.0]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	30% PL66
276	須恵器	环	[12.6]	3.7	[7.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「城内主」	平田郡南部 機械土	45% PL66
277	須恵器	环	[12.2]	4.1	[6.6]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	30% PL66
278	須恵器	环	[13.8]	4.2	[6.8]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	覆土中	20% PL66
279	須恵器	环	[12.8]	4.0	[7.3]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り 簡便手持ちへラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	30% PL66
280	須恵器	环	[13.4]	3.7	[7.2]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	撫方埋土	30% PL66
281	須恵器	环	[13.0]	4.2	6.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	30% PL66
282	須恵器	环	[13.2]	4.1	[7.6]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ちへラ削り 黑書「口」	撫方埋土	40% PL66
283	須恵器	环	-	(1.7)	[8.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	20% PL66
284	須恵器	环	-	(2.0)	[6.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	20% PL66
285	須恵器	环	-	(1.6)	[7.0]	長石・石英・雲母 毛豆粒子	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ちへラ削り 黑書「口」	撫方埋土	20% PL66
286	須恵器	环	-	(2.6)	[6.0]	長石・石英・雲母	良好	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	撫方埋土	40% PL66
287	須恵器	环	-	(2.6)	[7.0]	長石・石英・雲母	良好	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	撫方埋土	20% PL66
288	須恵器	环	-	(2.3)	[8.6]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端 底部回転へラ削り 黑書「口」	覆土中	20% PL66
289	須恵器	环	-	(2.2)	[6.1]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	覆土中	20% PL66
290	須恵器	环	-	(2.4)	[6.5]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	覆土中	20% PL66
291	須恵器	环	-	(2.5)	[7.0]	長石・石英・雲母 毛豆粒子	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	15% PL66
292	須恵器	环	-	(3.0)	[8.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	20% PL66
293	須恵器	环	-	(2.0)	[6.5]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちへラ削り 黑書「口」	平田郡南部 機械土	10% PL66
294	須恵器	环	-	(2.5)	[6.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ちへラ削り 黑書「口」	撫方埋土	20% PL66
295	須恵器	环	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナヂ 黑書「口」	撫方埋土	10% PL66
296	須恵器	环	-	(1.5)	-	長石・石英・雲母	灰灰褐	普通	ロクロナヂ 黑書「口」	撫方埋土	5% PL66

番号	種別	器種	口径	器高	底桙	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土地	備考
297	瓶	壺	-	(3.2)	-	長石・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	掘方理土	20% PL66
298	瓶	壺	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	覆土中	10% PL67
299	瓶	壺	-	(3.3)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書「□」	覆土中	20% PL67
300	瓶	壺	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	覆土中	5% PL67
301	瓶	壺	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL67
302	瓶	壺	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	体部下端回転へラ削り 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	10% PL67
303	瓶	壺	-	(2.5)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL67
304	瓶	壺	-	(2.9)	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL67
305	瓶	壺	-	(2.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL67
306	瓶	壺	-	(3.1)	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL67
307	瓶	壺	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL67
308	瓶	壺	-	(2.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL67
309	瓶	壺	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL67
310	瓶	壺	-	(3.4)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	体部下端回転へラ削り 墨書「□□」	掘方理土	15% PL67
311	瓶	壺	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母	暗灰褐色	普通	体部下端回転へラ削り 墨書「□」	掘方理土	5% PL67
312	瓶	壺	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書「□」	掘方理土	30% PL67
313	瓶	壺	-	(4.7)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	覆土中	15% PL67
314	瓶	壺	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	覆土中	5% PL67
315	瓶	壺	-	(2.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	覆土中	5% PL67
316	瓶	壺	-	(3.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	10% PL67
317	瓶	壺	-	(2.4)	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	覆土中	5% PL67
318	瓶	壺	-	(2.1)	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL67
319	瓶	壺	-	(3.0)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書「□ (川.)」	掘方理土	5% PL67
320	瓶	壺	-	(4.1)	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□ (ナ.)」	掘方理土	5% PL67
321	瓶	壺	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	掘方理土	5% PL67
322	瓶	壺	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母	黑褐色	普通	ロクロナデ 墨書「□」	覆土中	5% PL67
323	瓶	壺	-	(3.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□」	掘方理土	5% PL68
324	瓶	壺	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 墨書「□ (新.)」	平野部南部 橋塚土	5% PL68
325	瓶	壺	-	(3.0)	-	長石・石英・赤鉄 粒子	灰褐色	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書「□」	覆土中	5% PL68
326	瓶	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部不定方向の手持ちへラ削り 墨書「□」	掘方理土	5% PL68
327	瓶	壺	-	(1.7)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 成部一方向の手持ち 八ヶ削り 墨書「□」	掘方理土	5% PL68
328	瓶	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部一方向の手持ちへラ削り 墨書「□ (川.)」	平野部南部 橋塚土	15% PL68
329	瓶	壺	-	(1.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 成部一方向の手持ち 八ヶ削り 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	15% PL68
330	瓶	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部不定方向の手持ちへラ削り 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL68
331	瓶	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部不定方向の手持ちへラ削り 墨書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL68
332	瓶	壺	-	(1.7)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 成部二方向の手持ち 八ヶ削り 墨書「□ (新.)」	平野部南部 橋塚土	15% PL68
333	瓶	壺	-	(0.8)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 成部二方向の手持ち 八ヶ削り 墓	覆土中	5% PL68
334	瓶	壺	-	-	-	長石・石英	灰白	普通	底部一方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	掘方理土	10% PL68
335	瓶	壺	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	15% PL68
336	瓶	壺	-	(2.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 成部一方向の手持ち 八ヶ削り 墓書「□」	丹戸郡覆土中	15% PL68
337	瓶	壺	-	(2.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 成部二方向の手持ち 八ヶ削り 墓書「□」	平野部南部 橋塚土	15% PL68
338	瓶	壺	-	(2.0)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	体部下端手持ちへラ削り 成部一方向の手持ち 八ヶ削り 墓書「□」	平野部南部 橋塚土	15% PL68
339	瓶	壺	-	(1.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部一方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	平野部南部 橋塚土	10% PL68
340	瓶	壺	-	-	-	長石・石英	灰	普通	底部斜削へラ削り 墓書「□ (記.)」	平野部南部 橋塚土	5% PL68
341	瓶	壺	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	底部一方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL68
342	瓶	壺	-	(0.8)	-	長石・石英	灰	普通	底部斜削へラ削り 墓書「□」	平野部南部 橋塚土	5% PL68
343	瓶	壺	-	(2.5)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 成部一方向の手持ち 八ヶ削り 墓書「□ (記.)」	平野部南部 橋塚土	20% PL68

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎	土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考	
344	須恵器	环	-	(15)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端ロクロナダ	底部回転へラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	15% PL68	
345	須恵器	环	-	(24)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	墨書「□」		平田郡南部 機場土	5% PL68	
346	須恵器	环	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」		覆土中	10% PL68	
347	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□ (E.)」		平田郡南部 機場土	5% PL69	
348	須恵器	环	-	(09)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□ (E.)」		平田郡南部 機場土	10% PL69	
349	須恵器	环	-	(23)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	15% PL69	
350	須恵器	环	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」		平田郡南部 機場土	10% PL69	
351	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「毛」	圃方埋土	20% PL69	
352	須恵器	环	-	(21)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部二方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	圃方埋土	10% PL69	
353	須恵器	环	-	(15)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	圃方埋土	20% PL69	
354	須恵器	环	-	(17)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端ロクロナダ	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	圃方埋土	20% PL69	
355	須恵器	环	-	(23)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「毛」	覆土中	10% PL69	
356	須恵器	环	-	(11)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	覆土中	15% PL69	
357	須恵器	环	-	(14)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	覆土中	15% PL69	
358	須恵器	环	-	(33)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	覆土中	15% PL69	
359	須恵器	环	-	(26)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	覆土中	15% PL69	
360	須恵器	环	-	(31)	-	長石・雲母	灰白	普通	体部下端斜面へラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	覆土中	15% PL69	
361	須恵器	环	-	(11)	-	長石・石英	灰	普通	体部下端斜面へラ削り	底部二方向の手持ちへラ削り	墨書「□ (毛)」	覆土中	15% PL69	
362	須恵器	环	-	(11)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	覆土中	15% PL69	
363	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部一方向の手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	覆土中	15% PL69	
364	須恵器	环	-	(26)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	覆土中	15% PL69	
365	須恵器	环	-	(23)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部二方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	覆土中	10% PL69	
366	須恵器	环	-	(29)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	覆土中	15% PL69	
367	須恵器	环	-	(29)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部二方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	15% PL69	
368	須恵器	环	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	底部手持ちへラ削り	墨書「□」		覆土中	5% PL69	
369	須恵器	环	-	(14)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部不定方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	10% PL69	
370	須恵器	环	-	(12)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	10% PL69	
371	須恵器	环	-	(17)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	10% PL69	
372	須恵器	环	-	(20)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	15% PL70	
373	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部一方向の手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	5% PL70	
374	須恵器	环	-	(16)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	10% PL70	
375	須恵器	环	-	(11)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	5% PL70	
376	須恵器	环	-	(09)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部回転へラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	10% PL70	
377	須恵器	环	-	(17)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部二方向の手持ちへラ削り	墨書「□ (E.)」	平田郡南部 機場土	10% PL70	
378	須恵器	环	-	(31)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	10% PL70	
379	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り	墨書「□ (南)」		平田郡南部 機場土	10% PL70	
380	須恵器	环	-	(09)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り	底部回転へラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	15% PL70	
381	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」		平田郡南部 機場土	5% PL70	
382	須恵器	环	-	(28)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部二方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	圃方埋土	20% PL70	
383	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転へラ削り	墨書「□」		圃方埋土	5% PL70	
384	須恵器	环	-	(19)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」	覆土中	5% PL70	
385	須恵器	环	-	-	-	長石・石英	灰白	普通	底部回転へラ削り	墨書「□」		覆土中	5% PL70	
386	須恵器	环	-	-	-	雲母	灰	普通	底部一方向の手持ちへラ削り	墨書「□」		覆土中	5% PL70	
387	土師器	环	[152]	5.5	6.4	にせい・黄褐色 赤茶粒子	普通	体部下端斜面へラ削り	内面へラ削き	底部回転へラ削り	墨書「□」	圃方埋土	50% PL70	
388	土師器	环	[122]	3.6	[5.6]	にせい・黄褐色 赤茶粒子	普通	体部下端手持ちへラ削り	内面へラ削き	底部回転へラ削り	墨書「□」	平田郡南部 機場土	30% PL70	
389	土師器	环	[124]	4.3	[7.2]	長石・石英・雲母	にせい・赤褐色	普通	底部回転へラ削り	内面へラ削き	底部回転へラ削り	墨書「□」	丹戸郡裏土中	30% PL70
390	土師器	环	-	37	-	長石・石英・雲母	にせい・赤褐色	普通	底部下端手持ちへラ削り	内面へラ削き	底部回転へラ削り	墨書「□」	覆土中	5% PL70

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
391	土器類	壺	-	(2.0)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄土	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ削き 墨書き	掘方埋土	10% PL70
392	土器類	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にひい黄土	普通	底部削除系切り瓶を残し、周縁部手持ちヘラ削り 内面ヘラ削き 墨書き「□」	平川郡南部 佛塚上	15% PL70
393	土器類	壺	-	(1.2)	-	長石・雲母	にひい黄土	普通	底部削除系切り瓶を残し、周縁部手持ちヘラ削り 墨書き「□」	掘方埋土	5% PL70
394	瓶器類	高台付壺	-	(3.1)	10.2	長石・石英	灰	普通	底部削除ヘラ削り 墨書き「□(底)」	平野北部 佛塚上	70% PL70
395	瓶器類	高台付壺	-	(4.0)	8.2	長石・石英	褐灰	普通	底部削除ヘラ削り 墨書き「□□」	平野南部 佛塚上	50% PL70
396	瓶器類	高台付壺	-	(2.5)	(9.6)	長石・石英	灰	普通	底部削除ヘラ削り 墨書き「□(新)」	平野北部 佛塚上	20% PL70
397	瓶器類	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部削除ヘラ削り 墨書き「□」	掘方埋土	5% PL71
398	瓶器類	壺	-	(1.5)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部削除ヘラ削り 墨書き「□」	平野南部 佛塚上	10% PL71
399	瓶器類	壺	19.5	4.0	12.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部削除ヘラ削り 墨書き 転用規	掘方埋土	90% PL71
400	瓶器類	壺	-	(3.6)	[11.5]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部削除ヘラ削り 墨書き「□」	掘方埋土	30% PL71
401	瓶器類	壺	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部縦位の平行叩き 墨書き「□(底)」	覆土中	5% PL71

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考		
W 28	本鏡	荷札	(143)	3.7	0.5	毛ミ	板目 上部大指 月輪影 赤・青・緑三等二七	「寸」裏「道、深入」	掘方埋土	PL26	
W 29	工具	刀子削	15.5	2.6	0.9	広葉樹	板目 素孔 2.9mm 長径 12mm、短径 0.6mm	覆土中			
W 30	農具	小形鋤柄	19.6	4.3	3.6	タリ	芯剥削出 斧頭部両端部摩滅、一部扁化	平野南部 佛塚上	PL27		
W 31	農具	堅鋤	(38.4)	7.7	6.2	広葉樹	芯無剥出 斧頭部端部摩滅	掘方埋土			
W 32	紡織具	糸巻棒木	50.4	2.6	1.8	スギ	夏目 細目 5.2mm 奥 13mm 前側に円丸 2ヶ所 径 3mm 黄 4.5mm (後 1.5mm 後 1.2mm 長方形に打ってある)	平野南部 佛塚上	PL27		
W 33	服飾具	椎環	(18.4)	2.2	0.2	ヒメキ	板目 円孔 径 5mm	井戸口覆土中	PL26		
W 34	容器	羽物・皿	(15.4)	(1.4)	11.7	ムクロジ	横木取り糸目 刹り調整	覆土中	PL26		
W 35	容器	円形曲物・蓋板	(10.0)	(1.6)	0.5	アスナロ	板目	平頂部北部 佛塚上	PL26		
W 36	容器	曲物・底板	(13.0)	(1.3)	1.0	アスナロ	板目 表皮織	掘方埋土	PL26		
W 37	容器	円形曲物・底板	(15.4)	(15.1)	0.8	アスナロ	板目 刹織じ 刈孔 2ヶ所 径 4mm	掘方埋土	PL27		
W 38	容器	円形曲物・蓋板	22.2	(13.4)	1.0	スギ	板目 横皮織	平頂部南部 佛塚上	PL26		
W 39	容器	曲物・底板	(35.7)	(4.7)	1.2	ヒノキ	板目 横皮織	片面万物痕	PL26		
W 40	容器	曲物・蓋板	(24.2)	(1.4)	0.4	針葉樹	板目 刈孔 2ヶ所 径 4mm	平頂部北部 佛塚上	PL26		
W 41	扇形品	有孔小版	6.5	3.6	1.1	ムクロジ	板目 円孔有り 径 (4.0) cm	覆土中	PL27		
W 42	部材	井戸枠材	184.0	27.5	9.5	タリ	板目 長辺端部の下部に仕口 芝刷一部欠損 仕口幅 15.6cm	北西1段目	PL28		
W 43	部材	井戸枠材	176.0	28.5	11.0	タリ	板目 長辺端部の上下 端部の下部に仕口 仕口幅 10.8 ~ 11.0cm 内法 11.0cm	北東1段目	PL28		
W 44	部材	井戸枠材	187.0	28.5	11.5	タリ	板目 長辺端部の下部に仕口 右端一部欠損 仕口幅 15.5cm	南東1段目	PL28		
W 45	部材	井戸枠材	89.5	12.5	5.0	タリ	板目 井戸内側の上下に仕口 右端部欠損 仕口幅 8.8 ~ 9.6cm	南西1段目	PL29		
W 46	部材	井戸枠材	114.0	12.5	3.5	タリ	板目 長辺端部の下部に仕口 仕口幅 6.4 ~ 9.4cm 内法 6.8cm 円孔 2ヶ所 径 3mm	北西2段目	PL29		
W 47	部材	井戸枠材	131.0	18.5	9.0	タリ	板目 井戸内側の上下に仕口 仕口幅 10.4 ~ 12.0cm 内法 7.0 ~ 7.6cm	北東2段目	PL29		
W 48	部材	井戸枠材	123.5	19.0	9.0	タリ	板目 井戸内側の上下に仕口 右端部欠損 仕口幅 7.4 ~ 10.6cm 円孔 6.7cm 径 7.2cm	南東2段目	PL29		
W 49	部材	井戸枠材	131.0	17.0	10.5	タリ	板目 長辺端部の上下に仕口 仕口幅 8.4 ~ 11.6cm 内法 6.6 ~ 6.9cm	南西2段目	PL29		
W 50	部材	井戸枠材	158.5	9.5	9.0	タヌギ	みかん剖削 沖縄部の内側に仕口 仕口幅 5.4 ~ 7.8cm	掘方北東部 埋土	PL30		
W 51	部材	井戸枠材	164.0	10.6	7.5	タヌギ	みかん剖削 沖縄部を秋葉に削出 転用材 仕口幅 11.2cm	掘方北東部 埋土	PL30		
W 52	部材	井戸枠材	150.0	10.3	5.5	タリ	みかん剖削 先端部を秋葉に削出 転用材 長辺端部の内側に仕口 仕口幅 7.6cm	掘方北東部 埋土	PL30		
W 54	部材	井戸枠材	51.0	11.0	7.0	広葉樹	芯無削出 仕口幅 9.2cm	掘方北西部 埋土			
W 55	部材	井戸枠材	121.5	16.0	10.2	タリ	板目 長辺端部の上下に仕口 仕口幅 8.8 ~ 10.6cm 内法 6.74 ~ 6.96cm	掘方北東部 埋土	PL29		
W 56	部材	井戸枠材	44.9	10.5	5.2	タリ	板目 剥削出 仕口幅 8.6cm	覆土中	PL27		
W 61	部材	建築用材	260.0	20.0	13.0	タヌギ	手剥削出 円孔径 7.4cm 方孔幅 6.6cm	掘方北西部 埋土	PL31		
W 70	部材	建築用材	95.0	14.5	8.0	タリ	芯剥削出 仕穴 1 か所 幅 7.2cm	掘方北西部 埋土	PL29		
W 71	部材	建築用材	214.5	18.5	11.0	タヌギ	木削削出 長辺左端部の上下に仕口 仕口幅 7.6 ~ 10.6cm 紗穴 1 か所 内法 5.0cm	掘方北西部 埋土	PL31		
W 72	部材	建築用材	170.0	15.5	14.0	タヌギ	半裁抜 長辺端部の上下に仕口 仕口幅 8.0 ~ 9.2cm	掘方北東部 埋土	PL31		
W 73	部材	建築用材	169.0	20.8	11.6	タヌギ	半裁抜 長辺端部に仕口 一部欠損 紗穴 1 か所 内法孔径 7.6 cm	覆土中	PL31		
W 74	部材	建築用材	167.8	23.5	8.8	タリ	板目 井戸枠材	長辺端部に仕口 一部欠損	覆土中	PL28	

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W 76	部材	建楽用材	135.0	17.0	8.0	広葉樹	板目両端部1~2方向からの削り加工	前方北東部 埋土	
W 79	土木材	杭	65.5	9.0	7.8	クリ	芯持丸木 先端部5方向からの削り加工	前方北西部 埋土	PL32
W 86	土木材	杭	150.0	10.0	7.0	広葉樹	みかん削 先端部1方向からの削り加工	前方北東部 埋土	
番号	種類	名称	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
N 2	獸骨	鹿角	(34)	(26)	(13)	(2.8)	角座部	平川部南端 機場土	PL26

(3) 土坑

第6903号土坑（第69図）

位置 調査区北部のS 106区、標高15mはどの埋没谷部に位置している。

規模と形状 長径1.45m、短径1.25mの楕円形で、長径方向はN-15°-Eである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。深さは27cmである。

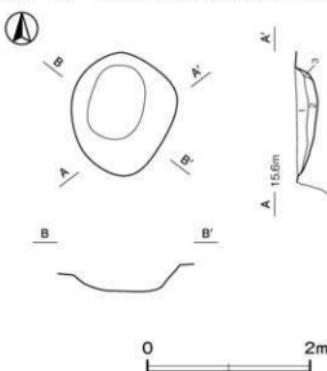
覆土 3層に分層できる。砂質の暗褐色土を主体とした自然堆積である。

土層解説

- 1 砂褐色 粗砂中量、ロームブロック少量
- 2 黄褐色 粘土ブロック・粗砂少量、ロームブロック微量
- 3 砂褐色 粗砂少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片10点（坏1、甕9）、須恵器片25点（坏8、高台付坏1、蓋1、盤1、高盤1、瓶2、甕10、鉢1）が出土している。いずれも小片のため図示できなかった。須恵器坏は器形が連台形で、体部下端に幅の広い手持ちヘラ削りが施されているものが出土している。須恵器盤は底径が小形化したものが出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第69図 第6903号土坑実測図

(4) 遺物集中地点

第1号遺物集中地点（第70～82図）

位置 調査区南部のS 9j3区からT 10e9区にかけて、標高13～15mの埋没谷部に位置している。

重複関係 第204～212号井戸跡、第562号溝跡、第2号遺物集中地点の上部に形成されており、第91号堀、第556・560号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第204号井戸跡、第2号遺物集中地点が廃絶された後の溝状の凹地に形成されている。S 9j3区から南東方向（N-132°-E）へ延びて、T 10b6区で緩やかに屈曲して東南東方向（N-98°-E）へ延びている。南東側が調査区域外へ延びているため、長さは29.30mしか確認できなかった。幅は、西部が上幅9.27m、下幅6.10mで、南東側に向かって広がっている。深さは12～77cmで、断面形は浅い逆台形であり、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は流水による浸食のため凹凸があり、標高は13.2～14.4mである。

覆土 粘質土と粗砂が互層に堆積しており、鉄分の沈着が著しいことから、流水による自然堆積である。

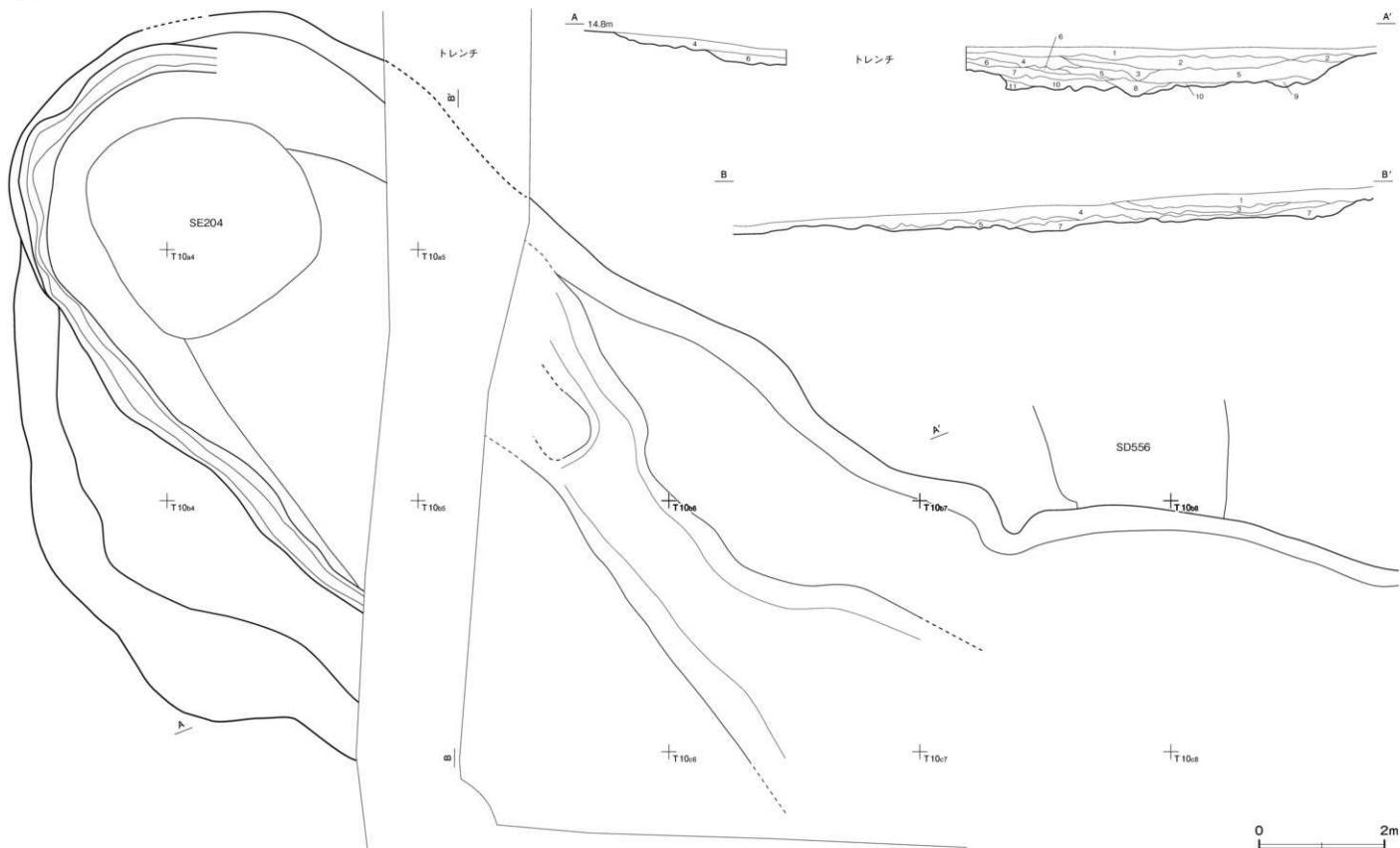
土層解説

1	暗オリーブ色	粘質土	焼土粒子・鉄分沈着微量	6	暗	灰	色	粘質土	鉄分沈着多量、粗砂少量	
2	灰 黄褐色	粘質土	ロームブロック・鉄分沈着少量	7	灰	色	粗砂多量			
3	暗	灰褐色	粘質土	鉄分沈着微量、炭化物・焼土粒子・粗砂少量	8	褐	灰	色	粘土	粗砂少量、鉄分沈着微量
4	暗	灰 黄色	粘質土	粗砂多量、鉄分沈着中量	9	黑	褐	色	粘質土	
5	オリーブ色	粘質土	鉄分沈着中量、粗砂少量	10	黄	褐	色	粗砂	粘質土の薄層を互層状に挟む	

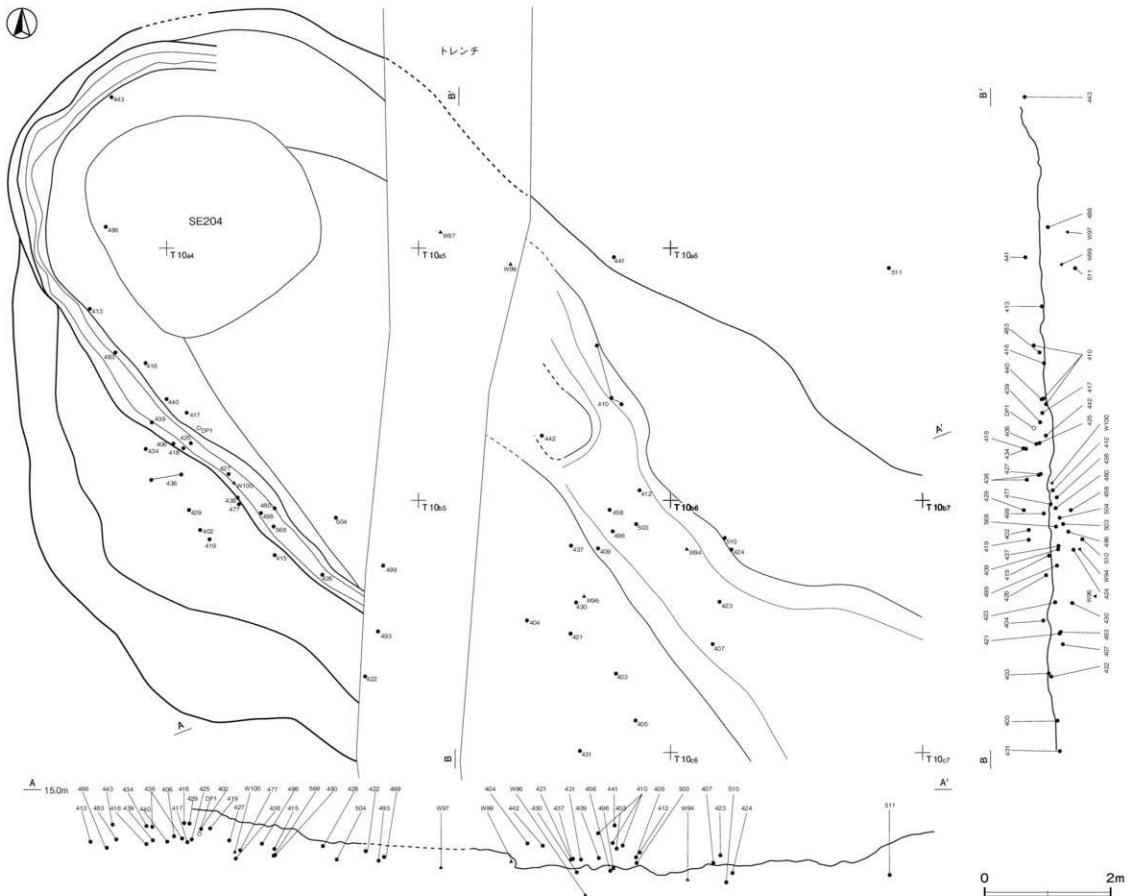
遺物出土状況 土器片7,471点（古墳時代坏3,046、奈良時代坏65、平安時代坏294、高坏2、蓋1、高台付椀41、皿17、高台付皿17、鉢11、甕3,971、瓶2、手捏土器4）、須恵器片10,539点（古墳時代坏5、奈良時代坏239、平安時代坏358、不明坏5,632、高台付坏229、盤70、高盤2、蓋226、壺・瓶57、鉢122、甕3,585、瓶12、円面硯2）、灰釉陶器片12点（瓶）、土製品7点（管状土錐1、羽口6）、鐵滓19点（181.5g）、木器・木製品16点（瓶底板1、曲物蓋板1、曲物底板4、箸1、加工木9）、自然遺物147点（桃核135、ヒョウタン3、クリ7、クルミ1、マツボックリ1）が出土している。また、漆付着土器2点（須恵器坏）、油煙付着土器9点（須恵器坏）、墨書き土器126点が出土している。墨書き土器は、「池田」「川」「栗」「郡」「大口（万。）」「空」「宅」「田前」「前」「殿」「ナ」「万」「邑」「山山」などの文字が確認できる。出土土器は細片化し、器面が摩滅しているものが多い。平面的な分布状況は、南西肩部に集中しており、南東側ほど出土量が減少している。また、第204号井戸跡の井戸部が位置していた北西部は、出土量が微量である。これは、井戸が廃絶された後も周囲への廃棄行為が避けられていたことを示している。時期別、器種別の傾向は、9世紀後葉の供膳具類が一定量出土している。第204号井戸跡の廃絶時期に近いことから、同跡に伴うものが移動したか、あるいは廃絶直後に廃棄されたものである可能性が高い。10世紀代のものは微量で、いずれも摩滅した細片である。その他は混在している状況で、周囲から流れ込んだものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉から10世紀前葉に比定できる。

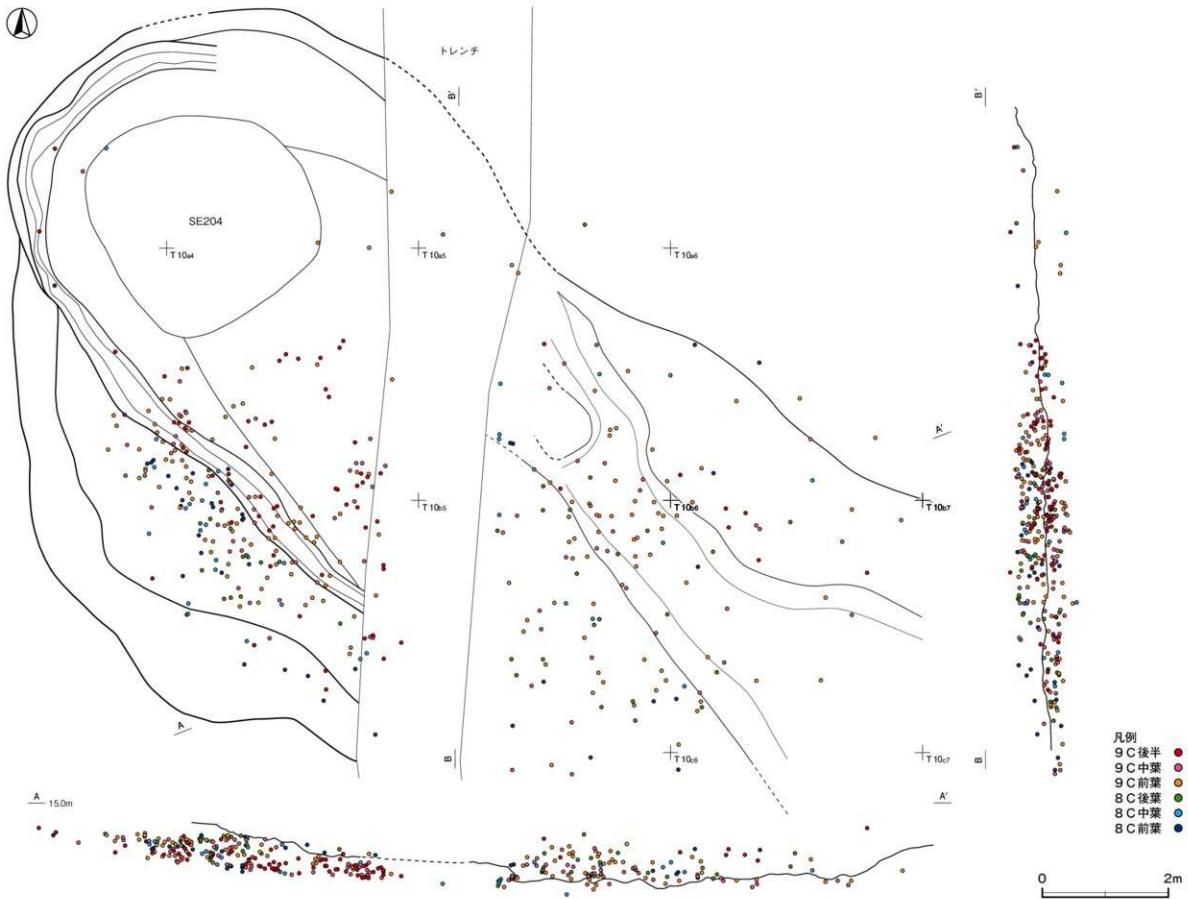
Ⓐ



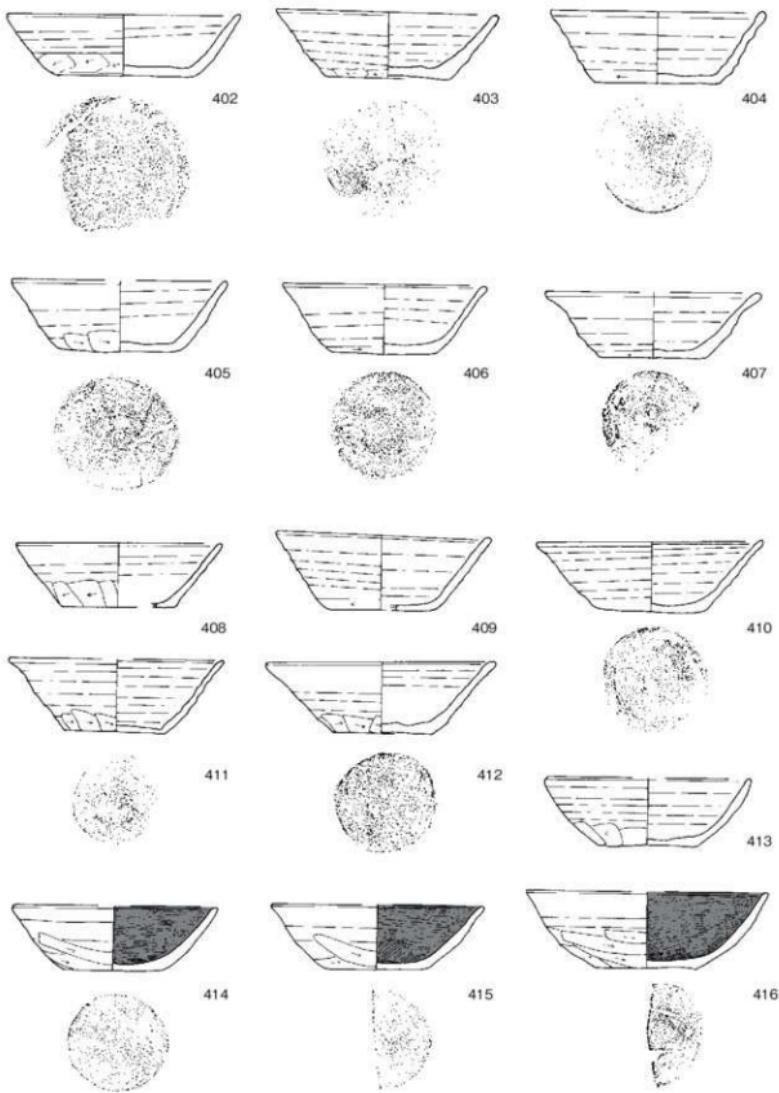
第70図 第1号遺物集中地点実測図



第71図 第1号遺物集中遺物出土状況図(1)

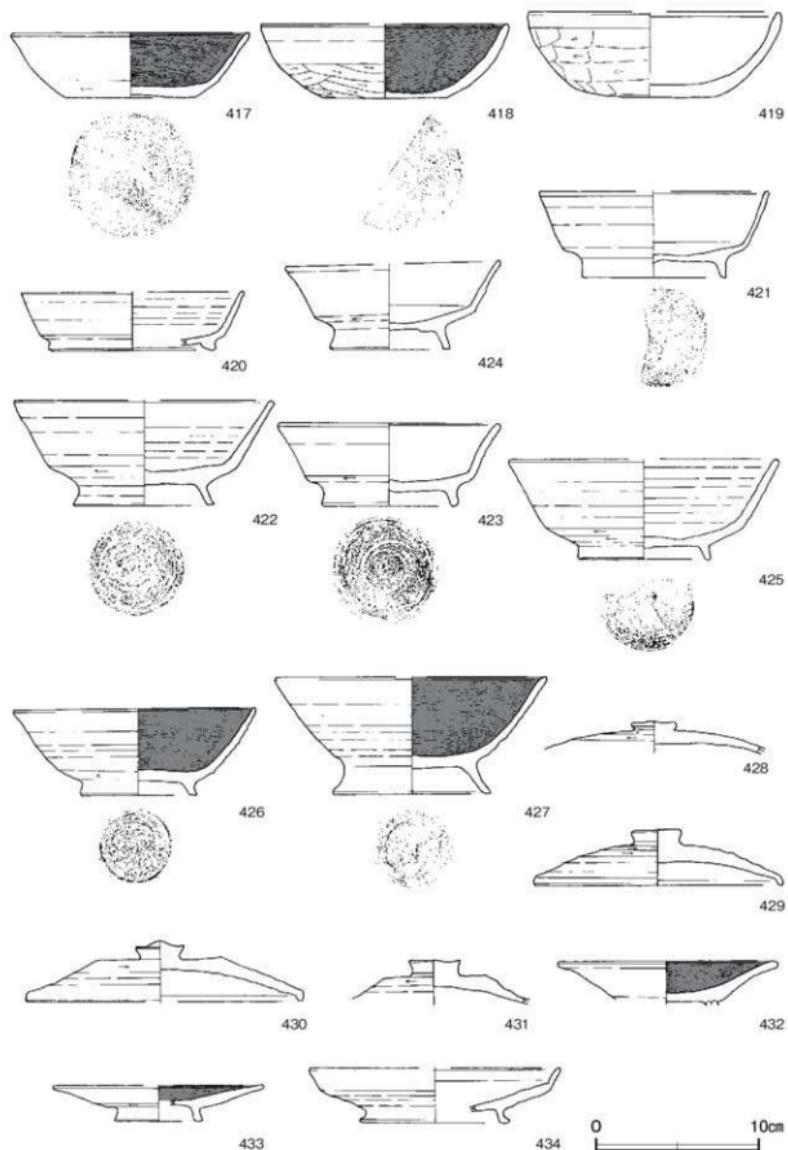


第72図 第1号遺物集中地点遺物出土状況図(2)

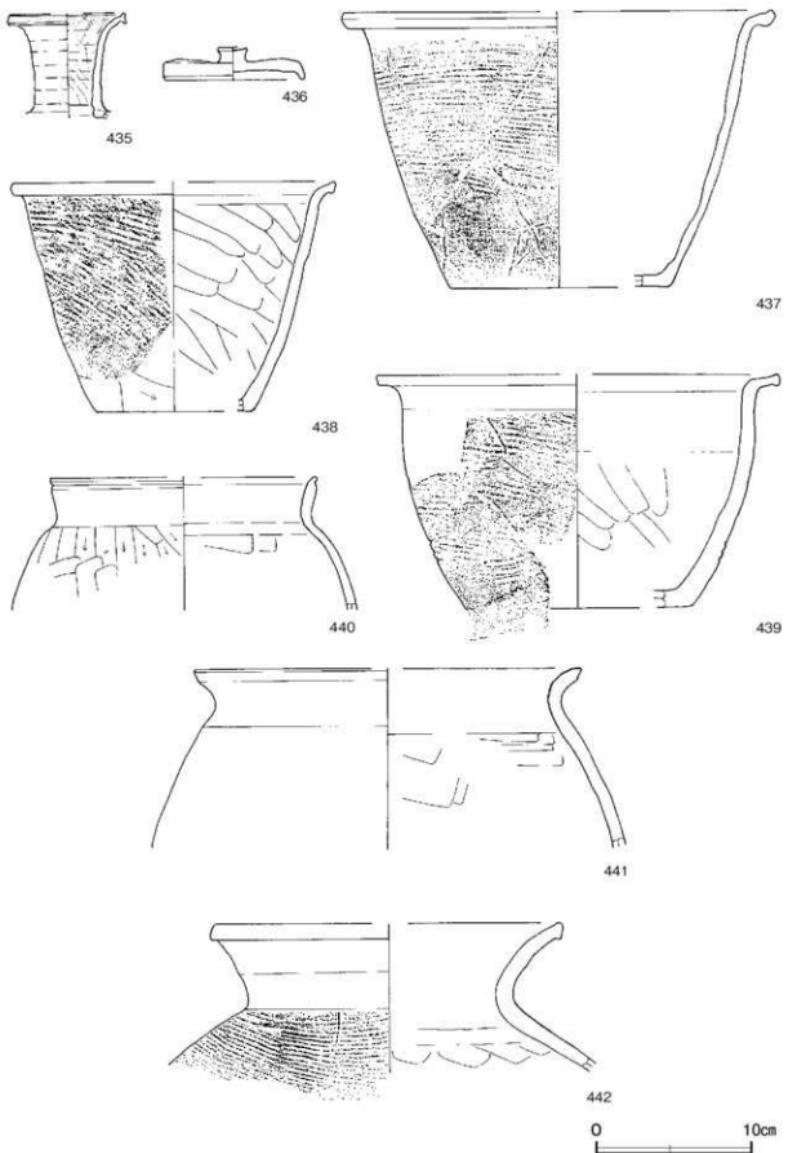


0 10cm

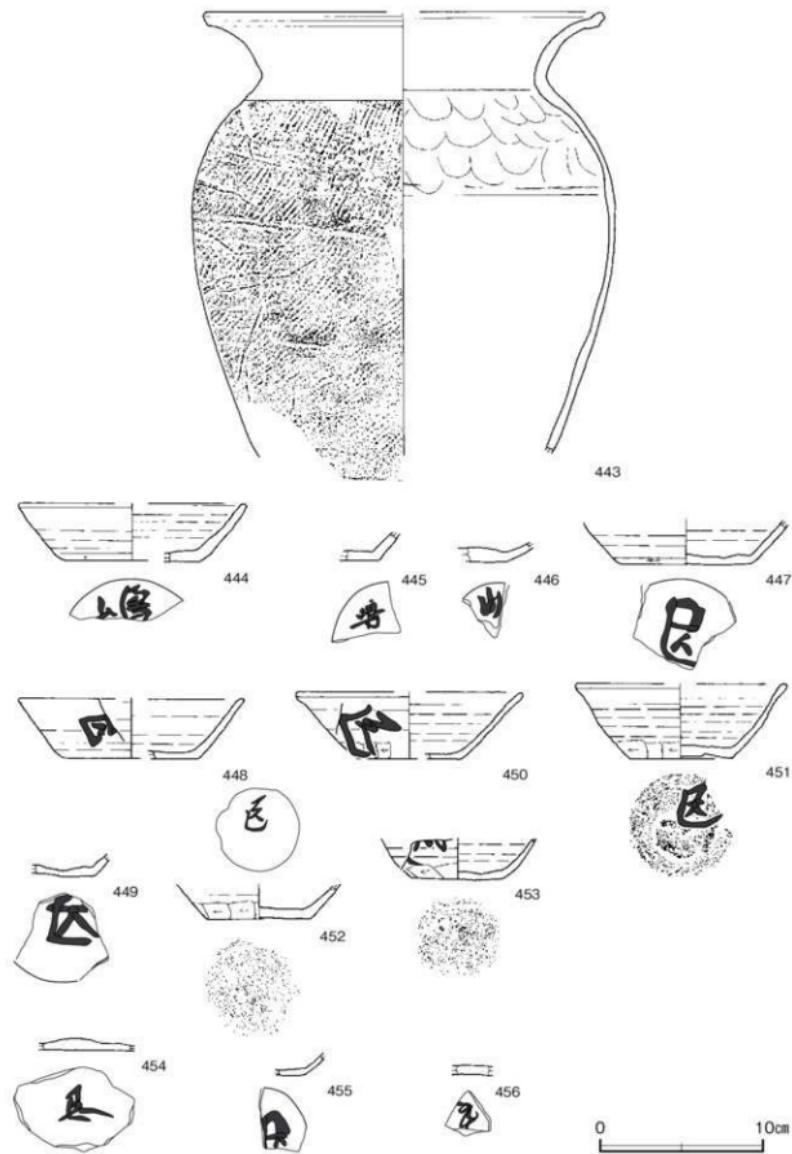
第73図 第1号遺物集中地点出土遺物実測図(1)



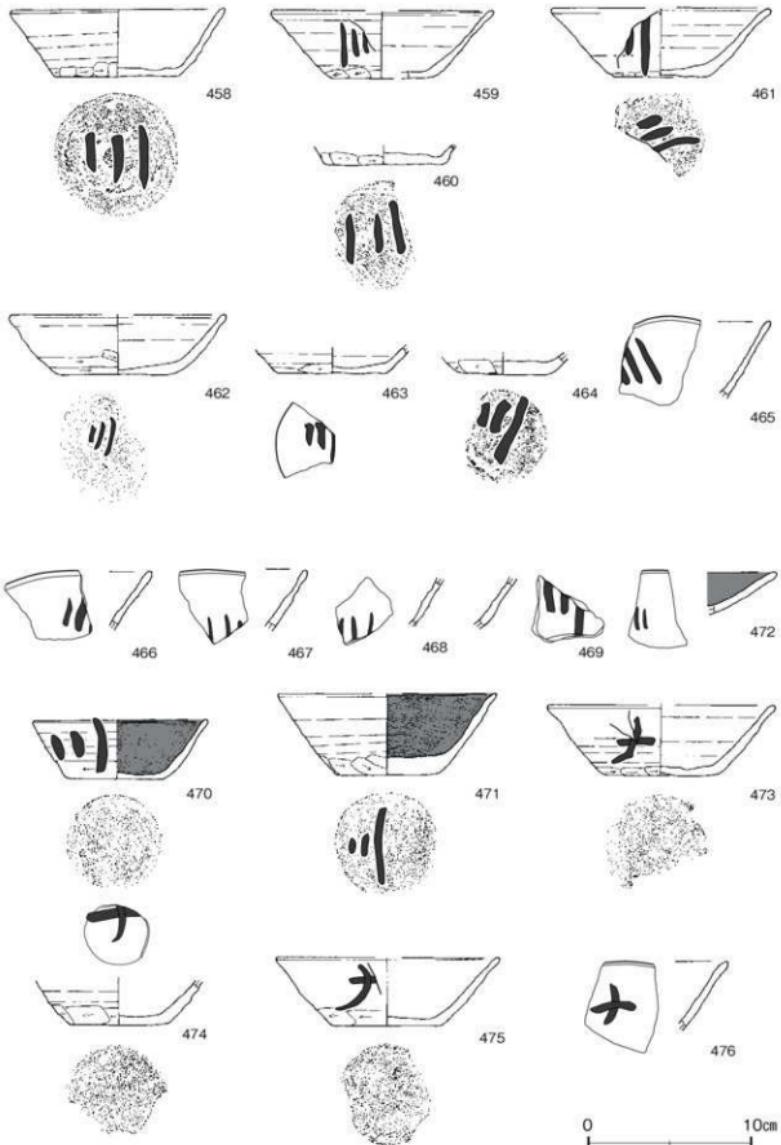
第74図 第1号遺物集中地点出土遺物実測図(2)



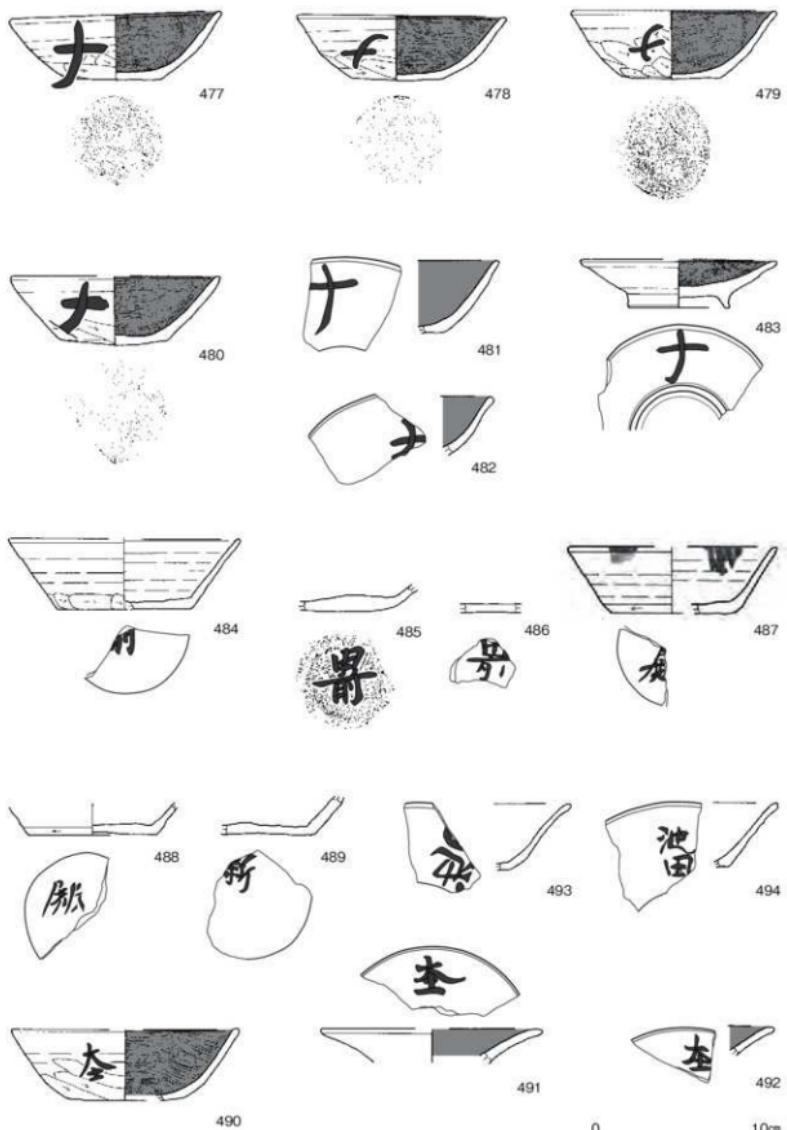
第75図 第1号遺物集中地点出土遺物実測図(3)



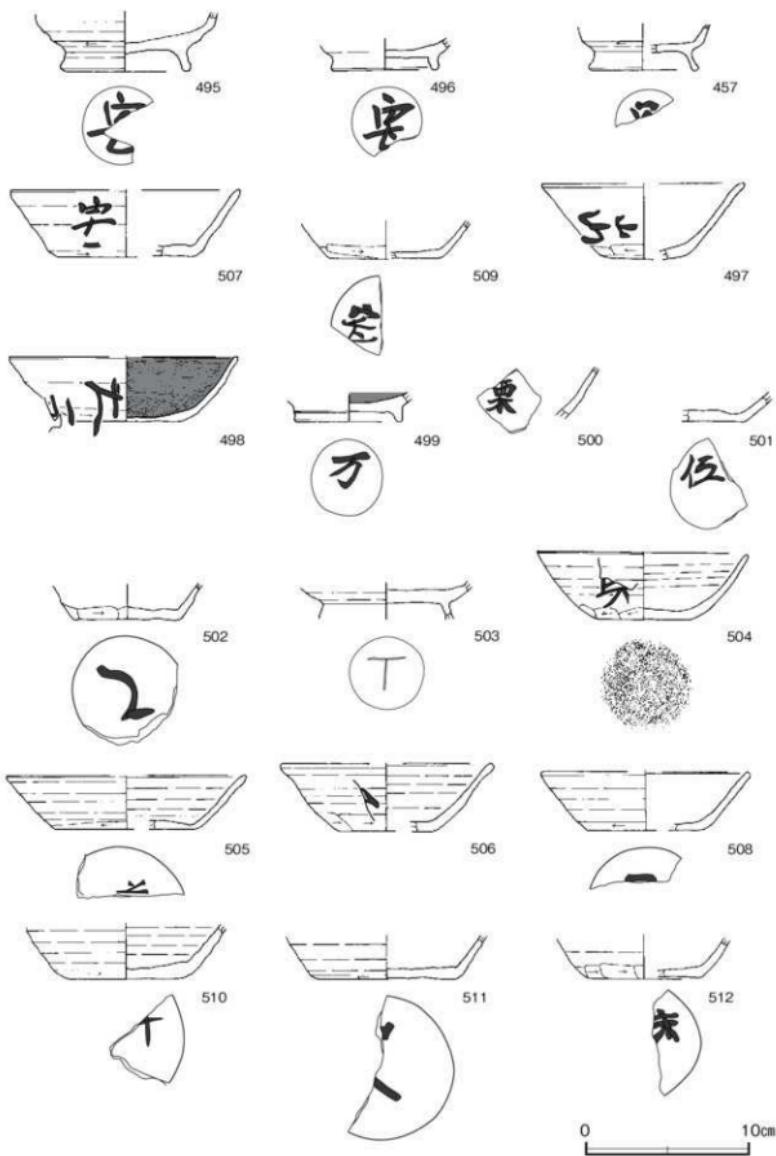
第 76 図 第 1 号遺物集中地点出土遺物実測図(4)



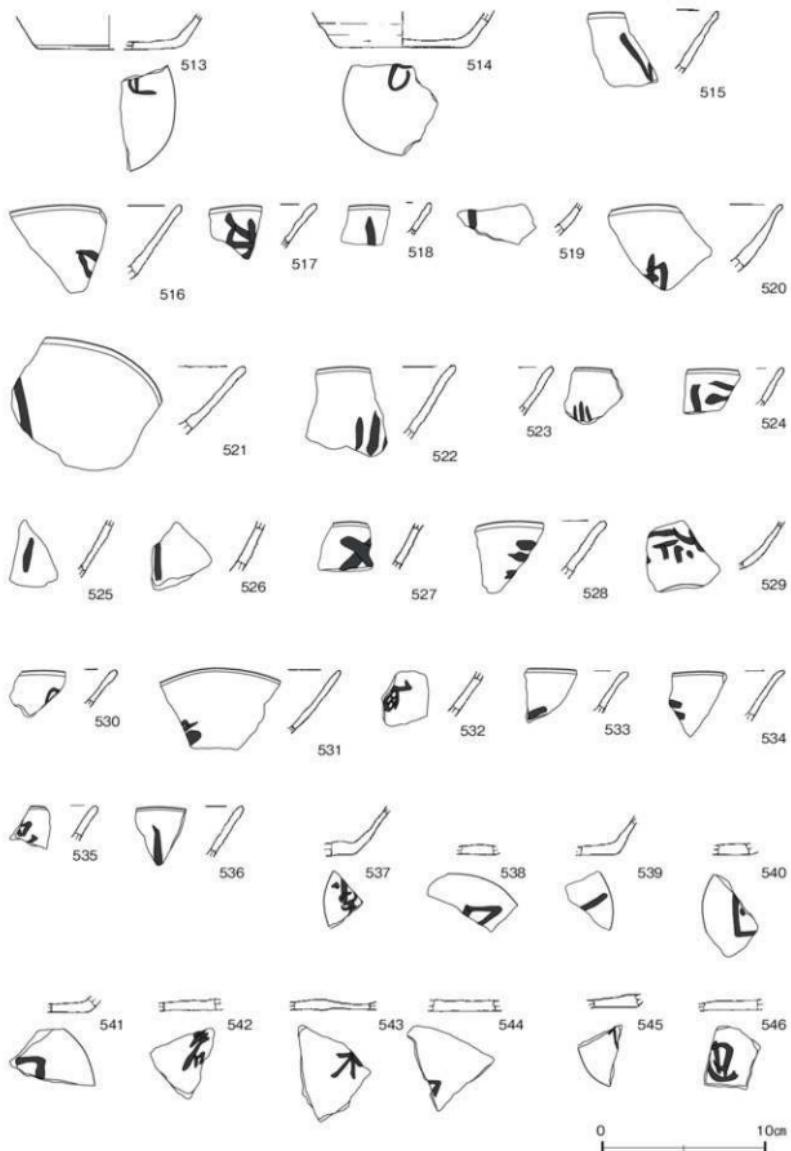
第77図 第1号遺物集中地点出土遺物実測図(5)



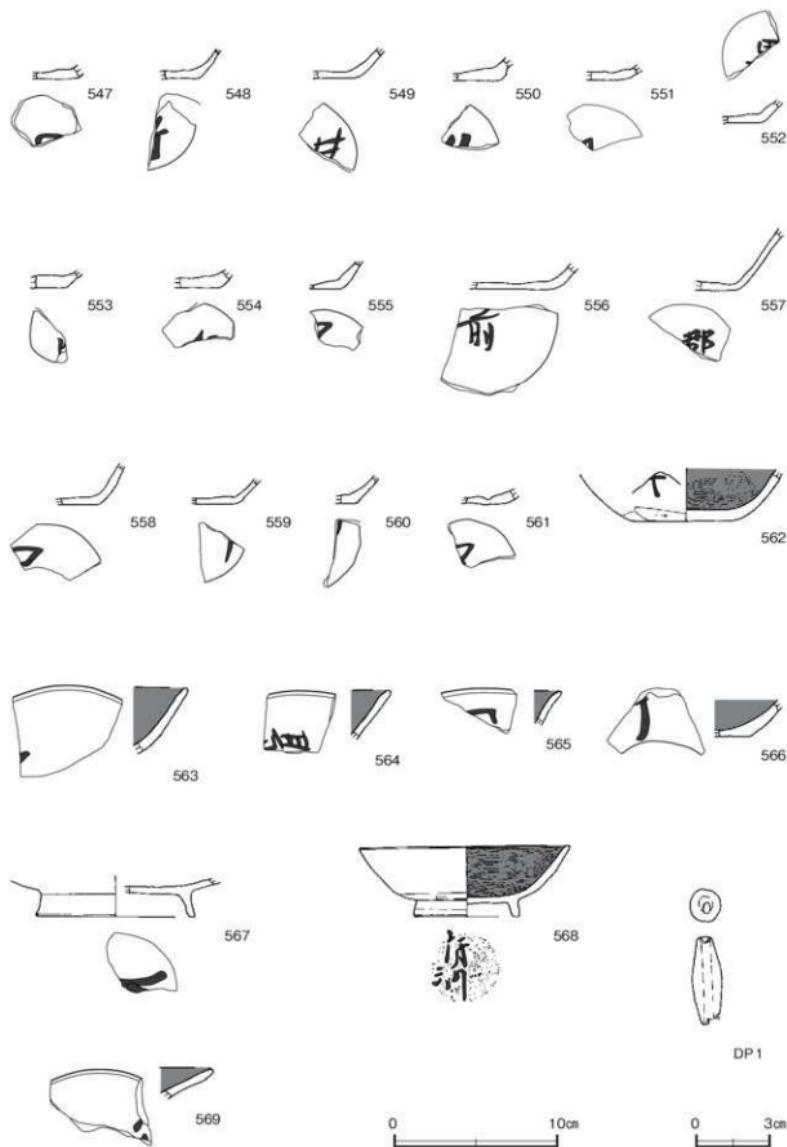
第78図 第1号遺物集中地点出土遺物実測図(6)



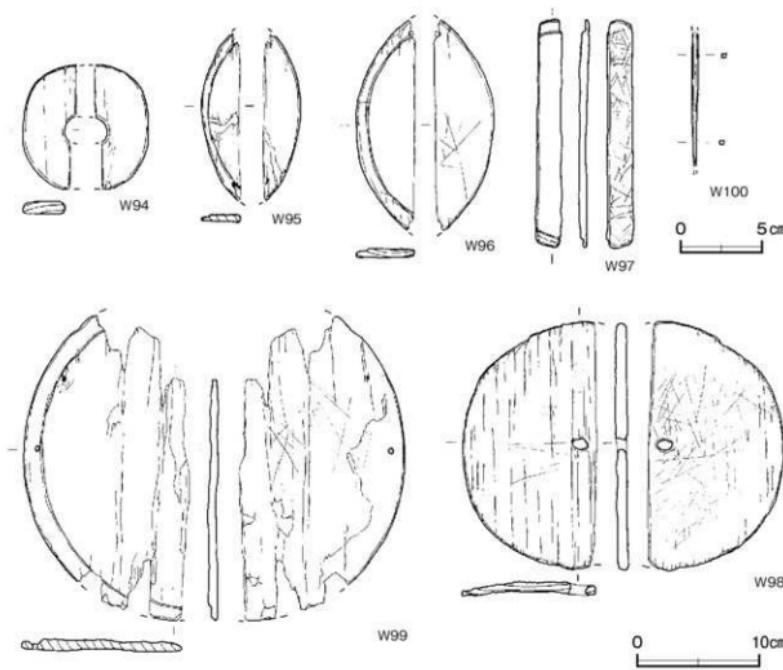
第79図 第1号遺物集中地点出土遺物実測図(7)



第80図 第1号遺物集中地点出土遺物実測図(8)



第 81 図 第 1 号遺物集中地点出土遺物実測図 (9)



第82図 第1号遺物集中地点出土遺物実測図(10)

第1号遺物集中地点出土遺物観察表(第73~82図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
402	瓶	壺	14.2	3.9	8.6	長石・石英・雲母	褐色	普通 ヘラ削り	底部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち	西部上層	70% PL33	
403	瓶	壺	13.6	4.1	7.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通 ヘラ削り	底部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す 一方の手持ちヘラ削り	中央部上層	70%	
404	瓶	壺	13.3	4.4	7.7	長石・石英・雲母	赤灰	普通	底部下端	底部回転ヘラ削り	中央部下層	60%
405	瓶	壺	[13.2]	4.4	7.5	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通 ヘラ削り	底部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち	中央部下層	50%	
406	瓶	壺	12.4	4.3	6.4	長石・雲母	褐色	普通	底部下端回転ヘラ削り 底部一方の手持ちへ	西部下層	70% PL33	
407	瓶	壺	[13.3]	4.0	[6.4]	長石・石英・雲母	褐色	普通	底部下端手持ちヘラ削り	東部下層	50%	
408	瓶	壺	12.6	4.0	[6.8]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通 ヘラ削り	底部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち	東部覆土中	60%	
409	瓶	壺	13.2	4.8	[6.4]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 底部一方の手持ちへ	中央部下層	60%	
410	瓶	壺	13.8	4.6	6.6	長石・石英・赤色 粒子	灰褐	不眞正 ヘラ削り	底部下端クロタクナデ 底部一方の手持ちヘラ削り	中央部上層	80% PL33	
411	瓶	壺	[13.1]	4.4	6.2	長石・石英・雲母	黃灰	普通 ヘラ削り	底部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち	東部覆土中	60%	
412	瓶	壺	13.8	4.5	6.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち	中央部下層	90% PL33	
413	瓶	壺	[12.4]	4.2	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	不眞正 ヘラ削り	底部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち	西部下層	40%	
414	土器	壺	[12.6]	4.0	6.2	石英・雲母	浅黄褐	普通	底部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部	東部覆土中	60%	
415	土器	壺	[13.0]	4.0	6.0	石英・雲母	にぶい黄褐	普通	底部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部	西部下層	50%	
416	土器	壺	[14.8]	4.7	6.2	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	底部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部	西部下層	40%	
417	土器	壺	14.4	4.0	8.0	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	底部下端・底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	西部下層	70%	

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
418	土器部	环	[15.2]	4.6	7.6	長石・石英・赤色 粘土	にい・黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部 一方均の手持ちヘラ削り	西部上層	40%
419	土器部	环	[15.4]	5.3	8.6	長石・石英・雲母	にい・黄	普通	口縁部横ナデ 体部・底部手持ちヘラ削り	西部上層	70%
420	須恵器	高台付环	[13.6]	3.6	[10.0]	長石・石英	灰	良好	ロコロナデ 鞠地域産	東部覆土中	30%
421	須恵器	高台付环	[14.1]	5.3	[8.8]	長石・石英・黒色 粘土	暗灰・黄	普通	底部回転ヘラ削り	中央部上層	60%
422	須恵器	高台付环	[16.2]	6.5	8.8	長石・石英・雲母	赤灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	西部下層	50%
423	須恵器	高台付环	[13.4]	5.2	8.2	長石・石英	褐灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	東部下層	70% PL33
424	須恵器	高台付环	[13.3]	5.4	7.4	長石・石英・雲母	にい・黄	不良	手揉下端・底部回転ヘラ削り	東部下層	70%
425	須恵器	高台付环	[16.4]	6.2	7.8	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	西部上層	50%
426	土器部	高台付碗	[14.9]	5.4	7.0	長石・石英・赤色 粘土	明黄褐	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	西部下層	10% PL33
427	土器部	高台付碗	[16.7]	7.25	9.7	長石・石英・雲母	にい・黄	普通	底部回転ヘラ削り後 ナデ 内面ヘラ磨き	西部下層	40% PL34
428	須恵器	蓋	-	(2.0)	-	長石・石英	褐灰	普通	丸井部回転ヘラ削り	東部覆土中	60%
429	須恵器	蓋	15.3	3.5	-	長石・石英・雲母	灰	普通	丸井部回転ヘラ削り	西部上層	70%
430	須恵器	蓋	[17.0]	3.8	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	丸井部回転ヘラ削り	中央部下層	60% PL34
431	須恵器	蓋	-	(2.8)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	丸井部回転ヘラ削り	中央部下層	70%
432	土器部	高台付鼎	[13.6]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	にい・黄	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	東部覆土中	70% PL34
433	土器部	高台付鼎	[12.8]	2.2	5.3	長石・石英・雲母	にい・黄	良好	底部一方の手持ちヘラ削り 後 ナデ 内面ヘラ磨き	西部覆土中	40%
434	須恵器	鼎	[15.4]	3.4	[9.2]	長石・石英・雲母	灰	良好	底部一方の手持ちヘラ削り	西部上層	40%
435	灰釉陶器	长颈瓶	[7.0]	(6.5)	-	長石・石英	灰	良好	ロコロナデ 井ヶ谷28窯式	東部覆土中	30% 強泥垂
436	須恵器	瓶蓋	8.6	(2.0)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	丸井部回転ヘラ削り	西部下層	80%
437	須恵器	鉢	[26.4]	17.0	[13.4]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部側位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面 火炎文刻え ナデ	中央部下層	40%
438	須恵器	鉢	[19.8]	14.2	9.6	長石・石英	灰	普通	体部側位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面 ヘラナデ	西部下層	20%
439	須恵器	鉢	[24.8]	14.3	[13.8]	長石・石英・雲母	明黄褐	不良	体部側位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面 ヘラナデ	西部下層	40%
440	土器部	甕	[16.4]	(8.1)	-	長石・石英	にい・黄	普通	口縁部横ナデ 体部継縫のヘラ削り 内面ヘラ ナデ	西部下層	30% PL34
441	土器部	甕	[23.8]	(11.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	中央部上層	30%
442	須恵器	甕	[21.1]	(9.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部側位の平行叩き 内面無文叩き痕を残し、 ヘラナデ	中央部下層	20%
443	須恵器	甕	[24.4]	(27.3)	-	長石・石英・赤色 粘土	にい・黄	普通	体部側位の平行叩き 内面上位無文叩き痕を残し、 ヘラナデ	西部上層	40%
444	須恵器	环	[14.0]	3.5	[8.4]	長石	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 後部一方の手持ちヘ ラ削り 磨書「記」	中央部覆土中	40% PL44
445	須恵器	环	-	(1.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り 磨書「記」	中央部覆土中	5% PL44
446	須恵器	环	-	(1.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 後部一方の手持ち ヘラ削り 磨書「□記」	西部覆土中	5% PL44
447	須恵器	环	-	(2.8)	[8.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 後部一方の手持ち ヘラ削り 磨書「記」	東部覆土中	10% PL44
448	須恵器	环	[13.8]	3.7	[8.4]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちロコロナデ 後部一方の手持ちヘ ラ削り 磨書「記」	中央部覆土中	30% PL47
449	須恵器	环	-	(1.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 後部回転ヘラ切り板を残し、 一方の手持ちラズボン 磨書「記」	西部覆土中	10% PL47
450	須恵器	环	[13.8]	4.1	[6.2]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 後部一方の手持ち ヘラ削り 磨書「記」	西部覆土中	40% PL47
451	須恵器	环	[12.6]	4.6	6.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	西部覆土中	40% PL47
452	須恵器	环	-	(2.1)	6.3	長石・石英・雲母	にい・黄	不良	体部下端手持ちヘラ削り 後部一方の手持ち ヘラ削り 磨書「記」	中央部覆土中	30% PL47
453	須恵器	环	-	(2.5)	5.6	長石・石英・赤色 粘土	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り板を残し、 一方の手持ちヘラ削り 磨書「記」	西部覆土中	30% PL47
454	須恵器	环	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部回転ヘラ切り板を残し、一方の手持ちヘ ラ削り 磨書「記」	中央部覆土中	5% PL47
455	須恵器	环	-	(1.3)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち ヘラ削り 磨書「記」	中央部覆土中	5% PL47
456	須恵器	环	-	(0.6)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部回転ヘラ切り板を残し、一方の手持ちヘ ラ削り 磨書「記」	西部覆土中	5% PL47
458	須恵器	环	12.9	4.3	7.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り板を残し、 一方の手持ちヘラ削り 磨書「川」	中央部下層	80% PL33・54
459	須恵器	环	[13.6]	4.2	[6.4]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち ヘラ削り 磨書「川」	東部覆土中	30% PL54
460	須恵器	环	-	(1.2)	6.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち ヘラ削り 磨書「川」	西部覆土中	40% PL54
461	須恵器	环	[13.2]	4.3	5.6	長石・石英・赤色 粘土	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ち ヘラ削り 磨書「川」	西部覆土中	40% PL54
462	須恵器	环	[13.2]	3.7	7.2	長石・石英・赤色 粘土	にい・黄	普通	体部回転ヘラ切り板を残し、底部回転ヘラ切り板を残し、 一方の手持ちヘラ削り 磨書「川」	西部覆土中	30% PL54
463	須恵器	环	-	(1.7)	6.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り板を残し、 一方の手持ちヘラ削り 磨書「川」	東部覆土中	10% PL54
464	須恵器	环	-	(1.4)	5.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り板を残し、 一方の手持ちヘラ削り 磨書「川」	西部覆土中	30% PL54
465	須恵器	环	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にい・黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 磨書「川」	西部覆土中	10% PL54

番号	種別	器種	口径	高さ	底桙	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
466	瓶壺器	壺	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母 褐灰	普通	ロクロナデ 墨書き「川」	西部覆土中	10% PL54	
467	瓶壺器	壺	-	(3.8)	-	長石・石英 褐灰	普通	ロクロナデ 墨書き「川」	西部覆土中	10% PL54	
468	瓶壺器	壺	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母 黄灰	普通	ロクロナデ 墨書き「川」	西部覆土中	10% PL54	
469	瓶壺器	壺	-	(3.3)	-	長石・石英・雲母 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「川」	西部覆土中	10% PL54	
470	土師器	壺	105	3.7	6.0	長石・石英・雲母 にぶい青白	普通	体部下端・底部回転へラ削り 内面へラ削き 墨書き「川」	西部覆土中	70% PL33・54	
471	土師器	壺	[134]	5.0	6.3	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通 一方面の手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部	東部覆土中	60% PL55	
472	土師器	皿	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母 にぶい青白	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 墨書き「川」	中央部覆土中	5% PL55	
473	瓶壺器	壺	[138]	4.4	6.6	長石・石英 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	東部覆土中	40% PL59	
474	瓶壺器	壺	-	(2.8)	6.0	長石・石英・雲母 褐灰青	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	30% PL59	
475	瓶壺器	壺	[136]	4.2	6.6	長石・石英・赤色 粒子	褐灰青	普通 体部下端手持ちへラ削り 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	30% PL59	
476	瓶壺器	壺	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母 黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	10% PL59	
477	土師器	壺	128	4.3	5.6	長石・石英・赤色 粒子	にぶい青白	普通 体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部下層	95% PL33・59	
478	土師器	壺	129	3.9	5.7	長石・石英・雲母 にぶい青白	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	80% PL33・59	
479	土師器	壺	125	4.3	5.9	長石・石英・雲母 にぶい青白	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	70% PL33・59	
480	土師器	壺	[128]	4.2	6.6	長石・石英 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部下層	40% PL59	
481	土師器	壺	-	(4.5)	-	長石・雲母 にぶい青白	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	5% PL59	
482	土師器	壺	-	(3.7)	-	長石・雲母 にぶい青白	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 墨書き「田」	西部覆土中	5% PL59	
483	瓶壺器	高台付壺	[120]	29	[6.2]	長石・石英・雲母 にぶい青白	普通	体部下端・底部回転へラ削り 内面へラ削き 墨書き「十」	西部下層	45% PL59	
484	瓶壺器	壺	[140]	4.3	[8.4]	長石・石英・雲母 灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部二方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	中央部覆土中	30% PL56	
485	瓶壺器	壺	-	(1.7)	-	長石・石英・雲母 にぶい青白	不規則	体部下端手持ちへラ削り 底部周辺へラ削り 墨書き「十」	東部覆土中	20% PL56	
486	瓶壺器	壺	-	(0.5)	-	長石・石英・雲母 黄灰	普通	底部回転へラ削り 墨書き「田」	西部下層	5% PL56	
487	瓶壺器	壺	[126]	4.1	[7.6]	長石・石英・雲母 褐灰	普通	体部下端・底部回転へラ削り 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	15% PL57	
488	瓶壺器	壺	-	(2.0)	(8.0)	長石・石英・雲母 褐灰	普通	体部下端・底部回転へラ削り 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	中央部覆土中	20% PL58	
489	瓶壺器	壺	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母 にぶい青白	不規則	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	東部覆土中	30% PL58	
490	土師器	壺	[140]	4.5	(7.0)	長石・石英・雲母 にぶい青白	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	40% PL62	
491	土師器	皿	[136]	(2.3)	-	長石・石英 にぶい青白	普通	体部内面へラ削き 墨書き「奉」	西部覆土中	30% PL62	
492	土師器	皿	-	(1.8)	-	長石・石英 にぶい青白	普通	体部内面へラ削き 墨書き「奉」	西部覆土中	10% PL62	
493	瓶壺器	壺	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母 褐灰	普通	体部下端・底部手持ちへラ削り 墨書き「田」	西部下層	20% PL64	
494	瓶壺器	壺	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母 褐灰	普通	体部下端・底部手持ちへラ削り 墨書き「田」	西部覆土中	10% PL64	
495	瓶壺器	高台付壺	-	(2.8)	(6.3)	長石・石英・雲母 褐灰	普通	体部下端・底部回転へラ削り 墨書き「它」	中央部覆土中	30% PL59	
496	瓶壺器	高台付壺	-	(3.6)	8.0	長石・雲母 褐灰	普通	体部下端・底部回転へラ削り 墨書き「它」	東部覆土中	50% PL60	
497	瓶壺器	壺	[124]	4.7	[5.4]	長石・石英 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「它」	中央部下層	20% PL60	
498	土師器	壺	[140]	4.0	6.3	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい青白	普通 体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 成部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」(万)	西部下層	50% PL61	
499	土師器	高台付壺	-	(1.8)	6.4	長石・石英・雲母 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 成部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」(万)	西部覆土中	40% PL61	
500	瓶壺器	壺	-	(3.2)	-	長石・石英・雲母 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部不定方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	5% PL64	
501	土師器	壺	-	(1.8)	-	長石・石英・雲母 褐灰	不規則	体部下端手持ちへラ削り 底部不定方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	10% PL65	
502	瓶壺器	壺	-	(2.2)	6.5	長石・石英・雲母 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	中央部下層	40% PL65	
503	瓶壺器	高台付壺	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母 褐灰	普通	底部回転へラ削り 墨書き「十」	中央部下層	40% PL78	
504	瓶壺器	壺	128	4.2	5.6	長石・石英 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部下層	80% PL33・71	
505	瓶壺器	壺	[146]	3.3	[8.8]	長石・石英 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	中央部覆土中	40% PL71	
506	瓶壺器	壺	[130]	4.2	[5.8]	長石・石英 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	30% PL71	
508	瓶壺器	壺	[128]	3.6	(7.0)	長石・石英・雲母 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	西部覆土中	20% PL71	
510	瓶壺器	壺	-	(3.4)	(7.0)	長石・石英 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方方向の手持ちへラ削り 墨書き「十」	東部下層	30% PL71	
511	瓶壺器	壺	-	(2.7)	8.6	長石・石英 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り 墓を残す...一方方向の手持ちへラ削り 墓を残す...山...」	東部覆土中	30% PL71	

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
512	須恵器	环	-	(2.6)	[7.0]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方内の手持ちへラ削り 墓書「□(梗)」	中央部覆土中	30% PL71
513	須恵器	环	-	(2.1)	[8.6]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端 底部回転へラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	30% PL71
514	須恵器	环	-	(2.3)	[7.8]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部不定方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	20% PL71
515	須恵器	环	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL71
516	須恵器	环	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロナデ 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL71
517	須恵器	环	-	(2.7)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	ロクロナデ 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL71
518	須恵器	环	-	(2.0)	-	長石・石英	灰褐黄	普通	ロクロナデ 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL71
519	須恵器	环	-	(2.1)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL71
520	須恵器	环	-	(4.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	5% PL71
521	須恵器	环	-	(4.1)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	5% PL71
522	須恵器	环	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母	明灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓書「□ (梗)」	西部覆土中	5% PL71
523	須恵器	环	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ 墓書「□」	西部覆土中	5% PL71
524	須恵器	环	-	(2.5)	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 墓書「□」	西部覆土中	5% PL71
525	須恵器	环	-	(3.6)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	5% PL71
526	須恵器	环	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 墓書「□」	西部覆土中	5% PL72
527	須恵器	环	-	(2.9)	-	長石・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ 墓書「□」	西部覆土中	5% PL72
528	須恵器	环	-	(3.5)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	ロクロナデ 墓書「□ (梗)」	西部覆土中	5% PL72
529	須恵器	环	-	(2.9)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	5% PL72
530	須恵器	环	-	(2.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ 墓書「□」	西部覆土中	5% PL72
531	須恵器	环	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	5% PL72
532	須恵器	环	-	(2.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	5% PL72
533	須恵器	环	-	(2.5)	-	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ 墓書「□」	西部覆土中	5% PL72
534	須恵器	环	-	(3.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ 墓書「□」	西部覆土中	5% PL72
535	須恵器	环	-	(2.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ 墓書「□」	西部覆土中	5% PL72
536	須恵器	环	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	明灰黄	普通	ロクロナデ 墓書「□」	西部覆土中	5% PL72
537	須恵器	环	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓部一方の手持ちへラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	10% PL72
538	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL72
539	須恵器	环	-	(2.5)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 墓部一方の手持ちへラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	10% PL72
540	須恵器	环	-	-	-	長石・雲母	灰	普通	底部回転へラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL72
541	須恵器	环	-	(1.0)	-	長石・石英	褐灰	普通	底部一方の手持ちへラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL72
542	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL72
543	須恵器	环	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL72
544	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部一方の手持ちへラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL72
545	須恵器	环	-	(0.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部一方の手持ちへラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL72
546	須恵器	环	-	-	-	長石・雲母	褐灰	普通	底部一方の手持ちへラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL72
547	須恵器	环	-	(0.9)	-	石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転へラ削り 墓書「□」	中央部覆土中	5% PL72
548	須恵器	环	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 墓書「□」	東部覆土中	10% PL72
549	須恵器	环	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓部不定方向の手持ちへラ削り 墓書「□ (梗)」	西部覆土中	10% PL72
550	須恵器	环	-	(1.4)	-	長石・雲母	灰	普通	体部下端 底部回転へラ削り 墓書「□」	西部覆土中	10% PL72
551	須恵器	环	-	(0.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	10% PL72
552	須恵器	环	-	(1.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 墓書「□ (梗)」	西部覆土中	10% PL72
553	須恵器	环	-	(1.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	5% PL73
554	須恵器	环	-	(1.1)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	5% PL73
555	須恵器	环	-	(1.8)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	5% PL73
556	須恵器	环	-	(1.6)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端 底部回転へラ削り 墓書「前」	西部覆土中	10% PL73
557	須恵器	环	-	(3.9)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓書「前」	西部覆土中	10% PL73
558	須恵器	环	-	(2.6)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	10% PL73

番号	種別	器種	口径	器高	底桿	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
559	瓶壺器	坏	-	(1.5)	-	長石・石英・雲母 褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方向の手持ちへラ削り 基盤[□]	西部覆土中	5%	PL73
560	瓶壺器	坏	-	(1.7)	-	長石・石英 褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち へラ削り 基盤[□]	西部覆土中	5%	PL73
561	瓶壺器	坏	-	(0.9)	-	長石・石英・雲母 黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 成部一方向の手持ち へラ削り 基盤[□]	西部覆土中	5%	PL73
562	土師器	坏	-	(3.3)	6.5	長石・雲母 にふい黄橙	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 成部 二方向の手持ちへラ削り 基盤[□]	西部覆土中	50%	PL73
563	土師器	坏	-	(4.1)	-	長石・石英・雲母 にふい黄橙	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 成部 二方向の手持ちへラ削り 基盤[□]	西部覆土中	10%	PL73
564	土師器	坏	-	(3.2)	-	長石・石英・雲母 にふい黄橙	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 成部 二方向の手持ちへラ削り 基盤[□]	西部覆土中	5%	PL73
565	土師器	坏	-	(2.2)	-	長石・石英 にふい黄橙	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 成部 二方向の手持ちへラ削り 基盤[□]	西部覆土中	5%	PL73
566	土師器	坏	-	(2.3)	-	長石・石英・赤色 粒子	にふい黄橙	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削き 成部 二方向の手持ちへラ削り 基盤[□]	西部覆土中	5%	PL73
567	瓶壺器	高台付跡	-	(2.4)	(9.8)	長石・石英・雲母 灰灰	普通	底部回転へラ削り 基盤[□]	東部覆土中	20%	PL73
568	土師器	高台付跡	128	4.4	6.2	長石・石英・雲母 にふい黄橙	普通	体部下端・底部回転へラ削り 内面へラ削き 基盤[□]	西部下層	80%	PL34・73
569	土師器	皿	-	(1.9)	-	長石・雲母 にふい黄橙	普通	内面へラ削き 基盤[□]	西部覆土中	5%	PL73

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	管状土錐	3.6	1.3	0.3	5.0	長石	にふい黄橙	ナテ 一方向からの穿孔	西部下層	PL34

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W 94	容器	瓶底板	(10.2)	4.4	1.0	ヒノキ	板目 皮織じ 斜穴1ヶ所 中央部に円孔 径(20.0)cm	東部下層	PL34
W 95	容器	円形曲物・底板	(13.7)	(3.4)	0.6	針葉樹	板目 皮織じ	東部覆土中	
W 96	容器	円形曲物・底板	(17.1)	(4.8)	0.8	針葉樹	板目 皮織じ 片面刃物痕	中央部下層	PL34
W 97	容器	円形曲物・底板	(18.6)	(2.1)	0.7	ヒノキ	板目 片面刃物痕	中央部下層	
W 98	容器	円形曲物・蓋板	20.4	(11.0)	0.9	ヒノキ	板目 中央部に円孔 径2.4cm 片面刃物痕	東部覆土中	PL34
W 99	容器	円形曲物・底板	(25.0)	(13.2)	1.0	ヒノキ	板目 皮織じ 円孔1ヶ所 径0.5cm 片面刃 物痕	中央部下層	PL34
W 100	食具	箸。	(8.4)	0.4	0.2	ヒノキ	粗目 斜面方形	西部下層	PL34

第2号遺物集中地点（第83～128図）

位置 調査区南部のT 10a3区からT 10c9区にかけて、標高13～15mの埋没谷部に位置している。

重複関係 第205～211号井戸跡、第562号溝跡を掘り込み、第212号井戸跡の上部に形成されている。また、第204号井戸、第91号堀、第556・560号溝に掘り込まれ、上部に第1号遺物集中地点が形成されている。

規模と形状 埋没谷部の湧水点と谷底部を溝状に掘り広げて構築されており、西部には作業場とみられる木組み部が設置されている。T 10a3区から南東方向（N=136°-E）へ延びて、T 10b6区で緩やかに屈曲して東南東方向（N=100°-E）へ延びている。北西部が第204号井戸に掘り込まれており、南東側が調査区域外へ延びているため、長さは25.05mしか確認できなかった。幅は、西部が上幅9.73m、下幅6.04mで、南東側が調査区域外に延びているため不明であるが、南側の平成17年度調査区において、7世紀中葉から9世紀前葉の住居跡（第2741・2742・2810号住居跡）が確認されていることから、上幅は7～9mほどと推定できる。確認面からの深さは42～114cmで、第1号遺物集中地点の覆土を除去した面からの深さは32～67cmである。断面形は浅い逆台形で、壁は外傾して立ち上がっている。底部は常総粘土層を掘り込んでおり、湧水が認められる。底面は、流水による浸食のため凹凸があり、標高は13.0～14.0mである。また、北・南部の肩部からは、古い時期の土器片がまとめて出土していることから、肩部には掘削された排土が周堤状に堆っていたと推定できる。常総粘土ブロックを多く含んでいる第10層はその痕跡と考えられる。

木組み部は、北西部のT 10a4区に位置している。北西部が第204号井戸に掘り込まれており、東部がトレチ掘削のため、長さは6.05mしか確認できなかった。上幅3.56～4.02m、下幅1.34～1.96mで、壁高は15～58cmである。壁は流向方向（N=15～42°-W）に2～3段の丸太材が積み上げられており、列状に打設された杭で固定されている。底部は流向と直交する方向に木材が敷き並べられている。上部は敷設方向が

N - 60° - E で、樹皮が付いたままの丸太材が多く用いられている。下部は敷設方向がN - 40° - E で、柱や梁などの建築用材が転用されている。したがって、二時期の使用面が想定できる。

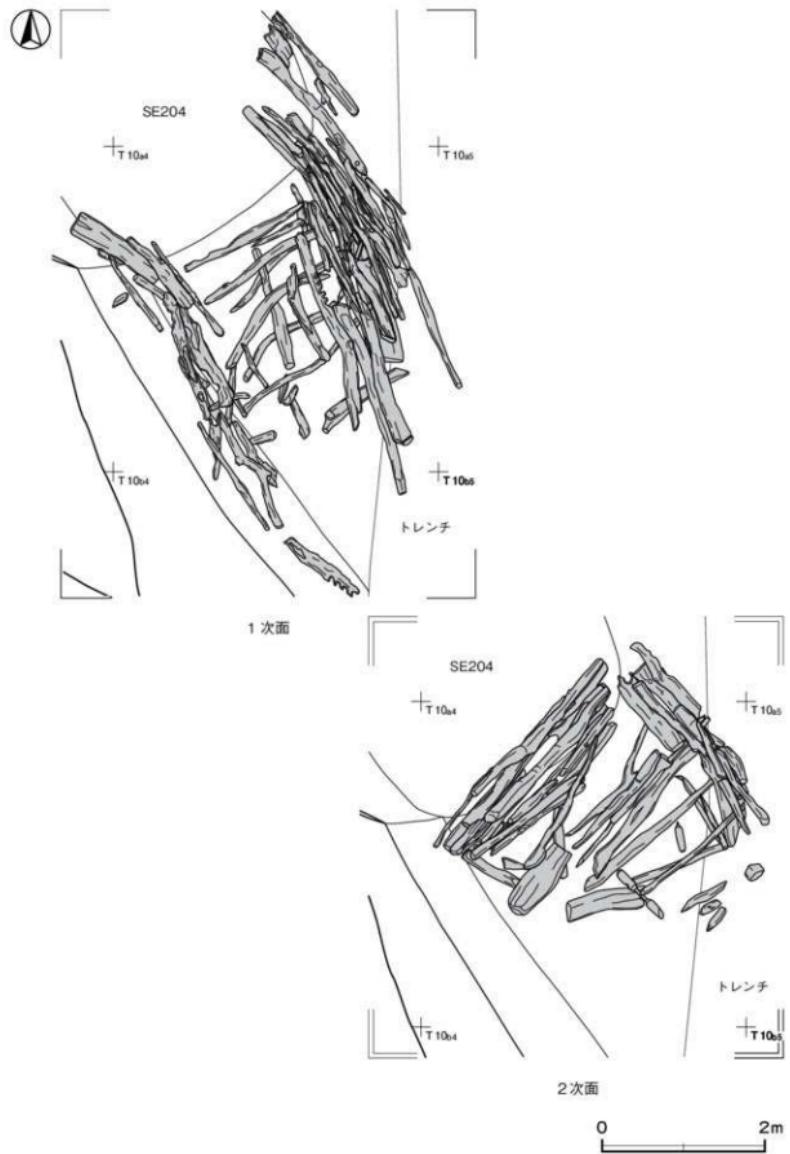
覆土 上層がオリーブ黒色粘質土、下層が黒色粘土を主体とした自然堆積である。当初は沼地状に滞水した状態であり、埋没が進むにつれて、一時的に地表化する湿地のような環境へと変化している。

土層解説

1 オリーブ黒色	粘質土	細砂の薄層を互層状に挟む	8 黒褐色	粘質土	燒土ブロック・炭化物・ローム粒子・繊維少
2 オリーブ黒色	粘質土	細砂少量	9 黒褐色	粘質土	繊維少
3 黒色	粘質土	粗砂少量、纖維量	10 黒褐色	粘土	常緑粘土ブロック多量
4 黄灰色	粘土	粗砂少量	11 暗オリーブ色	粘質土	燒土粒子・鉄分沈着微量
5 オリーブ黒色	粘土	粗砂微量			
6 黒色	粘土	粗砂微量			
7 黒色	粘土	常緑粘土ブロック多量			

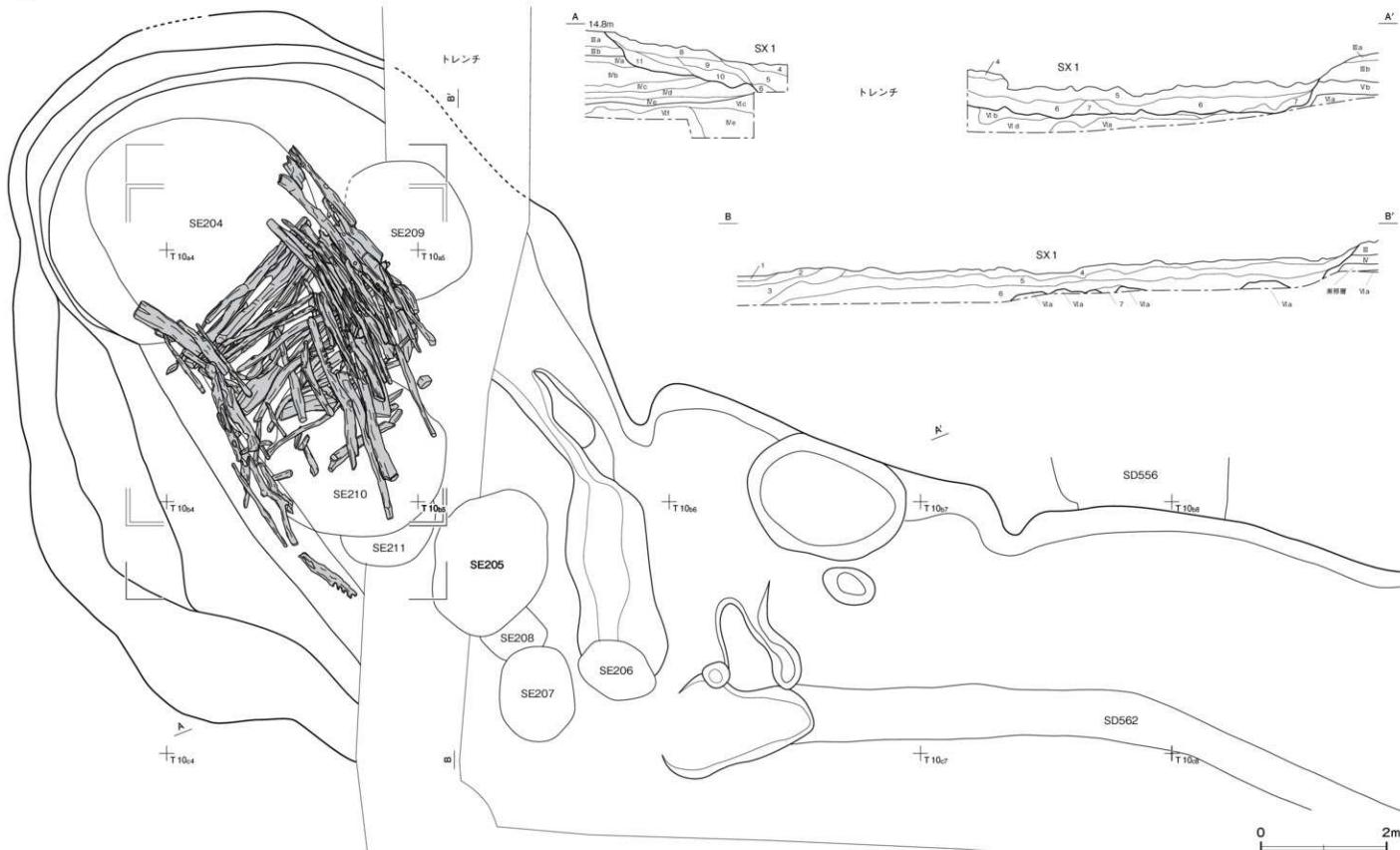
遺物出土状況 土師器 6,429 点（古墳時代坏 2,969、奈良時代坏 224、平安時代坏 15、高台付椀 4、高坏 11、皿 3、高台付皿 2、鉢 12、壺 3,182、瓶 1、手捏土器 6）、須恵器 7,873 点（古墳時代坏 31、奈良時代坏 698、平安時代坏 155、不明坏 3,894、高台付坏 318、盤 98、高盤 2、蓋 268、壺・瓶 63、鉢 107、壺 2,222、瓶 12、円面鏡 5）、土製品 5 点（土玉 1、紡錘車 1、支脚 1、羽口 2）、石器 3 点（紡錘車 1、砥石 2）、鐵滓 9 点（125.7 g）、椀状滓 1 点（287.1 g）、木器・木製品 375 点（鍊先 2、柄 4、横樋 2、堅杵 5、弓 1、横櫛 1、瓶底板 1）、挽物高台付坏 1、挽物皿 1、劔物皿 2、曲物底板 11、曲物蓋板 2、曲物瓶底板 2、曲物側板 6、曲物鏡 1、刀形 1、杭 35、荷札状木製品 2、斎弔 1、建築用材 14、加工木 280）、自然遺物 647 点（桃核 602、ヒヨウタン 12、クリ 12、クルミ 3、ヤマトシジミ 16、ハマグリ 1、鹿角 1）のほか、木組み部を中心に多数の木材が出土している。また、漆付着土器 3 点（須恵器坏）、油煙付着土器 6 点（須恵器坏 5、須恵器高台付坏 1）、墨書き土器 367 点、転用鏡 2 点（須恵器高台付坏）が出土している。墨書き土器は、「麻」「麻生」「下麻主」「井上」「器」「大家・田前」「大多口」「小栗」「夫」「可」「川」「子上山／口」「上口（山）」「佐」「鷦」「鳴名」「鳴名・邑」「什」「城」「城内」「新」「新・鳴」「新殿」「千万」「大万」「宅」「多前」「田前」「中家」「長口」「楓」「寺」「十（朱墨）」「淡水」「万」「邑」「邑・名」「山人」「山山」「禾」「冊」などの文字が確認できる。平面的な分布状況は、いずれの器種も西部の T 10a4 区から中央部の T 10c7 区にかけて出土量が多く、特に木組み部の南部、T 10b4 区周辺が最も密である。一方、東部は下流部ほど疎らになっており、T 10b8 区以東ではほとんど遺物が出土していない。時期別には、上層から 9 世紀前葉、下層から 8 世紀中葉～後葉の土器が出土しており、自然堆積の状況で継続的に廃棄されている。また、7 世紀前葉～8 世紀前葉の土師器坏は、北・南部の肩部周辺からまとめて出土している。本来、第 205～209・211 号井戸跡、第 562 号溝跡などに帰属していたものと考えられ、本跡の構築時に肩部に堆土とともに掘り出されたものが流れ込んだ可能性がある。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、構築時期が 8 世紀中葉、廃絶時期が 9 世紀前葉にそれぞれ比定できる。本跡の変遷については、木組み部の構築前後に大別できる。木組み部の構築以前は、覆土下層から第 212 号井戸跡と同時期の土器が出土していることから、第 212 号井戸跡と同時に機能していたと考えられる。木組み部は、第 212 号井戸跡の上部に位置していることから、軟弱な足場を強化し、壁の崩落を防ぐために敷設されたと考えられる。また、北西部を掘り込んでいる第 204 号井戸は、井戸枠の寸法から作り替えの状況がうかがえる。したがって、木組み部の構築以後は、第 204 号井戸の前身となる井戸とともに機能していたと考えられ、木組み部がその作業場であった可能性がある。本跡の性格は、井戸からの湧水が本跡を通じて流れしていく水場と捉えることができ、多量の墨書き土器や木製品が出土していることから、水場を利用した祭祀の場であったと考えられる。



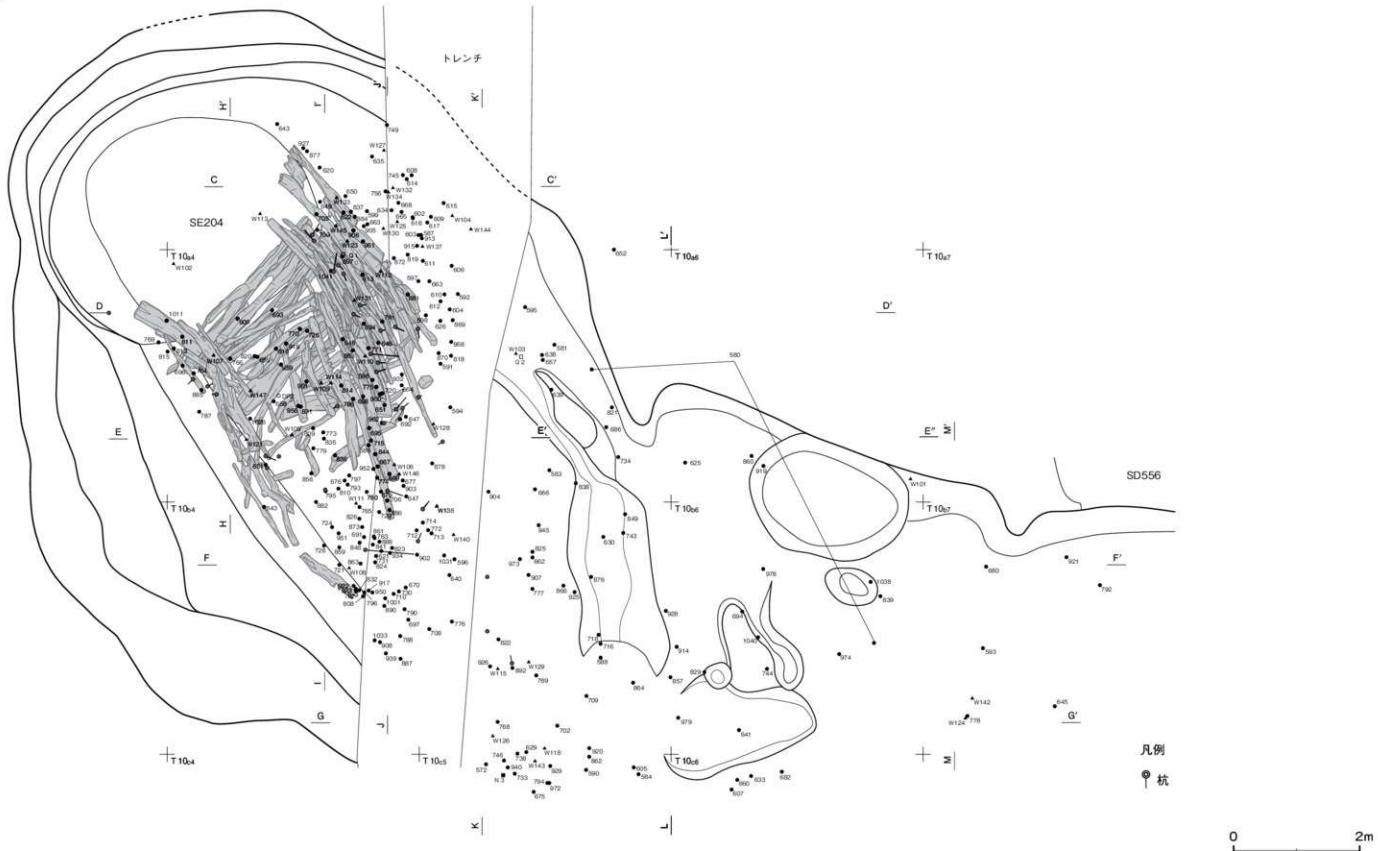
第83図 第2号遺物集中地点実測図(1)

Ⓐ

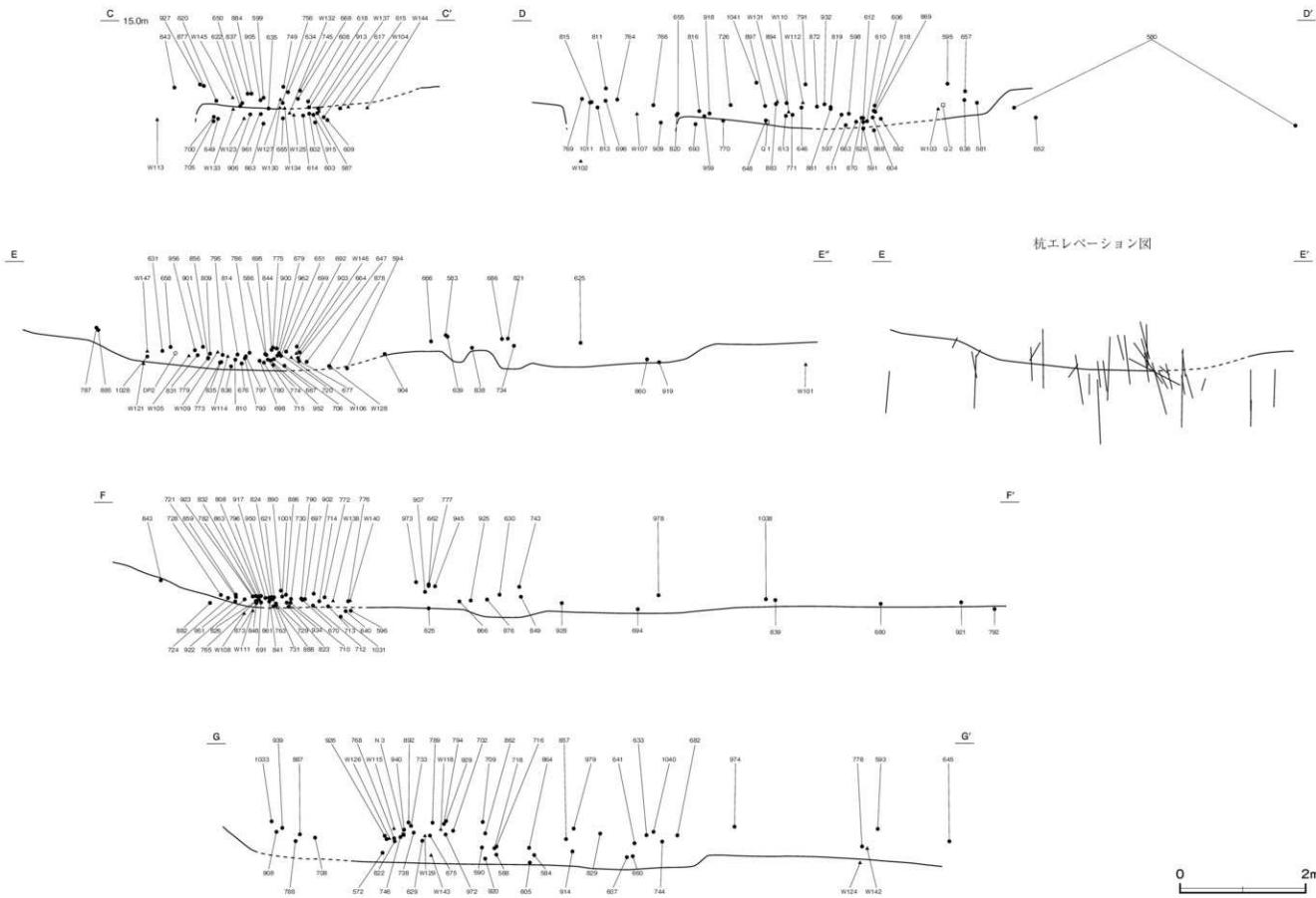


第84図 第2号遺物集中地点実測図(2)

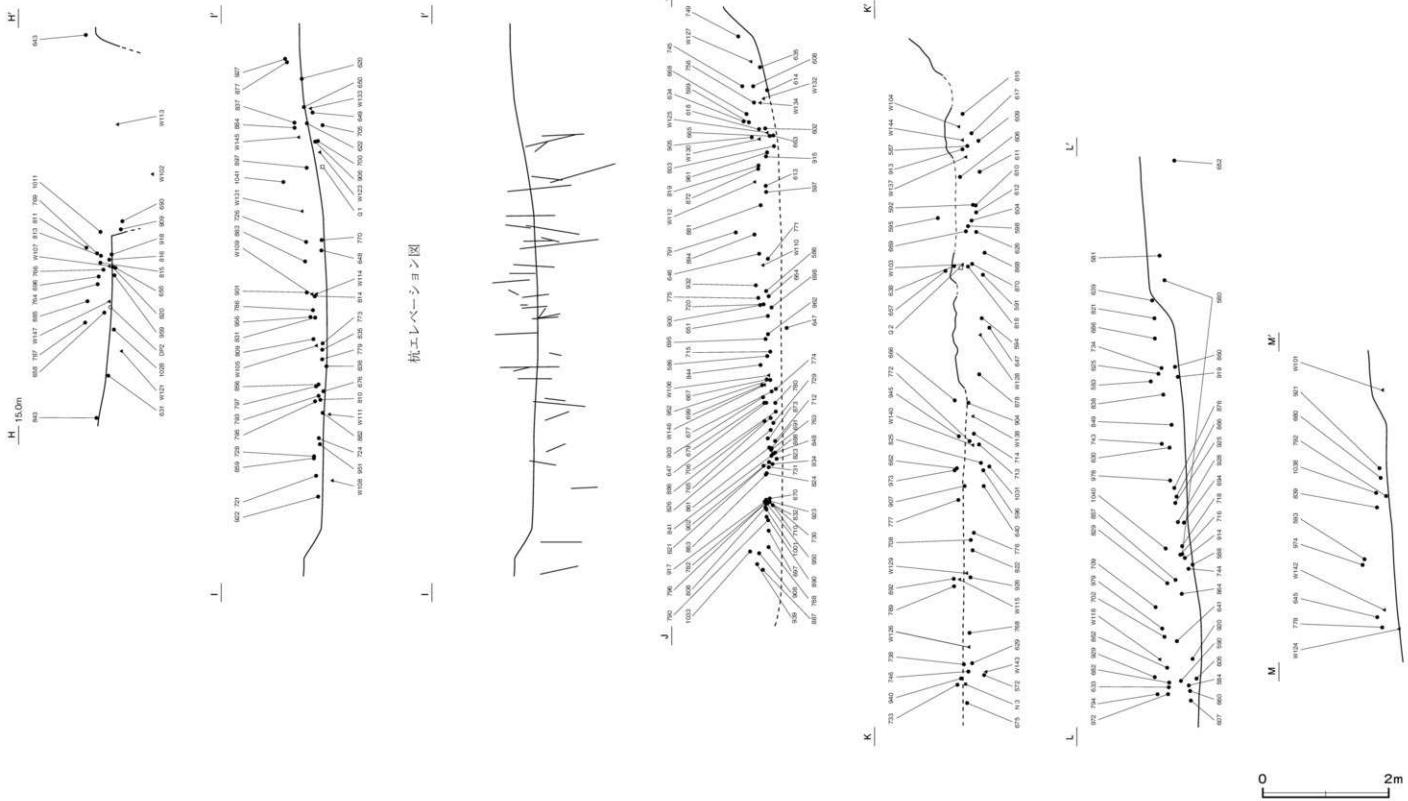
Ⓐ



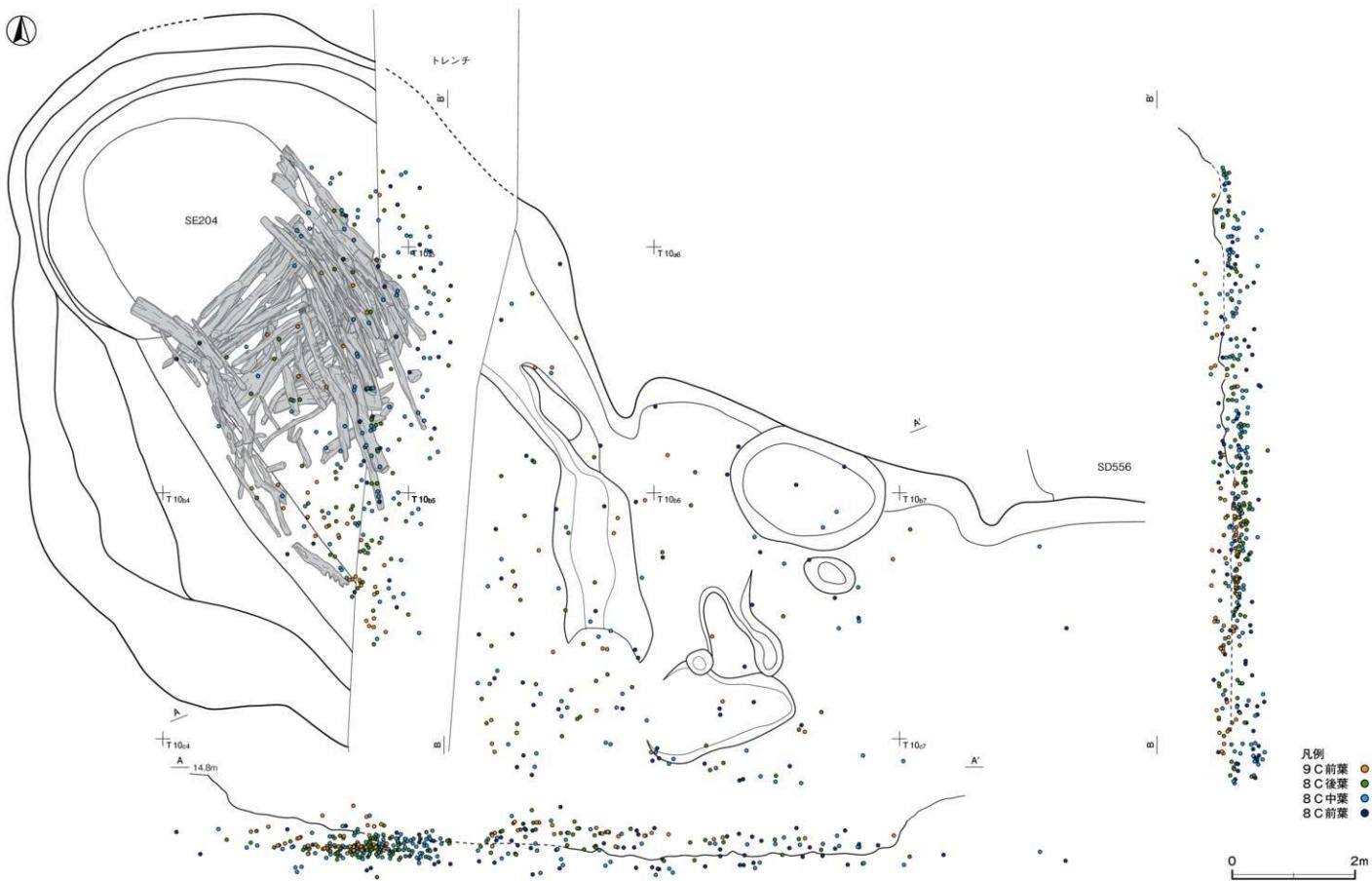
第85図 第2号遺物集中地点遺物出土状況図(1)



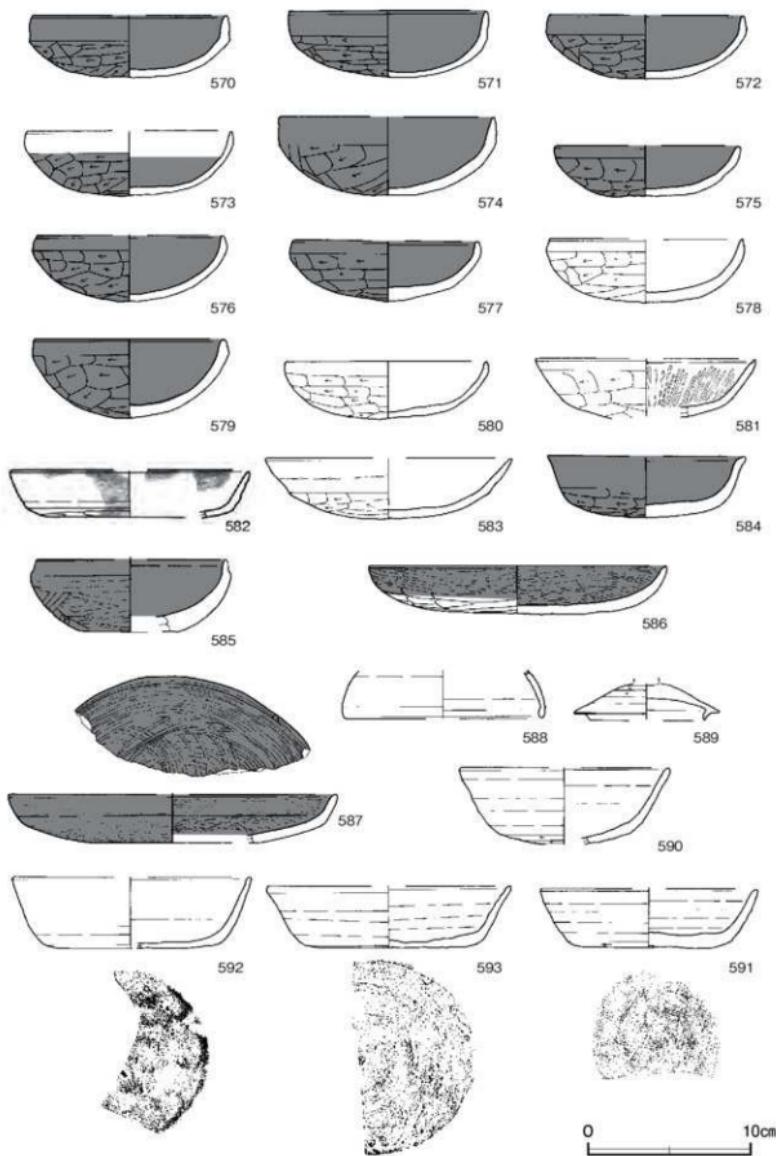
第86図 第2号遺物集中地点遺物出土状況図(2)



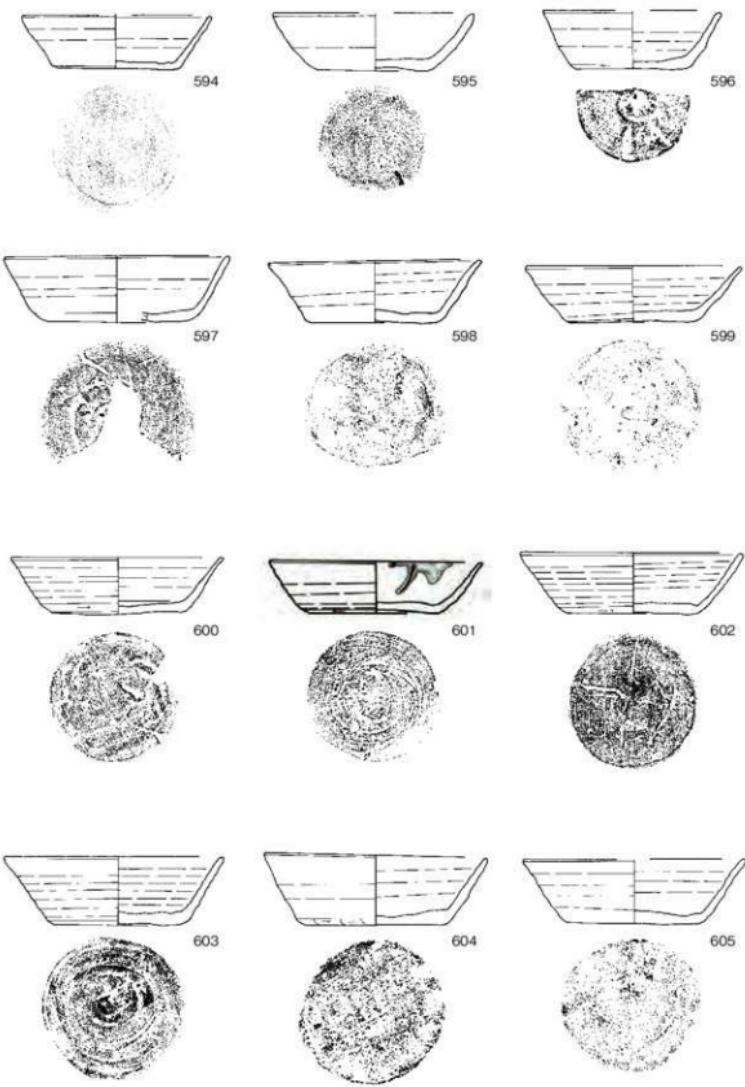
第87図 第2号遺物集中地点遺物出土状況図(3)



第88図 第2号遺物集中地点遺物出土状況図(4)

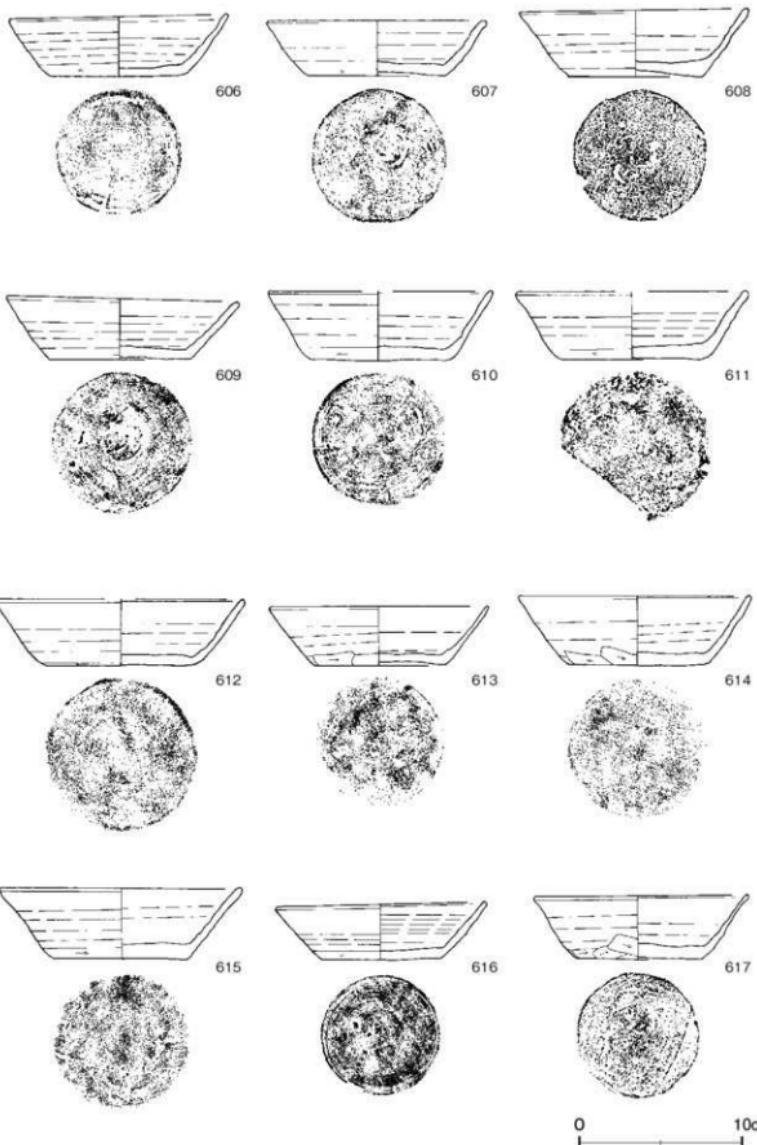


第89図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(1)

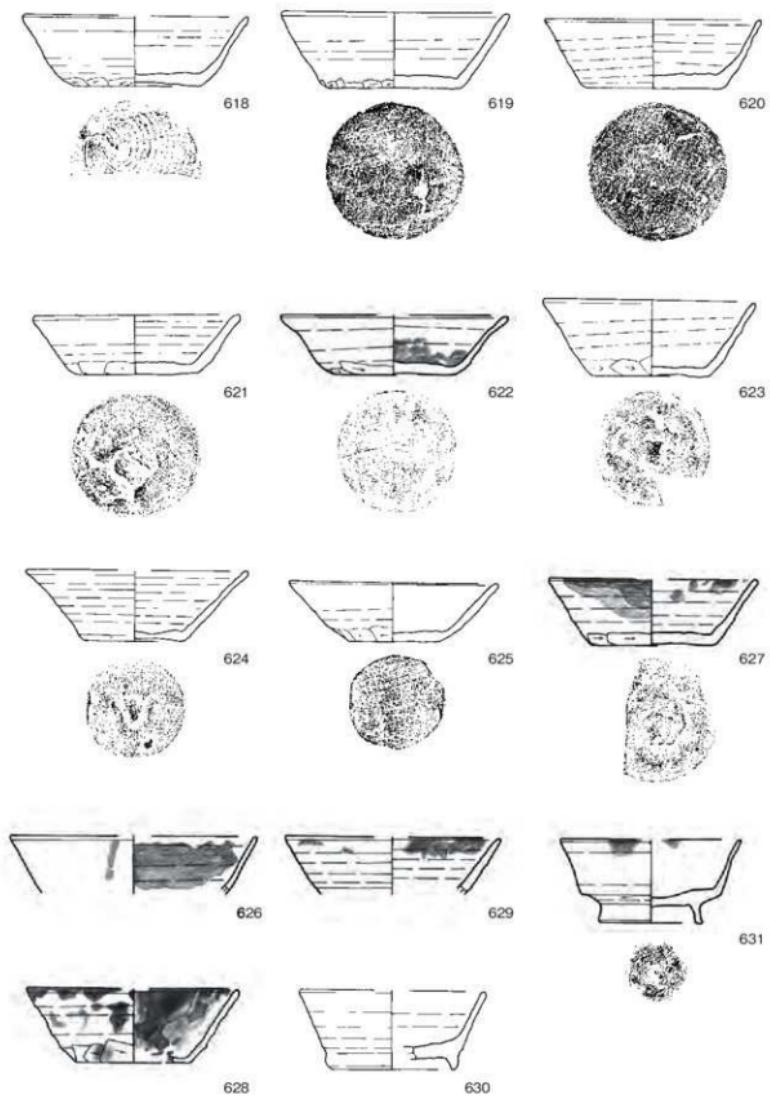


0 10cm

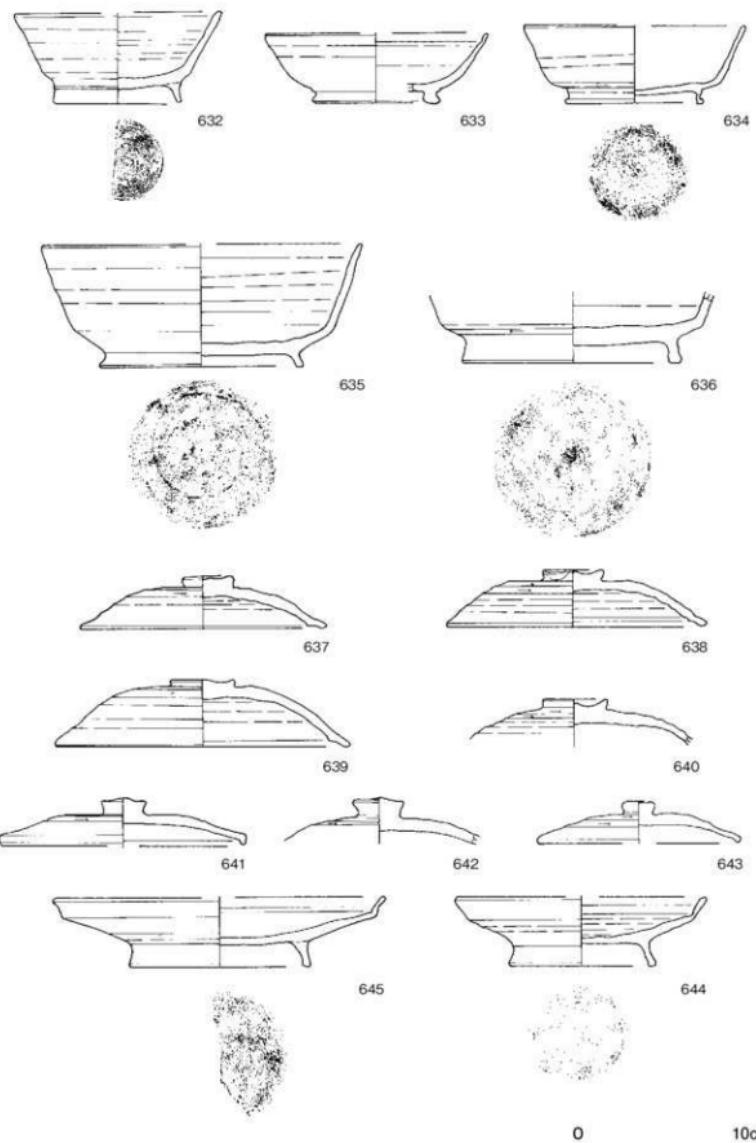
第90図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(2)



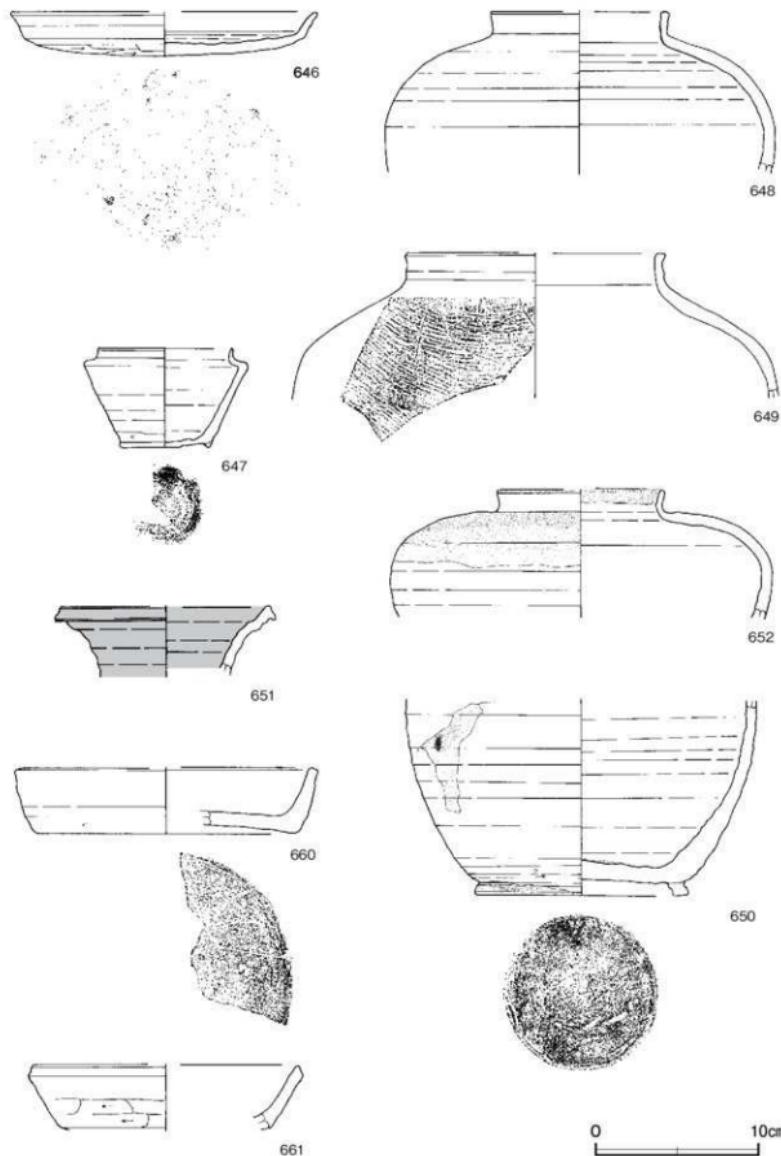
第91図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(3)



第92図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(4)



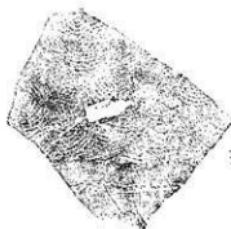
第93図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(5)



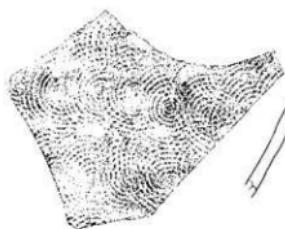
第94図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(6)



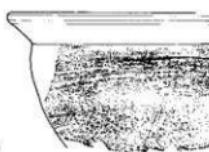
653



654



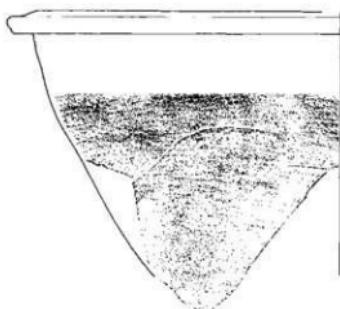
655



656



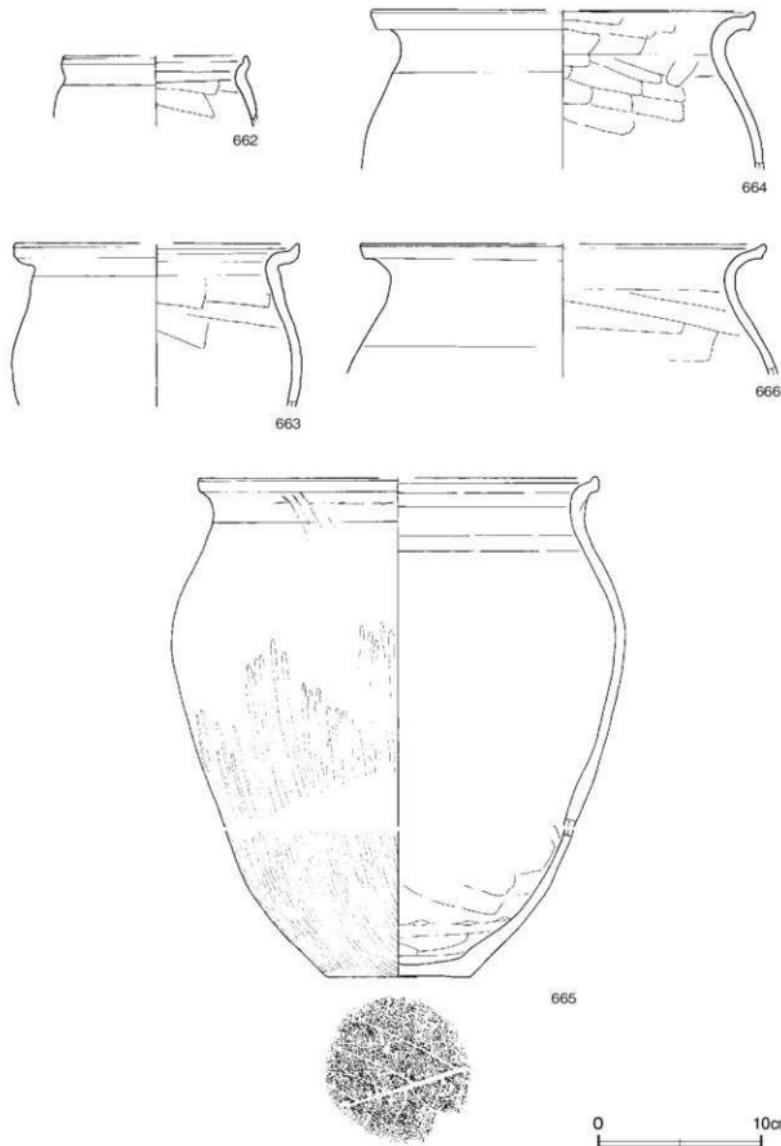
658



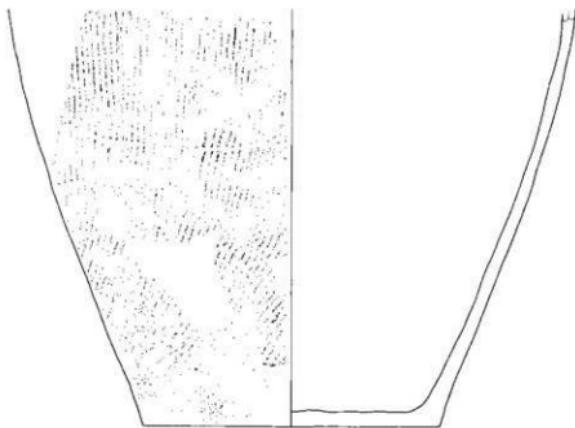
657



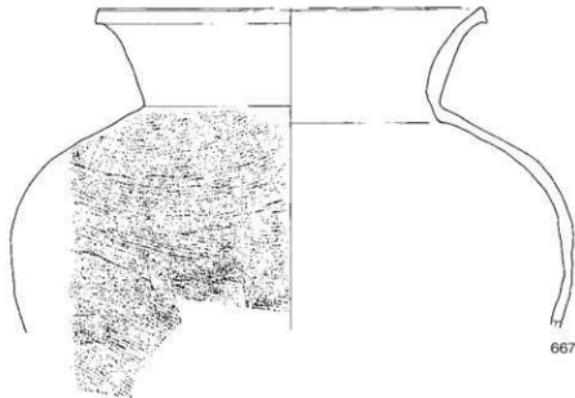
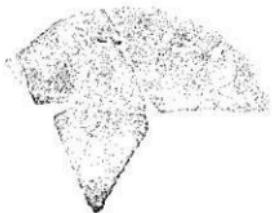
第95図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(7)



第96図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(8)



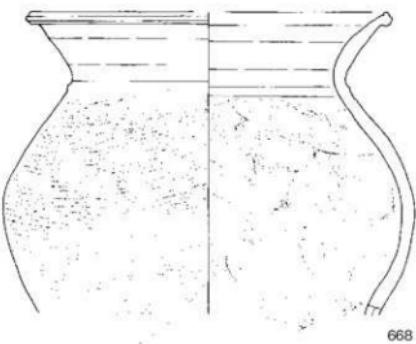
659



667



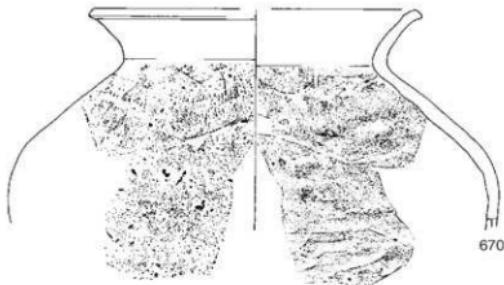
第97図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(9)



668



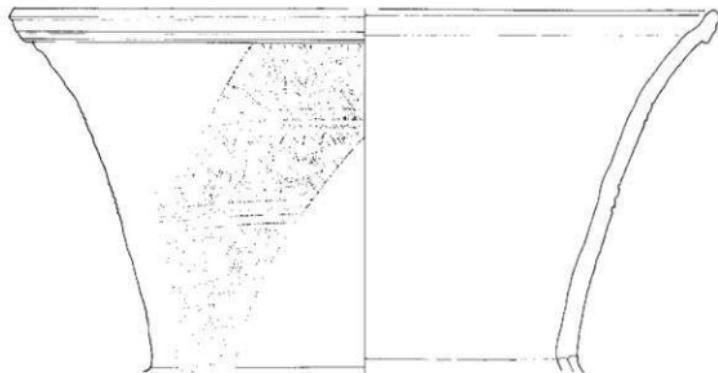
669



670



第98図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(10)



671



672



673



674



675



676



677



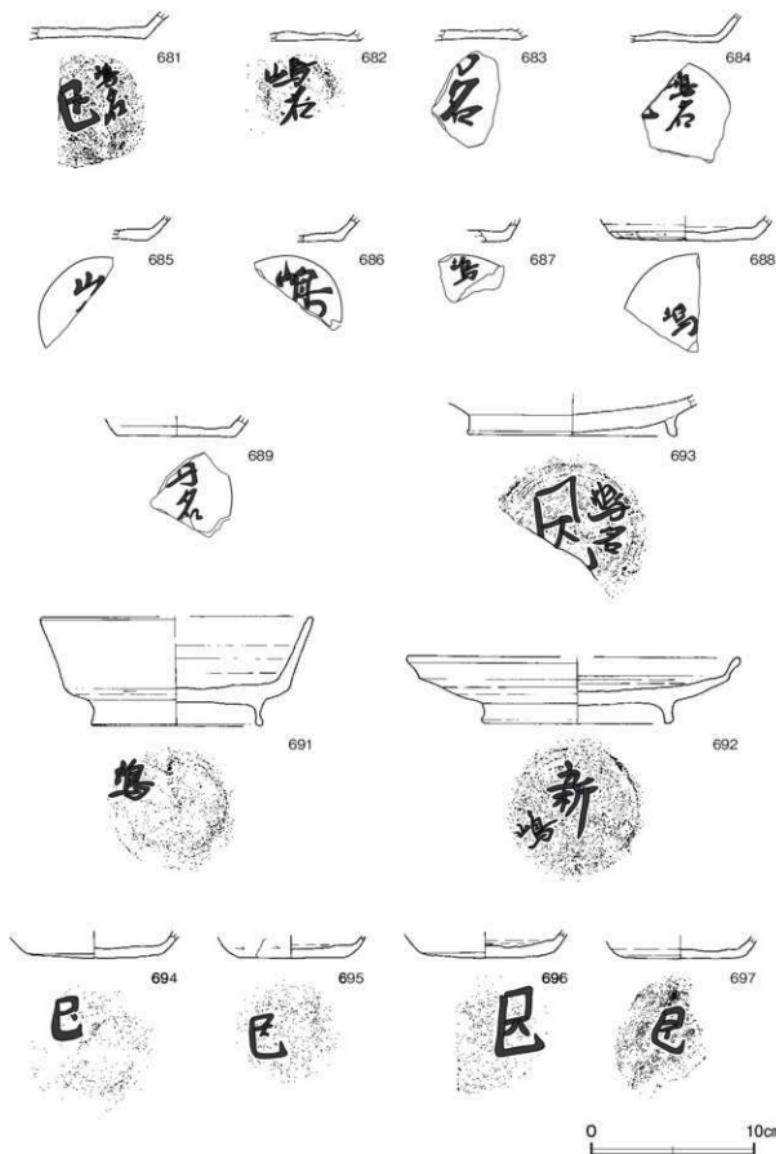
678

679

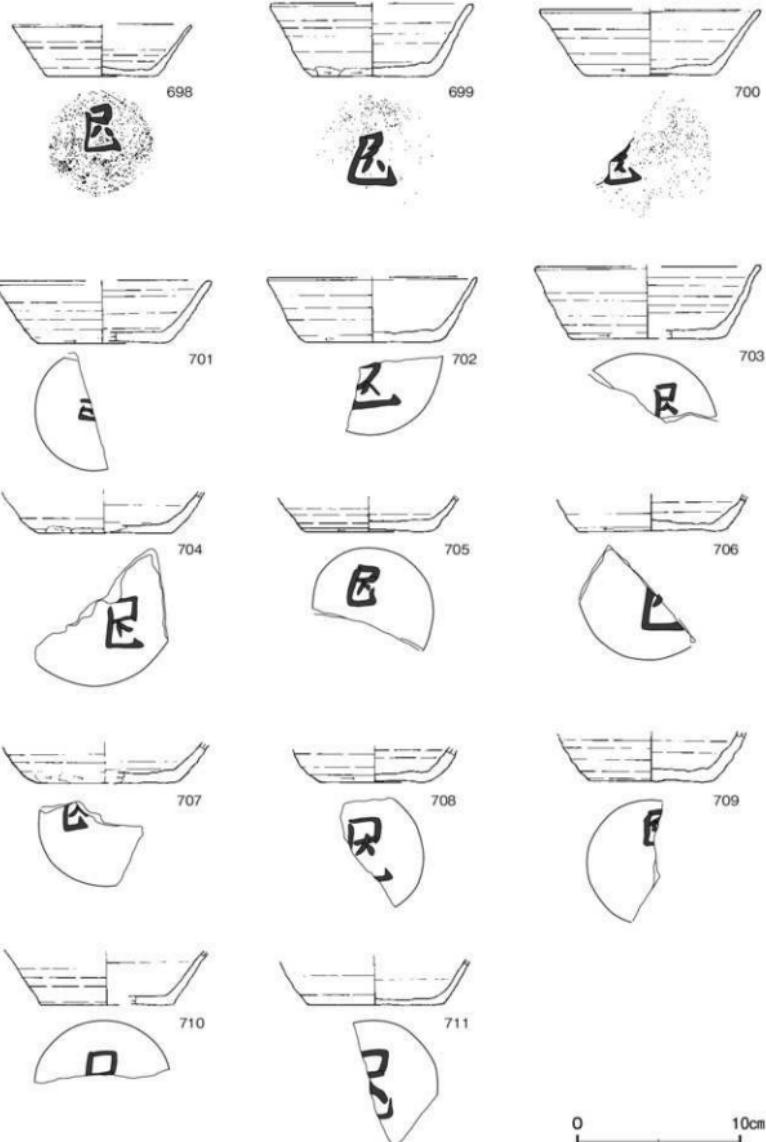
680

0 10cm

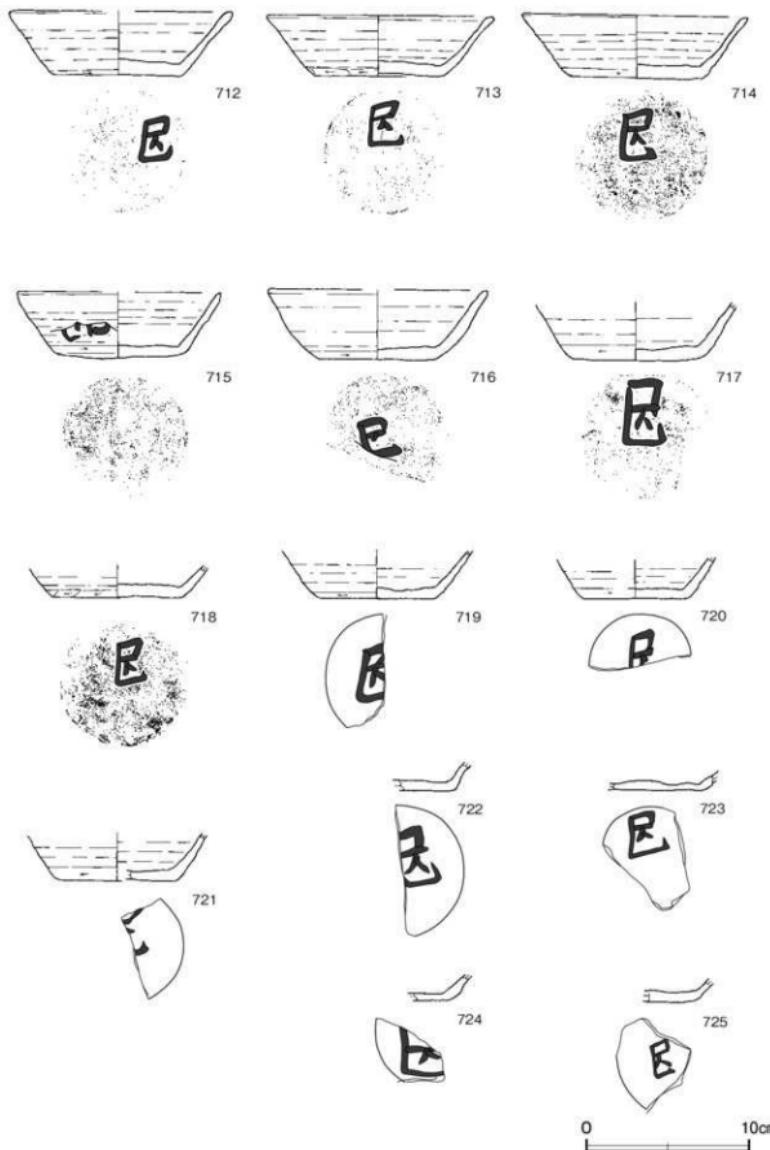
第99図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(1)



第100図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図 02



第 101 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 03



第102図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図 04



726

727

728



729



730



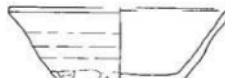
731



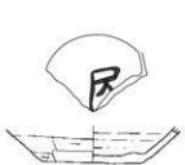
732



733



734



736



737



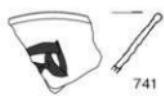
738



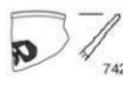
739



740



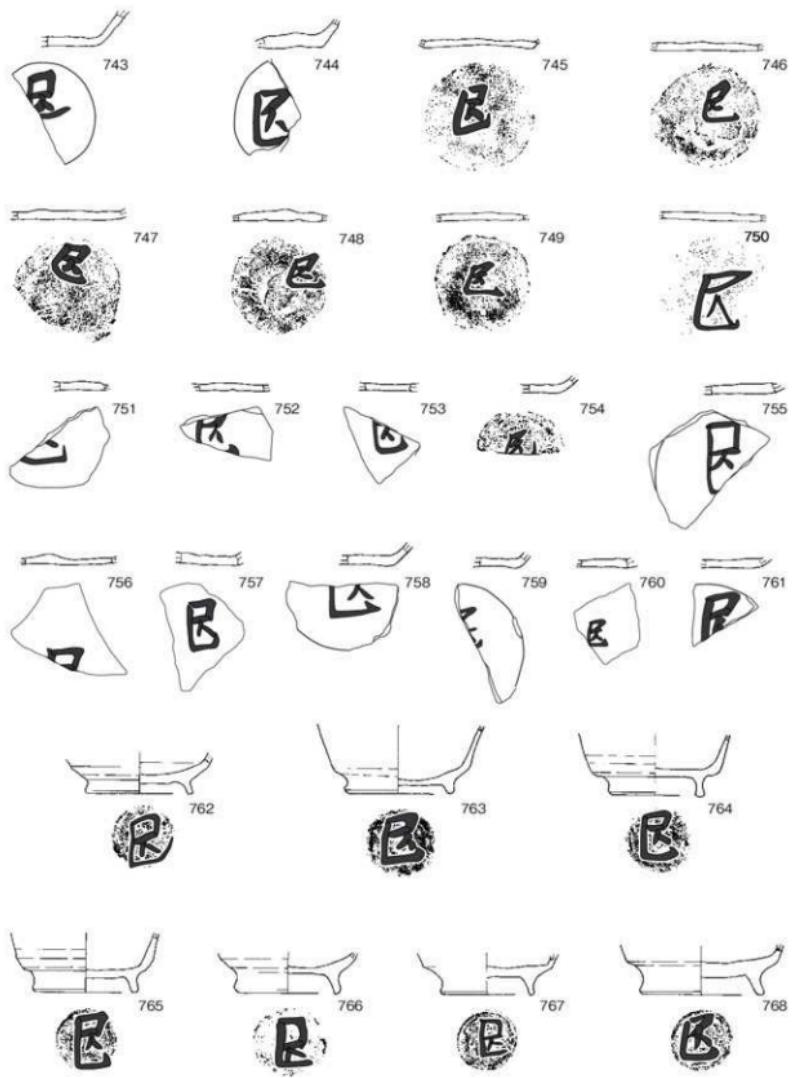
741



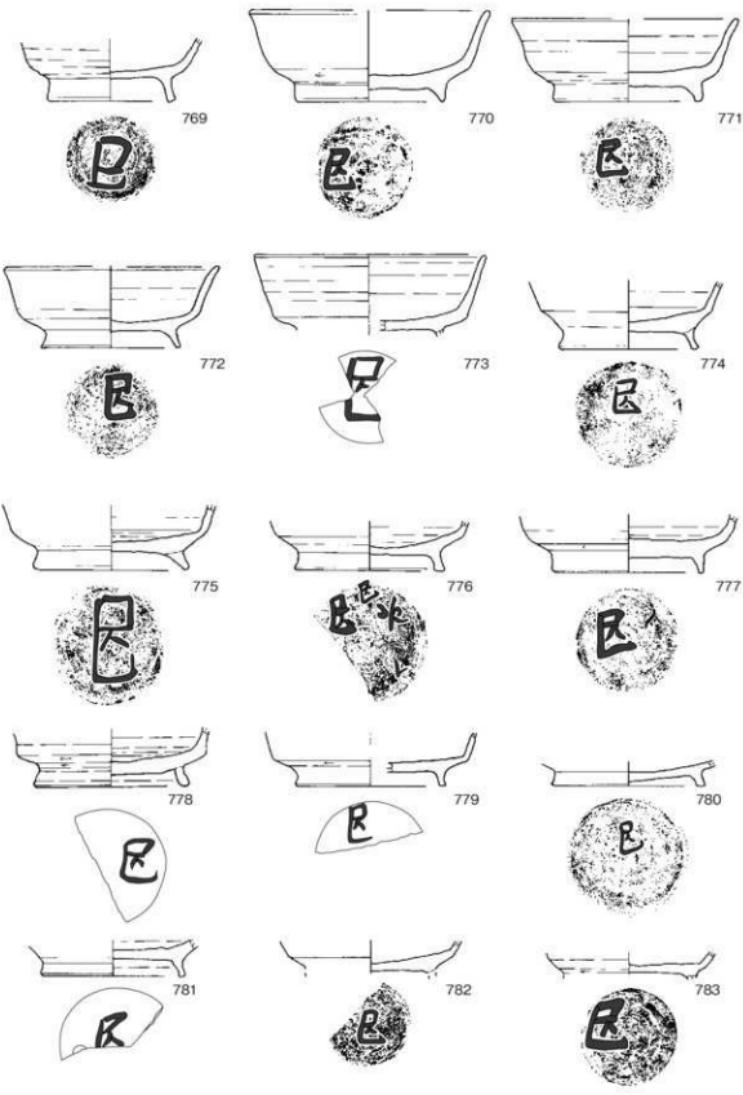
742



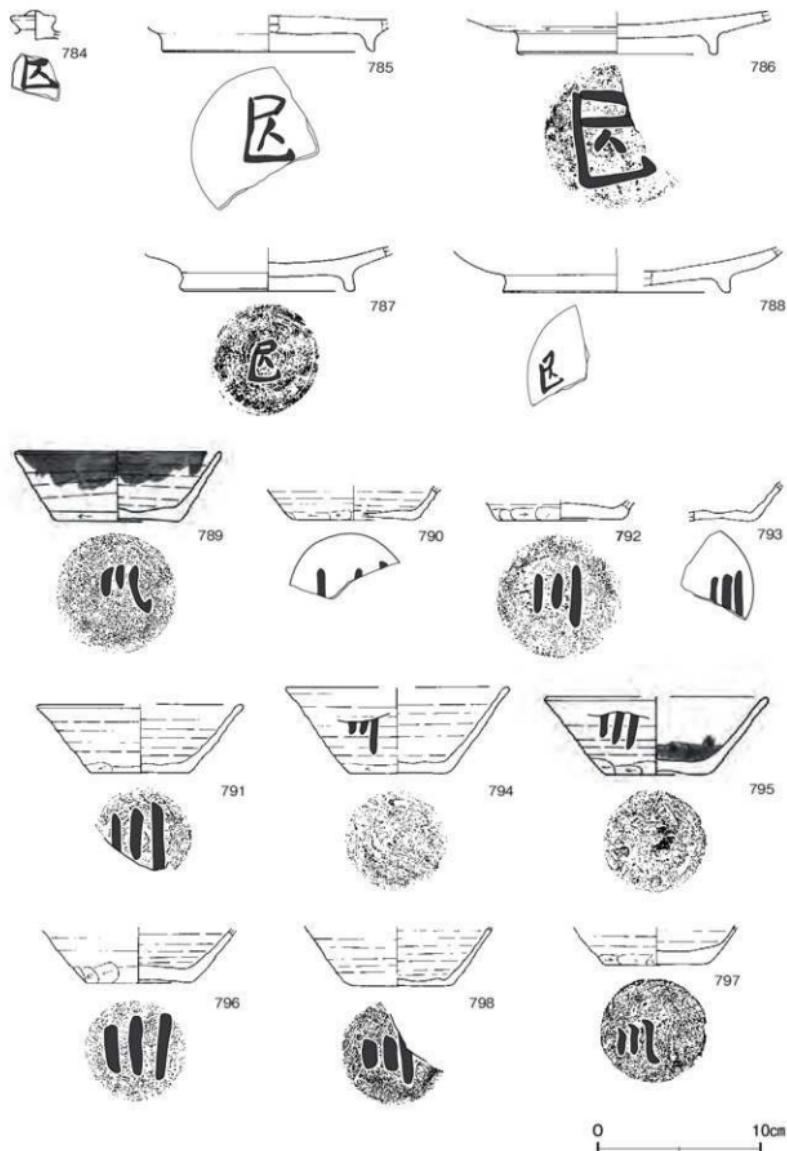
第 103 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 05



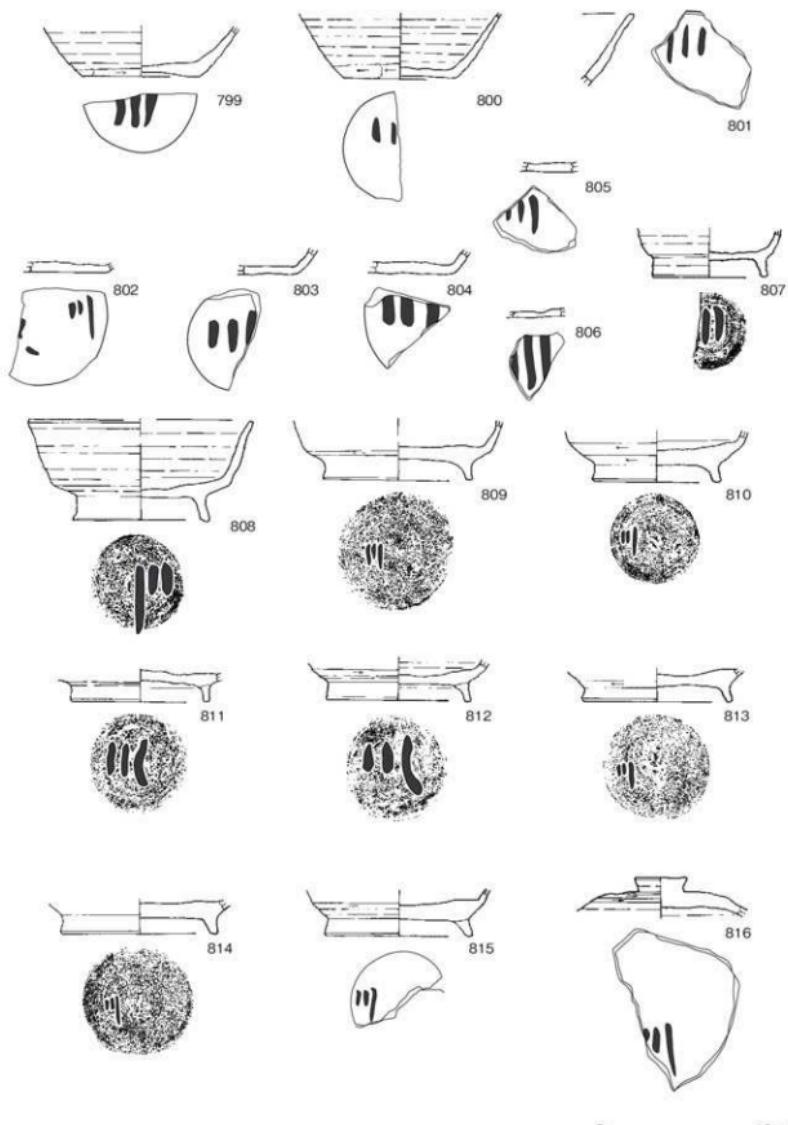
第104図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図 06



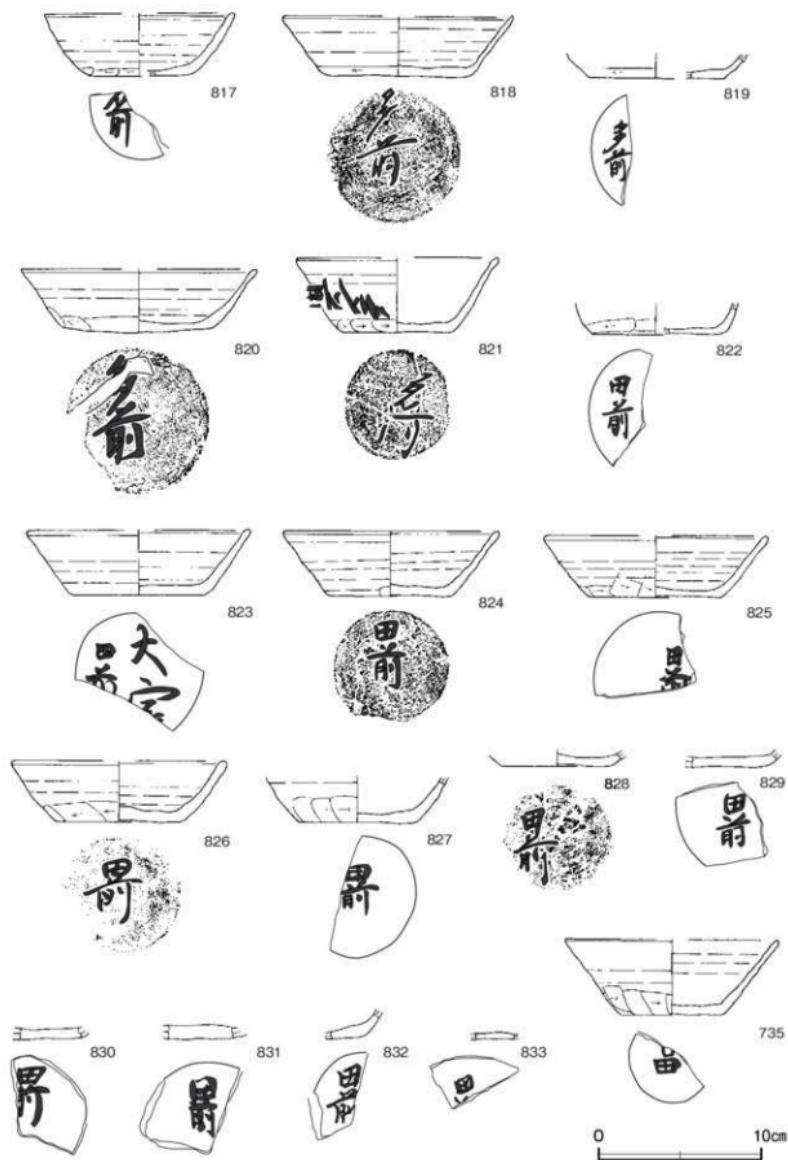
第 105 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 (1)



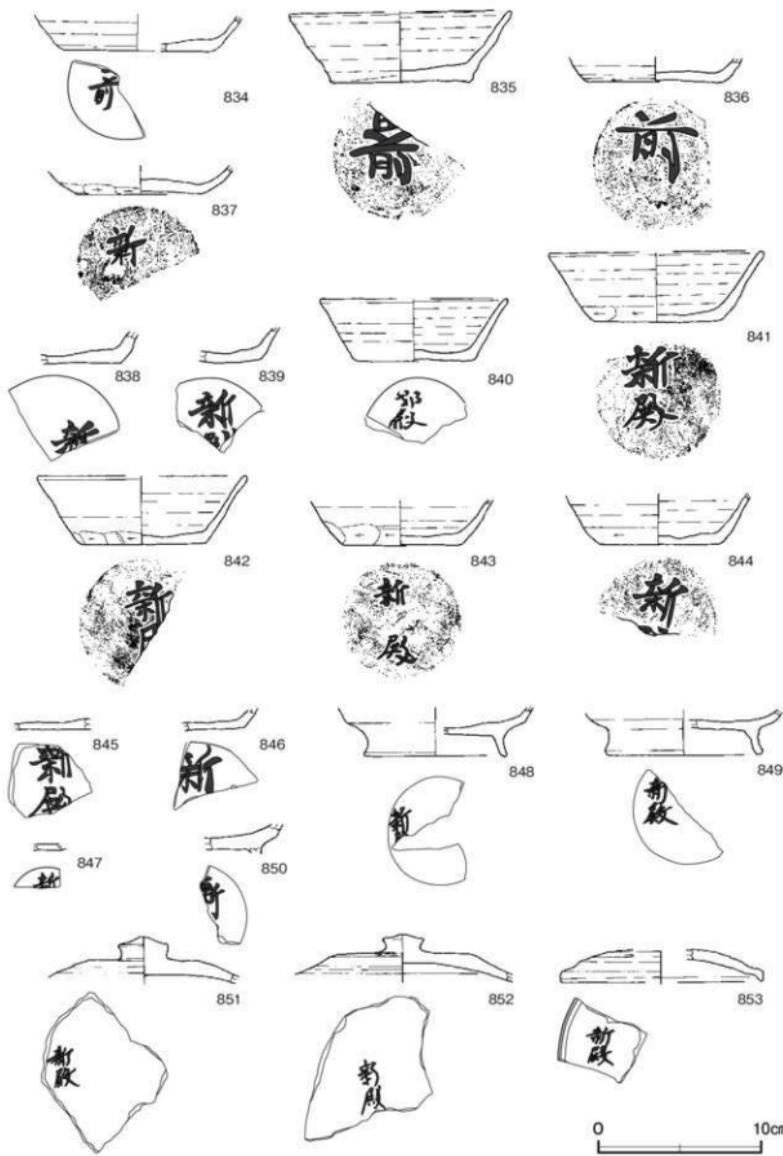
第106図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図 08



第 107 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 09



第 108 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 (20)

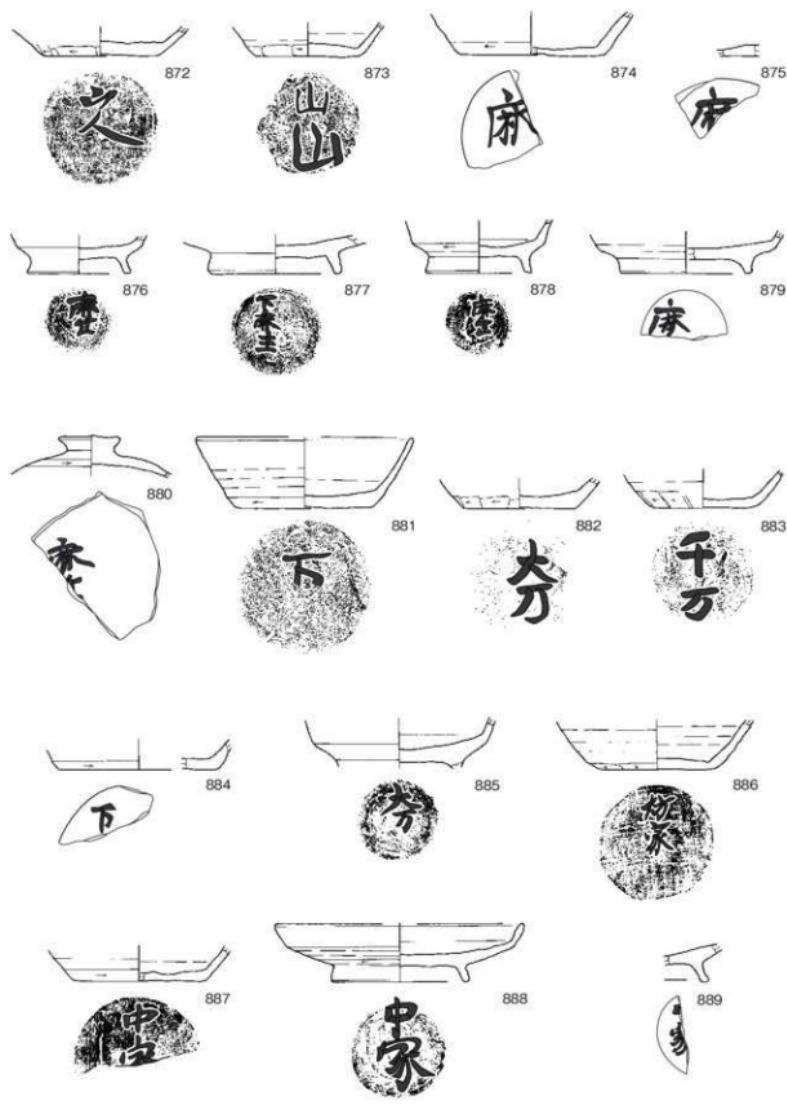


第 109 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 (21)

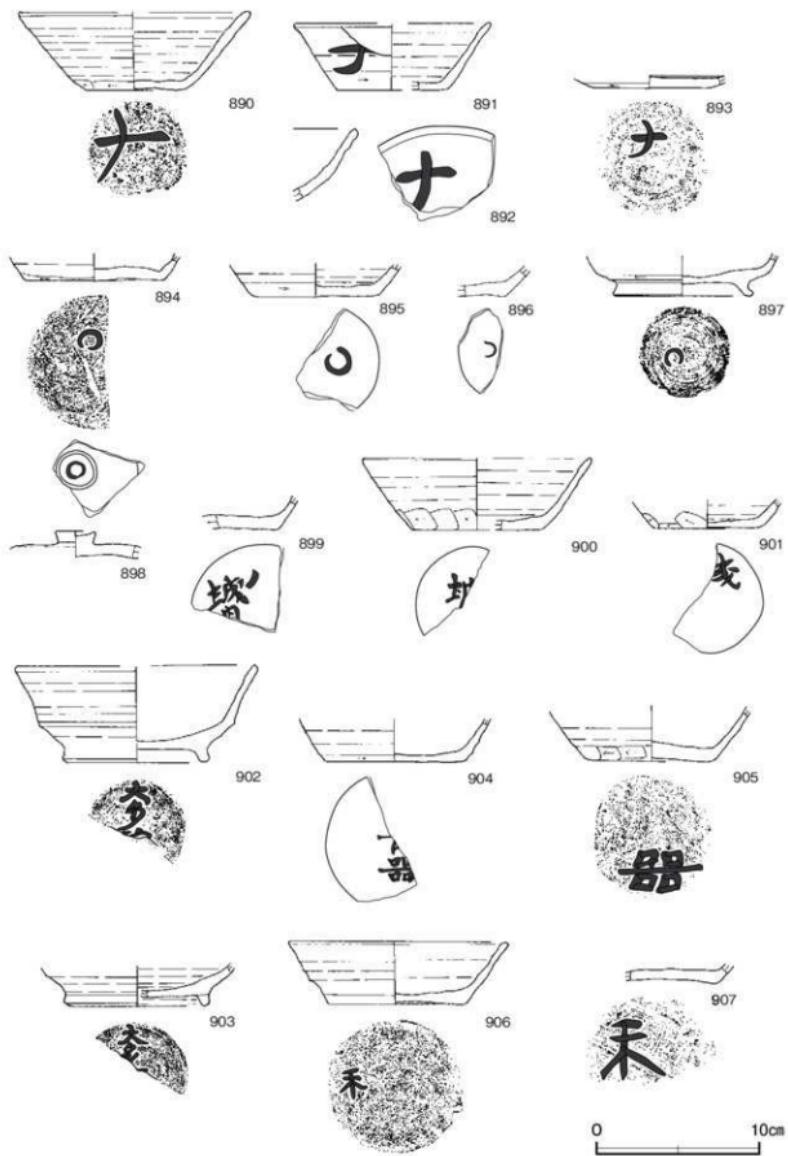


0 10cm

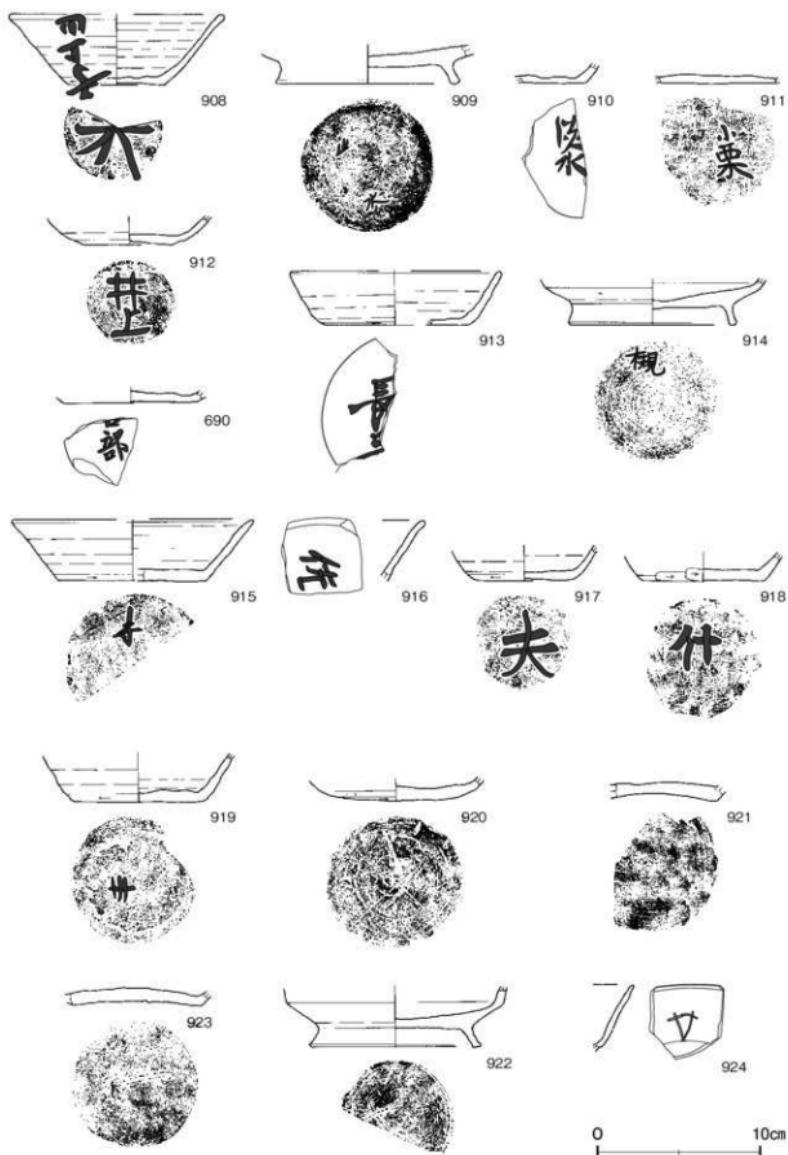
第110図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(22)



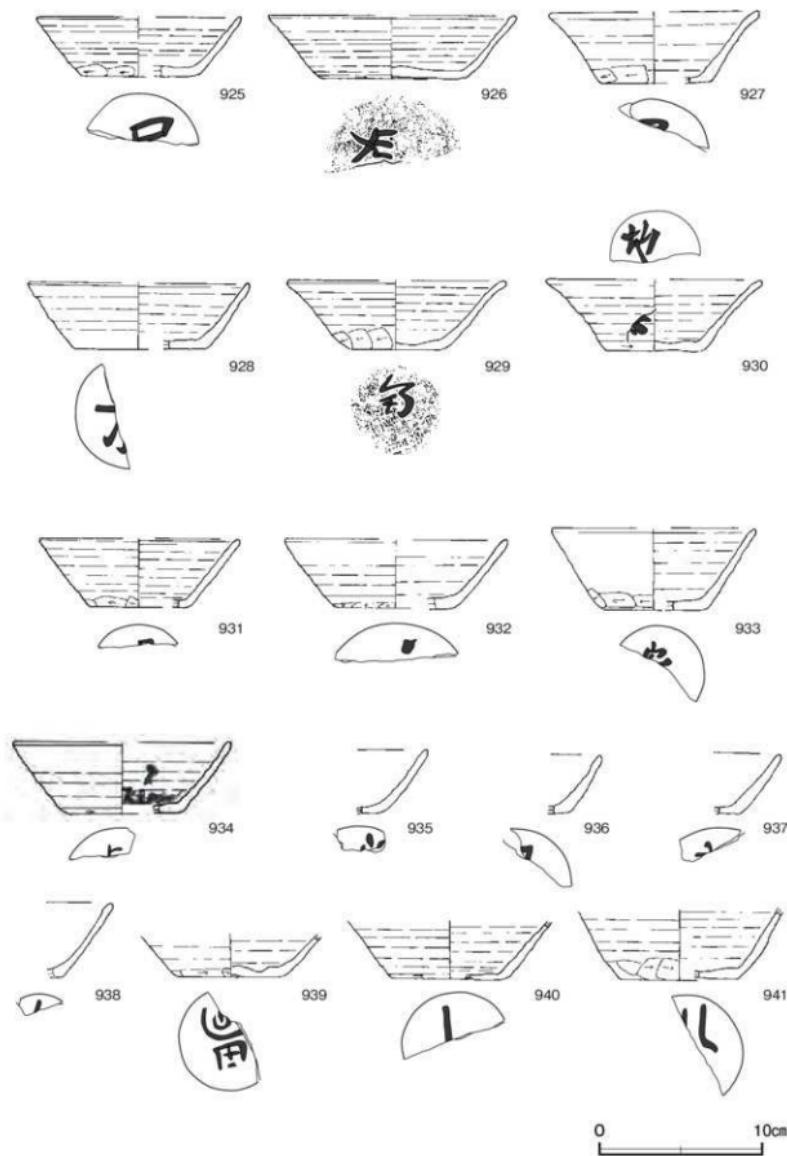
第 111 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 (23)



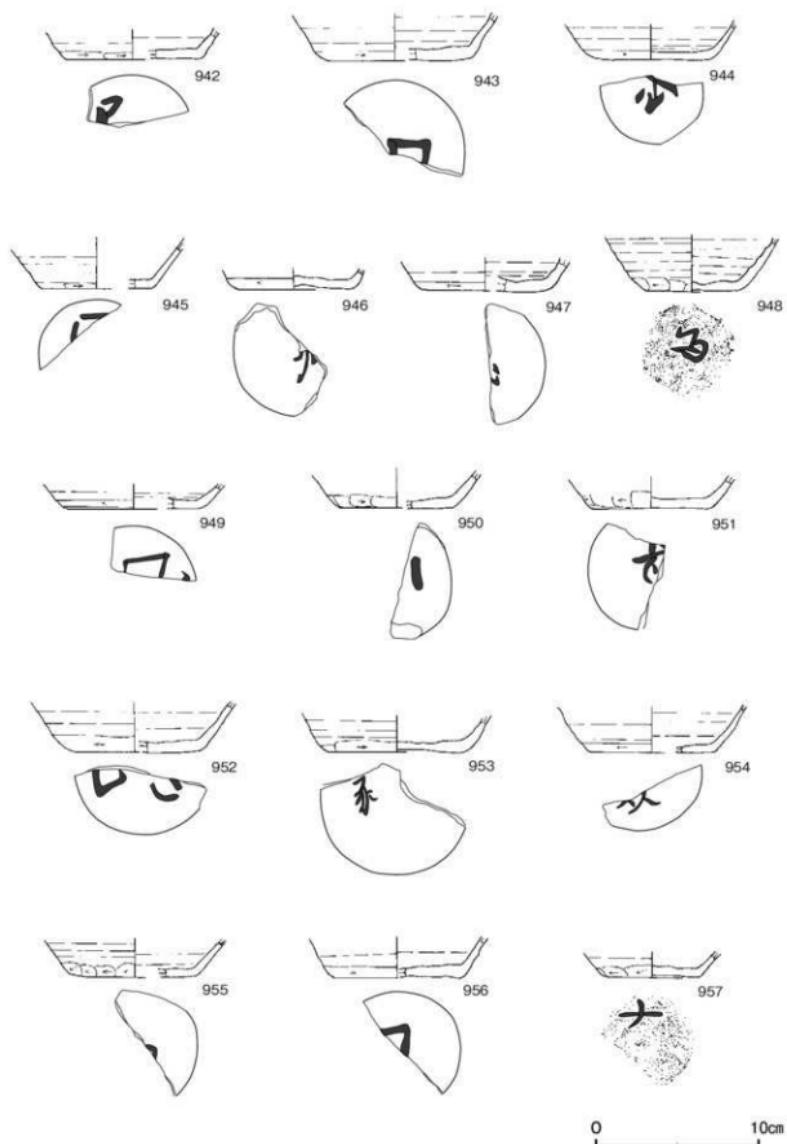
第112図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(24)



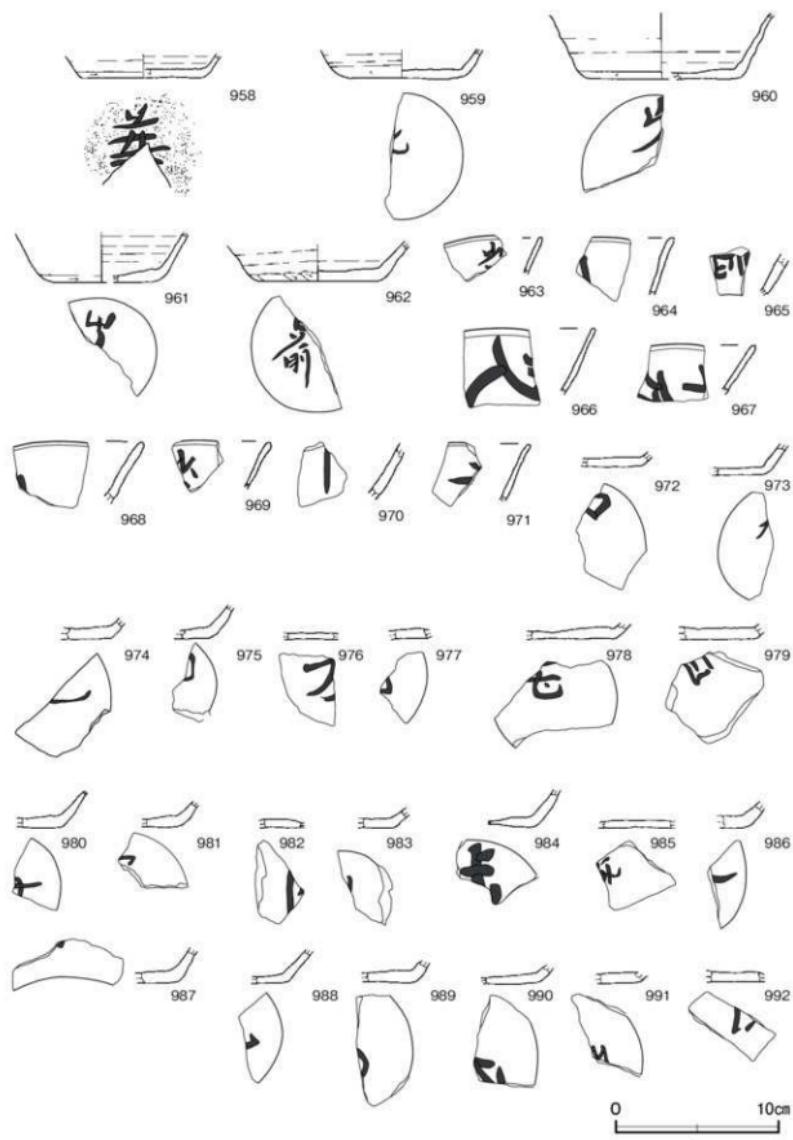
第 113 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 (25)



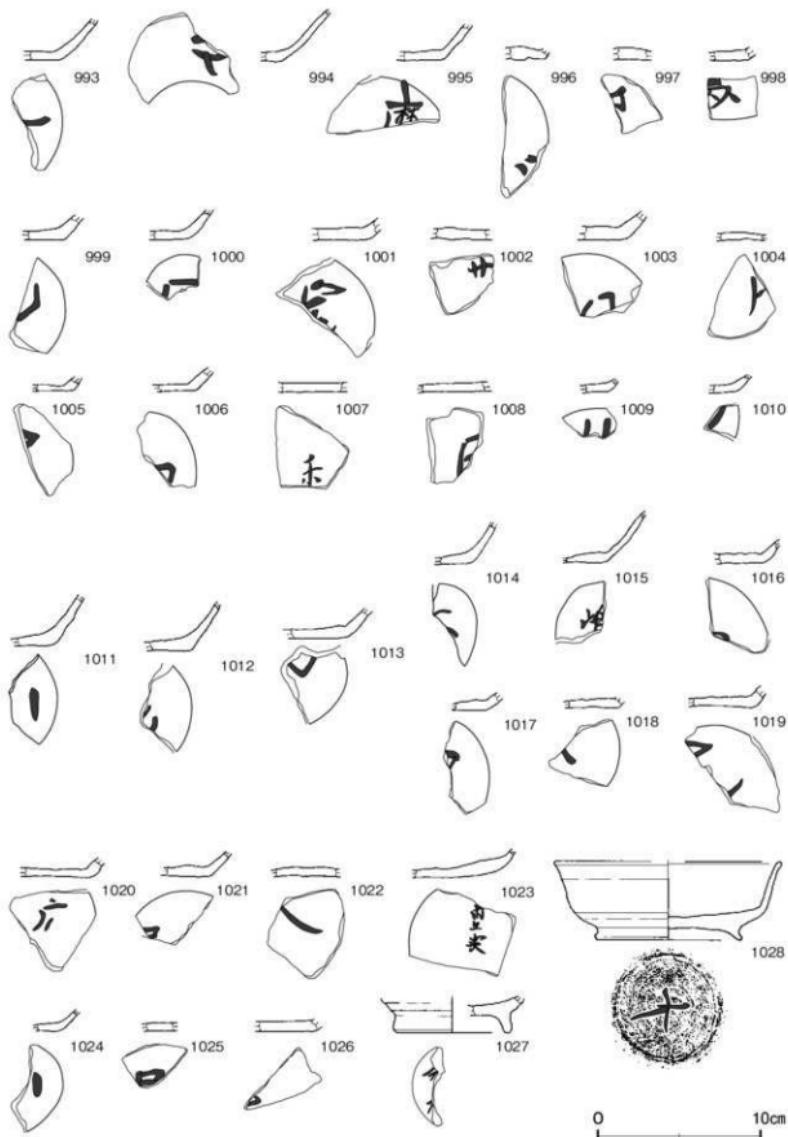
第114図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(26)



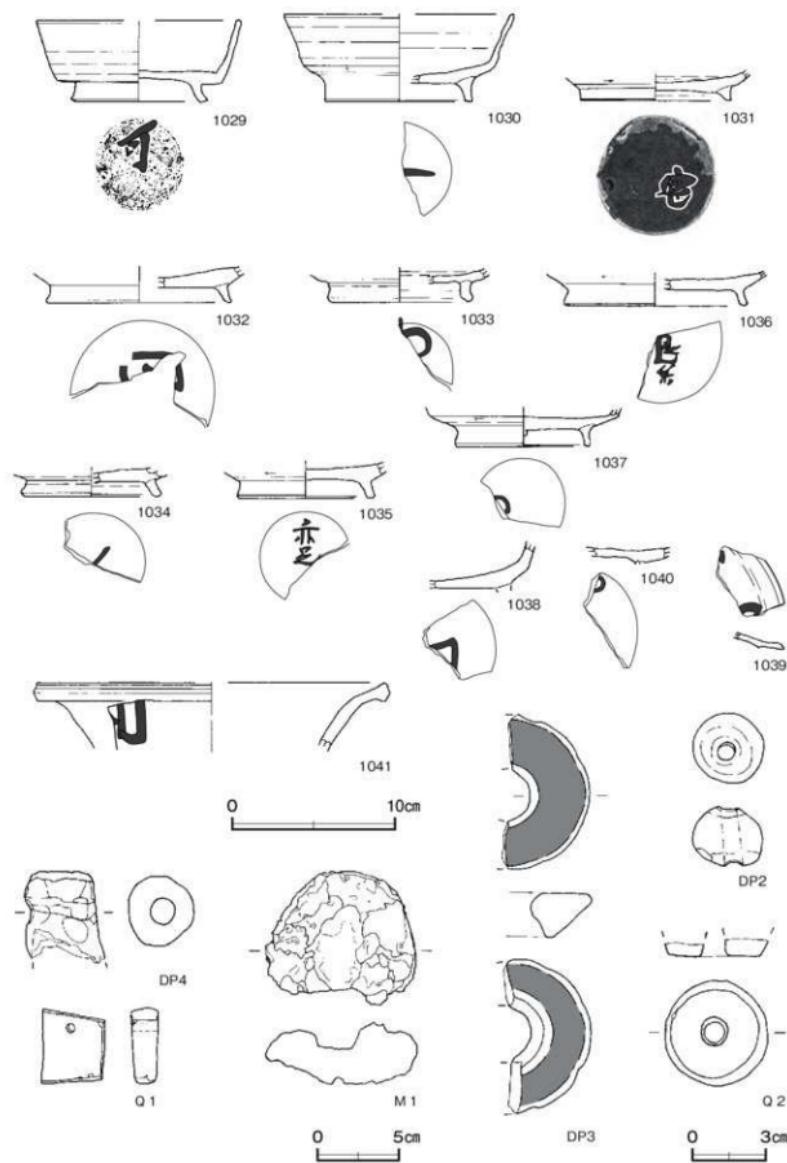
第115図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(27)



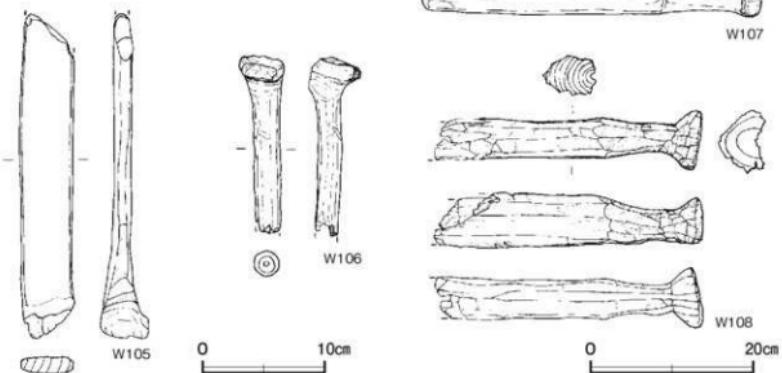
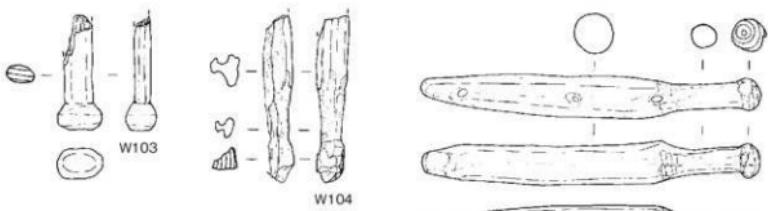
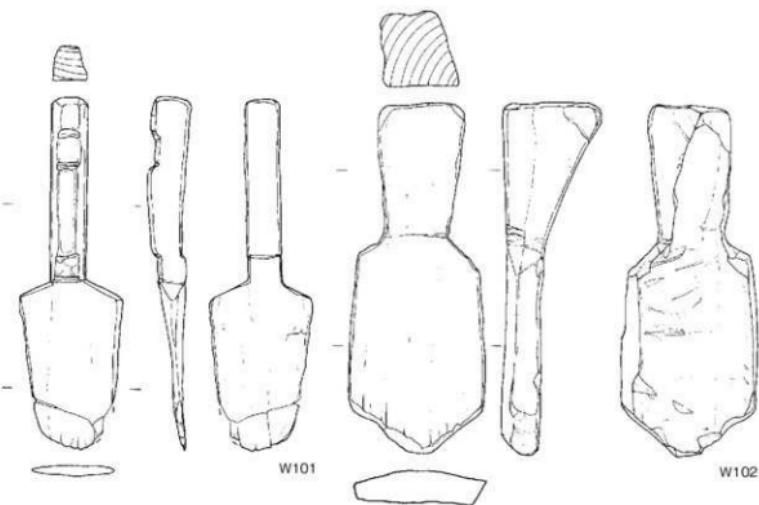
第116図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(28)



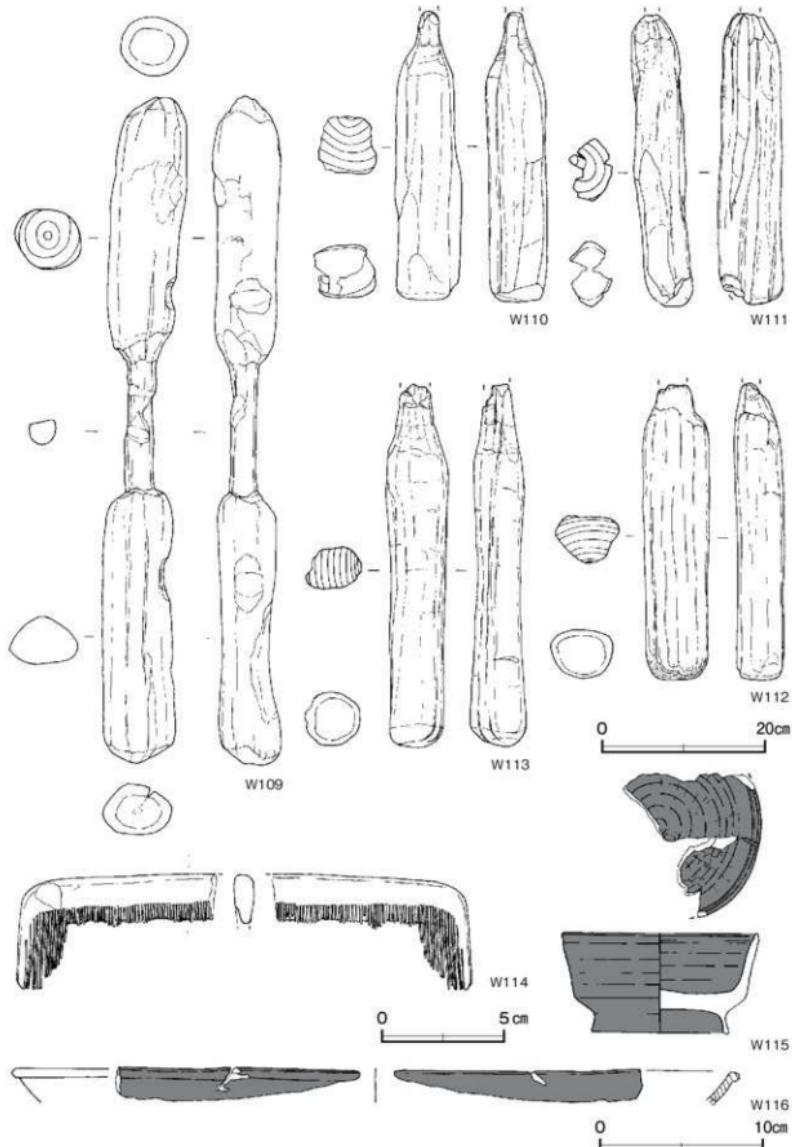
第 117 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 (29)



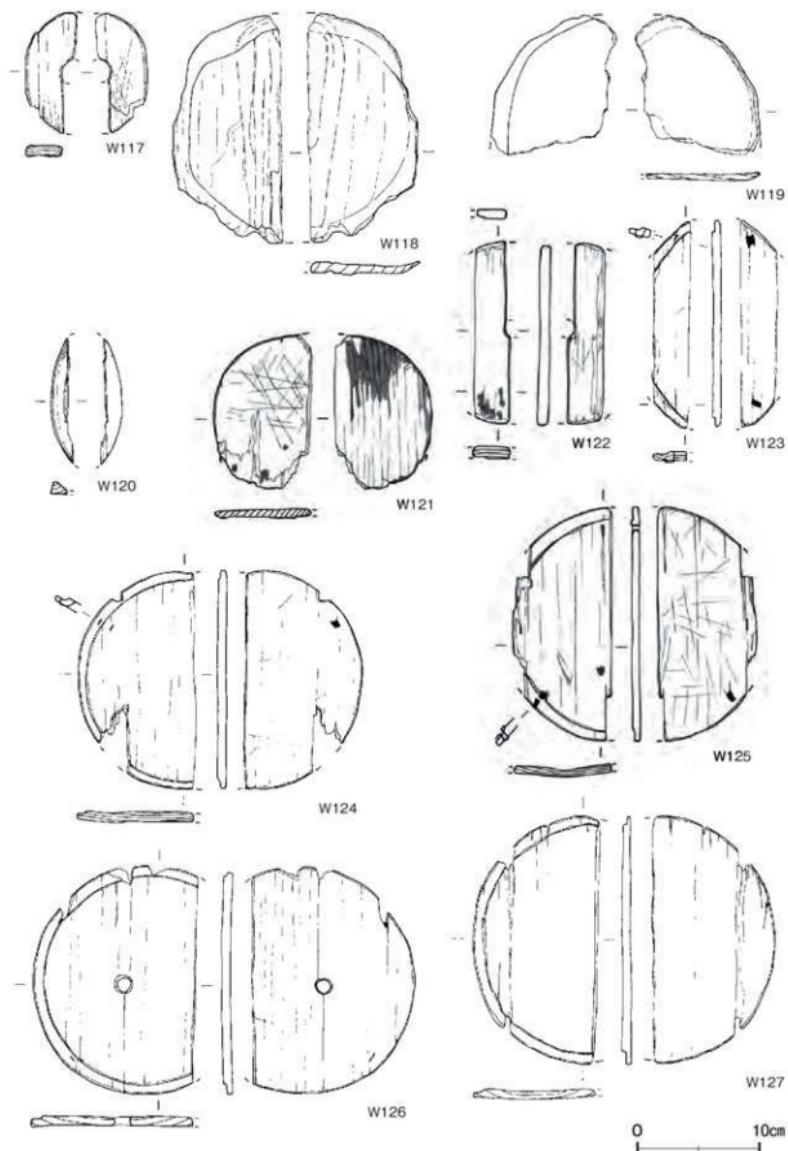
第118図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(30)



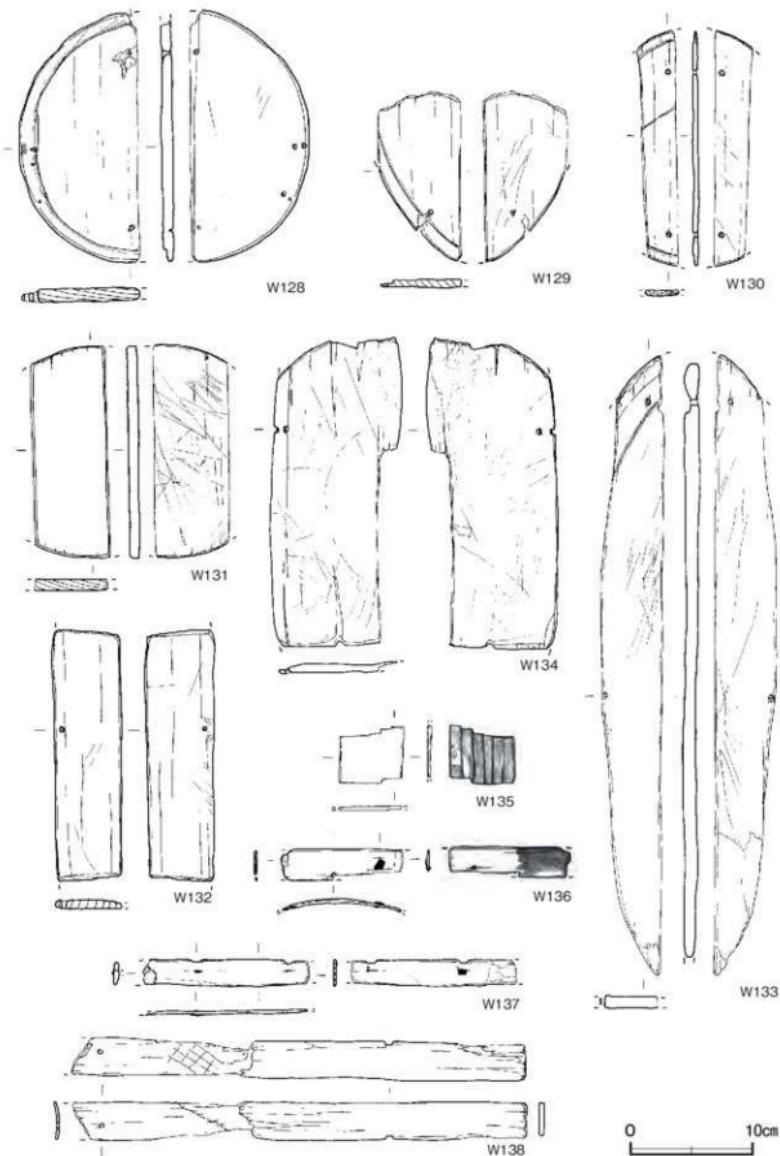
第119図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(31)



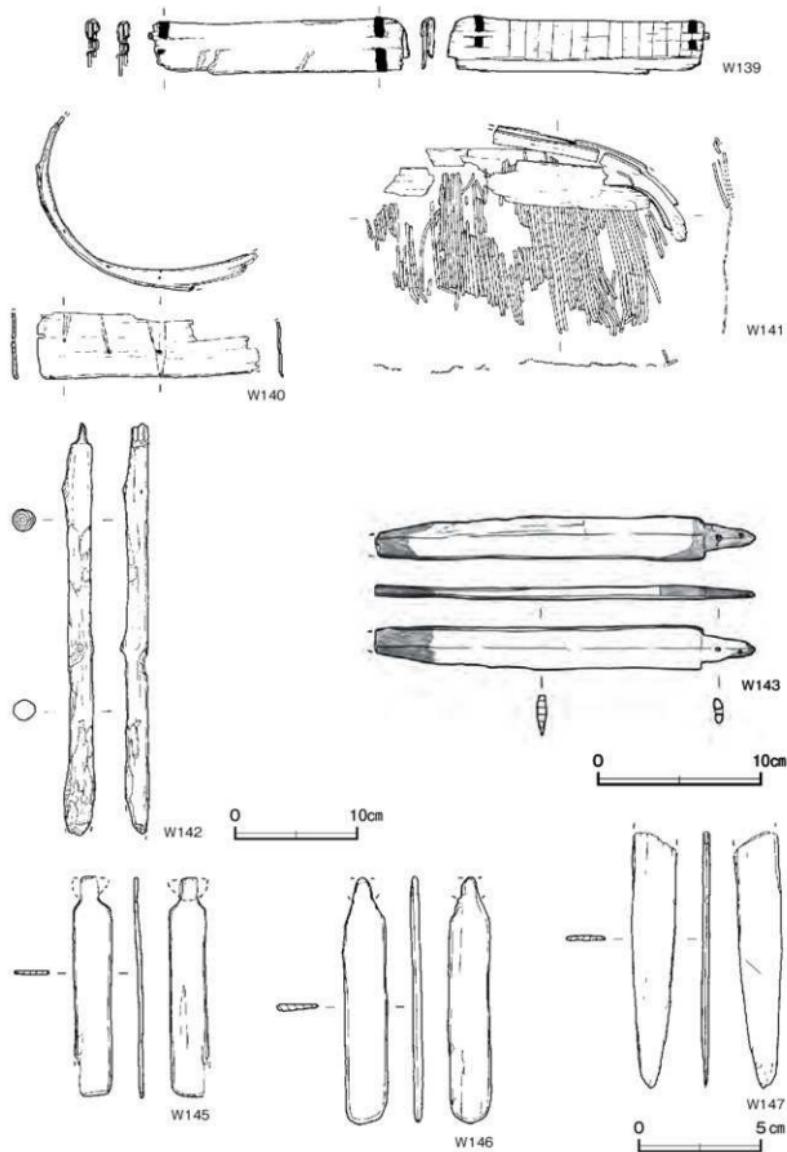
第120図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(32)



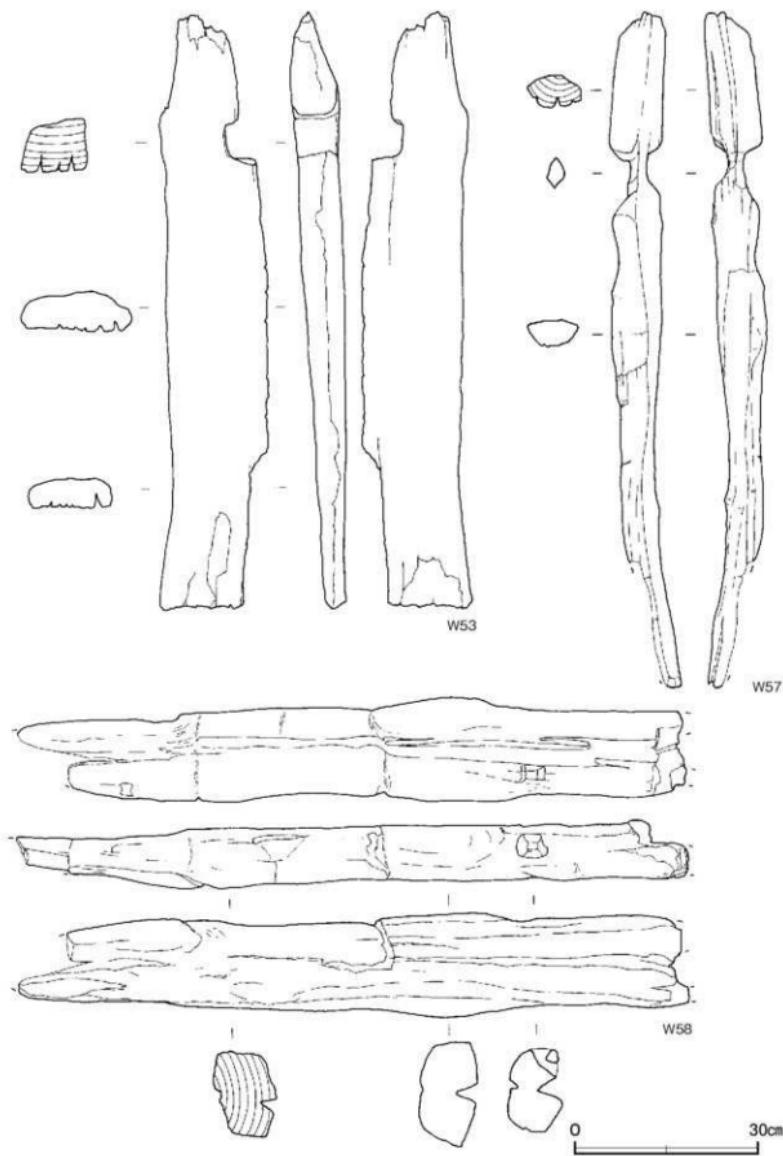
第 121 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 (33)



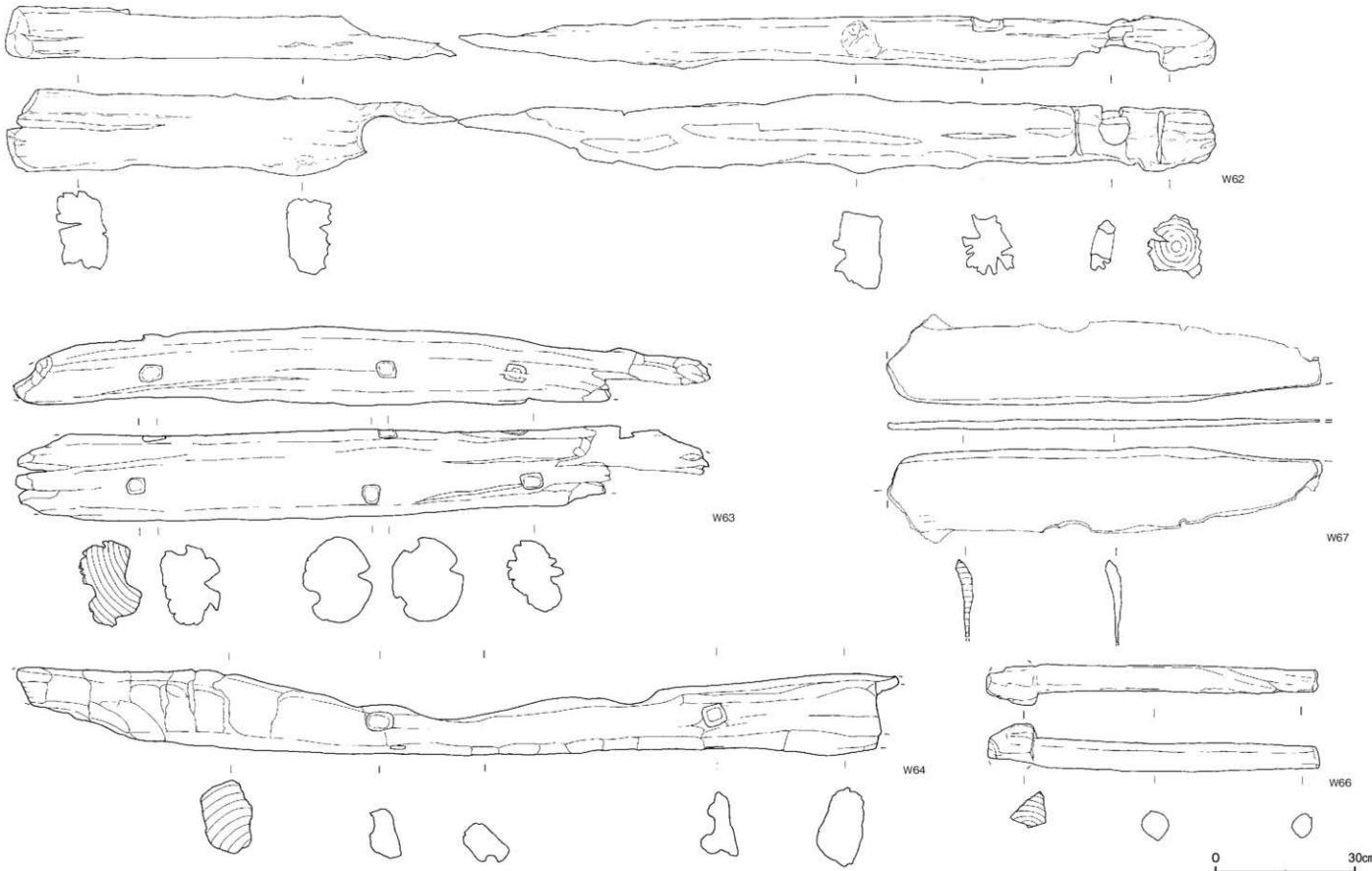
第122図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(34)



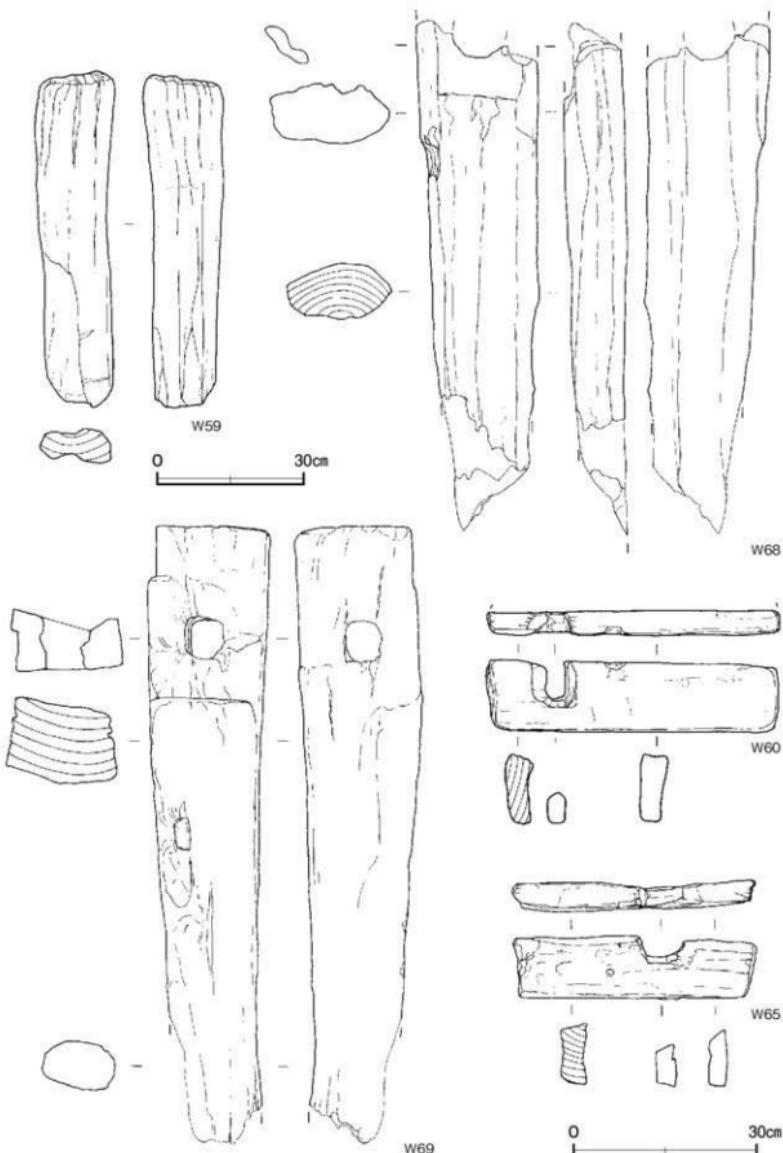
第 123 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 (35)



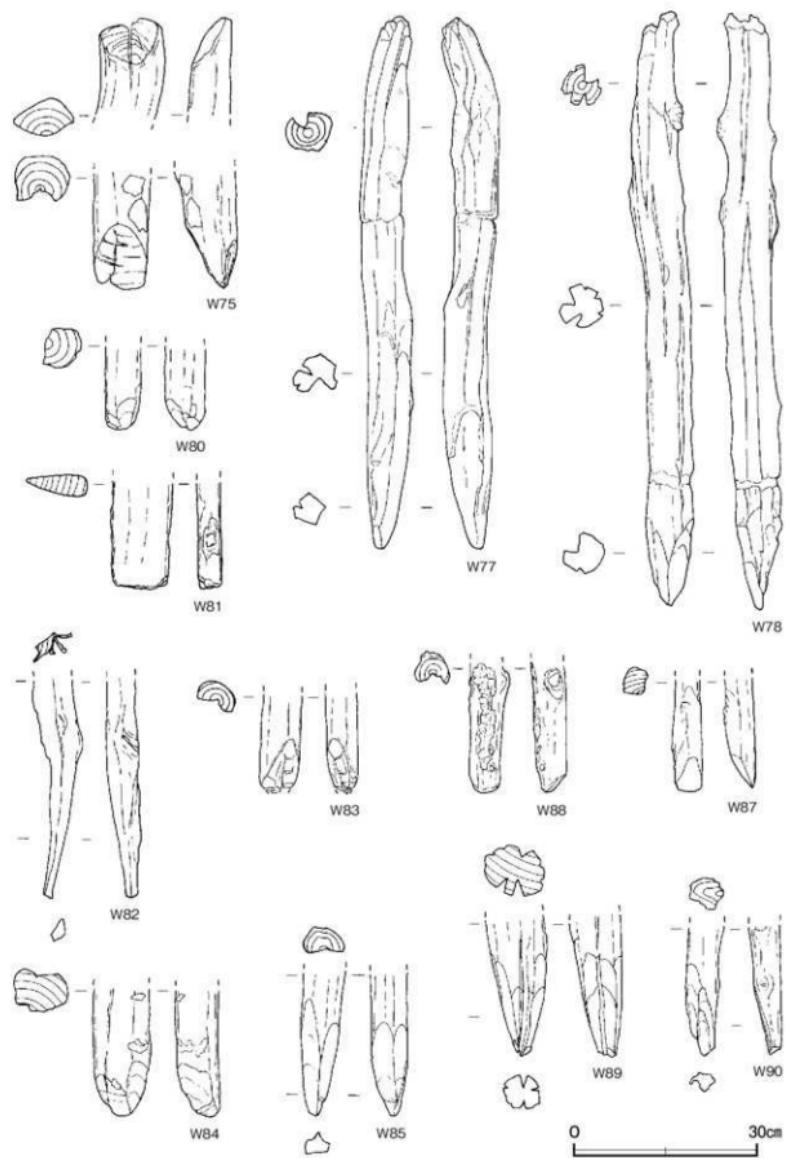
第124図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(36)



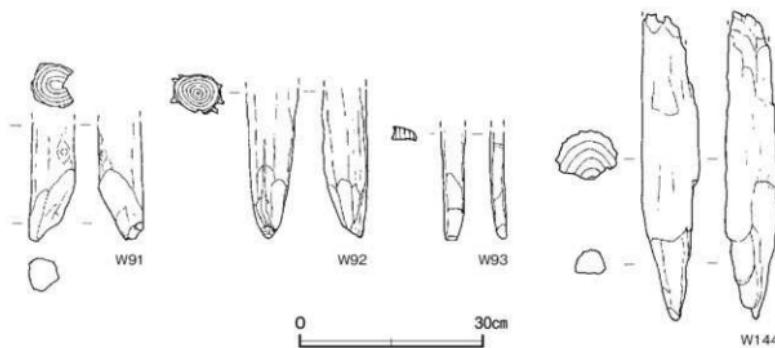
第125图 第2号遗物集中地点出土遗物实测图 (37)



第 126 図 第 2 号遺物集中地点出土遺物実測図 (38)



第128図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(39)



第128図 第2号遺物集中地点出土遺物実測図(40)

第2号遺物集中地点出土遺物観察表(第89～128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
570	土師器	环	[12.0]	3.8	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	中央部覆土中	50%
571	土師器	环	12.1	4.1	-	長石・石英・赤色 粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面黒色處理(漆)	東部覆土中	60%
572	土師器	环	[12.0]	3.9	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	中央部下層	70%
573	土師器	环	[12.6]	4.0	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 黒色處理(漆) 体部 ヘラ削り	中央部覆土中	40%
574	土師器	环	[13.2]	4.8	-	長石・雲母	明艶灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	中央部覆土中	70%
575	土師器	环	[11.5]	3.1	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	中央部覆土中	80%
576	土師器	环	[11.4]	4.1	-	長石・石英・赤色 粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	中央部覆土中	40%
577	土師器	环	[11.6]	3.7	-	石英・雲母	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	中央部覆土中	60%
578	土師器	环	[11.8]	3.8	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	中央部覆土中	60%
579	土師器	环	11.6	4.9	-	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	中央部覆土中	90% PL35
580	土師器	环	12.4	3.6	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	中央部下層	90% PL35
581	土師器	环	[13.6](3.6)	-	-	長石・石英・赤色 粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ ハラ磨き	中央部下層	40%
582	土師器	环	[14.6](2.9)	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	覆土中	10%
583	土師器	环	[15.2]	3.7	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	中央部上層	40%
584	土師器	环	[12.2]	3.8	-	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	中央部下層	70% PL35
585	土師器	环	[11.7](4.7)	[60]	-	長石・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	覆土中	40%
586	土師器	皿	18.2	3.0	-	長石・石英	灰白	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り	西部下層	70% PL35
587	土師器	皿	[20.0]	3.0	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面黒色處理(漆)	中央部下層	20%
588	須恵器	壺	[12.2](3.0)	-	-	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ	中央部下層	20%
589	須恵器	壺	[7.2](2.3)	-	-	長石・石英・赤色 粒子	褐灰	普通	天井部刮軸ヘラ削り	東部覆土中	50%
590	須恵器	壺	[12.8](4.8)	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部刮軸ヘラ削り	中央部下層	45%
591	須恵器	壺	[13.4]	3.7	7.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部下端・底部刮軸ヘラ削り	中央部下層	60% PL35
592	須恵器	壺	[14.6]	4.4	[10.8]	長石・石英・雲母 灰色粒子	灰	普通	底部ナデ	中央部下層	40%
593	須恵器	壺	[14.9]	3.8	[9.6]	長石・石英・雲母 灰色粒子	褐灰	普通	底部刮軸ヘラ削り	東部上層	50% PL35
594	須恵器	壺	[11.6]	3.3	7.9	長石・雲母	褐灰	普通	底部刮軸ヘラ削り	中央部下層	60% PL35
595	須恵器	壺	[12.4]	3.5	6.7	長石・石英	黃灰	普通	底部刮軸ホコリ	中央部上層	60%
596	須恵器	壺	[10.8]	3.6	6.9	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端・底部刮軸ヘラ削り	中央部下層	50%
597	須恵器	壺	13.8	4.1	9.2	長石・石英・雲母	灰黃	普通	底部刮軸ヘラ削り直し、一方側の手持ち穴	西部下層	60% PL35
598	須恵器	壺	13.0	3.9	7.8	長石・石英・雲母	黃灰	普通	底辺二方向の手持ちヘラ削り	中央部下層	60%

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
599	瓶	壺	133	3.6	7.5	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部端回転へラ削り 底部回転へラ切り痕を残す ...一方側の手持ちへラ削り	西部上層	70%
600	瓶	壺	129	3.6	8.0	長石・石英・雲母	灰	普通	底部端回転へラ削り 底部回転へラ切り痕を残す ...一方側の手持ちへラ削り	覆土中	60%
601	瓶	壺	130	3.3	8.0	長石・石英	灰	良好	底部端回転へラ削り 底部回転へラ切り痕を残す ...一方側の手持ちへラ削り	覆土中	80% PL37
602	瓶	壺	135	3.8	7.8	長石・石英	灰	普通	底部端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ...ラ削り	西部下層	80% PL35
603	瓶	壺	135	4.3	7.9	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ...ラ削り	西部下層	80% PL35
604	瓶	壺	136	4.5	8.6	長石・石英	褐灰	普通	底部端端持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ...ハラ削り	中央部下層	90% PL36
605	瓶	壺	[138]	4.0	8.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り	中央部下層	60%
606	瓶	壺	134	3.9	8.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部端回転へラ削り	中央部下層	80%
607	瓶	壺	136	3.5	8.5	長石・石英・雲母	灰	普通	底部端回転へラ削り	中央部下層	60%
608	瓶	壺	141	4.2	8.2	長石・石英・雲母	灰	普通	底部端ロコナダ 底部回転へラ切り痕を残す ...不定方向の手持ちへラ削り	西部下層	80% PL36
609	瓶	壺	142	4.0	8.8	長石・雲母	灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り ...削り	中央部下層	80% PL36
610	瓶	壺	[137]	4.3	8.4	長石・石英・赤色 粒子	黄灰	普通	底部端端回転へラ削り ...底部端回転へラ削り	中央部下層	60%
611	瓶	壺	[142]	4.2	8.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部端端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ...ラ削り	中央部下層	60%
612	瓶	壺	[152]	4.1	9.0	長石・石英・雲母 赤色粒子	褐灰	普通	底部端端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ...ラ削り	中央部下層	60%
613	瓶	壺	133	3.7	8.0	長石・石英・雲母	明褐灰	普通	底部端端持ちへラ削り 底部三方向の手持ち ...削り	西部下層	80% PL36
614	瓶	壺	141	4.3	8.6	長石・石英・雲母	灰	普通	底部端端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ...削り	西部下層	90% PL36
615	瓶	壺	148	4.4	8.3	長石・石英	褐灰	普通	底部端端回転へラ削り 底部二方向の手持ち ...二方向の手持ちへラ削り	中央部下層	80% PL36
616	瓶	壺	128	3.6	7.4	長石・石英・雲母	灰	普通	底部端端回転へラ削り	中央部覆土中	70%
617	瓶	壺	130	4.0	7.6	長石・石英	褐灰	普通	底部端端持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ...ハラ削り	中央部下層	80% PL36
618	瓶	壺	[138]	4.4	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部端端持ちへラ削り 底部回転差切り ...底部端端持ちへラ削り	西部上層	50%
619	瓶	壺	140	4.7	8.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部端端持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ...ハラ削り	中央部覆土中	80% PL36
620	瓶	壺	130	4.3	8.5	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部端端ロコナダ 底部二方向の手持ちへラ 削り	西部下層	80% PL36
621	瓶	壺	127	3.8	7.8	長石・石英	灰	普通	底部端端持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ...ハラ削り	西部上層	10% PL36
622	瓶	壺	[140]	3.7	7.6	長石・石英	褐灰	普通	底部端端持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ...ハラ削り 逆さ仕様	西部上層	50%
623	瓶	壺	130	4.8	7.2	長石・石英	黄灰	普通	底部端端持ちへラ削り 底部回転へラ削り ...底減し...二方向の手持ちへラ削り	覆土中	60%
624	瓶	壺	[134]	4.3	6.3	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部端端・底部回転へラ削り	中央部覆土中	70%
625	瓶	壺	126	3.7	5.6	長石・石英	褐灰	普通	底部端端持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ...ハラ削り	中央部上層	80% PL37
626	瓶	壺	[152]	3.6	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロコナダ 漆付着	中央部上層	10%
627	瓶	壺	[126]	4.1	7.7	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部端端手持ちへラ削り 底部回転へラ切り痕 ...底減し...二方向の手持ちへラ削り	覆土中	50% PL37
628	瓶	壺	[131]	4.6	[7.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部端端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち ...ハラ削り 油漆付着	中央部覆土中	40%
629	瓶	壺	[132]	3.6	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロコナダ 油漆付着	中央部下層	30%
630	瓶	高台付	[112]	4.9	[8.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部端端回転へラ削り	中央部上層	40%
631	瓶	高台付	[110]	5.2	6.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部端端・底部回転へラ削り 油漆付着	西部下層	60%
632	瓶	高台付	[128]	5.6	[7.8]	長石・石英	褐灰	普通	底部端端・底部回転へラ削り	中央部覆土中	40%
633	瓶	高台付	[136]	4.3	[7.4]	長石・石英	褐灰	普通	ロコナダ	中央部上層	30% 他無地座
634	瓶	高台付	[134]	4.9	8.4	長石・石英	灰	普通	底部端端・底部回転へラ削り	西部上層	60%
635	瓶	高台付	[196]	7.6	12.6	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	褐灰	普通	底部端端回転へラ削り	西部下層	60% PL37
636	瓶	高台付	-	(4.4)	13.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部端端・底部回転へラ削り 墓板 転用板	中央部覆土中	50% PL78
637	瓶	壺	148	3.3	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転へラ削り	西部覆土中	90% PL38
638	瓶	壺	160	3.5	-	長石・雲母	灰	普通	天井部回転へラ削り	中央部上層	100% PL38
639	瓶	壺	181	4.1	-	長石・石英・雲母	灰黃	普通	天井部回転へラ削り	中央部上層	70%
640	瓶	壺	-	(2.8)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転へラ削り	中央部下層	60%
641	瓶	壺	[148]	2.9	-	長石・石英・雲母	明灰黃	普通	天井部回転へラ削り	中央部覆土中	20%
642	瓶	壺	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転へラ削り	覆土中	40%
643	瓶	壺	[126]	2.6	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転へラ削り	西部覆土中	30%
644	瓶	壺	[154]	4.3	9.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部端端回転へラ削り	覆土中	60%
645	瓶	壺	[200]	4.3	[11.2]	長石・石英・雲母	にいき雲母	普通	不良(下端)・底部端端・底部回転へラ削り	東部下層	50%
646	瓶	無台盤	[188]	2.7	[157]	長石・石英	灰	普通	底部不確定方向の手持ちへラ削り	西部上層	50% PL38

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
647	須恵器	短頭瓶	8.3	6.2	5.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端・底部回転へラ削り	西部下層	70% PL37
648	須恵器	短頭瓶	[10.8]	(10.0)	-	長石・石英	灰	良好	外・内面ロクロナデ	西部下層	30% PL38
649	須恵器	短頭瓶	[15.4]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部横径の平行叩き 内面無文当て具痕を残	西部下層	20%
650	須恵器	長頭瓶	-	(12.1)	13.0	長石・石英・チサト	褐灰	良好	体部下端・底部回転へラ削り 底部裏面 底部内面中央部に浮き4cmの自然輪存	西部下層	60%
651	須恵器	長頭瓶	[12.6]	(4.3)	-	長石・石英・チサト	灰	良好	ロクロナデ 外・内面自然輪	5% 東海崖	
652	須恵器	短頭瓶	[10.2]	(7.9)	-	長石・石英・チサト	灰白	良好	ロクロナデ 灰オリーブ緑	中央部下層	10% PL38
653	須恵器	甕	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部同心円叩き 内面同心円叩き痕を残	覆土中	10%
654	須恵器	甕	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部同心円叩き 下端手持ちヘラ削り 内面 同心円文叩き痕を残す ナデ	覆土中	5%
655	須恵器	甕	-	(11.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部同心円叩き 内面ナデ	西部下層	5%
656	須恵器	鉢	[25.0]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ	覆土中	10%
657	須恵器	鉢	[41.2]	(16.3)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部横径の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面 ナデ	西部覆土中	20%
658	須恵器	鉢	[33.0]	(8.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部斜削・縱旋の平行叩き 内面ナデ	西部下層	5%
659	須恵器	鉢	-	(25.8)	18.2	長石・石英・雲母	黄灰褐	普通	体部横径の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面 無文当て具痕を残す ナデ	覆土中	30%
660	須恵器	浅鉢	[17.8]	(4.0)	[16.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	中央部下層	20%
661	須恵器	浅鉢	[16.0]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	西部覆土中	10%
662	土師器	甕	[11.2]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	灰	にい清澄	口縁部外・内面横ナデ	中央部上層	10%
663	土師器	甕	[17.6]	(10.0)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	西部上層	20%
664	土師器	甕	[23.6]	(9.8)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	西部下層	20%
665	土師器	甕	[24.6]	[30.6]	9.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部上半・内面ヘラナデ 外縁部下端位のナタ削き 柄部木葉型	西部下層	30%
666	土師器	甕	[24.8]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	中央部上層	20%
667	須恵器	甕	[23.6]	(19.9)	-	長石・石英	灰	良好	体部横径の平行叩き 内面無文当て具痕	西部下層	30%
668	須恵器	甕	[22.6]	(18.7)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部横径の平行叩き 内面無文当て具痕	西部上層	40%
669	須恵器	甕	[23.4]	(12.4)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部横径の平行叩き 内面無文当て具痕を残 ナデ	中央部覆土中	30%
670	須恵器	甕	[19.6]	(13.6)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部横径の平行叩き 内面無文当て具痕	西部下層	20%
671	須恵器	大甕	[44.0]	(22.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部3条と一巻位とする2列の沈継文 21条 と1巻位と21列の状況	中央部覆土中	20%
672	須恵器	円面甕	-	(3.8)	[18.0]	長石	黄灰	普通	凸底下に1条の沈継 方形透かし孔	東部覆土中	10%
673	須恵器	円面甕	-	(3.5)	[20.0]	長石・石英	灰	普通	方形透かし孔	西部覆土中	10%
674	須恵器	円面甕	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外縁横位の平行沈継	覆土中	10%
675	須恵器	环	[14.0]	4.2	7.5	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端斜削へラ削り 底部一方の手持ちへ ナタ削り 黒青「記名」	中央部上層	30% PL44
676	須恵器	环	[13.1]	4.7	8.1	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜削へラ削り 底部一方の手持ちへ ナタ削り 黑青「記名」	西部下層	60% PL44
677	須恵器	环	-	(3.5)	8.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちへ ナタ削り 黑青「記名」	西部下層	40% PL44
678	須恵器	环	-	(1.9)	8.3	長石・石英・黒色粒	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り黒青 「記名」	覆土中	30% PL44
679	須恵器	环	-	(2.7)	8.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜削へラ削り 底部回転ヘラ切り黒青 「記名」	西部下層	30% PL44
680	須恵器	环	-	(1.4)	8.0	長石・石英	灰	良好	体部下端斜削へラ削り 黒青系切を残し不定 方向の手持ちヘラ削り 黑青「記名」	東部下層	20% PL44
681	須恵器	环	-	(1.7)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端斜削へラ削り 黑青「記名」	東部覆土中	5% PL44
682	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母 黒色粒	灰白	普通	底部回転へラ削り 黑青「記名」	中央部上層	10% PL44
683	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母 黒色粒	褐灰	普通	底部一方の手持ちヘラ削り 黑青「記名」	中央部覆土中	10% PL44
684	須恵器	环	-	(1.8)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端斜削へラ削り 底部一方の手持ちへ ナタ削り 黑青「記名」	中央部覆土中	10% PL44
685	須恵器	环	-	(1.6)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部下端斜削へラ削り 底部一方の手持ちへ ナタ削り 黑青「記名」	西部覆土中	10% PL44
686	須恵器	环	-	(1.6)	-	石英・雲母	灰白	普通	体部下端斜削へラ削り 底部一方の手持ちへ ナタ削り 黑青「記名」	中央部覆土中	5% PL44
687	須恵器	环	-	(1.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端斜削へラ削り 底部一方の手持ちへ ナタ削り 黑青「記名」	中央部覆土中	5% PL44
688	須恵器	环	-	(1.5)	[8.6]	雲母・黒色粒	褐灰	普通	体部下端斜削へラ削り 底部一方の手持ちへ ナタ削り 黑青「記名」	覆土中	20% PL44
689	須恵器	环	-	(1.3)	[7.4]	長石・石英	灰	普通	体部下端斜削へラ削り 底部二方向の手持ちへ ナタ削り 黑青「記名」	覆土中	10% PL44
691	須恵器	高台仰皿	[16.7]	6.7	10.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転へラ削り 黑青「記名」	西部下層	70% PL44
692	須恵器	甕	[20.3]	4.1	11.9	長石・石英・雲母 黒色粒	褐灰	普通	体部下端・底部回転へラ削り 黑青「新・記」	西部上層	50% PL45
693	須恵器	甕	-	(2.5)	[13.0]	長石・石英・雲母 黒色粒	褐灰褐	普通	底部回転へラ削り 黑青「記名」	西部下層	30% PL45
694	須恵器	甕	-	(1.4)	8.5	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ちへ ナタ削り 黑青「記名」	中央部下層	30% PL47
695	須恵器	甕	-	(1.4)	6.6	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ち ナタ削り 黑青「記名」	西部下層	30% PL47

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
696	瓶	壺	-	(1.7)	[8.4]	長石・石英・雲母	灰灰	普通	底部回転ヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	20% PL47
697	瓶	壺	-	(1.4)	[8.0]	長石・石英・雲母	灰灰	普通	底部回転ヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	30% PL47
698	瓶	壺	[10.9]	3.2	6.8	長石・石英・雲母・赤鉄粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	60% PL47
699	瓶	壺	[12.3]	4.5	7.3	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	40% PL47
700	瓶	壺	[13.4]	4.1	8.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	30% PL48
701	瓶	壺	[13.0]	3.8	[8.0]	長石・石英・雲母	灰灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	中央部覆土中	30% PL48
702	瓶	壺	[12.8]	4.0	[8.0]	長石・石英	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 墨書き[記]	中央部上層	30% PL48
703	瓶	壺	[13.8]	4.5	[8.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	25% PL48
704	瓶	壺	-	(2.6)	[8.1]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り直し「△」一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	20% PL48
705	瓶	壺	-	(2.2)	7.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 成部回転ヘラ切り直し「△」底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	30% PL48
706	瓶	壺	-	(2.3)	[9.2]	石英・雲母	灰白	普通	底部下端回転ヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	40% PL48
707	瓶	壺	-	(2.5)	[9.3]	長石・石英・雲母・赤鉄粒子	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	10% PL48
708	瓶	壺	-	(2.2)	[7.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	中央部下層	40% PL48
709	瓶	壺	-	(3.1)	7.5	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部下端ロクロナダ成部回転ヘラ切り直し「△」不規方型の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	中央部上層	50% PL48
710	瓶	壺	-	(3.4)	[8.2]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端ロクロナダ成部回転ヘラ切り直し「△」底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	30% PL48
711	瓶	壺	-	(2.9)	[9.4]	長石・石英	褐灰	普通	底部下端ロクロナダ成部回転ヘラ切り直し「△」底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	30% PL48
712	瓶	壺	[13.5]	4.0	7.9	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 成部ヘラナダ 墨書き[記]	西部下層	60% PL48
713	瓶	壺	137	3.8	7.8	長石・石英・雲母	灰灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	中央部下層	25% PL48
714	瓶	壺	136	3.9	8.2	長石・石英・雲母・チタード	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 成部ヘラナダ 墨書き[記]	中央部下層	70% PL48
715	瓶	壺	[12.6]	4.1	8.0	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端ロクロナダ成部回転ヘラ切り直し「△」底部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	60% PL48
716	瓶	壺	[13.4]	4.3	7.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	中央部下層	50% PL48
717	瓶	壺	-	(3.7)	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部下端、底部回転ヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	50% PL48
718	瓶	壺	-	(2.0)	8.0	長石・石英	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	中央部下層	30% PL48
719	瓶	壺	-	(3.0)	7.2	長石・石英	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 成部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	20% PL48
720	瓶	壺	-	(2.6)	6.5	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	40% PL48
721	瓶	壺	-	(3.0)	[7.2]	長石・石英・雲母	褐灰	良好	底部下端回転ヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	10% PL48
722	瓶	壺	-	(1.3)	-	長石・石英・雲母	明褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	20% PL48
723	瓶	壺	-	(1.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 成部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	10% PL48
724	瓶	壺	-	(1.7)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 成部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	10% PL48
725	瓶	壺	-	(1.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 成部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	10% PL49
726	瓶	壺	124	5.1	7.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記] 沈封仕置	西部上層	80% PL49
727	瓶	壺	[13.3]	4.1	[8.2]	長石・石英・赤鉄粒子	灰	良好	底部下端手持ちヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	30% PL49
728	瓶	壺	[13.3]	4.6	[7.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	30% PL49
729	瓶	壺	-	(2.6)	7.3	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	30% PL49
730	瓶	壺	-	(2.3)	7.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 成部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	20% PL49
731	瓶	壺	-	(2.2)	7.4	長石・石英	褐灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	西部下層	20% PL49
732	瓶	壺	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部回転ヘラ切り直し「△」一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	10% PL49
733	瓶	壺	[13.1]	4.4	6.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部回転ヘラ切り直し「△」一方の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	中央部上層	50% PL49
734	瓶	壺	[13.6]	4.6	7.2	長石・石英	褐灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	中央部上層	30% PL49
735	瓶	壺	-	(2.2)	[6.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	東部覆土中	30% PL49
737	瓶	壺	-	(2.5)	6.5	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	東部覆土中	40% PL49
738	瓶	壺	-	(2.0)	-	長石・石英	灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	中央部上層	20% PL49
739	瓶	壺	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 墨書き[記]	中央部覆土中	5% PL49
740	瓶	壺	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 墨書き[記]	覆土中	5% PL49
741	瓶	壺	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロナダ 墨書き[記]	覆土中	5% PL49
742	瓶	壺	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナダ 墨書き[記]	西部覆土中	5% PL49
743	瓶	壺	-	(2.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部下端手持ちヘラ削り 成部二方向の手持ちヘラ削り 墨書き[記]	中央部上層	30% PL49

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎	土	色調	焼成	手 法 の 専 徴 ほ か	出土位置	備 考
744	須恵器	环	-	(2.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手すりへラブリ 城部回転ヘラブリ直 体部下端手すりへラブリ「ハナデ」墨書「邑」	中央部下層	25%	PL49
745	須恵器	环	-	(0.7)	-	石英・雲母	灰	普通	体部下端手すりへラブリ 城部一方向の手持ちへ ラブリ直	西部上層	10%	PL49
746	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	城部回転へラブリ直を残し、二方向の手持ちへ ラブリ直	中央部下層	10%	PL49
747	須恵器	环	-	-	-	長石・石英	灰白	普通	城部一方の手持ちへラブリ 墨書「邑」	中央部覆土	10%	PL49
748	須恵器	环	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	城部回転へラブリ直を残し、一方向の手持ちへラ ブリ直	中央部覆土中	10%	PL49
749	須恵器	环	-	-	-	長石	褐灰	普通	城部一方向の手持ちへラブリ 墨書「邑」	西部上層	5%	PL49
750	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	城部二方向の手持ちへラブリ 墨書「邑」	覆土中	10%	PL50
751	須恵器	环	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	城部二方向の手持ちへラブリ 墨書「邑」	中央部覆土中	5%	PL50
752	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	城部一方向の手持ちへラブリ 墨書「邑」	中央部覆土中	5%	PL50
753	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	城部一方向の手持ちへラブリ 墨書「邑」	中央部覆土中	5%	PL50
754	須恵器	环	-	(1.0)	-	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端手すりへラブリ 城部一方向の手持ちへ ラブリ直	覆土中	10%	PL50
755	須恵器	环	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	城部一方の手持ちへラブリ 墨書「邑」	覆土中	5%	PL50
756	須恵器	环	-	-	-	長石・雲母	灰	普通	城部二方向の手持ちへラブリ 墨書「邑」	西部下層	5%	PL50
757	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	城部一方向の手持ちへラブリ 墨書「邑」	覆土中	10%	PL50
758	須恵器	环	-	(1.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手すりへラブリ 城部一方向の手持ちへ ラブリ直	覆土中	10%	PL50
759	須恵器	环	-	(0.9)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手すりへラブリ 城部一方向の手持ちへ ラブリ直	覆土中	10%	PL50
760	須恵器	环	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	城部一方向の手持ちへラブリ 墨書「邑」	覆土中	5%	PL50
761	須恵器	环	-	(0.6)	-	長石・石英	灰	普通	城部二方向の手持ちへラブリ 墨書「邑」	東部覆土中	5%	PL50
762	須恵器	高台付环	-	(2.5)	6.4	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「邑」	覆土中	20%	PL50
763	須恵器	高台付环	-	(4.2)	6.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	城部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	30%	PL50
764	須恵器	高台付环	-	(3.8)	5.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	40%	PL50
765	須恵器	高台付环	-	(3.7)	6.3	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	30%	PL50
766	須恵器	高台付环	-	(2.6)	[6.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	30%	PL50
767	須恵器	高台付环	-	(2.5)	5.8	長石・石英・雲母	灰	普通	城部回転へラブリ 墨書「邑」	覆土中	30%	PL50
768	須恵器	高台付环	-	(3.0)	7.6	長石・石英	明瞭灰	普通	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「邑」	中央部下層	10%	PL50
769	須恵器	高台付环	-	(3.9)	7.3	長石・石英・雲母	褐灰	普通	城部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	60%	PL50
770	須恵器	高台付环	[14.6]	5.6	9.3	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	85%	PL57・30
771	須恵器	高台付环	[13.8]	5.1	9.1	長石・石英・雲母	オーリーブ	普通	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	70%	PL50
772	須恵器	高台付环	[13.0]	5.0	8.6	長石・石英・雲母 黒い粒子	灰	普通	城部回転へラブリ 墨書「邑」	中央部下層	60%	PL50
773	須恵器	高台付环	[14.2]	(5.0)	-	長石・石英・白色 斜方晶質	灰	普通	城部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	50%	PL50
774	須恵器	高台付环	-	(4.3)	8.6	雲母・赤色粒子	灰白	普通	城部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	30%	PL50
775	須恵器	高台付环	-	(4.1)	9.7	長石・石英・雲母	褐灰	普通	城部回転へラブリ 墨書「邑」	西部上層	30%	PL51
776	須恵器	高台付环	-	(3.1)	9.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	城部回転へラブリ 墨書「□・木・邑・邑」	中央部下層	40%	PL51
777	須恵器	高台付环	-	(3.5)	9.4	長石・石英・雲母	灰	良好	城部回転へラブリ 墨書「邑」	中央部上層	40%	PL51
778	須恵器	高台付环	-	(3.6)	9.6	長石・石英・雲母 黒い粒子	灰	良好	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「邑」	東部下層	25%	PL51
779	須恵器	高台付环	-	(3.3)	[9.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	20%	PL51
780	須恵器	高台付环	-	(1.5)	[9.1]	石英・雲母	灰	普通	城部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	10%	PL51
781	須恵器	高台付环	-	(2.1)	[9.0]	長石・石英・雲母	灰	良好	城部回転へラブリ 墨書「邑」	西部覆土中	25%	PL51
782	須恵器	高台付环	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	30%	PL51
783	須恵器	高台付环	-	(1.5)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「邑」	東部覆土中	10%	PL51
784	須恵器	甕	-	(1.7)	-	石英・雲母	灰	普通	ロクロナデ 墨書「邑」	覆土中	10%	PL51
785	須恵器	甕	-	(2.2)	[13.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	城部回転へラブリ 一部ナデ 墨書「邑」	覆土中	40%	PL51
786	須恵器	甕	-	(2.5)	12.4	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端・底部回転へラブリ 一部ナデ 墨書「邑」	西部下層	30%	PL51
787	須恵器	甕	-	(2.7)	[10.8]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	城部回転へラブリ 墨書「邑」	西部上層	60%	PL51
788	須恵器	甕	-	(2.9)	[14.0]	石英・雲母	灰	普通	城部回転へラブリ 墨書「邑」	西部下層	30%	PL51
789	須恵器	甕	12.6	4.3	7.5	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端・底部回転へラブリ 墨書「川」 治理行者	中央部上層	80%	PL37・55
790	須恵器	甕	-	(2.1)	[7.0]	雲母	灰	良好	体部下端手すりへラブリ 城部一方向の手持ちへ ラブリ直 墨書「川」	西部上層	25%	PL55

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
791	瓶	壺	[124]	4.2	[6.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体下端回転へラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	西部上層	40% PL55
792	瓶	壺	-	(1.2)	7.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体下端回転へラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	東部下層	10% PL55
793	瓶	壺	-	(2.5)	-	長石・雲母	褐灰	普通	体下端回転へラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	西部下層	15% PL55
794	瓶	壺	[137]	5.3	6.1	長石・石英・雲母	灰白	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	中央部上層	PL55
795	瓶	壺	[136]	4.8	6.4	長石・石英	暗灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	西部下層	70% PL55
796	瓶	壺	-	(3.5)	6.4	長石・石英	褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	西部下層	40% PL55
797	瓶	壺	-	(2.4)	6.5	長石・石英・雲母	青灰	良好	体下端手持ちへラブリ 破壊	西部下層	20% PL55
798	瓶	壺	-	(3.7)	6.6	長石・石英・雲母	灰	良好	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	西部腹土中	40% PL55
799	瓶	壺	-	(3.1)	(7.2)	長石・石英・雲母	にい・黃青	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	覆土中	25% PL55
800	瓶	壺	-	(4.1)	[6.8]	長石・石英	灰黃褐色	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	覆土中	20% PL55
801	瓶	壺	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母	黄褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	覆土中	30% PL55
802	瓶	壺	-	-	-	長石・石英	灰	良好	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	覆土中	10% PL55
803	瓶	壺	-	(1.7)	-	長石・石英	褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	覆土中	30% PL55
804	瓶	壺	-	(1.6)	-	長石・石英	褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ 破壊	覆土中	30% PL55
805	瓶	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体下端手持ちへラブリ 破壊	覆土中	5% PL55
806	瓶	壺	-	-	-	長石・石英	灰白	普通	底部一方向の手持ちへラブリ 黒書「川」	中央部腹土中	5% PL55
807	瓶	高台付壺	-	(3.0)	(7.0)	長石・石英・雲母	灰	良好	底部回転へラブリ 黑書「川」	東部腹土中	25% PL55
808	瓶	高台付壺	[135]	6.2	8.4	長石・石英	褐灰	良好	底部回転へラブリ 黑書「川」	西部下層	60% PL55
809	瓶	高台付壺	-	(3.7)	9.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体下端・底部回転へラブリ 黑書「川」	西部下層	70% PL55
810	瓶	高台付壺	-	(3.1)	7.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体下端・底部回転へラブリ 黑書「川」	西部下層	50% PL55
811	瓶	高台付壺	-	(2.0)	8.6	長石・石英	灰白	良好	体下端・底部回転へラブリ 黑書「川」	西部上層	15% PL55
812	瓶	高台付壺	-	(2.7)	9.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰白	良好	体下端・底部回転へラブリ 黑書「川」	覆土中	25% PL56
813	瓶	高台付壺	-	(2.1)	8.8	長石・石英・雲母	灰	普通	体下端・底部回転へラブリ 黑書「川」	西部下層	30% PL56
814	瓶	高台付壺	-	(2.1)	9.3	長石・石英・雲母	灰黃褐色	普通	体下端・底部回転へラブリ 黑書「川」	西部下層	20% PL56
815	瓶	高台付壺	-	(2.9)	(8.9)	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体下端・底部回転へラブリ 黑書「川」	西部下層	20% PL56
816	瓶	蓋	-	(2.5)	-	長石・石英	灰	良好	大井部回転へラブリ 黑書「川」	西部下層	30% PL56
817	瓶	壺	[114]	3.8	[6.0]	長石・石英	褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ	覆土中	40% PL56
818	瓶	壺	[142]	3.7	8.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ	中央部下層	60% PL56
819	瓶	壺	-	(1.5)	(8.2)	長石・石英	褐灰	普通	体下端・底部回転へラブリ 岩盤回転へラブリ	西北上層	20% PL56
820	瓶	壺	[144]	3.9	9.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ	西北下層	60% PL56
821	瓶	壺	[124]	4.6	6.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ	中央部下層	60% PL56
735	瓶	壺	[130]	4.7	[6.4]	長石・石英	褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ	西部腹土中	15% PL56
822	瓶	壺	-	(1.9)	(8.2)	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ	中央部下層	20% PL57
823	瓶	壺	[135]	4.0	8.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体下端ラブロナロダ 岩盤回転へラブリ	西北下層	30% PL57
824	瓶	壺	132	4.0	7.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ	西北下層	60% PL57
825	瓶	壺	[135]	3.8	(8.0)	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体下端手を持へラブリ 岩盤回転へラブリ	中央部下層	30% PL57
826	瓶	壺	[132]	3.8	7.8	長石・石英・雲母	灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ	西北下層	60% PL57
827	瓶	壺	-	(2.8)	7.4	長石・石英	褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ	中央部下層	20% PL57
828	瓶	壺	-	(1.0)	6.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ	覆土中	20% PL57
829	瓶	壺	-	(1.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体下端回転へラブリ 岩盤回転へラブリ	中央部上層	20% PL57
830	瓶	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部一方向の手持ちへラブリ 黑書「田前」	中央部腹土中	20% PL57
831	瓶	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へラブリ 破壊	西部下層	20% PL57
832	瓶	壺	-	(1.8)	-	長石・雲母	褐灰	普通	体下端手持ちへラブリ 岩盤回転へラブリ	西北下層	20% PL57
833	瓶	壺	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	体下端回転へラブリ 破壊	西部腹土中	10% PL57
834	瓶	壺	-	(2.3)	(9.2)	長石・雲母	灰	普通	体下端回転へラブリ 黑書「田前」	覆土中	30% PL57
835	瓶	壺	[134]	4.3	8.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体下端ラブロナロダ 岩盤回転へラブリ	西北下層	50% PL57
836	瓶	壺	-	(1.5)	8.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体下端回転へラブリ 破壊	西北下層	30% PL57

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎	土	色調	焼成	手 法 の 専 徴 ほ か	出土位置	備 考
837	須恵器	环	-	(18)	7.6	長石・石英	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り 墓書「新」	西部上層	30% PL58	
838	須恵器	环	-	(20)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り 墓書「新」	中央部上層	30% PL58	
839	須恵器	环	-	(22)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り 墓書「新」	東部下層	20% PL58	
840	須恵器	环	[114]	3.8	[70]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ロコロナゼ 底部回転ヘラ切り 墓書「新」	覆土中	30% PL58	
841	須恵器	环	[12.8]	4.3	7.9	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り 墓書「新」	西部下層	50% PL58	
842	須恵器	环	[130]	4.2	[8.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端ロコロナゼ 底部二方向の手持ちヘラ削り 墓書「新」	覆土中	40% PL58	
843	須恵器	环	-	(28)	7.2	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り 墓書「新」	西部下層	40% PL58	
844	須恵器	环	-	(32)	7.2	長石・石英	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り 墓書「新」	西部上層	30% PL58	
845	須恵器	环	-	-	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部回転ヘラ切り縫を残し、二方向の手持ちヘラ削り 墓書「新」	覆土中	10% PL58	
846	須恵器	环	-	(13)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部二方向の手持ちヘラ削り 墓書「新」	覆土中	5% PL58	
847	須恵器	环	-	-	-	長石・雲母	黄灰	普通	底部二方向の手持ちヘラ削り 墓書「新」	西部覆土中	5% PL58	
848	須恵器	高台付环	-	(3.0)	8.8	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り 墓書「新□(磯)」	西部下層	30% PL58	
849	須恵器	高台付环	-	(28)	[9.4]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り 墓書「新殿」	中央部下層	40% PL58	
850	須恵器	高台付环	-	(1.8)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り 墓書「新」	西部覆土中	10% PL58	
851	須恵器	蓋	-	(3.0)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り 墓書「新殿」	覆土中	30% PL58	
852	須恵器	蓋	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ロコロナゼ 墓書「新殿」	覆土中	30% PL58	
853	須恵器	蓋	[124]	(20)	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り 墓書「新殿」	覆土中	10% PL58	
854	須恵器	环	[138]	39	[90]	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り 墓書「宅」	覆土中	40% PL60	
855	須恵器	环	[123]	4.4	7.1	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り 墓書「宅」	中央部覆土中	60% PL60	
856	須恵器	环	-	(1.2)	7.5	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り瓶 「ハナメ」黒書「宅」	西部下層	20% PL60	
857	須恵器	环	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部二方向の手持ちヘラ削り 墓書「宅」	中央部下層	30% PL60	
858	須恵器	环	-	(1.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り瓶 「モミ」二方向の手持ちヘラ削り 黑書「宅」	中央部覆土中	10% PL60	
859	土師器	环	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内側四隅焼き 瓶底系切縫を残し、二方向の手持ちヘラ削り 黑書「宅」	西部下層	5% PL60	
860	須恵器	高台付环	-	(2.1)	6.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り 墓書「宅」	中央部下層	20% PL60	
861	須恵器	高台付环	-	(1.9)	6.6	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り 墓書「宅」	西部下層	10% PL60	
862	須恵器	高台付环	[112]	4.6	6.9	長石・石英・雲母	紫灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り 墓書「宅」	中央部上層	60% PL60	
863	須恵器	高台付环	-	(3.5)	7.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り 墓書「宅」	西部下層	40% PL60	
864	須恵器	高台付环	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 高台回転後、 天井部用墨書き	中央部下層	30% PL60	
865	須恵器	蓋	-	(2.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り 墓書「宅」	覆土中	5% PL60	
866	須恵器	环	-	(2.2)	7.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り 「山人」	中央部下層	20% PL61	
867	須恵器	环	-	(3.8)	[8.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 瓶底回転ヘラ切り瓶 「山人」	覆土中	30% PL61	
868	須恵器	环	[136]	4.0	8.3	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ち 「山人」	中央部下層	60% PL61	
869	須恵器	环	[138]	3.9	[8.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ち 「山人」	中央部下層	60% PL61	
870	須恵器	环	-	13.4	3.8	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ち 「山人」	中央部下層	60% PL61	
871	須恵器	环	[136]	4.0	9.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ち 「山人」	東部覆土中	60% PL61	
872	須恵器	环	-	(1.8)	7.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ち 「山人」	西部上層	10% PL61	
873	須恵器	环	-	(2.1)	[6.4]	長石・石英・雲母	黑褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ち 「山人」	西部下層	20% PL61	
874	須恵器	环	-	(2.7)	[8.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ち 「山人」	中央部覆土中	25% PL61	
875	須恵器	环	-	-	-	長石・雲母	黄灰	普通	底部二方向の手持ちヘラ削り 墓書「麻」	覆土中	10% PL61	
876	須恵器	高台付环	-	(2.4)	6.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り 墓書「麻□」	中央部下層	30% PL61	
877	須恵器	高台付环	-	(2.4)	[8.0]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り 墓書「下麻主」	西部覆土中	50% PL61	
878	須恵器	高台付环	-	(3.3)	6.5	長石・雲母	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り 墓書「麻生」	西部上層	30% PL61	
879	須恵器	高台付环	-	(2.6)	[7.8]	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	底部回転ヘラ削り 墓書「麻」	中央部下層	30% PL61	
880	須恵器	蓋	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り 墓書「麻□」	中央部覆土中	40% PL61	
881	須恵器	环	[132]	4.3	8.4	長石・雲母	褐灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 墓書「万」	覆土中	60% PL61	
882	須恵器	环	-	(19)	7.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 墓書「万大」	西部上層	30% PL61	
883	須恵器	环	-	(24)	6.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 墓書「万才」	西部下層	30% PL61	

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
884	瓶	壺	-	(1.9)	(9.8)	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「万」	西部上層	10% PL61
885	瓶	高台付壺	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	底部下端・底部回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「大」	西部上層	50% PL61
886	瓶	壺	-	(3.0)	7.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「中家」	西部下層	40% PL65
887	瓶	壺	-	(2.2)	8.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「平」	西部上層	30% PL62
888	瓶	壺	[15.2]	3.6	8.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「中家」	西部下層	70% PL62
889	瓶	高台付壺	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端・底部回転へラ削り 墓書「口家」	西部上層	30% PL62
890	瓶	壺	[13.8]	4.8	6.1	長石・石英	灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 瓷部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「中」	西部上層	30% PL59
891	瓶	壺	[12.0]	4.1	[6.8]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「万」	覆土中	20% PL59
892	瓶	壺	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部下端回転へラ削り 墓書「ナ」	中央部上層	30% PL59
893	土歸	壺	-	(0.8)	7.0	長石・石英・雲母	にせい粘土	普通	底部下端・底部回転へラ削り 内面へラ削き 墓書「ナ」	西部上層	10% PL59
894	瓶	壺	-	(1.7)	8.4	長石・石英	灰	普通	底部下端回転へラ削り 墓書「○」	西部上層	15% PL61
895	瓶	壺	-	(2.0)	[7.6]	長石・石英	灰	良好	底部下端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「○」	覆土中	15% PL62
896	瓶	壺	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母 白色粒子	灰	良好	底部下端手揉みへラ削り 底部二方向の手持ち ラ削り 墓書「○」	覆土中	10% PL62
897	瓶	高台付壺	-	(2.5)	8.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端・底部回転へラ削り 墓書「○」	西部下層	10% PL62
898	瓶	壺	-	(1.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端回転へラ削り 墓書「○」	西部上層	30% PL62
899	瓶	壺	-	(2.0)	-	長石・石英	にせい粘土	普通	底部下端回転へラ削り 底部回転へラ削きを残 ヘラ削り 墓書「城内」	東部上層	20% PL62
900	瓶	壺	[13.8]	4.4	[7.6]	長石・石英	褐灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部二方向の手持ち ラ削り 墓書「口」	西部上層	30% PL62
901	瓶	壺	-	(1.8)	[6.6]	長石・石英・雲母	灰	良好	底部下端手揉みへラ削り 底部二方向の手持ち ラ削り 墓書「城」	西部上層	25% PL62
902	瓶	高台付壺	[14.6]	5.9	[8.4]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へラ削り 墓書「大多口」	西部下層	40% PL64
903	瓶	高台付壺	-	(2.5)	[9.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部下端回転へラ削り 墓書「大多口」	西部下層	25% PL64
904	瓶	壺	-	(2.6)	[8.5]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「口」	中央部下層	40% PL64
905	瓶	壺	-	(3.4)	7.6	石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部二方向の手持ち ラ削り 墓書「口」	西部上層	70% PL64
906	瓶	壺	13.5	3.9	8.4	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端ロコロナデ 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「口」	西部下層	70% PL63
907	瓶	壺	-	(1.1)	-	長石・石英	褐灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部二方向の手持ち ラ削り 墓書「系」	中央部上層	10% PL63
908	瓶	壺	[13.2]	4.4	6.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部二方向の手持ち ラ削り 墓書「子山口」	西部上層	50% PL63・64
909	瓶	高台付壺	-	(2.4)	11.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へラ削り 墓書「口山□□水」	西部下層	30% PL64
910	瓶	壺	-	(1.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墓書「淡水」	中央部覆土中	20% PL65
911	瓶	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墓書「小糸」	覆土中	10% PL64
912	瓶	壺	-	(1.8)	5.4	長石・白色軽物質	褐灰	普通	底部手切り 墓書「井上」	覆土中	30% PL63
900	瓶	壺	-	(0.7)	8.2	雲母	褐灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部回転へラ削きを残 ヘラ削り 墓書「残」	覆土中	5% PL64
913	瓶	壺	[12.8]	3.3	[9.0]	長石・石英	褐灰	普通	底部下端・底部回転へラ削り 墓書「長口」	中央部下層	20% PL64
914	瓶	高台付壺	-	(2.9)	19.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端・底部回転へラ削り 墓書「楓」	中央部下層	30% PL64
915	瓶	壺	[14.8]	3.8	[9.0]	長石・雲母	黃灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「寺」	西部下層	45% PL65
916	瓶	壺	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロコロナデ 墓書「佐」	西部上層	5% PL65
917	瓶	壺	-	(2.2)	6.0	長石・石英	褐灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部回転へラ削きを残 ヘラ削り 墓書「夫」	西部下層	20% PL65
918	瓶	壺	-	(1.7)	[7.6]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「夫」	西部下層	40% PL63
919	瓶	壺	-	(3.0)	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部回転へラ削きを残 ヘラ削り 不定方向のヘラ削り 墓書「夫」	中央部下層	25% PL63
920	瓶	壺	-	(1.5)	8.0	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端・底部回転へラ削り 墓書「×」	中央部下層	30%
921	瓶	壺	-	-	-	長石・石英・黒色 粒子	褐灰	良好	底部下端・底部回転へラ削り 墓書「×」	東部下層	20%
922	瓶	壺	-	(3.7)	[10.4]	長石・石英	褐灰	普通	底部回転へラ削り 墓書「×」	西部下層	30% PL78
923	瓶	壺	-	-	-	長石・石英	灰	普通	底部下端回転へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「×」	西部下層	30% PL78
924	瓶	壺	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	ロコロナデ 墓書「△」	中央部覆土中	20% PL78
925	瓶	壺	[12.4]	3.7	[7.0]	長石・石英	褐灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部二方向の手持ち ラ削り 墓書「夫」	中央部下層	20% PL73
926	瓶	壺	[15.0]	3.9	[8.2]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部回転へラ削きを残 ヘラ削り 不定方向のヘラ削り 墓書「夫」	中央部下層	40% PL73
927	瓶	壺	[12.8]	4.4	(6.7)	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部二方向の手持ち ラ削り 墓書「○」	西部上層	30% PL73
928	瓶	壺	[13.6]	4.1	(8.0)	長石・石英・雲母 白色粒子	褐灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部二方向の手持ち ラ削り 墓書「○」	中央部下層	40% PL73
929	瓶	壺	[13.1]	4.3	5.5	長石・石英	褐灰	普通	底部下端手揉みへラ削り 底部回転へラ削きを残 ヘラ削り 二方向の手持ちへラ削り 墓書「夫」	中央部上層	40% PL73

番号	種別	器種	口径	翼高	底径	胎	土	色調	焼成	手 法 の 専 徴 は か	出土位置	備 考
900	須恵器	环	[13.2]	4.4	[6.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 底部回転へラ切り瓶毛 底部一方向の手持ちへラ削り 黒書「□」	中央部覆土中	40% PL73	
901	須恵器	环	[12.2]	4.2	[6.0]	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端斜面へラ削り 底部二方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	中央部覆土中	25% PL73	
902	須恵器	环	[13.6]	4.2	[7.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端斜面へラ削り 底部一方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	西部上層	30% PL74	
903	須恵器	环	[12.4]	5.0	[6.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 底部一方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	西部覆土中	30% PL74	
904	須恵器	环	[13.4]	4.4	[6.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 底部一方向の手持ちへ ラ削り 黑書「□」	西部下層	30% PL74	
905	須恵器	环	-	3.9	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部一方向の手持ちへ ラ削り 黑書「□」	覆土中	20% PL74	
906	須恵器	环	-	3.6	-	長石・石英・雲母	灰黃褐	普通	体部下端斜面へラ削り 成部一方向の手持ちへ ラ削り 黑書「□」	覆土中	20% PL74	
907	須恵器	环	-	3.7	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 底部一方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	覆土中	20% PL74	
908	須恵器	环	-	4.7	-	長石・石英	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 底部手持ちへラ削り 黒書「□」	覆土中	20% PL74	
909	須恵器	环	-	(2.7)	6.5	長石・石英・雲母 含む粒子	灰黃褐	不良	体部下端斜面へラ削り 底部一方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	西部上層	25% PL74	
910	須恵器	环	-	(3.6)	[6.8]	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端斜面へラ削り 成部回転へラ切り瓶 底部回転へラ削り 黑書「□」	中央部上層	25% PL74	
911	須恵器	环	-	(4.3)	[7.0]	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端斜面へラ削り 成部回転へラ切り瓶 底部回転へラ削り 黑書「□」	東部覆土中	25% PL74	
912	須恵器	环	-	(1.9)	[8.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部一方向の手持ちへ ラ削り 黑書「□」	中央部覆土中	10% PL74	
913	須恵器	环	-	(2.9)	[8.6]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端斜面へラ削り 成部回転へラ切り瓶毛 不定方向の手持ちへラ削り 黑書「□」	中央部覆土中	10% PL74	
914	須恵器	环	-	(2.5)	7.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部回転へラ切り瓶毛 不定方向の手持ちへラ削り 黑書「□」	中央部覆土中	20% PL74	
915	須恵器	环	-	(3.1)	[7.0]	長石・雲母	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 底部一方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	中央部上層	20% PL74	
916	須恵器	环	-	(1.2)	[7.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部回転へラ切り瓶 不定方向の手持ちへラ削り 黑書「□」	西部覆土中	10% PL74	
917	須恵器	环	-	(2.0)	[7.8]	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端斜面へラ削り 成部一方向の手持ちへ ラ削り 黑書「□」	西部覆土中	15% PL74	
918	須恵器	环	-	(3.4)	5.7	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端斜面へラ削り 成部一方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	覆土中	50% PL74	
919	須恵器	环	-	(1.5)	[8.2]	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端斜面へラ削り 成部回転へラ切り瓶 底部不定方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	覆土中	10% PL74	
920	須恵器	环	-	(2.4)	[7.1]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 底部一方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	西部下層	10% PL74	
921	須恵器	环	-	(2.0)	[7.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 底部一方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	西部下層	10% PL74	
922	須恵器	环	-	(3.1)	[8.0]	長石・石英	灰黃	普通	体部下端斜面へラ削り 成部回転へラ削り 底部不定方向の手持ち 黒書「□」	西部下層	30% PL74	
923	須恵器	环	-	(2.3)	[7.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端斜面へラ削り 底部二方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	覆土中	25% PL74	
924	須恵器	环	-	(2.9)	[7.8]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部一方向の手持ちへ ラ削り 黑書「□」	覆土中	20% PL74	
925	須恵器	环	-	(2.4)	[8.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 底部一方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	覆土中	20% PL74	
926	須恵器	环	-	(2.5)	[8.2]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部回転へラ切り瓶 底部一方向の手持ち 黒書「□」	西部下層	25% PL74	
927	須恵器	环	-	(1.6)	5.8	長石・石英	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部一方向の手持ちへ ラ削り 黑書「□」	覆土中	15% PL75	
928	須恵器	环	-	(1.5)	7.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部一方向の手持ちへ ラ削り 黑書「□」	西部下層	15% PL75	
929	須恵器	环	-	(1.8)	7.8	長石・石英	灰黃	普通	体部下端斜面へラ削り 成部回転へラ切り瓶 底部手持ちへラ削り 黑書「□」	西部下層	20% PL75	
930	須恵器	环	-	(4.1)	[9.6]	長石・石英・雲母	明灰黃	普通	体部下端斜面へラ削り 成部二方向の手持ちへ ラ削り 黑書「□」	覆土中	25% PL75	
931	須恵器	环	-	(3.1)	[7.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部回転へラ削り 黑書「□」	西部下層	25% PL75	
932	須恵器	环	-	(2.5)	[8.0]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部不定方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	西部下層	30% PL75	
933	須恵器	环	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部一方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	東部上層	5% PL75	
934	須恵器	环	-	(2.6)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロナヂ 黑書「□ (老.)」	中央部覆土中	5% PL75	
935	須恵器	环	-	(4.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端斜面へラ削り 黑書「□」	覆土中	5% PL75	
936	須恵器	环	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナヂ 黑書「□ (多.)」	覆土中	5% PL75	
937	須恵器	环	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナヂ 黑書「□」	覆土中	5% PL75	
938	須恵器	环	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母	灰黃褐	普通	ロクロナヂ 黑書「□」	覆土中	5% PL75	
939	須恵器	环	-	(3.5)	-	長石・石英・雲母	灰黃褐	普通	ロクロナヂ 黑書「□」	覆土中	5% PL75	
940	須恵器	环	-	(3.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナヂ 黑書「□」	東部上層	5% PL75	
941	須恵器	环	-	(0.9)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナヂ 黑書「□」	中央部上層	5% PL75	
942	須恵器	环	-	(2.0)	-	長石・雲母	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部回転へラ切り瓶 底部一方向の手持ちへラ削り 黑書「□」	中央部上層	10% PL75	
943	須恵器	环	-	(1.2)	-	石英・雲母	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部一方向の手持ちへ ラ削り 黑書「□」	東部上層	5% PL75	
944	須恵器	环	-	(2.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部二方向の手持ち ヘラ削り 黑書「□」	中央部覆土中	5% PL75	
945	須恵器	环	-	(0.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端斜面へラ削り 成部一方向の手持ちへ ラ削り 黑書「□」	中央部覆土中	5% PL75	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
977	瓶	壺	-	(0.6)	-	石英・雲母	灰黄	普通	底部削輪へラ削り 墨書「□」	中央部覆土中	5% PL75
978	瓶	壺	-	(1.0)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	底部削輪へラ削り 瓶部二方向の手持ち へラ削り 墨書「□(名)」	東部下層	5% PL75
979	瓶	壺	-	(0.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	良好	底部二方向の手持ちへラ削り 墨書「□」	中央部上層	5% PL75
980	瓶	壺	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	良好	底部削輪へラ削り 底部不定方向の手持ち へラ削り 墨書「□」	中央部覆土中	10% PL75
981	瓶	壺	-	(1.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部削輪へラ削り 底部削輪へラ削り 墨書「□」	中央部覆土中	10% PL75
982	瓶	壺	-	(0.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墨書「□」	中央部覆土中	5% PL76
983	瓶	壺	-	(1.3)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端手付へラ削り 底部二方向の手持ち へラ削り 墨書「□」	中央部覆土中	10% PL76
984	瓶	壺	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端削輪へラ削り 既成二方向の手持ちへ ラ削り 墨書「□(名)」	中央部覆土中	5% PL76
985	瓶	壺	-	(0.6)	-	長石・石英	褐灰	普通	既成削輪へラ削り 墓を残す、一方の手持ちへ ラ削り 墨書「□(名)」	東部覆土中	5% PL76
986	瓶	壺	-	(1.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部下端削輪へラ削り 底部二方向の手持ち へラ削り 墨書「□」	西部覆土中	10% PL76
987	瓶	壺	-	(2.1)	-	長石・雲母	褐灰	普通	底部下端手付へラ削り 底部削輪へラ削り 既成二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	10% PL76
988	瓶	壺	-	(2.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端削輪へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「□」	西部覆土中	10% PL76
989	瓶	壺	-	(1.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部下端手付へラ削り 底部削輪へラ削り 既成二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	西部覆土中	10% PL76
990	瓶	壺	-	(1.1)	-	長石・石英	褐灰	普通	既成削輪へラ削り 墓を残す、一方の手持ちへ ラ削り 墓書「□」	西部覆土中	10% PL76
991	瓶	壺	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	既成削輪へラ削り 墓を残す、一方の手持ちへ ラ削り 墓書「□」	西部覆土中	5% PL76
992	瓶	壺	-	(0.6)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	既成削輪へラ削り 墓を残す、一方の手持ちへ ラ削り 墓書「□」	西部覆土中	5% PL76
993	瓶	壺	-	(2.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部下端手付へラ削り 底部二方向の手持ち へラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL76
994	瓶	壺	-	(3.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	底部下端手付へラ削り 底部削輪へラ削り 既成二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL76
995	瓶	壺	-	(2.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端削輪へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL76
996	瓶	壺	-	(0.8)	-	長石・雲母	灰黄	普通	既成削輪へラ削り 墓を残す、ヘナナデ 墓書 「□」	覆土中	5% PL76
997	瓶	壺	-	(0.8)	-	長石・石英・雲母	灰黄灰	普通	底部手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	5% PL76
998	瓶	壺	-	(0.8)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	5% PL76
999	瓶	壺	-	(1.5)	-	長石・雲母	褐灰	普通	底部下端手付へラ削り 底部二方向の手持ち へラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL76
1000	瓶	壺	-	(1.8)	-	長石・石英・雲母	暗灰	普通	底部下端手付へラ削り 底部二方向の手持ち へラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL76
1001	瓶	壺	-	(1.3)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	底部下端削輪へラ削り 底部へナナデ 墓書 「□(名)」	西部下層	5% PL76
1002	瓶	壺	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	既成削輪へラ削り 墓を残す、ヘナナデ 墓書 「□」	覆土中	5% PL76
1003	瓶	壺	-	(1.8)	-	長石・石英・雲母	褐黄灰	普通	底部下端削輪へラ削り 底部削輪へラ削り 既成二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL76
1004	瓶	壺	-	(0.5)	-	長石・石英	褐灰	普通	既成削輪へラ削り 墓を残す、一方の手持ちへ ラ削り 墓書「□」	覆土中	5% PL76
1005	瓶	壺	-	(0.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部下端削輪へラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL76
1006	瓶	壺	-	(1.5)	-	長石・石英	灰	普通	底部下端削輪へラ削り 底部へナナデ 墓書 「□」	覆土中	20% PL76
1007	瓶	壺	-	(0.6)	-	長石・石英	褐灰	普通	既成二方向の手持ちへラ削り 墓書「木」	覆土中	10% PL76
1008	瓶	壺	-	(0.6)	-	長石・石英	灰黄灰	普通	既成削輪へラ削り 墓を残す、一方の手持ちへ ラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL76
1009	瓶	壺	-	(0.8)	-	長石・雲母	灰黄	普通	底部下端削輪へラ削り 底部削輪へラ削り 既成二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	5% PL77
1010	瓶	壺	-	(1.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部下端削輪へラ削り 底部削輪へラ削り 既成二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL77
1011	瓶	壺	-	(3.1)	-	石英・雲母	褐灰	普通	底部下端削輪へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「□」	西部下層	20% PL77
1012	瓶	壺	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部下端手付へラ削り 底部二方向の手持ち へラ削り 墓書「□」	覆土中	20% PL77
1013	瓶	壺	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	良好	底部下端手付へラ削り 底部削輪へラ削り 既成二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL77
1014	瓶	壺	-	(2.6)	-	長石・石英	灰	普通	底部下端削輪へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL77
1015	瓶	壺	-	(3.3)	-	長石・石英・雲母	灰	不良	底部下端手付へラ削り 底部二方向の手持ち へラ削り 墓書「□」	覆土中	25% PL77
1016	瓶	壺	-	(1.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部下端削輪へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「□」	覆土中	25% PL77
1017	瓶	壺	-	(1.1)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	底部下端削輪へラ削り 底部二方向の手持ちへ ラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL77
1018	瓶	壺	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL77
1019	瓶	壺	-	(1.3)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端削輪へラ削り 底部二方向の手持ち へラ削り 墓書「□」	覆土中	20% PL77
1020	瓶	壺	-	(1.2)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部下端削輪へラ削り 底部削輪へラ削り 既成二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	15% PL77
1021	瓶	壺	-	(1.6)	-	長石・石英	白灰	普通	底部下端手付へラ削り 底部二方向の手持ち へラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL77
1022	瓶	壺	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	10% PL77
1023	瓶	壺	-	(1.8)	-	長石・石英	褐灰	普通	底部二方向の手持ちへラ削り 墓書「□」	覆土中	5% PL77

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1024	須恵器	环	-	(1.4)	-	長石・石英	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方内の手持ち 八字削り 墨書「□」	覆土中	5% PL77
1025	須恵器	环	-	(0.5)	-	長石・雲母	暗灰黄	普通	底部手持ちへラ削り 墨書「□」	覆土中	5% PL77
1026	須恵器	环	-	(0.7)	-	長石・雲母	褐灰	普通	底部一方内の手持ちへラ削り 墨書「□」	覆土中	5% PL77
1027	須恵器	高台付环	-	(2.3)	[7.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転へラ削り 墨書「□」	覆土中	40% PL77
1028	須恵器	高台付环	[13.8]	4.8	9.0	長石・石英	灰	普通	底部回転へラ削り 墨書「□」	西部下層	70% PL77
1029	須恵器	高台付环	[12.6]	5.0	8.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部下端、底部回転へラ削り 墨書「可」	覆土中	60% PL77
1030	須恵器	高台付环	[14.1]	5.4	[9.0]	長石・石英・雲母	青灰	普通	底部回転へラ削り 墨書「□」	中央部覆土中	30% PL77
1031	須恵器	高台付环	-	(1.9)	9.3	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端、底部回転へラ削り 墨書「宅」 墨書用鉛	中央部下層	30% PL77
1032	須恵器	高台付环	-	(2.2)	11.3	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へラ削り 墨書「□」(記?)	覆土中	30% PL77
1033	須恵器	高台付环	-	(2.0)	[9.0]	長石・石英・雲母	灰灰	普通	底部回転へラ削り 墨書「□」	西部上層	30% PL77
1034	須恵器	高台付环	-	(1.8)	[8.6]	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端、底部回転へラ削り 墨書「□」	中央部覆土中	20% PL78
1035	須恵器	高台付环	-	(2.2)	[8.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端、底部回転へラ削り 墨書「□」	中央部覆土中	30% PL78
1036	須恵器	高台付环	-	(2.1)	[11.4]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端、底部回転へラ削り 墨書「□□」	覆土中	30% PL78
1037	須恵器	高台付环	-	(2.4)	[8.2]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端、底部回転へラ削り 墨書「□」	覆土中	10% PL78
1038	須恵器	高台付环	-	(2.8)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転へラ削り 墨書「□」	東部下層	10% PL78
1039	須恵器	蓋	-	(1.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクナナデ 墨書「□」	中央部覆土中	5% PL78
1040	須恵器	蓋	-	(1.1)	-	長石・石英・雲母	灰灰褐	普通	体部下端、底部回転へラ削り 墨書「□」	中央部上層	5% PL78
1041	須恵器	蓋	[21.5]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	灰灰	普通	ロクナナデ 墨書「□」	西部上層	20% PL78

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	土玉	2.4	2.9	2.4	19.6	長石・石英・雲母	黒褐	ナメ 一方向からの穿孔 孔径0.7cm	西部下層	PL38
DP 3	紡錘車	6.3	(3.6)	1.8	(29.5)	長石・石英・ 赤土・粘土	にぶい橙	外面部黑色処理 ナメ 孔径(2.1)cm	覆土中	
DP 4	羽口	(5.6)	(4.9)	(4.3)	(91.8)	長石・石英	にぶい黄橙	体部下端、先端部片 ナメ 孔径1.5cm	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	紙石	4.6	3.9	1.7	48.6	凝灰岩	紙面6面 孔径0.5cm	西部下層	PL38
Q 2	紡錘車	4.3	4.2	(0.7)	(16.0)	泥岩	一方向からの穿孔 孔径0.8cm	中央部下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
M 1	輪状鉢	9.4	(8.1)	3.7	(28.7)	磁着度・メタル度なし	覆土中	PL38

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W101	農具	鍬先	43.6	12.8	4.4	アカガシ	板目 看朝柄 組かけ2か所	東部下層	PL39
W102	農具	鍬先	43.4	16.9	12.0	タメギ	みかん柄 未製品	西部下層	PL39
W103	農具	柄	(9.4)	3.7	26	アカガシ	板目	中央部下層	PL40
W104	農具	柄	(13.7)	27	2.5	広葉樹	板目 未製品	中央部下層	PL40
W105	農具	柄	(26.5)	47	3.9	コナラ	板目	西部下層	PL40
W106	農具	柄	(14.6)	43	2.1	クヌギ	芯持削出	西部下層	PL40
W107	農具	横柵	41.8	50	5.0	広葉樹	芯持削出 捩き部先端部摩滅	西部下層	PL40
W108	農具	横柵	(32.8)	7.3	6.8	クヌギ	みかん柄 粗り削り調整 未製品	西部下層	PL40
W109	農具	堅杵	82.8	90	8.4	アカガシ	芯持削出 捩き部先端部摩滅	西部下層	PL40
W110	農具	堅杵	(35.7)	8.3	7.1	クヌギ	芯持削出 捩き部先端部摩滅	西部下層	PL40
W111	農具	堅杵	(36.0)	7.7	5.5	クヌギ	芯持削出 捩き部先端部摩滅	西部下層	PL40
W112	農具	堅杵	(36.5)	8.3	6.2	広葉樹	芯持削出 捩き部先端部摩滅	西部上層	PL40
W113	農具	堅杵	(44.9)	7.8	6.9	クヌギ	芯持削出 捩き部先端部摩滅	西部下層	PL40
W114	服飾具	横柵	(8.2)	4.8	0.8	イヌキ	板目 掘残焼存 10本 1cm間に8本	西部下層	PL38

番号	種別	器種	口径	器高	底径	材質	特徴		出土位置	備考		
							横	縦				
W 115	容器	挽物・高台付环	[120]	6.2	[8.2]	イヌガヤ	板木取り	芯材漆	中央部上層	PL39		
W 116	容器	挽物・皿	[440]	(2.2)	-	ケヤキ	横木取り	漆	覆土中	PL39		
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴		出土位置	備考		
							板目	中央部円孔、径(19)cm				
							板目		覆土中	PL41		
							板目		中央部上層	PL41		
							板目		中央部下層	PL41		
							板目		覆土中			
							板目 片面刃物痕 一部炭化		西部下層	PL41		
							板目 中央部内孔 径(12)cm 片面刃物痕		覆土中			
							板目 片面刃物痕		西部下層	PL42		
							板目 皮織じ 片面刃物痕		東部下層	PL41		
							板目 皮織じ 片面刃物痕		西部下層	PL41		
W 125	容器	円形曲物・底板	[193]	8.1	0.7	アスナロ	板目 皮織じ		中央部下層	PL41		
							板目 片面刃物痕					
							板目 片面刃物痕					
							板目 片面刃物痕					
							板目 片面刃物痕					
							板目 片面刃物痕					
							板目 片面刃物痕					
							板目 片面刃物痕					
							板目 片面刃物痕					
							板目 片面刃物痕					
W 134	容器	格円形曲物・底板	[508]	5.1	1.0	ヒノキ	板目 皮織じ 円孔1か所 径3mm 片面刃物痕		中央部下層	PL42		
							板目 皮織じ 円孔1か所 径3mm 片面刃物痕					
							板目 皮織じ 円孔2か所 径4mm 片面刃物痕					
							板目 皮織じ 片面刃物痕					
							板目 皮織じ 片面刃物痕					
							板目 皮織じ 片面刃物痕					
							板目 皮織じ 片面刃物痕					
							板目 皮織じ 片面刃物痕					
							板目 皮織じ 片面刃物痕					
							板目 皮織じ 片面刃物痕					
W 139	容器	曲物・彫板	[21.6]	4.5	1.0	ヒノキ	板目 皮織じ 孔1か所 径4mm 両面刃物痕		中央部下層	PL42		
							板目 皮織じ 孔1か所 径4mm 両面刃物痕					
							板目 皮織じ 孔1か所 径4mm 両面刃物痕					
							板目 皮織じ 孔1か所 径4mm 両面刃物痕					
							板目 皮織じ 孔1か所 径4mm 両面刃物痕					
							板目 皮織じ 孔1か所 径4mm 両面刃物痕					
							板目 皮織じ 孔1か所 径4mm 両面刃物痕					
							板目 皮織じ 孔1か所 径4mm 両面刃物痕					
							板目 皮織じ 孔1か所 径4mm 両面刃物痕					
							板目 皮織じ 孔1か所 径4mm 両面刃物痕					
W 141	容器	曲物・筒	[26.4]	17.9	1.9	ヒノキ	板目 皮織じ 筒状の材を孔の彫板で挟んでいる 8~9mm間隔で向ひ込み 木組じ		中央部下層	PL42		
							板目 皮織じ 筒状の材を孔の彫板で挟んでいる 8~9mm間隔で向ひ込み 木組じ					
							板目 皮織じ 筒状の材を孔の彫板で挟んでいる 8~9mm間隔で向ひ込み 木組じ					
							板目 皮織じ 筒状の材を孔の彫板で挟んでいる 8~9mm間隔で向ひ込み 木組じ					
							板目 皮織じ 筒状の材を孔の彫板で挟んでいる 8~9mm間隔で向ひ込み 木組じ					
							板目 皮織じ 筒状の材を孔の彫板で挟んでいる 8~9mm間隔で向ひ込み 木組じ					
							板目 皮織じ 筒状の材を孔の彫板で挟んでいる 8~9mm間隔で向ひ込み 木組じ					
							板目 皮織じ 筒状の材を孔の彫板で挟んでいる 8~9mm間隔で向ひ込み 木組じ					
							板目 皮織じ 筒状の材を孔の彫板で挟んでいる 8~9mm間隔で向ひ込み 木組じ					
							板目 皮織じ 筒状の材を孔の彫板で挟んでいる 8~9mm間隔で向ひ込み 木組じ					
W 153	部材	建築用材	[98.0]	17.0	8.5	タリ	イヌガヤ 芯持削出 未製品		東部下層	PL39		
							板目 皮織じ 円孔1か所 径4mm ケビキ					
							板目 皮織じ 内面ケビキ 漆付着					
							板目 皮織じ 内面ケビキ					
							板目 皮織じ 内面ケビキ					
							板目 皮織じ 内面ケビキ					
							板目 皮織じ 内面ケビキ					
							板目 皮織じ 内面ケビキ					
							板目 皮織じ 内面ケビキ					
							板目 皮織じ 内面ケビキ					
W 157	部材	建築用材	[110.8]	12.0	5.2	タリ	木組み部		PL30	PL30		
							木組み部					
							木組み部					
							木組み部					
							木組み部					
							木組み部					
							木組み部					
							木組み部					
							木組み部					
							木組み部					
W 166	部材	建築用材	[402]	10.2	4.4	タヌギ	板目 極穴 1か所 幅3.2cm 両端部削り加工		木組み部	PL32		
							板目 極穴 1か所 幅4.8cm					
							板目 極穴 1か所 幅4.8cm					
							板目 極穴 1か所 幅4.8cm					
							板目 極穴 1か所 幅4.8cm					
							板目 極穴 1か所 幅4.8cm					
							板目 極穴 1か所 幅4.8cm					
							板目 極穴 1か所 幅4.8cm					
							板目 極穴 1か所 幅4.8cm					
							板目 極穴 1か所 幅4.8cm					
W 167	部材	建築用材	[94.3]	20.0	2.5	タヌギ	板目		木組み部	PL32		
							板目					
							板目					
							板目					
							板目					
							板目					
							板目					
							板目					
							板目					
							板目					
W 168	部材	建築用材	[54.0]	20.5	11.0	タヌギ	芯無削出 長辺側面に矢込仕口 中央に柱穴穴		木組み部	PL30		
							芯無削出 長辺側面に矢込仕口 中央に柱穴穴					

番号	種類	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W 77	土木材	杭	875	78	60	ニレ	芯持丸木 先端部5方向からの削り加工	木組み部	PL32
W 78	土木材	杭	975	90	80	クリ	芯持丸木 先端部3方向からの削り加工	木組み部	PL32
W 80	土木材	杭	570	100	60	コナラ	半裁材 先端部3方向からの削り加工	木組み部	
W 81	土木材	杭	1540	100	40	広葉樹	みかん削 先端部3方向からの削り加工	木組み部	
W 82	土木材	杭	580	80	50	広葉樹	半裁材 先端部4方向からの削り加工	木組み部	
W 83	土木材	杭	1100	70	70	広葉樹	半裁材 先端部2方向からの削り加工	木組み部	
W 84	土木材	杭	1670	100	100	広葉樹	みかん削 先端部3方向からの削り加工	木組み部	
W 85	土木材	杭	1130	70	70	広葉樹	半裁材 先端部5方向からの削り加工	木組み部	
W 87	土木材	杭	1270	110	60	広葉樹	みかん削 先端部1方向からの削り加工	木組み部	
W 88	土木材	杭	560	110	80	広葉樹	芯持丸木 先端部1方向からの削り加工	木組み部	
W 89	土木材	杭	650	130	110	広葉樹	みかん削 先端部5方向からの削り加工	木組み部	
W 90	土木材	杭	300	60	50	広葉樹	半裁材 先端部3方向からの削り加工	木組み部	
W 91	土木材	杭	680	80	80	広葉樹	芯持丸木 先端部4方向からの削り加工	木組み部	
W 92	土木材	杭	1070	110	100	針葉樹	芯持丸木 先端部5方向からの削り加工	木組み部	
W 93	土木材	杭	390	60	40	広葉樹	みかん削 先端部4方向の削り加工	木組み部	
W 144	土木材	杭	(508)	94	84	クヌギ	みかん削 先端部3方向からの削り加工	木組み部	
番号	種類	名称	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
N 3	紙骨	裏骨	(56)	(31)	(26)	(9.2)	肩脛骨片	中央部下層	PL38

4 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堀跡1条、溝跡1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述するが、平面図は遺構全体図に示す。

(1) 堀跡

第91号堀跡（第4・129図）

位置 調査区南端部のT 10d2～T 11c1区、標高13～16mの台地斜面部から低地部に位置している。西部は平成14・17年度の調査区に位置し、『茨城県教育財團文化財調査報告』第214・291集でそれぞれ報告されている。

確認状況 排水用トレンチを掘削したため、北肩部の一部と土層断面しか確認できなかった。

重複関係 第1・2号遺物集中地点を掘り込み、第188・189号溝に掘り込まれている。

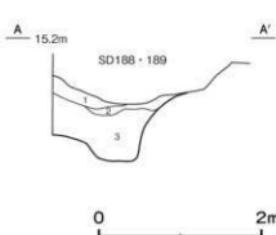
規模と形状 調査区南部のT 6g0区から東方向（N-72～85°-E）と南方（S-11-W）へL字状に延びており、本報告分は東方向へ延びる堀の東部にあたる。トレンチ掘削のため、長さは335mしか確認できなかった。東方向（N-83°-E）に直線的に延びており、T 11c1区で止まるか、あるいは南側へ屈曲していると推定できる。深さは125～132cmで、東部ほど深くなっている。断面形は逆台形と推定でき、確認できた壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。黒褐色土を主体とした自然堆積である。

土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子微量
2	黒	褐	色	ロームブロック微量

3	黒	色	ローム粒子・焼土粒子微量
---	---	---	--------------



出土遺物 陶器片1点（甕）のほか、流れ込んだ土師器片13点（壺6、甕7）、須恵器片2点（壺、高盤）が出土している。いずれも摩滅した細片のため、図示できなかった。

所見 南端部をL字状に区画している。これまでに確認できた総延長は193mで、T 6g0区の屈曲部から東方向へ168m、南方向へ29m延びており、それぞれ調査区域外へ延びている。時期は、『茨城県教育財團文化財調査報告』第214・291集の成果から15世紀後半と考えられる。

第129図 第91号堀跡実測図

(2) 溝跡

第556号溝跡（第4・130・131図）

位置 調査区中央部のS 10h6区から南部のT 10b8区にかけて、標高15mほどの緩斜面部に位置している。

重複関係 第562号溝跡、第1・2号遺物集中地点を掘り込んでいる。

規模と形状 湧水点を掘りくぼめた北部の土坑部と、そこに溜まった水を排水する南部の溝部で構成されている。土坑部は、北部の立ち上がりが不鮮明であったため、長軸7.10m、短軸4.65mしか確認できなかった。平面形は不定形で、長軸方向はN-31°-Wである。底面は凹凸があり、北部には径65cmの円形で、深さ42

cmの湧水孔があり、南半部には長軸357cm、短軸193cmの不整隅丸長方形で、深さ10~14cmの凹みがある。壁は緩やかに立ち上がっている。深さは62~71cmで、底部は砂礫層（基本層序Ⅶ層）を掘り込んでおり、激しい湧水が認められる。溝部は5条に分かれており、堆積状況から、西側の溝群から東側の溝群への新旧関係が認められる。南端部が不鮮明なため、長さ8.40~13.15mしか確認できなかった。いずれも南方向（S-4~8°-E）に直線的に延びており、上幅0.20~0.65m、下幅0.11~0.40m、深さ9~16cmである。断面形はU字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ34cm・26cmで、性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1 黒褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

覆土 6層に分層できる。粘質土を主体とした自然堆積で、第3・6層は流水時の堆積物である。

土層解説

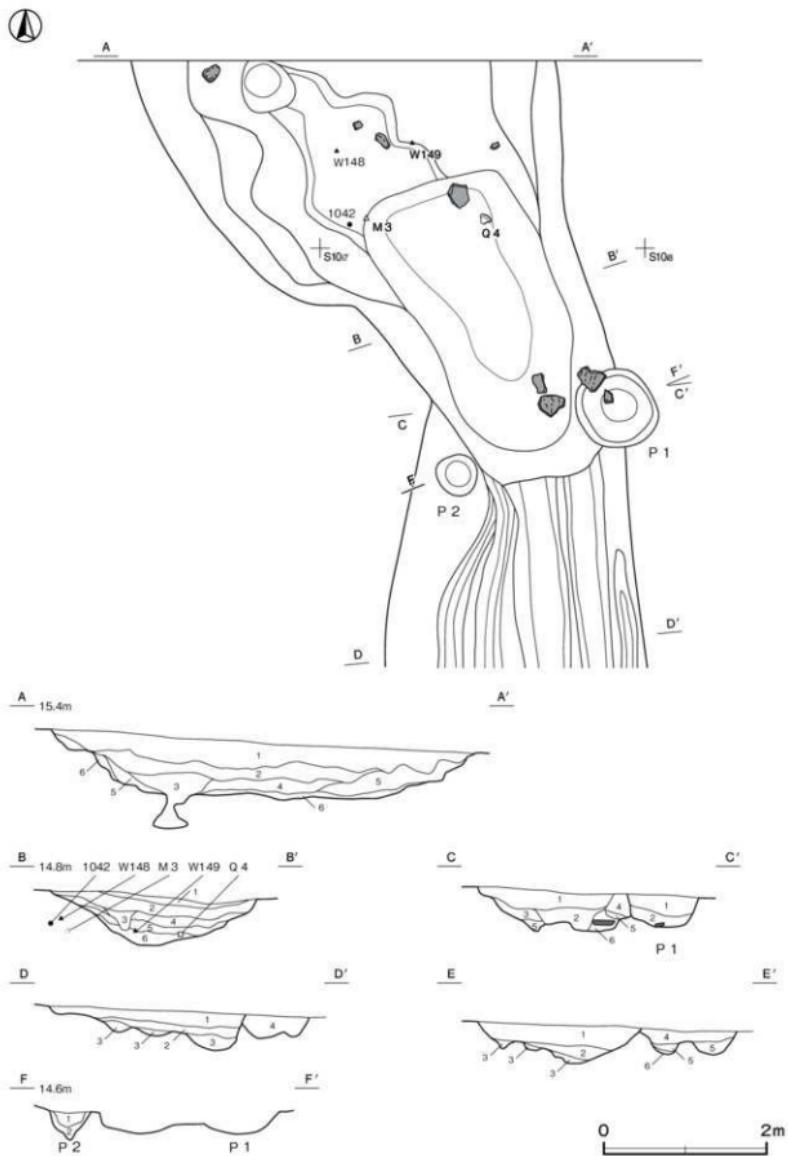
1 暗灰黄色 粘質土 砂土粒子少量、粘土ブロック微量	4 褐灰色 粘質土 灰化物少量、燒土粒子微量
2 黄灰色 粘質土 粘土ブロック・焼土粒子微量	5 暗灰黄色 粘質土 細砂微量
3 にふい黄褐色 砂質土 鉄分沈着量多	6 オリーブ褐色 粘質土混じり粗砂 鉄分沈着量多

遺物出土状況 土師質土器片14点（小皿4、内耳鍋10）、陶器8点（碗2、皿1、壺5）、石器3点（石臼2、砥石1）、金属製品2点（刀子、錢貨）、木製品2点（円板状木製品）、自然遺物（自然木、種子類、ケヤキの葉）、石8点（雲母片岩）が土坑部の覆土下層から散在した状態で出土している。また、流れ込んだ土師器片79点（壺15、高台付椀2、高坏1、鉢2、壺59）、須恵器片57点（壺19、高台付坏2、壺36）、石器1点（磨石）が出土している。1042・Q4・M3・W148・W149は、土坑部の覆土下層からそれぞれ出土している。

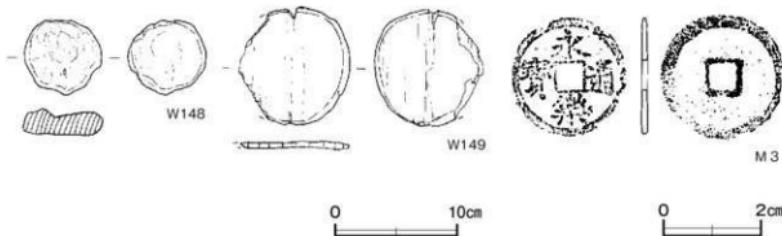
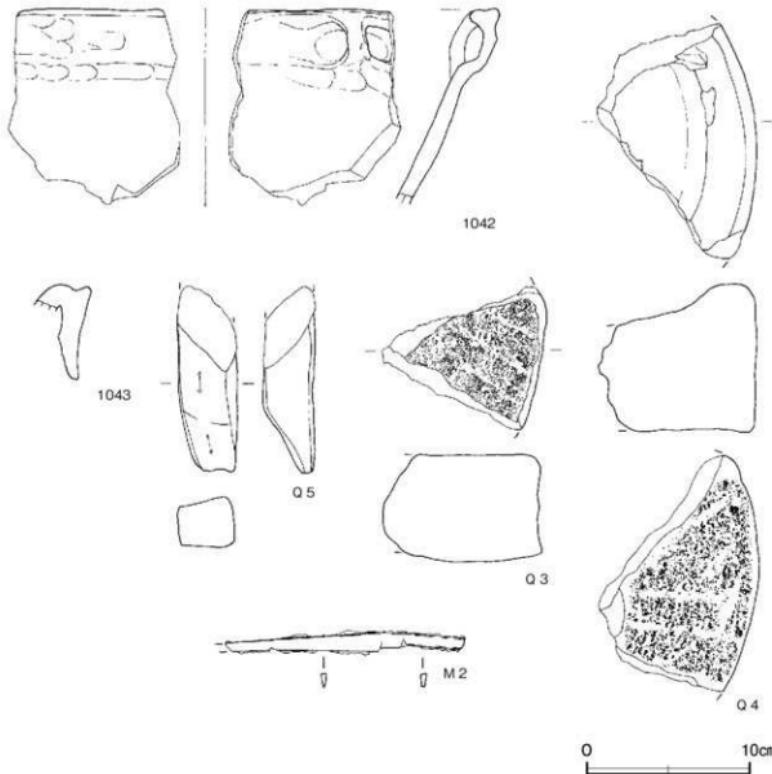
所見 時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。調査区北東側に隣接している香取神社に伴う水場の可能性がある。

第556号溝跡出土遺物観察表（第131図）

番号	種別	器種	口径	厚高	底径	胎土	色調	既成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1042	土師質土器	内耳鍋	-	(120)	-	長石・雲母	にふい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	下層	10%
1043	陶器	壺	-	(59)	-	長石・石英	褐灰	良好	ロクロナデ	覆土中	5% 常滑
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q3	石臼	(89)	(10.3)	(6.6)	(567.2)	安山岩	下白	横目3条		覆土中	PL43
Q4	石臼	(145)	(9.8)	9.2	(1134.6)	安山岩	上白	横目4条		下層	PL43
Q5	砥石	(115)	38	32	(1166)	輝灰岩	砥面	3面		覆土中	PL43
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
M2	刀子	(148)	13	0.35	(11.7)	鉄	切先部欠損	茎部断面長方形 片区		覆土中	
M3	錢貨	24	24	0.1	1.9	銅	永樂通宝	明錢（折銭1408年）		下層	PL43
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴			出土位置	備考
W148	用途不明	円板状木製品	64	61	20	クリ	板目			下層	PL43
W149	用途不明	円板状木製品	97	(90)	0.6	ヒノキ	板目			下層	PL43



第 130 図 第 556 号溝跡実測図



第 131 図 第 556 号溝跡出土遺物実測図

5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期不明の井戸跡2基、土坑21基、道路跡4条、溝跡15条、ピット群2か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 井戸跡

第200号井戸跡（第132図）

位置 調査区南東部のT10c0区、標高13mほどの埋没谷部に位置している。

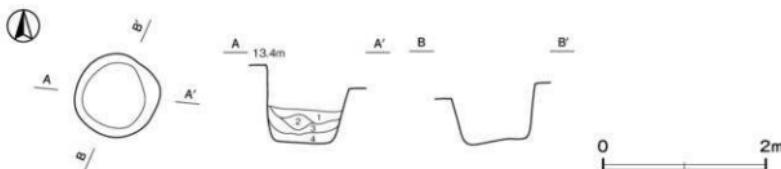
規模と形状 径1.06mほどの円形である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。確認面からの深さは62cmで、常総粘土層を掘り込んでおり、底部からは湧水が認められる。

覆土 4層に分層できる。軟質の粘質土や粘土を主体とする自然堆積である。

土層解説

1 灰オリーブ色	粗砂混じり粘質土	常総粘土ブロック少量	3 灰 色	粗砂混じり粘質土
2 灰オリーブ色	粘質土	植物遺体少量	4 オリーブ黒色	粘土 常総粘土ブロック中量

所見 時期は、出土遺物が無いため不明である。



第132図 第200号井戸跡実測図

第201号井戸跡（第133図）

位置 調査区南部のT10c4区、標高15mほどの斜面部に位置している。

規模と形状 径1.03mほどの円形である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。確認面からの深さは153cmで、常総粘土層を掘り込んでおり、下位の壁部からは湧水が認められる。

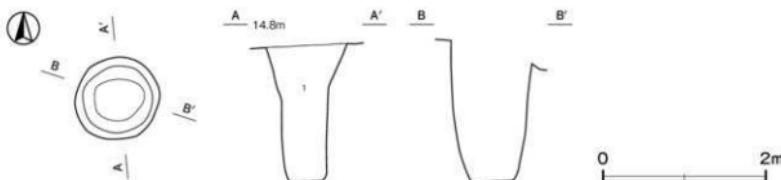
覆土 単一層である。台地部からの流入土を主体とした自然堆積である。

土層解説

1 灰 色	砂質土	ロームブロック少量
-------	-----	-----------

遺物出土状況 土師器片7点（壺2、甕5）、須恵器片1点が出土している。いずれも摩滅した細片である。

所見 時期は、出土土器が細片のため不明である。



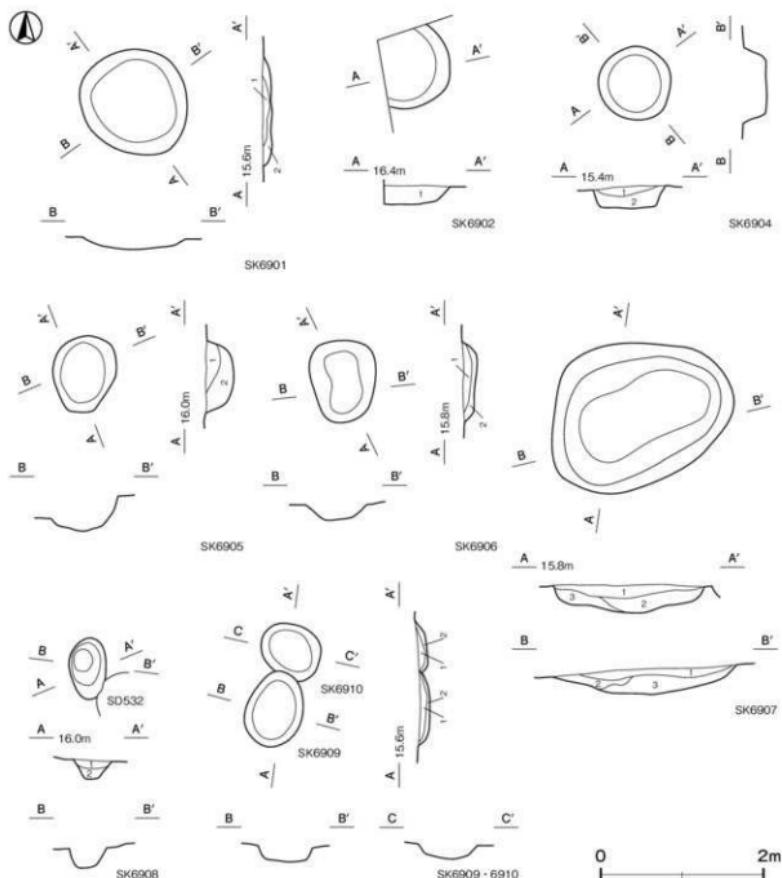
第133図 第201号井戸跡実測図

表5 その他の井戸跡一覧表

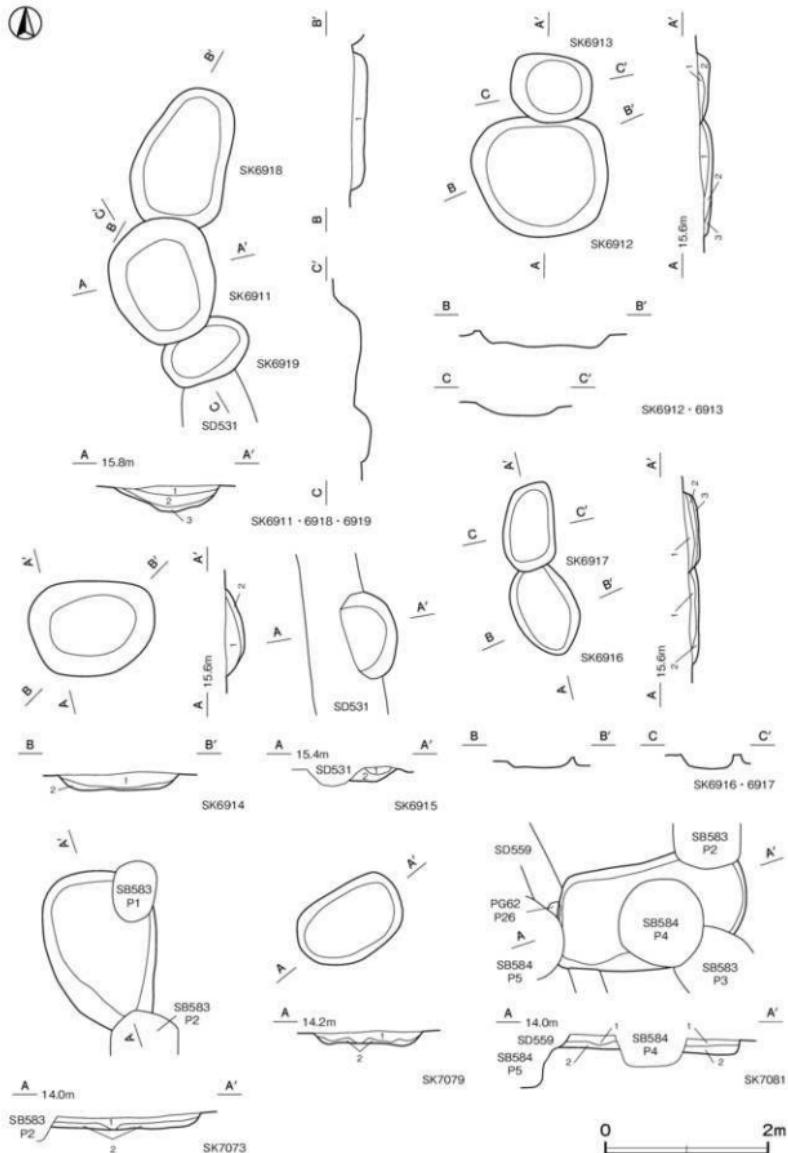
番号	位置	長径方向	平面形	規 格		底面	壁面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
200	T10e9	-	円形	1.06 × 1.02	62	平坦	直立	自然		
201	T10e4	-	円形	1.03 × 1.00	153	平坦	直立	自然	土師器片、須恵器片	

(2) 土坑(第134・135図)

今回の調査で、時期不明の土坑21基を確認した。以下、実測図と土層解説、一覧表を掲載する。



第134図 その他の土坑実測図(1)



第135図 その他の土坑実測図(2)

第 6901 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粗砂中量、ローム粒子少量、焼土ブロック、炭化粒子微量
2 にい青褐色 粗砂中量、ロームブロック、炭化物少量

第 6902 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

第 6904 号土坑土層解説

- 1 底黄褐色 粗砂中量、ロームブロック・粘土ブロック少量
2 暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・粗砂少量、炭化粒子微量

第 6905 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粗砂中量、粘土ブロック少量
2 にい青褐色 粗砂多量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量

第 6906 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粗砂中量、炭化物微量
2 にい青褐色 粗砂多量

第 6907 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粗砂中量、ロームブロック少量
2 暗褐色 粗砂中量、ロームブロック少量
3 暗褐色 粗砂少量、ロームブロック少量

第 6908 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粗砂中量、ローム粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子・粗砂少量

第 6909 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粗砂中量、ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
2 にい青褐色 粗砂中量、ローム粒子微量

第 6910 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粗砂中量、ローム粒子、焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 にい青褐色 粗砂中量、ローム粒子微量

第 6911 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粗砂中量、ローム粒子、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・粗砂少量
3 暗褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・粗砂微量

第 6912 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
2 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
3 黑褐色 ロームブロック中量、粘土粒子少量

第 6913 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 にい青褐色 粗砂中量、ロームブロック少量

第 6914 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック多量、炭化物少量、ローム粒子微量
2 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量、ローム粒子微量

第 6915 号土坑土層解説

- 1 にい赤褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック・ローム粒子・粗砂少量
2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・粗砂少量

第 6916 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 粘土ブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・粗砂少量

第 6917 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 粘土ブロック少量
2 暗褐色 粘土ブロック少量
3 にい褐色 粘土ブロック少量

第 6918 号土坑土層解説

- 1 にい青褐色 粗砂中量

第 7073 号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ロームブロック微量

第 7079 号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム粒子微量

第 7081 号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子、炭化粒子微量

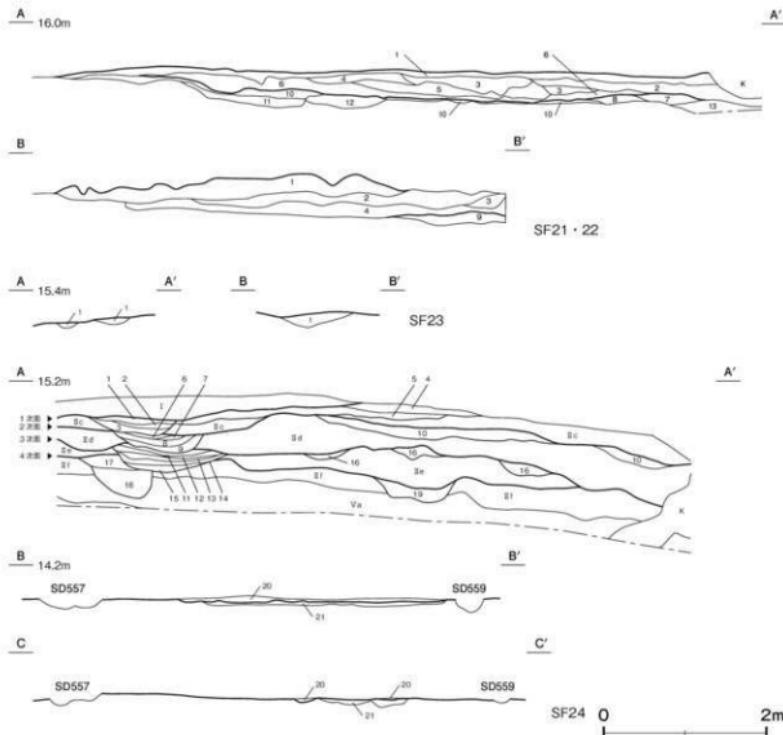
表 6 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規格		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
6901	SI066	N - 36° - W	楕円形	1.37 × 1.28	13	盤状	板状	自然	土器片、破壊器片	
6902	S19d0	-	[円形]	(0.97 × 0.82)	23	平坦	板状	人為		
6904	SI0g6	-	円形	0.9 × 0.9	28	平坦	外傾	人為	土器片、破壊器片	
6905	SI0e4	N - 16° - E	楕円形	0.95 × 0.78	42	盤状	外傾	人為		
6906	SI0d4	N - 10° - W	楕円形	1.02 × 0.80	20	盤状	板状	自然		
6907	SI0f4	N - 59° - E	楕円形	2.36 × 1.82	30	平坦	板状	人為		
6908	SI0d4	N - 2° - W	楕円形	0.75 × 0.47	22	盤状	外傾	自然	土器片、破壊器片	本跡 → SD532
6909	SI0f5	N - 17° - E	楕円形	0.94 × 0.70	18	平坦	外傾	人為	土器片、破壊器片	SK6910 → 本跡
6910	SI0f5	N - 52° - W	楕円形	0.77 × 0.65	17	盤状	板状	自然		本跡 → SK6909
6911	SI0g4	N - 21° - W	隅丸長方形	1.52 × 1.29	32	平坦	板状	自然		SK6918 - 6919 → 本跡
6912	SI0h5	-	円形	1.76 × 1.65	17	平坦	板状	人為		本跡 → SK6913
6913	SI0h5	N - 62° - W	楕円形	1.07 × 0.85	13	盤状	板状	人為		SK6912 → 本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	側面	覆土	主な出土遺物	備考 重複開発(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
6914	S10g5	N - 64° - E	椭円形	154 × 125	20	平坦	緩斜	人為	土師器片、須恵器片	
6915	S10h4	-	[円形]	[112] × [62]	17	平坦	緩斜	人為		本跡→SD531
6916	S10h5	N - 16° - W	椭円形	115 × 0.77	10	平坦	緩斜	人為		本跡→SK6917
6917	S10h5	N - 1° - E	隅丸長方形	106 × 0.63	14	平坦	緩斜	人為		SK6916 → 本跡
6918	S10i4	N - 22° - E	椭円形	[169] × 127	15	平坦	緩斜	自然		本跡→SK6911
6919	S10g4	N - 61° - E	椭円形	111 × 0.63	12	平坦	緩斜	人為		SD531 → 本跡 → SK6911
7073	S11i1	N - 9° - W	椭円形	195 × 1.38	17	平坦	緩斜	人為		本跡→SH583
7079	S10h8	N - 61° - E	隅丸長方形	138 × 0.90	17	平坦	緩斜	人為		
7081	S11i1	N - 77° - E	隅丸長方形	[226] × 133	18	平坦	外傾	人為		本跡→SH583・584 SD559 PG62 P26

(3) 道路跡 (第4・136図)

今回の調査で、時期不明の道路跡4条を確認した。以下、土層断面図と土層解説、一覧表を掲載し、平面図は遺構全体図で示す。



第136図 その他の道路跡実測図

第 21 号道路跡土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 (締まり強い)
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 オリーブ褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗灰褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 6 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

第 22 号道路跡土層解説

- 7 黒褐色 廃棄物・ローム粒子・焼土粒子微量 (締まり強い)
- 8 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量 (締まり強い)
- 9 にふ・黄褐色 粗砂多量、炭化粒子微量
- 10 極暗褐色 ロームブロック・粗砂・炭化物・焼土粒子少量
- 11 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 12 黑褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 13 黑褐色 粗砂多量、炭化粒子微量
- 14 黑褐色 ロームブロック・粗砂・鉄分沈着少量
- 15 黑褐色 ロームブロック中量、粗砂・鉄分沈着微量
- 16 暗褐色 ロームブロック少量、鉄分沈着微量 (締まり強い)
- 17 暗褐色 ロームブロック少量
- 18 暗褐色 ローム粒子・粗砂・鉄分沈着少量
- 19 暗褐色 ロームブロック中量、粗砂・鉄分沈着微量 (締まり強い)

第 23 号道路跡土層解説

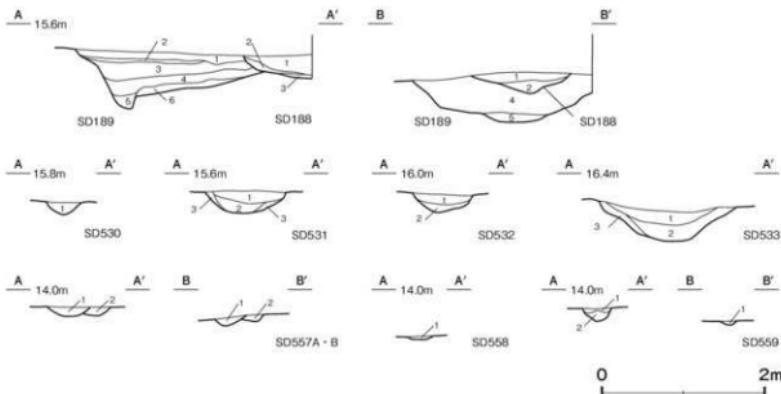
- 1 極暗褐色 ローム粒子微量 (締まり強い)
- 20 暗褐色 ローム粒子・粗砂少量、焼土粒子微量
- 21 黑褐色 ローム粒子・粗砂微量 (締まり強い)

表7 その他の道路跡一覧表

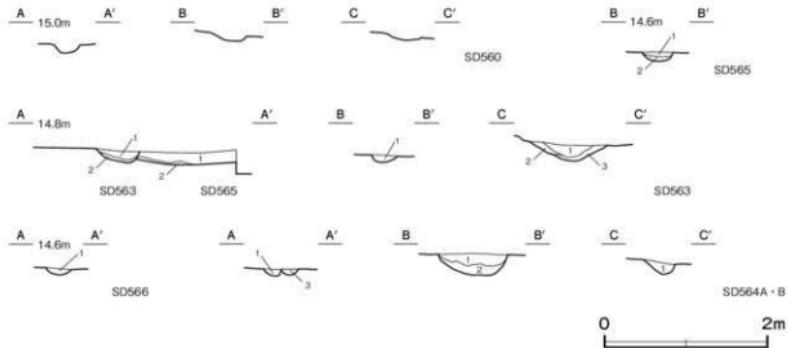
番号	位置	方 向	形 状	幾 梱		覆 土	主な出土 遺物	備 考
				長さ (m)	最大幅 (m)			
21	SI0e9 ~ SI1el	N - 22° - W	直線	(5.19)	3.07	自然	陶器片、磁器片、瓦片	SF22 → 本跡
22	SI0e0 ~ SI1f1	N - 3° - E	直線	(3.35)	1.83	人為	陶器片、磁器片	本跡 → SF21
23	SI0h3 ~ TI0c1	N - 13° - 南 - E	蛇行	(43.3)	0.86	自然	土師質土器片、耳環	
24	SI0h0 ~ TI1h2	N - 23° - W	直線	(16.3)	9.50	自然	陶器片	SD083・584 PG62 → 本跡

(4) 溝跡 (第 4・137・138 図)

今回の調査で、時期不明の溝跡 16 条を確認した。以下、土層断面図と土層解説、一覧表を掲載し、平面図は遺構全体図で示す。



第 137 図 その他の溝跡実測図(1)



第138図 その他の溝跡実測図(2)

第188号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 にぶい褐色 粗砂中量、ローム粒子微量

第557A・B号溝跡土層解説

第557A・B号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粗砂少量 (SD567A)
- 2 暗褐色 粗砂少量、ローム粒子微量 (SD567B)

第558号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 粗砂中量、ローム粒子少量

第559号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 粗砂少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・粗砂微量

第563号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 オリーブ色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第564A・B号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、細繊維量 (SD564A)
- 2 オリーブ色 ロームブロック・粗砂中量、焼土粒子・炭化粒子微量 (SD564B)
- 3 暗褐色 粘質土 ロームブロック少量 (SD564B)

第565号溝跡土層解説

- 1 オリーブ色 粘質土、ローム粒子少量
- 2 暗灰褐色 ロームブロック中量

第566号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第530号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・粗砂少量、ロームブロック・炭化粒子微量

第531号溝跡土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子、焼土粒子・炭化粒子微量

第532号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 粗砂中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粗砂中量、ロームブロック・炭化粒子少量

第533号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 粗砂中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

表8 その他の溝跡一覧表

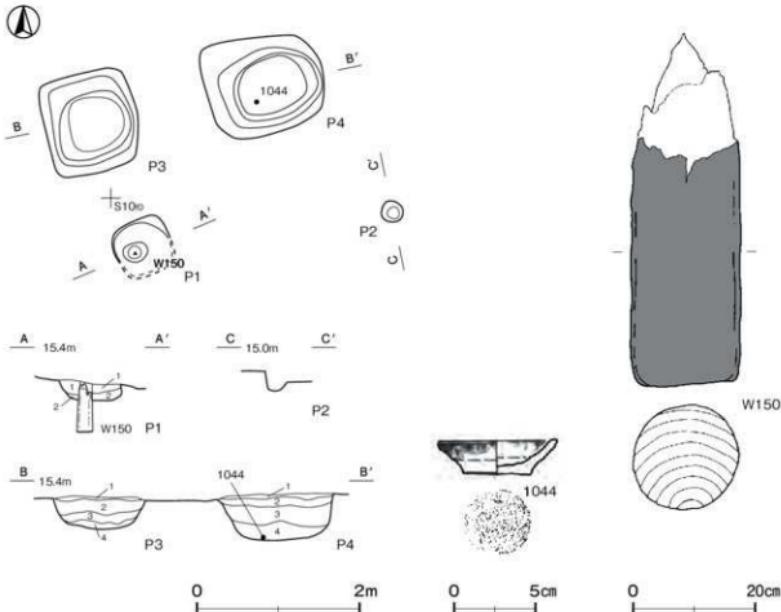
番号	位置	方向	形状	断面			断面	横面	裏土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)				
188	T 9d ~ T10d	N - 80° - E	直線	(11.63)	(2.20)	0.20 - 0.62	74	逆台形	外傾	人骨	
189	T 9d ~ T10d	N - 80° - E	蛇行	(8.70)	0.60 ~ 1.30	0.20 - 0.62	29	逆台形	傾斜	人骨	新乳 → 本路 → SD189
530	SI09 ~ SI09t	N - 18° - W	直線	(9.13)	0.40 - 0.52	0.18 ~ 0.38	15	U字状	傾斜	人骨	土師器片、瓶壺器片
531	SI09t ~ SI09t	N - 13° - W	直線	(5.45)	0.90 - 1.06	0.15 - 0.46	25	U字状	傾斜	人骨	土師器片、瓶壺器片、瓦片
532	SI09t ~ SI09t	N - 15° - W	直線	(2.50)	0.54 - 0.74	0.34 - 0.42	12 ~ 30	U字状	傾斜	自然	SK6915 → 本路 → SK6919
											SK6908 → 本路

番号	位置	方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)					
533	S10c3 - S10d3	N - 25° - W	直線	(1.70)	0.65 - 0.97	0.40 - 0.64	35	逆台形	緩斜	自然		重複関係(古→新)
557A	S10g - T11h1	N - 15° - W	直線	7.16	0.18 - 0.56	0.06 - 0.20	10 - 12	U字状	緩斜	人為	土師器片、粗粘器片、石器	SD557B, PG62 P32, P30 → 本跡
557B	S10g - T11h1	N - 15° - W	直線	6.60	0.96 - 0.22	0.02 - 0.12	6 - 10	U字状	緩斜	自然		PG62 P32, P36 本跡 → SD557A
558	T11a1 - T11b	N - 17° - W	直線	3.42	0.14 - 0.42	0.08 - 0.12	4	U字状	緩斜	自然		本跡 → SF24
559	S11h - T11a2	N - 22° - W	直線	(11.72)	0.08 - 0.40	0.06 - 0.12	8 - 18	U字状	外傾	自然	土師質土器片、陶器片	SK593, 594, SK761 置 → 本跡
560	S10d3 - T10b4	N - 38° - E - N - K - NT	弧状	(9.93)	0.30 - 0.60	0.04 - 0.21	6 - 11	U字状	緩斜	自然		SK1 X1 → 本跡
561A	S10g - S10f	N - 45° - E	直線	(5.66)	0.25 - 0.64	0.08 - 0.15	14 - 22	U字状	緩斜	人為		本跡 → SD565
561A	S10g - S10h	N - 47° - E	直線	(6.80)	0.16 - 0.23	0.06 - 0.13	9 - 15	逆台形	外傾	人為	土師器片、粗粘器片	SD566B → 本 跡 SD565
561B	S10g - S10h	N - 45° - E	直線	(7.92)	0.17 - 0.24	0.06 - 0.12	6 - 8	逆台形	外傾	人為		本跡 → SD564A, 565
565	S10h - S10g	N - 39° - W	直線	(6.20)	0.23 - 0.62	0.06 - 0.26	12	U字状	外傾	人為		SD563, 564A, 564B → 本跡
566	S10h - S10g	N - 79° - E	直線	(1.30)	0.17 - 0.27	0.04 - 0.13	7	U字状	緩斜	人為		

(5) ピット群

今回の調査では、径 16 ~ 60cm の円形で、断面形が U 字状を呈しているもの、あるいは柱痕や柱の当たりが認められたものをピットとし、ピット群 2 か所を確認した。以下、実測図と土層解説、一覧表を掲載する。

第61号ピット群（第139図）



第139図 第61号ピット群・出土遺物実測図

第1号ピット土層解説

- 1 灰 黄褐色 粘土ブロック多量、炭化物少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 灰 黄褐色 粘土ブロック多量、炭化物少量、焼土粒子微量

第3号ピット土層解説

- 1 灰 褐色 煙鉛中量、粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 灰 黄褐色 粘土ブロック多量、炭化物少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
- 3 灰 黄褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子微量
- 4 黄 褐色 粘土ブロック多量

第4号ピット土層解説

- 1 灰 褐色 粘土中量、粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 灰 褐色 粘土中量、粘土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 灰 黄褐色 粘土ブロック多量、炭化物少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
- 4 灰 色 粘土ブロック多量

第61号ピット群出土遺物観察表（第139図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1044	土器Ⅱ上層	小瓶	7.2	21.	4.1	長石・雲母	にい黄青	普通	底部削軋あ切り 口縁部外・内面油煙付着	P 4 底面	100% PLAS
W 150	木材	柱材	(58.5)	183	175	スギ	柱根部 上部断食のため欠損 横木取り 断り 加工 炭化処理			P 1	

表9 第61号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位 置	形 状	規 模		深さ (cm)	ピット番号	位 置	形 状	規 模		深さ (cm)		
			長径	短径 (cm)					長径 × 短径 (cm)	深さ (cm)			
1	S1090	[溝丸方形]	[0.71]	×	0.70	24	3	S10e9	溝丸方形	124	×	115	39
2	S1090	溝円形	0.30	×	0.24	37	4	S10e0	溝丸長方形	145	×	123	50

第62号ピット群（第140・141図）

第1号ピット土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 灰 褐色 ロームブロック少量
- 3 灰 褐色 ローム粒子少量

第2号ピット土層解説

- 1 黑 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第3号ピット土層解説

- 1 無暗褐色 ロームブロック微量

第4号ピット土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

第5号ピット土層解説

- 1 明 褐色 ロームブロック中量
- 2 灰 褐色 ロームブロック微量

第6号ピット土層解説

- 1 明 褐色 ロームブロック中量
- 2 灰 褐色 ローム粒子微量

第7号ピット土層解説

- 1 明 褐色 ロームブロック中量
- 2 灰 褐色 ロームブロック微量

第8号ピット土層解説

- 1 無暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黑 褐色 ローム粒子微量

第9号ピット土層解説

- 1 灰 褐色 ロームブロック少量
- 2 灰 オリーブ褐色 ローム粒子中量
- 3 灰 黄褐色 ロームブロック中量

第10号ピット土層解説

- 1 灰 オリーブ褐色 ロームブロック少量
- 2 灰 黄褐色 ロームブロック中量
- 3 黑 褐色 ローム粒子少量

第11号ピット土層解説

- 1 黑 褐色 粘質土 ロームブロック少量

第12号ピット土層解説

- 1 黑 褐色 粘質土 ロームブロック少量

第13号ピット土層解説

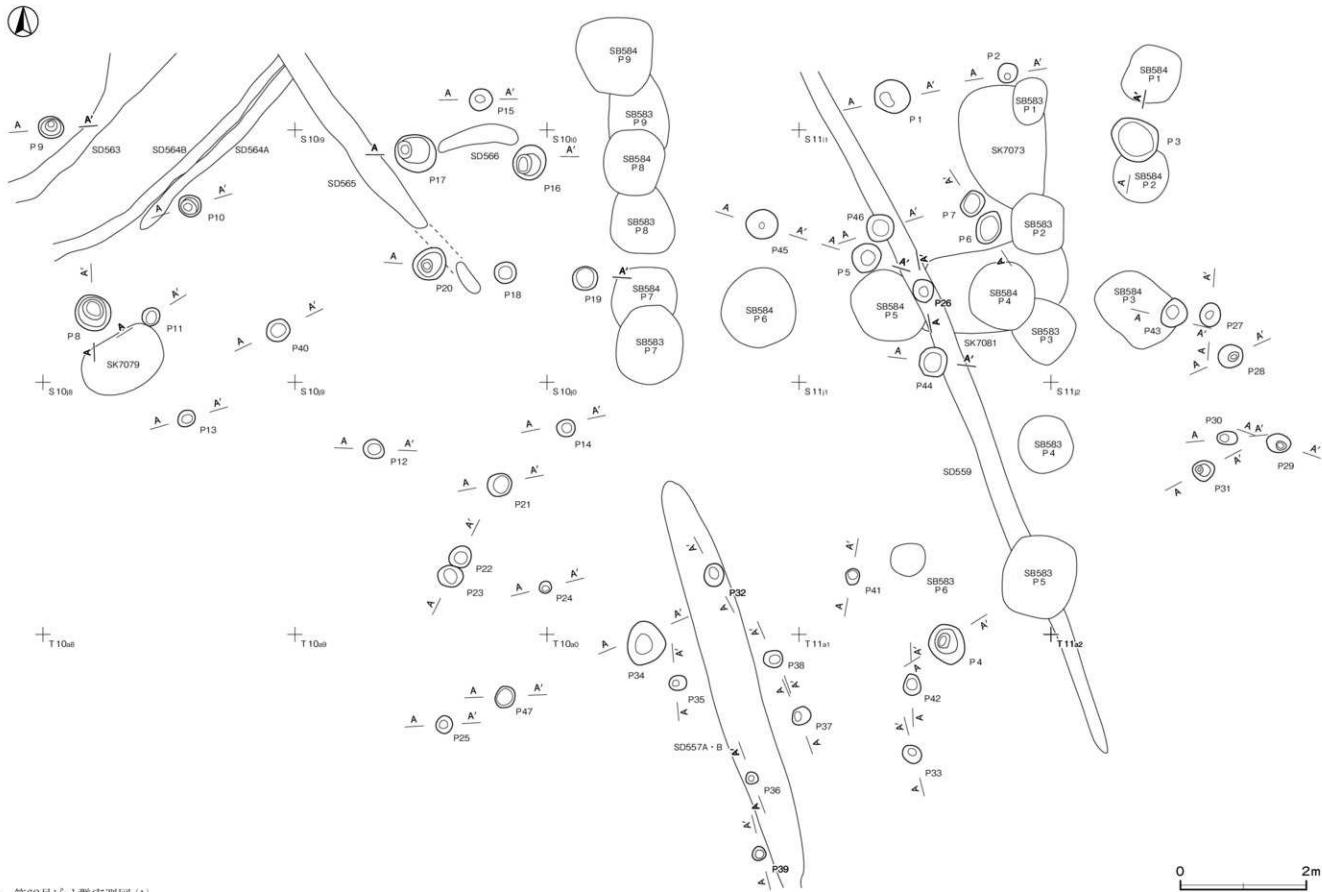
- 1 黑 褐色 粘質土 ロームブロック少量
- 2 オリーブ褐色 粘質土 ロームブロック中量

第14号ピット土層解説

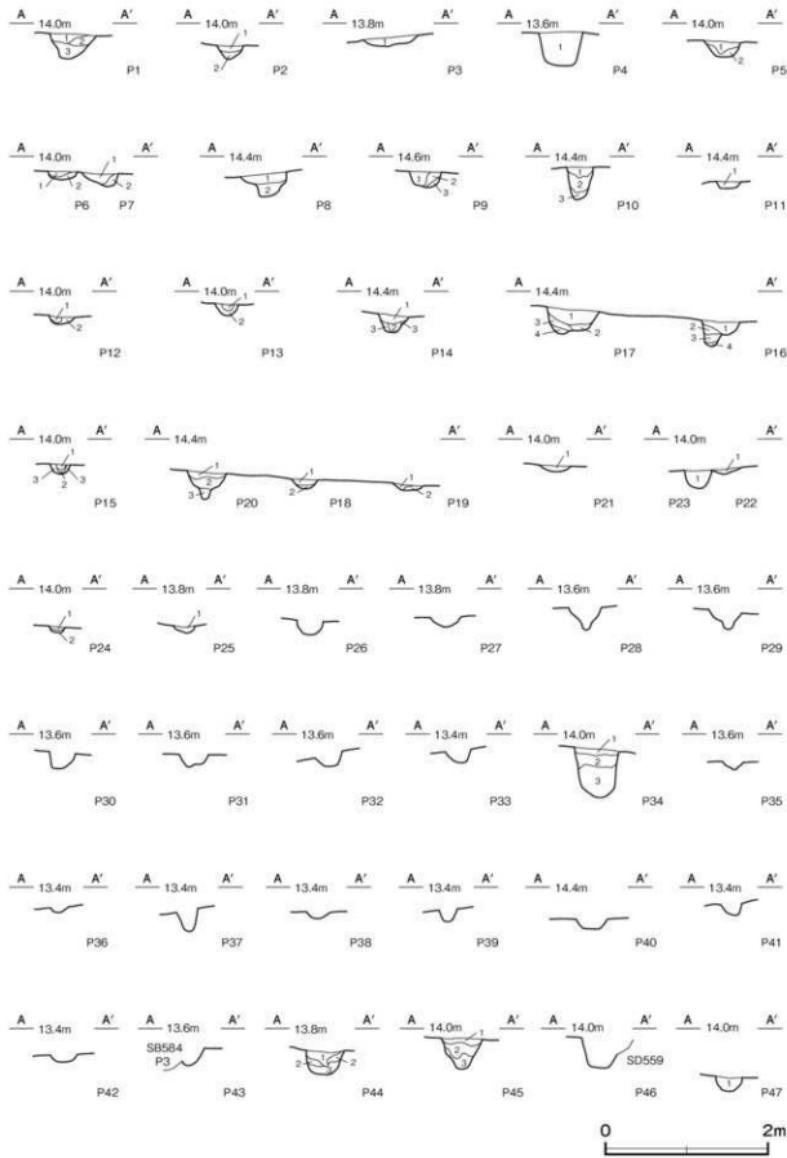
- 1 黑 褐色 ロームブロック少量
- 2 黑 褐色 ローム粒子中量
- 3 灰 黄褐色 ロームブロック中量

第15号ピット土層解説

- 1 オリーブ褐色 ローム粒子中量
- 2 灰 黄褐色 粘質土 ロームブロック中量
- 3 黑 褐色 ローム粒子少量
- 4 黑 褐色 ロームブロック少量



第140図 第62号ビット群実測図(1)



第 141 図 第 62 号 ピット群実測図 (2)

第 16 号ピット土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
 2 灰褐色 黏質土 ロームブロック中量
 3 黑褐色 ローム粒子少量
 4 黑褐色 ロームブロック少量

第 17 号ピット土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
 2 黒褐色 ローム粒子中量
 3 黑褐色 ローム粒子少量

第 18 号ピット土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子・粗砂少量
 2 灰褐色 ロームブロック中量

第 19 号ピット土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子中量
 2 灰褐色 ロームブロック中量

第 20 号ピット土層解説

- 1 黑褐色 黏質土 ロームブロック・暗褐色土ブロック中量
 2 黒褐色 黏質土 ロームブロック中量
 3 灰褐色 黏質土 ロームブロック少量

第 21 号ピット土層解説

- 1 黑褐色 黏質土 ロームブロック中量

第 22 号ピット土層解説

- 1 黑褐色 黏質土 ロームブロック少量

第 23 号ピット土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量

第 24 号ピット土層解説

- 1 黑褐色 黏質土 ロームブロック少量
 2 オリーブ褐色 黏質土 ロームブロック中量

第 25 号ピット土層解説

- 1 黑褐色 黏質土 ロームブロック微量

第 34 号ピット土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量・粗砂微量
 2 灰褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
 3 黑褐色 ロームブロック微量

第 44 号ピット土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
 2 黑褐色 ロームブロック少量
 3 灰褐色 ロームブロック中量

第 45 号ピット土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量・焼土粒子微量
 2 灰褐色 一人粒子少量
 3 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 47 号ピット土層解説

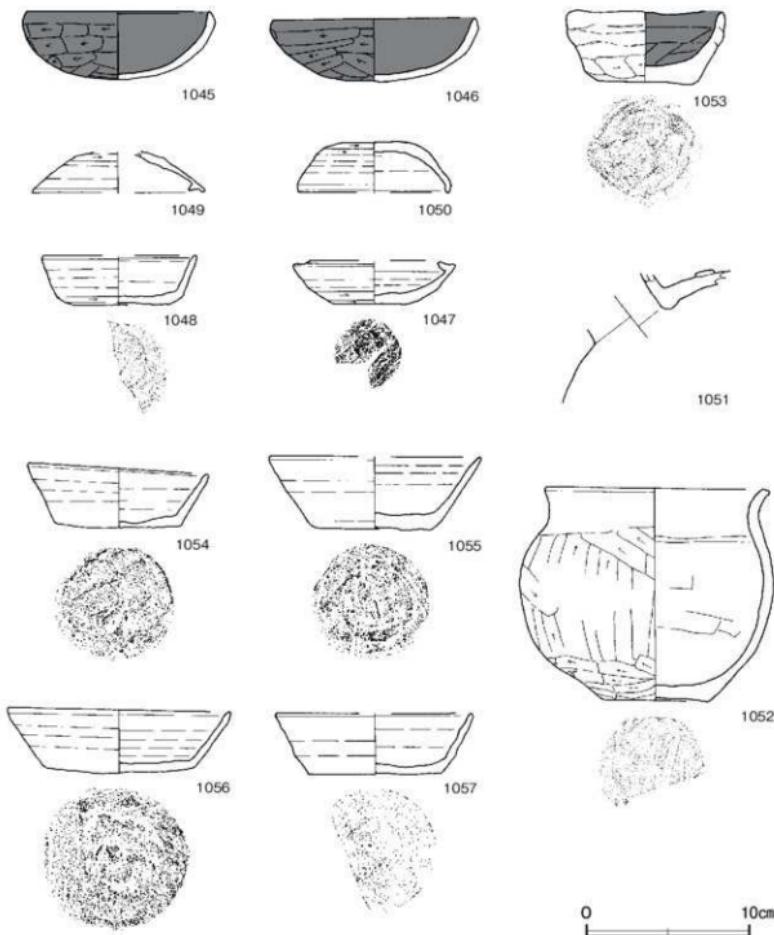
- 1 黑褐色 黏質土 ロームブロック微量

表10 第 62 号ピット群ピット一覧表

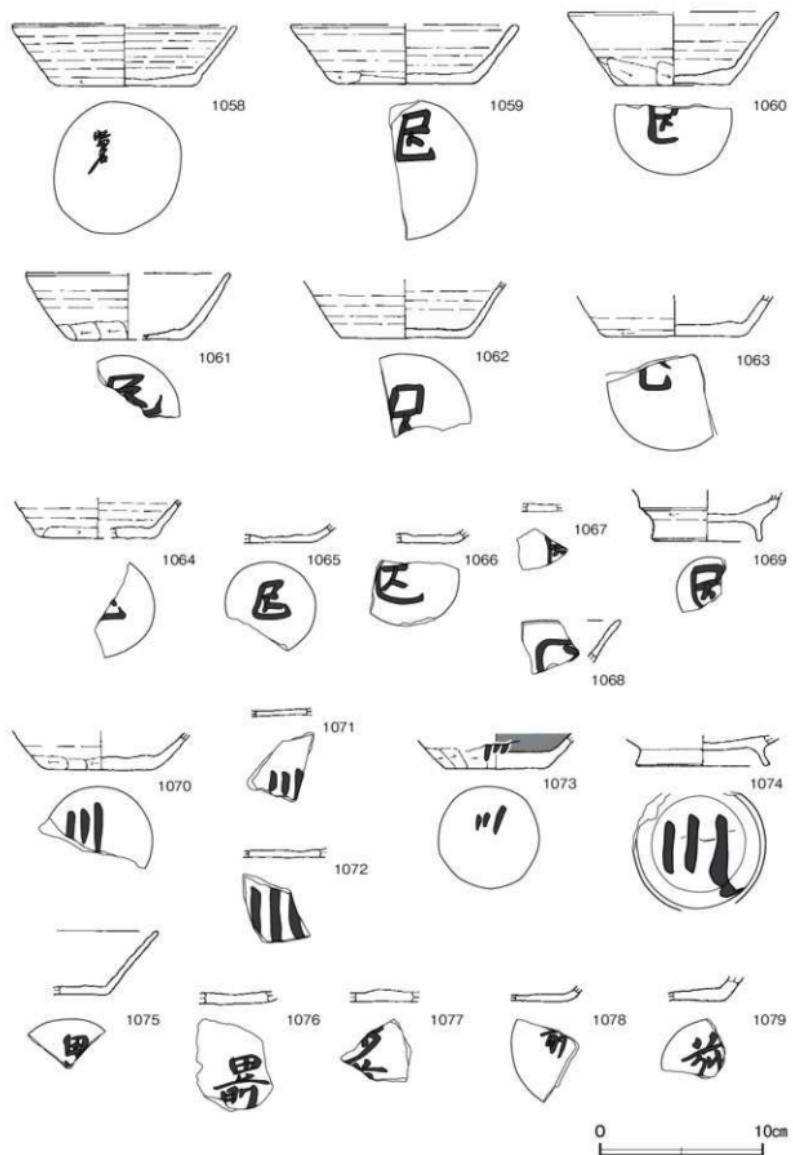
ピット番号	位 置	形 状	規 模		深さ (cm)	ピット番号	位 置	形 状	規 模		深さ (cm)		
			長径	短径					長径 × 短径 (cm)	長径 × 短径 (cm)			
1	S11h1	椭円形	0.58	×	0.52	26	25	T10a9	円形	0.28	×	0.27	10
2	S11h1	円形	0.32	×	0.32	17	26	T10a9	椭円形	0.39	×	0.30	16
3	S11d2	椭円形	0.78	×	0.65	10	27	S11d2	椭円形	0.37	×	0.33	13
4	T11a1	椭円形	0.66	×	0.55	40	28	S11d2	円形	0.40	×	0.38	27
5	S11l1	円形	0.49	×	0.45	19	29	S11d2	椭円形	0.40	×	0.31	22
6	S11l1	椭円形	0.55	×	0.41	10	30	S11d2	椭円形	0.33	×	0.22	21
7	S11l1	椭円形	0.40	×	0.34	15	31	S11d2	円形	0.35	×	0.32	15
8	S108	円形	0.56	×	0.56	27	32	S109	椭円形	0.36	×	0.30	15
9	S109	椭円形	0.41	×	0.34	20	33	T11a1	椭円形	0.32	×	0.27	15
10	S108	円形	0.34	×	0.34	40	34	T10a9	椭円形	0.70	×	0.60	59
11	S108	椭円形	0.30	×	0.27	9	35	T10a9	椭円形	0.28	×	0.23	10
12	S109	椭円形	0.35	×	0.30	8	36	T10a9	円形	0.20	×	0.20	5
13	S109	円形	0.26	×	0.26	11	37	T11a1	椭円形	0.33	×	0.28	25
14	S109	円形	0.22	×	0.27	32	38	T10a9	椭円形	0.31	×	0.27	10
15	S109	円形	0.36	×	0.34	23	39	T10a9	円形	0.23	×	0.22	16
16	S109	椭円形	0.56	×	0.50	30	40	S109	椭円形	0.40	×	0.34	12
17	S109	椭円形	0.68	×	0.60	39	41	S11d1	円形	0.25	×	0.23	13
18	S109	円形	0.34	×	0.34	11	42	T11a1	椭円形	0.34	×	0.27	8
19	S109	円形	0.39	×	0.37	6	43	S11d2	椭円形	0.46	×	0.40	21
20	S109	椭円形	0.55	×	0.48	32	44	S109	円形	0.47	×	0.43	29
21	S109	円形	0.38	×	0.36	7	45	S109	円形	0.51	×	0.49	37
22	S109	円形	0.35	×	0.35	5	46	S11d1	円形	0.46	×	0.44	31
23	S109	椭円形	0.39	×	0.36	20	47	T10a9	椭円形	0.36	×	0.30	15
24	S109	円形	0.20	×	0.19	5							

(6) 遺構外出土遺物（第142～145図）

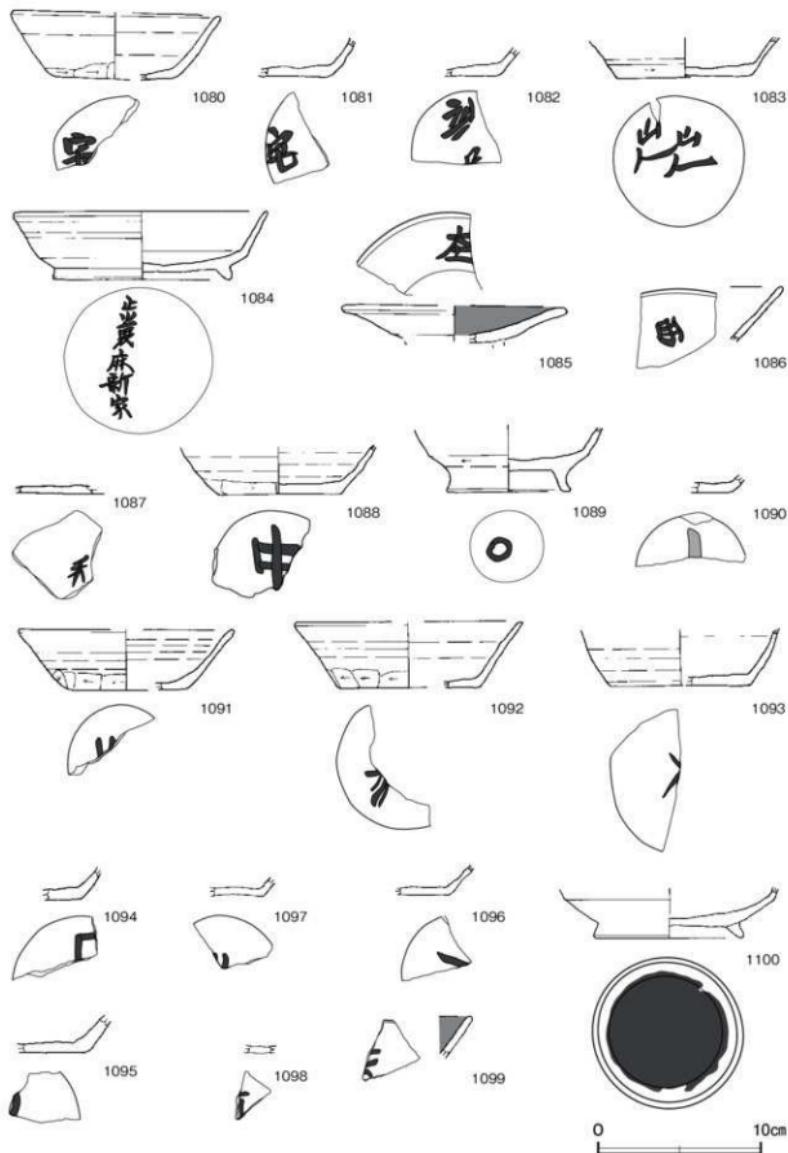
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



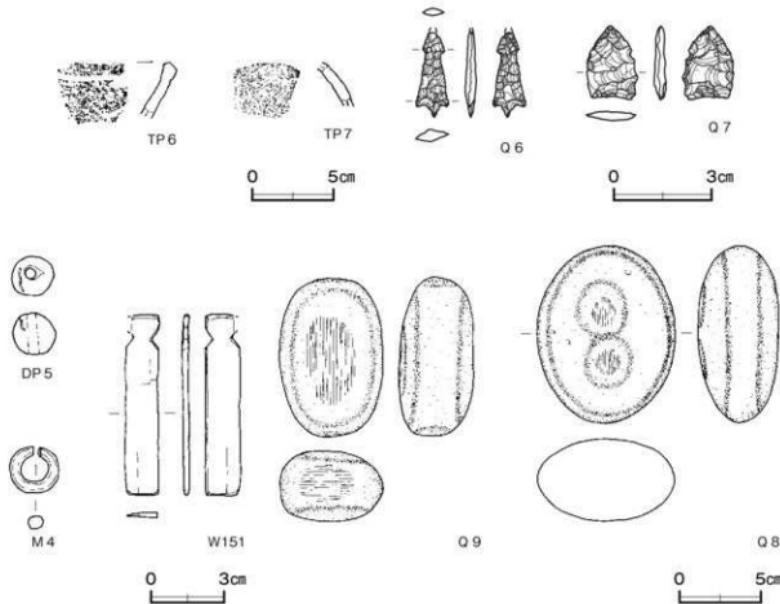
第142図 遺構外出土遺物実測図(1)



第143図 遺構外出土遺物実測図(2)



第 144 図 遺構外出土遺物実測図 (3)



第145図 遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外出土遺物観察表(第142～145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1045	土師器	壺	11.2	4.2	-	長石・石英	灰黄褐色	普通 口縁部外・内面横ナデ 黒色処理(漆)	体部ヘラ削り 外・内	Gトレンチ	95%
1046	土師器	壺	12.4	3.9	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	灰黄褐色	普通 口縁部外・内面横ナデ 黒色処理(漆)	体部ヘラ削り 外・内	Gトレンチ	90%
1047	瓶壺器	壺	[10.0]	2.6	4.4	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	SE204	70% PL43
1048	瓶壺器	壺	[9.4]	3.0	[6.0]	長石・石英	灰黄	普通 丸ナデ 周縁部削輪ヘラ削り	表土	60%	
1049	瓶壺器	壺	[10.4]	[2.6]	-	長石・石英	灰	普通 尖井部削輪ヘラ削り	SE204	20%	
1050	瓶壺器	壺	[9.2]	3.1	-	長石・石英	灰黄	普通 尖井部削輪ヘラ削り後ナデ	SX 1	40%	
1051	瓶壺器	平瓶	[5.2]	[2.9]	-	長石・石英	灰褐色	普通 体部カキ目 把手部ガキン状	表土	10%	
1052	土師器	小形壺	13.6	13.2	6.4	長石・石英・赤色 粒子	灰 にぶい透	普通 口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラ削り 内面ヘ タブレ	Gトレンチ	60%	
1053	土師器	手捏土器	[9.4]	4.4	5.6	長石・石英	灰 にぶい透	普通 口縁部外・内面横ナデ 体部輪積板を残すナデ 内面ヘラ削り 黒色処理(漆)	Gトレンチ	80% PL43	
1054	瓶壺器	壺	11.2	3.9	7.7	長石・石英・雲母	黒褐色	普通 底部一方の手持ちヘラ削り	Gトレンチ	80%	
1055	瓶壺器	壺	[13.0]	4.4	7.2	長石・石英・ 黒色粒子	褐灰色	普通 底部不定方向の手持ちヘラ削り	表土	60%	
1056	瓶壺器	壺	13.6	3.7	9.2	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	褐灰色	普通 底部一方の手持ちヘラ削り	Gトレンチ	80%	
1057	瓶壺器	壺	[12.1]	3.7	8.2	長石・石英	明褐色	普通 体部下端ロクロナデ 底面回転系切り削を残 周縁部削輪ヘラ削り	Gトレンチ	60%	
1058	瓶壺器	壺	[13.8]	3.8	8.4	長石・石英・雲母	褐灰色	普通 底部一方の手持ちヘラ削り 周縁部手持ちヘラ削り	Gトレンチ	60% PL45	
1059	瓶壺器	壺	[13.8]	3.6	[8.6]	長石・石英・雲母	灰	普通 ウリ削り	底部下端手捏ヘラ削り 底部二方向の手持ちヘ ナデ	Gトレンチ	40% PL51
1060	瓶壺器	壺	[13.0]	4.5	7.0	長石・石英・雲母	オリーブ黒	普通 底部二方向の手持ちヘラ削り	Gトレンチ	50% PL51	
1061	瓶壺器	壺	[12.4]	4.1	[7.2]	長石・石英・雲母	褐灰色	普通 体部下端手捏ヘラ削り 底部一方の手持ち ナデ	Gトレンチ	30% PL51	
1062	瓶壺器	壺	-	(3.6)	[7.9]	長石・石英	褐灰色	普通 ロクロナデ 底部削輪ヘラ削り前を残しヘ ナデ 漆書[記]	Gトレンチ	30% PL51	

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎 土	色 調	機成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1063	須恵器	环	-	(25)	[8.4]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへ 削り 墓書「記」	表土	30% PL51
1064	須恵器	环	-	(24)	[7.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへ 削り 墓書「記」	Gトレーナ	30% PL51
1065	須恵器	环	-	(11)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへ 削り 墓書「記」	Gトレーナ	20% PL51
1066	須恵器	环	-	(09)	-	長石・石英・赤色 粒子	灰黃褐	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへ 削り 墓書「記」	Gトレーナ	15% PL51
1067	須恵器	环	-	(05)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部回転へラ削り 墓書「記」	Gトレーナ	5% PL51
1068	須恵器	环	-	(27)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 墓書「記」	Gトレーナ	5% PL51
1069	須恵器	高台付环	-	(3.0)	[6.6]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転へラ削り 墓書「記」	Gトレーナ	20% PL51
1070	須恵器	环	-	(2.2)	[6.5]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ち 削り 墓書「川」	表土	30% PL56
1071	須恵器	环	-	(0.4)	-	長石・雲母	褐灰	普通	底部一方の手持ちへラ削り 墓書「川」	Gトレーナ	10% PL56
1072	須恵器	环	-	(0.6)	-	長石・雲母	褐灰	普通	底部一方の手持ちへラ削り 墓書「川」	表土	10% PL56
1073	土師器	环	-	(2.2)	6.2	長石・石英・赤色 粒子	棕	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ削り 底部 一方の手持ちへラ削り 墓書「川・川」	SD556	30% PL56
1074	須恵器	高台付环	-	(1.9)	8.0	長石・石英・雲母 赤色粒子	褐灰	普通	底部回転へラ削り 墓書「川」	Gトレーナ	30% PL56
1075	須恵器	环	-	4.0	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち 削り 墓書「田」(前)	Gトレーナ	50% PL57
1076	須恵器	环	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	黑褐	普通	底部一方の手持ちへラ削り 墓書「田前」	Gトレーナ	10% PL57
1077	須恵器	环	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	昭灰黄	普通	底部下端手持ちへラ削り 墓書「田」(後)	Gトレーナ	10% PL57
1078	須恵器	环	-	(1.0)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端ロクロナデ 底部一方の手持ちへラ 削り 墓書「田」	Gトレーナ	10% PL57
1079	須恵器	环	-	(1.5)	-	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち 削り 墓書「前」	表土	15% PL57
1080	須恵器	环	[12.8]	4.0	[7.6]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち 削り 墓書「宅」	表土	30% PL60
1081	須恵器	环	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち 削り 墓書「宅」	Gトレーナ	20% PL60
1082	須恵器	环	-	(1.8)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端ロクロナデ 底部二方向の手持ちへラ 削り 墓書「新・新・木」	Gトレーナ	10% PL58
1083	須恵器	环	-	(2.3)	8.5	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方の手持ちへ 削り 墓書「山人・山人」	Gトレーナ	50% PL61
1084	須恵器	高台付环	15.3	4.3	11.0	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転へラ削り 墓書「止田・義麻新家」	Gトレーナ	60% PL64
1085	土師器	高台付环	[13.6]	(2.3)	-	長石・石英	浅黄褐	普通	体部内面へラ削り 墓書「森」	表土	20% PL62
1086	須恵器	环	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 墓書「西」	表土	5% PL64
1087	須恵器	环	-	(0.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へラ切り机を残し、一方向の手持ちへ 削り 墓書「木」	Gトレーナ	5% PL63
1088	須恵器	环	-	(3.0)	[7.6]	長石・石英・雲母	昭灰黄	普通	底部回転へラ切り机を残し、一方向の手持ちへ 削り 墓書「前」	Gトレーナ	20% PL62
1089	須恵器	高台付环	-	(3.9)	[7.4]	長石・石英	褐灰	普通	底部回転へラ削り 墓書「〇」	Gトレーナ	30% PL62
1090	須恵器	环	-	(1.1)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ち 削り 墓書「〇」	表土	10% PL78
1091	須恵器	环	[13.2]	3.8	[7.5]	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 気部不定方向の手持 ちへラ削り 墓書「〇」(前)	Gトレーナ	40% PL78
1092	須恵器	环	[14.0]	4.1	[8.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ち 削り 墓書「〇」(前)	Gトレーナ	30% PL78
1093	須恵器	环	-	(3.5)	[8.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端ロクロナデ 底部二方向の手持ちへラ 削り 墓書「〇」	Gトレーナ	25% PL78
1094	須恵器	环	-	(2.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端ロクロナデ 底部不定方向の手持ち へラ削り 墓書「〇」	Gトレーナ	10% PL78
1095	須恵器	环	-	(2.3)	-	石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部回転へラ削り 墓書「〇」	Gトレーナ	10% PL78
1096	須恵器	环	-	(2.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端ロクロナデ 底部回転へラ削り 底部回転へラ削り 墓書「〇」	Gトレーナ	20% PL78
1097	須恵器	环	-	(1.1)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ち へラ削り 墓書「〇」	表土	10% PL78
1098	須恵器	环	-	(0.5)	-	長石・雲母	褐灰	普通	底部一方の手持ちへラ削り 墓書「〇」	表土	5% PL78
1099	土師器	高台付环	-	(2.6)	-	長石・石英	にじむ褐	普通	底部内面へラ削り 墓書「〇」	表土	5% PL78
1100	須恵器	高台付环	-	(3.1)	8.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へラ削り 墓痕 転用範	Gトレーナ	60% PL78

番号	種別	器種	胎 土	色 調	機 成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
TP 6	圓文土器	深鉢	長石・石英	程	普通	沈柵による区画内に立丸文を施文	HG 3	
TP 7	土師器	鉢	長石・石英	明赤褐	普通	斜面構成の单詰織文 2列の結節織文	SX 2	

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP 5	土玉	1.7	1.8	0.4	9.0	長石	ナデ 一方向からの穿孔	表土	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	鐵	(26)	1.0	0.3	(0.7)	チャート	凸基有茎鐵 両側線上部に段をもつ 両面押圧削離調整	SD557	PL43
Q 7	鐵	23	1.6	0.3	1.1	黒曜石	凸基無茎鐵 五角形状 両面押圧削離調整	表土	PL43
Q 8	磨石	109	8.5	5.0	658.2	鈍岩	凹痕2か所 両面磨痕	SX 2	PL43
Q 9	磨石	97	6.3	4.6	470.4	凝灰岩	両面磨痕	SD556	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 4	耳環	19	2.0	0.6	7.3	鋼	鍍金 開口部有り	SF23	PL43

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W 151	荷造不明品	荷札状木製品	7.4	1.3	0.2	針葉樹	板目 上部左右からの切り込み	表土	

第4節 まとめ

1はじめに

島名熊の山遺跡は、つくば市の南西部に位置し、東谷田川右岸の標高13～24mの台地上から低地部にかけて立地している。「つくばエクスプレス」沿線の土地区画整理事業に伴い、当財団が平成7年度から発掘調査を行い、14冊の報告書¹¹⁾を刊行している。本報告分までの総調査面積は239.379m²で、確認した主な遺構は堅穴住居跡2,386軒、掘立柱建物跡380棟、古墳2基、方形堅穴道構94基、地下式坑72基、堀跡・溝跡306条、道路跡24条、井戸跡184基、大型堅穴道構8基、火葬施設35基、墓坑77基、水田跡2か所、遺物包含層3か所などである。遺跡の内容は、古墳時代（4世紀）から平安時代（11世紀）にかけての集落跡が中心である。周辺遺跡の動向から、古墳時代後期は当遺跡周辺に集落が集約化される現象が認められ、律令期は「河内郡鳩名郷」の拠点的集落として機能し、10世紀以降は当集落だけが継続して営まれている。また、中世以降も大規模な堀や溝による区画や墓域などが確認されており、長期間にわたる土地利用の状況が明らかになっている。

今回の調査区は、遺跡南東部の標高13～15mの台地斜面部から低地部にかけてで、調査区の北西部から南東部にかけて埋没谷が存在している。確認した遺構は、堅穴住居跡1軒、掘立柱建物跡2棟、井戸跡12基、遺物集中地点2か所、遺物包含層1か所、土坑22基、道路跡4条、堀跡1条、溝跡18条、ピット群2か所である。特に、埋没谷部からは古墳時代から平安時代にかけての水場と捉えられる井戸跡と遺物集中地点が確認でき、850点にのぼる墨書き土器や木簡、農工具、容器類などの多量の木製品、1,000点を超える桃核、ヒヨウタン、クリなどの自然遺物が出土している。

本節では、古墳時代から平安時代にかけての水場の変遷と出土した文字資料について検討するとともに、当集落における水場の性格について若干の考察を加えてまとめとしたい。

2水場の変遷

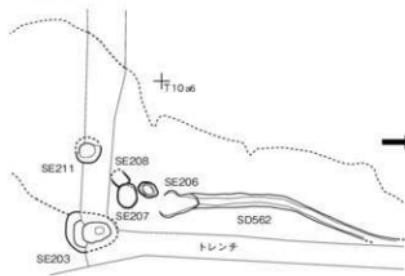
今回確認した第203～212号井戸跡、第562号溝跡、第1・2号遺物集中地点は、井戸からの湧水が、溝や凹地を流れしていく一連の水場として捉えられる。以下、時期ごとの遺構の特徴について述べる。

(1) 7世紀前葉～後葉

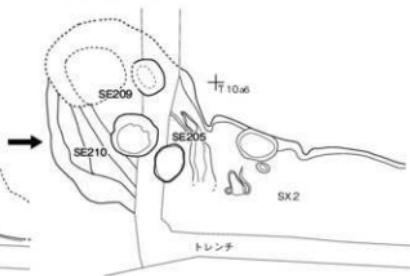
第203・205～211号井戸跡が該当し、第203号井戸跡は7世紀前葉、第211号井戸跡は7世紀中葉に比定できる。また、8世紀前葉に埋め戻された第562号溝跡は、古墳時代後期の土器片を多く含んでおり、当期から機能していた可能性がある。井戸跡は、台地斜面部から低地部への傾斜変換点付近にまとまって



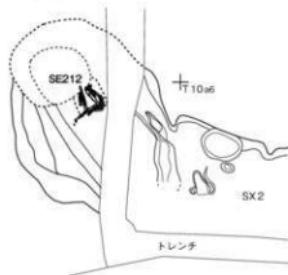
7世紀前葉～後葉



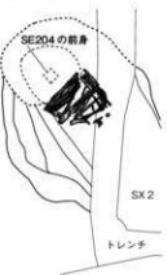
8世紀前葉～中葉



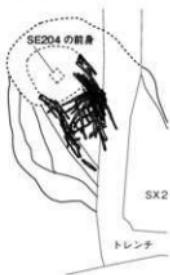
8世紀中葉



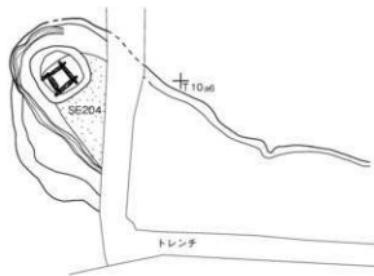
8世紀後葉



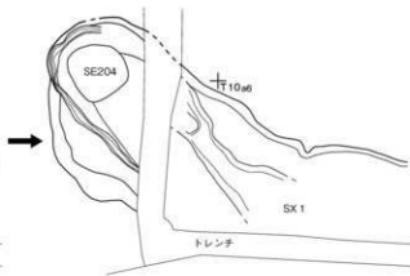
9世紀前葉



9世紀中葉



9世紀後葉～10世紀前葉



第146図 12区遺構変遷図

おり、自然の湧水点を土坑状に掘りくぼめた簡易な構造である。遺物は、第203号井戸跡から20点前後の完形の土師器壺と堅杵、桃核、サルノコシカケ、第211号井戸跡から完形に近い土師器壺3点と横槌が出土している。いずれも一括して投棄された状態で出土しており、廃絶時の祭祀行為が想定できる。

(2) 8世紀前葉～中葉

第2号遺物集中地点が開削される時期で、埋没谷の谷底部を掘り広げて溝状の凹地が形成されている。前期とはほぼ同じ位置に第205・209・210号井戸が設けられている。いずれも素掘りの構造で、出土遺物から第209号井戸跡（8世紀前葉）→第210号井戸跡（8世紀中葉）→第205号井戸跡（8世紀中葉）の変遷が認められる。井戸跡からの出土遺物は少なく、いずれも細片である。第210号井戸跡から出土した油煙付着土器と火鑽臼は、井戸の周囲で火を用いる行為があったことを示している。また、当期に該当する遺構としては、調査区北東部に第583・584号掘立柱建物跡が存在している。

(3) 8世紀中葉～9世紀前葉

湧水点付近に構造物が伴う段階であり、第212号井戸や第2号遺物集中地点の木組み部が構築されている。第212号井戸は舟状の貯水部が設けられている。貯水部南辺の上部にはU字状の抉りがあり、水が溜まると第2号遺物集中地点の凹地へ流れ出す構造であったと推定できる。第212号井戸の廃絶後は、その上部に第2号遺物集中地点の木組み部が構築されている。木組み部の上部は丸太材が井桁状に、下部は建築用材が流向と直交する方向に並べられている。軸方向が異なることから、二時期の使用面が想定できる。また、後出する第204号井戸に作り替えの痕跡が認められることから、木組み部はその前身の井戸に伴う足場と考えられる。遺物は、第2号遺物集中地点の木組み部の南側に集中し、東部の下流域ほど疎らになっている。供膳具を中心とした多量の土器、鐵先、横槌、堅杵、漆器、曲物、横櫛、刀形などの木器・木製品、桃核602点やヒヨウタン、クリ、ヤマトシジミ、鹿の肩胛骨などの自然遺物が出土している。土器は残存率の高い破片が多く、器壁や破断面の摩滅が少ないことから、破碎されたものが至近から投棄されたと考えられる。また、上層から9世紀前葉、下層から8世紀中葉～後葉の土器が出土しており、水場への継続的な廃棄行為が想定できる。堆積状況は水成の自然堆積で、沼地状に滞水した状態から、埋没が進むにつれて、一時的に地表化する湿地のような環境へと変化している。

(4) 9世紀中葉

第204号井戸が該当し、第2号遺物集中地点が埋没した後の凹地を利用して構築されている。北西部に方形の井戸枠があり、南東側には作業場とみられる平坦部が設けられている。井戸枠は内法1.04mで、横板井籠組の構造である。しかし、仕口が組み合っているのは最上部のみで、下部は井戸枠や建築用材の転用材が積み上げられているだけである。主な遺物としては、井戸枠内の下層から墨書き土器7点が重なった状態で、掘方の埋土から木簡が出土しているほか、平坦部の構築土から供膳具を中心とした多量の土器、刀子柄、小形堅杵、堅杵、檜扇、糸巻、刷物、曲物などの木器・木製品、桃核92点やヒヨウタン、クリ、鹿角などの自然遺物が出土している。土器は残存率が高く、摩滅が少ないが、井戸の構築時に下部の第2号遺物集中地点から混入した古い時期のものが多く含まれている。

(5) 9世紀後葉以降

第1号遺物集中地点が該当し、第204号井戸、第2号遺物集中地点が廃絶された後の凹地に形成されている。9世紀後葉の供膳具類が一定量出土していることから、第204号井戸の廃絶前後に廃棄された可能性が高いが、多くは摩滅した細片であり、周囲からの流れ込みと考えられる。したがって、井戸廃絶後は、当地周辺の積極的な土地利用は認められず、空閑地として放棄されたと考えられる。

3 文字資料について

(1) 文字資料の内容

今回の調査で確認できた文字資料は 852 点である。

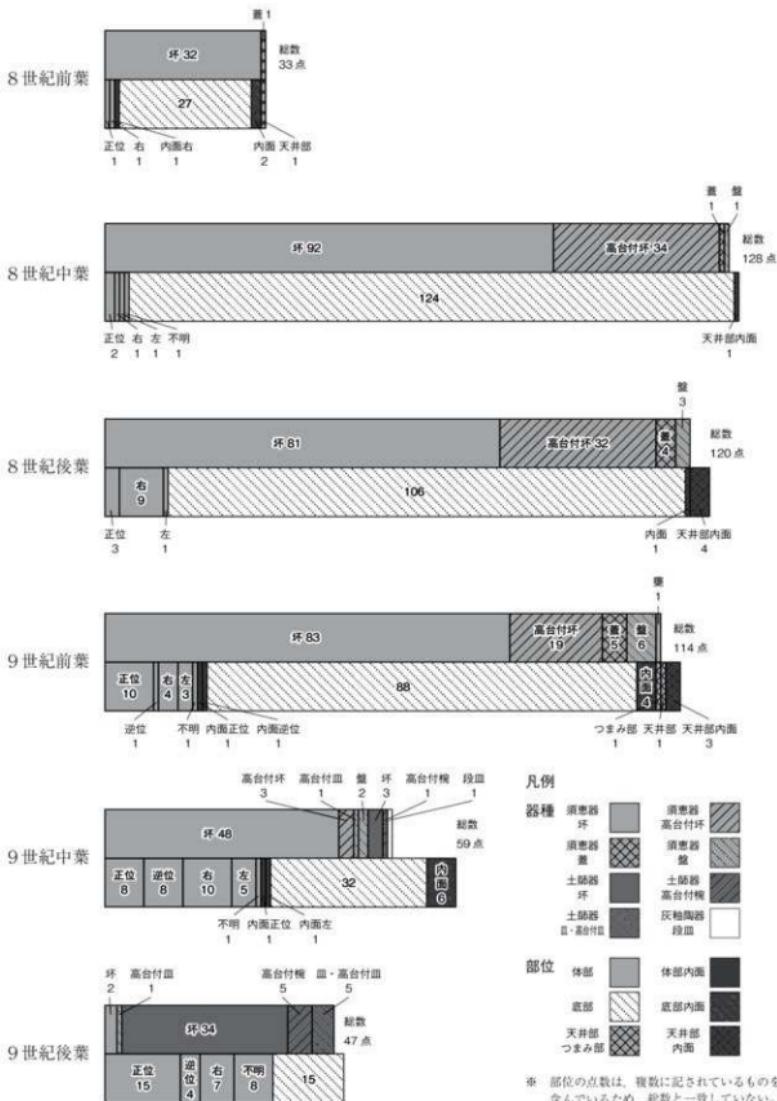
遺構ごとの出土点数は、第 204 号井戸跡から 309 点、第 205・209・210 号井戸跡から各 2 点、第 212 号井戸跡、第 562 号溝跡から各 1 点、第 1 号遺物集中地点から 126 点、第 2 号遺物集中地点から 368 点で、遺構に伴わないものが 43 点である。

種別は、墨書が 845 点で、朱墨が 4 点含まれており、範書が 7 点である。確認できた文字は、「匂（已と人の合わせ文字）」179 点、「川人」「川」111 点、「田前」「多前」（田・多・大多・前などを含む）42 点、「宅」31 点、「鴎名」「鴎」31 点、「新殿」「新」「殿」25 点、「ナ」23 点、「山人」「山」18 点、「下麻主」「麻生」「麻」11 点、「止田裏麻新家」「大家」「中家」「坊家」「家」10 点、「大万」「千万」「万」8 点、「甫」7 点、「城内至」「城内」「城」「什」「十」「〇」が各 6 点、「井上」「井」「埜（大と土の合わせ文字）」が各 5 点、「禾」4 点、「小栗」「栗」「千」「土」が各 3 点、「池田」「櫻」「器」「智」「長」「西」「中」「夫」「巢（小栗の合わせ文字）」「糸」が各 2 点、「子上山」「子鼻門」「子佐古」「淡水」「野邊」「上山」「福」「部」「成」「香」「佐」「寺」「伍」「四」「月」「止」「册」「ノ」「一」「秋（誤記）」「郡」「波」「可」が各 1 点である。範書は「×」4 点、「△」「T」「一」が各 1 点である。

材質と器種は、須恵器 803 点（坏 674、高台付坏 98、高台付皿 2、蓋 13、盤 14、甕 2）、土師器 48 点（坏 38、高台付椀 5、高台付皿・皿 5）、灰釉陶器 1 点（段皿）である。文字が記されている部位は、供膳具類が体部 194 点（正位 51、逆位 22、右横位 46、左横位 9、右横位・左横位 2、不明 64）、体部内面 10 点（正位 4、逆位 2、左横位 1、不明 3）、底部 642 点、底部内面 18 点で、蓋が外面 1 点、内面 10 点、つまみ部 1 点、甕が体部 1 点、口縁部 1 点である。また、複数の部位に記されているものは 26 点で、体部／底部／底部内面が 1 点（「匂／中家／匂」）、体部／底部または底部内面が 19 点（「匂／匂」2、「川／川」7、「川／四」1、「多前／多前」1、「□（城）内／月」1、「智／福」1、「成／成」1、「ナ／ナ」1、「十（朱墨）／井上・□（朱墨）」1、「子上山／□」1、「□／□」2）、底部／底部内面が 4 点（「匂／匂」、「口田／匂」、「川／川」、「甫／甫」）、体部・右横位・左横位が 2 点（「千・千」）である。

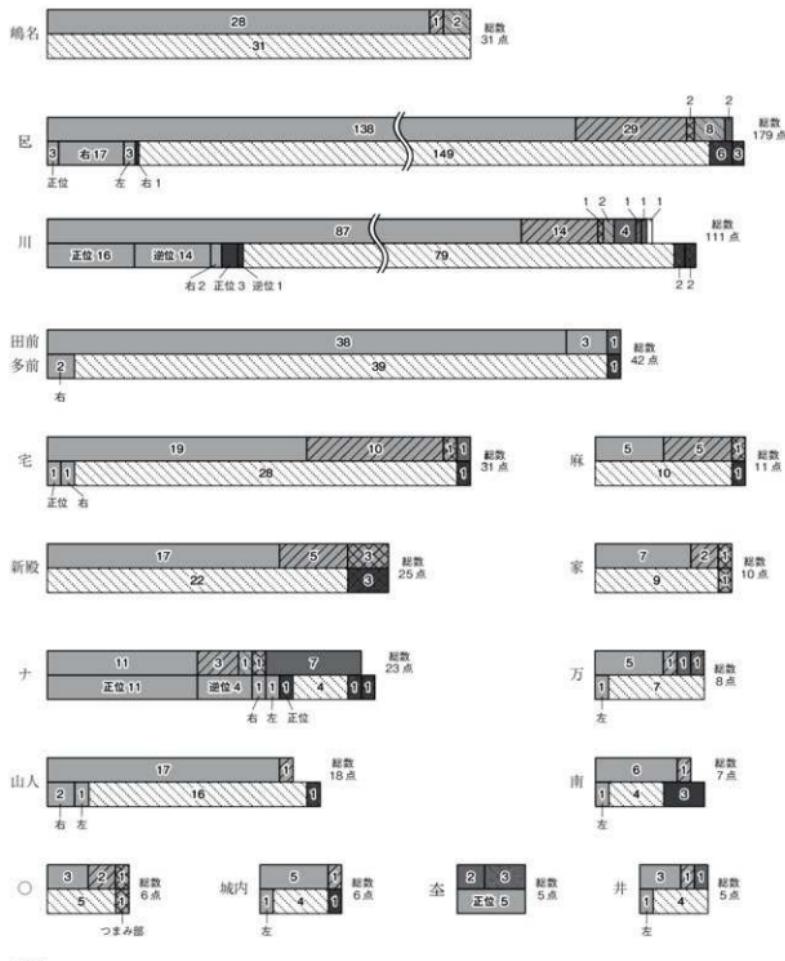
時期が判断できるものは 501 点である。ただし、9世紀以降に出現する土師器については、三時期区分での判別が困難であったことから 9世紀後葉に含めている。8世紀前葉は 33 点 (6%) で、「鴎名」「匂」「田前」「多前」「宅」「新」「山人」などが確認できる。材質・器種と部位は、須恵器坏の底部に記されているものが大半を占めている。8世紀中葉は 128 点 (26%) で、出土点数が最も多い。器種構成に高台付坏、盤が伴い、「宅」「新殿」といった有力者の居宅あるいは官・公的な施設を示すと考えられる文字は、これらの器種に記される傾向がある。8世紀後葉は 121 点 (24%) である。「川」の出土点数が増加し、高い割合を占めるようになる。その他の文字種や部位などの特徴は、前期と大きな変化は認められず、安定的に推移している。9世紀前葉は 114 点 (23%) で、文字種や部位がバリエーションに富んでいる時期である。文字種は「鴎名」「匂」「宅」「新殿」「山人」などが減少する一方で、「川」「ナ」「甫」などが増加している。また、「鴎」「山」「小栗」などに字句や字形を省略したものがみられるようになる。9世紀中葉は 59 点 (12%) で、出土点数が激減している。文字が記される部位は体部が半数以上を占めるようになる。台地上の集落域では当期以降、墨書土器が急増することから、祭祀形態や食器管理体制の転換期と位置づけることができる。9世紀後葉（後半）は 47 点 (9%) で、当遺跡の特徴的な文字である「埜」が出現している。器種構成は土師器が主体となり、体部に文字が記されているものが 7 割を超えていている。

グラフ1 材質・器種と部位（時期別）



※ 部位の点数は、複数に記されているものを含んでいるため、総数と一致していない。

グラフ2 材質・器種と部位（文字別）



凡例

器種	須恵器 环	須恵器 高台付环	須恵器 縹	須恵器 縹	土器器 环	土器器 高台付縹	土器器 縹・高台付縹	灰陶陶器 段皿
部位	体部	体部内面	底部	底部内面	天井部 つまみ部	天井部 縹	天井部 縹・高台付縹	段皿

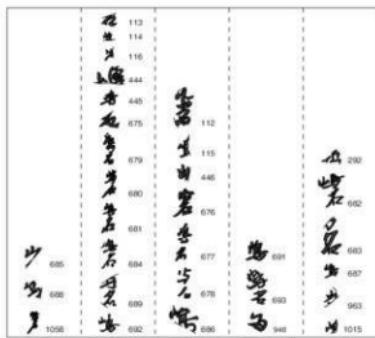
* 部位の点数は、複数に記されているものを含んでいたため、総数と一致していない。

表11 文字資料出土点数一覧表（時期別）

文字	8C前	8C中	8C後	9C前	9C中	9C後	時期不明	総数	出土遺構：点数
鷦名	3	12	7	3	-	-	6	31	SE204: 6, SX 1: 3, SX 2: 21, 遺構外: 3
邑	9	46	33	35	13	2	41	179	SE204: 59, SE209: 1, SX 1: 9, SX 2: 99, 遺構外: 11
川	1	5	21	28	17	7	32	111	SE204: 58, SE205: 1, SX 1: 17, SX 2: 29, 遺構外: 6
田前・多前	6	7	8	6	1	1	14	42	SE204: 5, SE205: 1, SX 1: 2, SX 2: 26, 遺構外: 2
宅	2	8	6	4	1	1	9	31	SE204: 7, SX 1: 2, SX 2: 17, 遺構外: 2
新殿	1	5	8	4	1	-	7	26	SE204: 4, SX 1: 1, SX 2: 17, 遺構外: 1
ナ	-	-	1	8	4	9	1	23	SE204: 9, SX 1: 11, SX 2: 4
山人	2	7	4	2	3	-	-	18	SE204: 4, SE210: 1, SX 1: 2, SX 2: 10, 遺構外: 1
麻	-	5	1	2	-	-	3	11	SE204: 4, SX 1: 1, SX 2: 8, 遺構外: 1
家	-	4	2	1	1	-	2	10	SE204: 2, SX 2: 6, 遺構外: 2
万	-	1	-	1	1	2	3	8	SX 1: 2, SX 2: 6
南	-	-	-	2	2	-	3	7	SE204: 7
○	-	1	1	1	-	-	3	6	SX 2: 5, 遺構外: 1
城内	1	2	3	-	-	-	-	6	SE204: 2, SE212: 1, SX 2: 3
森	-	-	-	-	-	5	-	5	SE204: 1, SX 1: 3, 遺構外: 1
井	-	1	-	1	1	1	1	5	SE204: 1, SX 1: 3, 遺構外: 1
夫 × (箇書)	什・十・4.	器2, 智/果2, 十,	土3, 千3,	子佐古,	禾2, 系/2,	小栗,			
糸2, □栗	福, 梶, 中,	池□(田),	子上山/□	成/成,	淡水,	野, 逢,			
挺□, 楓,	大, 坊, 十,	子暮門,	子暮門,	伍,	野,	上□			
寺, 月,	止, 四, 夫,	池,	田, 智,	ノ	(山),	(山),			
× (箇書)	秋, 可,	波,	西,		十・	根,			
その他									×2, - , T, △(箇書)

* 出現率を枠内の色の濃度（100% = 黒）で示している。

(2) 特徴的な文字種について



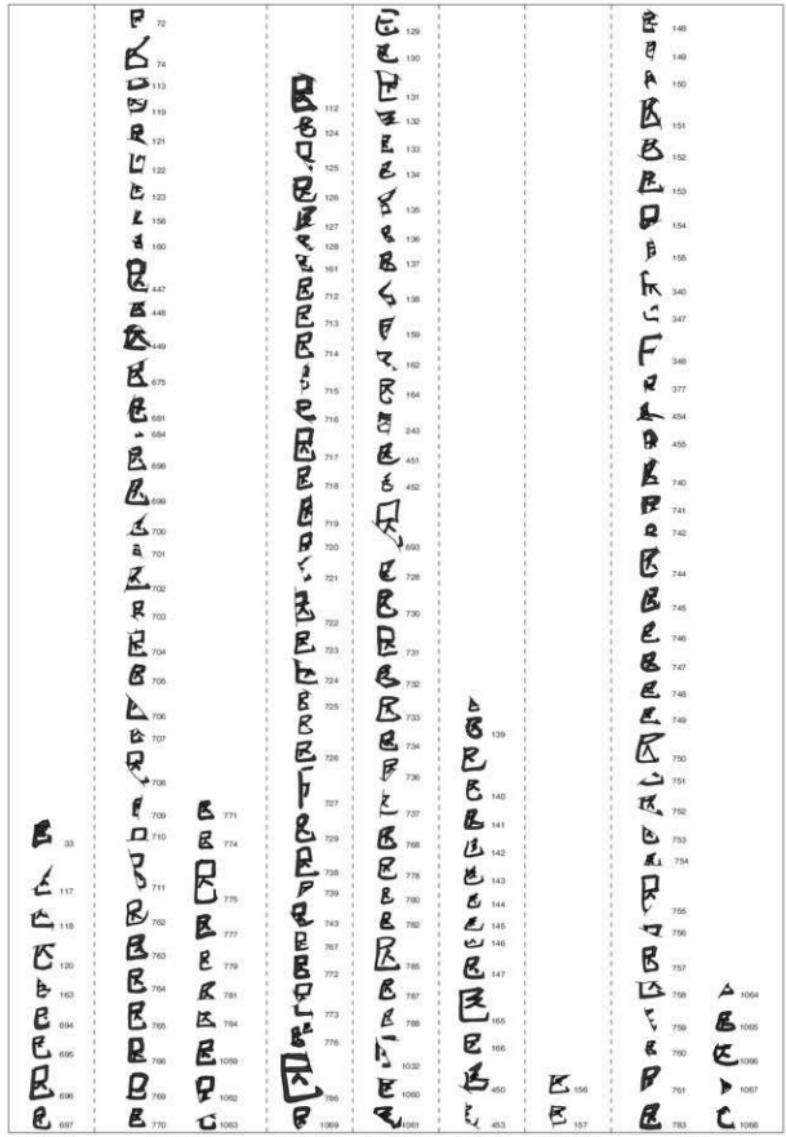
第147図 「鷦名」の変遷

次に、10点以上出土している文字について、その特徴を述べる。

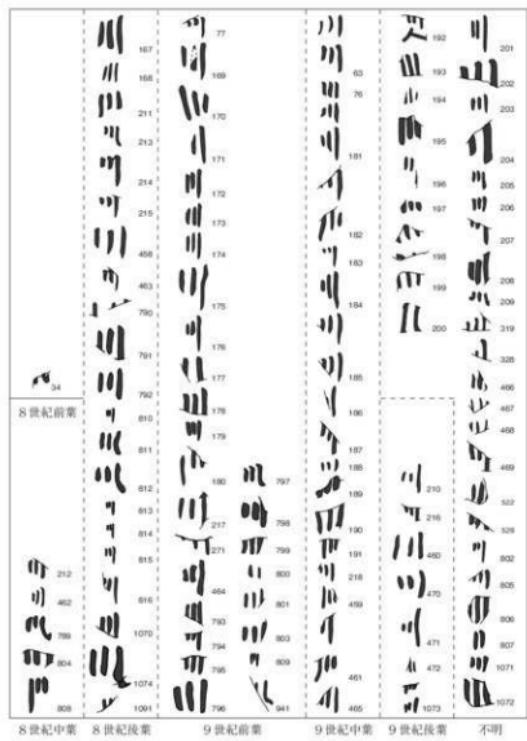
「鷦名」は、当遺跡が属していた郷名で、31点（「鷦名・邑」6、「鷦名」9、「新・鷦」1、「鷦」15）が出土している。これまでの集落城の調査では、第604号住居跡（9世紀中葉）から「鷦口」が出土している。8世紀前葉から出現し、8世紀中葉に盛行している。8世紀代は字形が小さく、線が細いのが特徴で、9世紀代は字形や「名」が省略されたものがみられる。また、「邑」「新」とともに記されたものが7例あり、そのうち4例は文字の大きさや墨の濃さが異なり、それぞれが別に記されている。

「邑」は、「巳」と「人」の合わせ文字と考えられる。

今回の調査で最も多く出土した文字であり、出土点数は179点（「鷦名・邑」6、「□・水・邑・邑」1、「邑／中家・邑」1、「邑／邑」2、「邑」168、「□田・邑」1）で、総点数の21%、文字が判読できたもの



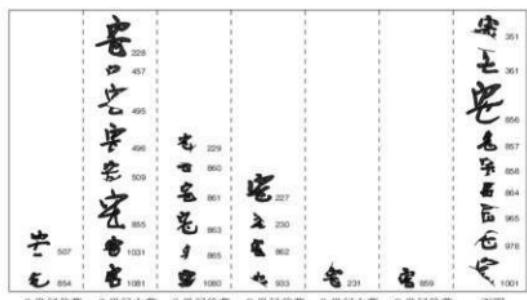
第 148 図 「巳」の変遷



第149図 「川」の変遷

3割を占めている。これまでの調査では、鍛冶関連構造の第4125号土坑（9世紀前葉）、第1578・1604号住居跡（9世紀後葉）から4点出土しており、当調査区で確認した埋没谷の西側の台地上に集中している。8世紀前葉から出現し、8世紀中葉をピークに減少していく。筆順は「コ」→「人」→「し」の順である。字形は線が太いものから細いものへ、「人」の終筆を止めるものから払うもの、「匁」のように繋げるものへの変遷が認められる。国立歴史民俗博物館の平川南氏から「夜刀（谷戸）の神（=蛇）と集落の人々との間わりを示唆する祭祀的な文字」とのご教示を得ております。まさに、谷に開まれた当遺跡を象徴する文字といえる。

「川」は、川を生業とする集団の標識的字と考えられる。111点（「川・川」7、「川／四」1、「川人」1、「川・匁」1、「川」101）が出土している。集落域の調査では第1370号住居跡（8世紀後葉）、第1355号住居跡（9世紀前葉）、第1323・1356号住居跡、第148号井戸跡（9世紀中葉）から7点が出土しており、埋没谷の東側の台地上に集中している。8世紀後葉以降、主体的に出土するようになり、9世紀代に盛行する文字である。字形はバリエーションに富み、出現期には三画目が外側に跳ねているものがみられる。



第150図 「宅」の変遷

「宅」は31点出土している。当遺跡における有力者層の存在を示す文字であり、『第214集』において富豪層との関わりが指摘されている。集落域では2点出土しており、第1316号住居跡（8世紀後葉）、第1578号住居跡（9世紀後葉）から出土している。8世紀代に盛行する文字であり、高台付器種の比率が高いことも特徴にあげられる。

「田前」と「多前」は、同音を表記したものと考えられるが、両者が出現当初から存在していることから、意味が異なる可能性がある。42点（「大家・田前」1、「田前」16、「多前／多前」1、「多前」5、「田□」2、「□田」3、「田」2、「前□」1、「□前」2、「前」7、「大多□」2）が出土している。これまでの調査では「田前」が第506号掘立柱建物跡（8世紀後葉）、第689号住居跡（9世紀前葉）、第1266号住居跡、第1688号土坑（9世紀中葉）、第1315号住居跡（9世紀後葉）から5点出土しており、埋没谷上部の東西に分布している。「田前」は、9世紀代になると上下の間隔が狭くなり、合わせて文字のように表記されるもののが現れている。

「新殿」は、有力者やその居宅を指す「殿」に、新興勢力、分家、世代交代、新築、建て替え等の意味が付加されたものと考えられる。26点（「新殿」12、「新□」2、「新」9、「殿」3）が出土している。これまでの調査で第871号住居跡（8世紀中葉）から「大殿墨研」と記された円面硯が出土している。8世紀後葉にピークがあり、高台付器種の比率が高い。字形は線が細く、整ったものが多く、文字を書き慣れた人物が記していると推定できる。

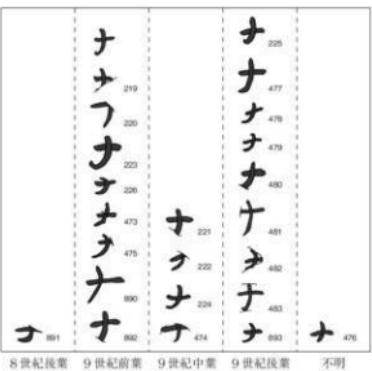
「ナ」は、音の表記や字形の省略と考えられるが、具体的な意味は明確でない。23点（「ナ／ナ」1、「ナ」22）が出土している。台地上の調査では、第643・682・678・

時代	田前	多前
8世紀前葉	817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000 1001 1002 1003 1004 1005 1006 1007 1008 1009 10010 10011 10012 10013 10014 10015 10016 10017 10018 10019 10020 10021 10022 10023 10024 10025 10026 10027 10028 10029 10030 10031 10032 10033 10034 10035 10036 10037 10038 10039 10040 10041 10042 10043 10044 10045 10046 10047 10048 10049 10050 10051 10052 10053 10054 10055 10056 10057 10058 10059 10060 10061 10062 10063 10064 10065 10066 10067 10068 10069 10070 10071 10072 10073 10074 10075 10076 10077 10078 10079 10080 10081 10082 10083 10084 10085 10086 10087 10088 10089 10090 10091 10092 10093 10094 10095 10096 10097 10098 10099 100100 100101 100102 100103 100104 100105 100106 100107 100108 100109 100110 100111 100112 100113 100114 100115 100116 100117 100118 100119 100120 100121 100122 100123 100124 100125 100126 100127 100128 100129 100130 100131 100132 100133 100134 100135 100136 100137 100138 100139 100140 100141 100142 100143 100144 100145 100146 100147 100148 100149 100150 100151 100152 100153 100154 100155 100156 100157 100158 100159 100160 100161 100162 100163 100164 100165 100166 100167 100168 100169 100170 100171 100172 100173 100174 100175 100176 100177 100178 100179 100180 100181 100182 100183 100184 100185 100186 100187 100188 100189 100190 100191 100192 100193 100194 100195 100196 100197 100198 100199 100200 100201 100202 100203 100204 100205 100206 100207 100208 100209 100210 100211 100212 100213 100214 100215 100216 100217 100218 100219 100220 100221 100222 100223 100224 100225 100226 100227 100228 100229 100230 100231 100232 100233 100234 100235 100236 100237 100238 100239 100240 100241 100242 100243 100244 100245 100246 100247 100248 100249 100250 100251 100252 100253 100254 100255 100256 100257 100258 100259 100260 100261 100262 100263 100264 100265 100266 100267 100268 100269 100270 100271 100272 100273 100274 100275 100276 100277 100278 100279 100280 100281 100282 100283 100284 100285 100286 100287 100288 100289 100290 100291 100292 100293 100294 100295 100296 100297 100298 100299 100300 100301 100302 100303 100304 100305 100306 100307 100308 100309 100310 100311 100312 100313 100314 100315 100316 100317 100318 100319 100320 100321 100322 100323 100324 100325 100326 100327 100328 100329 100330 100331 100332 100333 100334 100335 100336 100337 100338 100339 100340 100341 100342 100343 100344 100345 100346 100347 100348 100349 100350 100351 100352 100353 100354 100355 100356 100357 100358 100359 100360 100361 100362 100363 100364 100365 100366 100367 100368 100369 100370 100371 100372 100373 100374 100375 100376 100377 100378 100379 100380 100381 100382 100383 100384 100385 100386 100387 100388 100389 100390 100391 100392 100393 100394 100395 100396 100397 100398 100399 100400 100401 100402 100403 100404 100405 100406 100407 100408 100409 100410 100411 100412 100413 100414 100415 100416 100417 100418 100419 100420 100421 100422 100423 100424 100425 100426 100427 100428 100429 100430 100431 100432 100433 100434 100435 100436 100437 100438 100439 100440 100441 100442 100443 100444 100445 100446 100447 100448 100449 100450 100451 100452 100453 100454 100455 100456 100457 100458 100459 100460 100461 100462 100463 100464 100465 100466 100467 100468 100469 100470 100471 100472 100473 100474 100475 100476 100477 100478 100479 100480 100481 100482 100483 100484 100485 100486 100487 100488 100489 100490 100491 100492 100493 100494 100495 100496 100497 100498 100499 100500 100501 100502 100503 100504 100505 100506 100507 100508 100509 100510 100511 100512 100513 100514 100515 100516 100517 100518 100519 100520 100521 100522 100523 100524 100525 100526 100527 100528 100529 100530 100531 100532 100533 100534 100535 100536 100537 100538 100539 100540 100541 100542 100543 100544 100545 100546 100547 100548 100549 100550 100551 100552 100553 100554 100555 100556 100557 100558 100559 100560 100561 100562 100563 100564 100565 100566 100567 100568 100569 100570 100571 100572 100573 100574 100575 100576 100577 100578 100579 100580 100581 100582 100583 100584 100585 100586 100587 100588 100589 100590 100591 100592 100593 100594 100595 100596 100597 100598 100599 100600 100601 100602 100603 100604 100605 100606 100607 100608 100609 100610 100611 100612 100613 100614 100615 100616 100617 100618 100619 100620 100621 100622 100623 100624 100625 100626 100627 100628 100629 100630 100631 100632 100633 100634 100635 100636 100637 100638 100639 100640 100641 100642 100643 100644 100645 100646 100647 100648 100649 100650 100651 100652 100653 100654 100655 100656 100657 100658 100659 100660 100661 100662 100663 100664 100665 100666 100667 100668 100669 100670 100671 100672 100673 100674 100675 100676 100677 100678 100679 100680 100681 100682 100683 100684 100685 100686 100687 100688 100689 100690 100691 100692 100693 100694 100695 100696 100697 100698 100699 100700 100701 100702 100703 100704 100705 100706 100707 100708 100709 100710 100711 100712 100713 100714 100715 100716 100717 100718 100719 100720 100721 100722 100723 100724 100725 100726 100727 100728 100729 100730 100731 100732 100733 100734 100735 100736 100737 100738 100739 100740 100741 100742 100743 100744 100745 100746 100747 100748 100749 100750 100751 100752 100753 100754 100755 100756 100757 100758 100759 100760 100761 100762 100763 100764 100765 100766 100767 100768 100769 100770 100771 100772 100773 100774 100775 100776 100777 100778 100779 100780 100781 100782 100783 100784 100785 100786 100787 100788 100789 100790 100791 100792 100793 100794 100795 100796 100797 100798 100799 100800 100801 100802 100803 100804 100805 100806 100807 100808 100809 100810 100811 100812 100813 100814 100815 100816 100817 100818 100819 100820 100821 100822 100823 100824 100825 100826 100827 100828 100829 100830 100831 100832 100833 100834 100835 100836 100837 100838 100839 100840 100841 100842 100843 100844 100845 100846 100847 100848 100849 100850 100851 100852 100853 100854 100855 100856 100857 100858 100859 100860 100861 100862 100863 100864 100865 100866 100867 100868 100869 100870 100871 100872 100873 100874 100875 100876 100877 100878 100879 100880 100881 100882 100883 100884 100885 100886 100887 100888 100889 100890 100891 100892 100893 100894 100895 100896 100897 100898 100899 100900 100901 100902 100903 100904 100905 100906 100907 100908 100909 100910 100911 100912 100913 100914 100915 100916 100917 100918 100919 100920 100921 100922 100923 100924 100925 100926 100927 100928 100929 100930 100931 100932 100933 100934 100935 100936 100937 100938 100939 100940 100941 100942 100943 100944 100945 100946 100947 100948 100949 100950 100951 100952 100953 100954 100955 100956 100957 100958 100959 100960 100961 100962 100963 100964 100965 100966 100967 100968 100969 100970 100971 100972 100973 100974 100975 100976 100977 100978 100979 100980 100981 100982 100983 100984 100985 100986 100987 100988 100989 100990 100991 100992 100993 100994 100995 100996 100997 100998 100999 100100 不明	

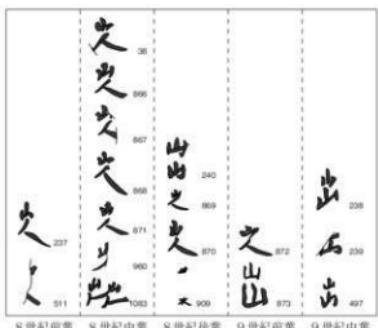
第151図 「田前」「多前」の変遷

時代	新殿
8世紀前葉	837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000 不明

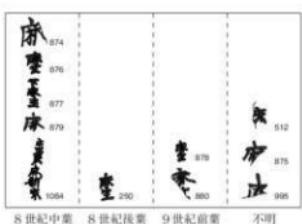
第152図 「新殿」の変遷



第153図 「ナ」の変遷



第154図 「山人」の変遷



第155図 「麻」の変遷

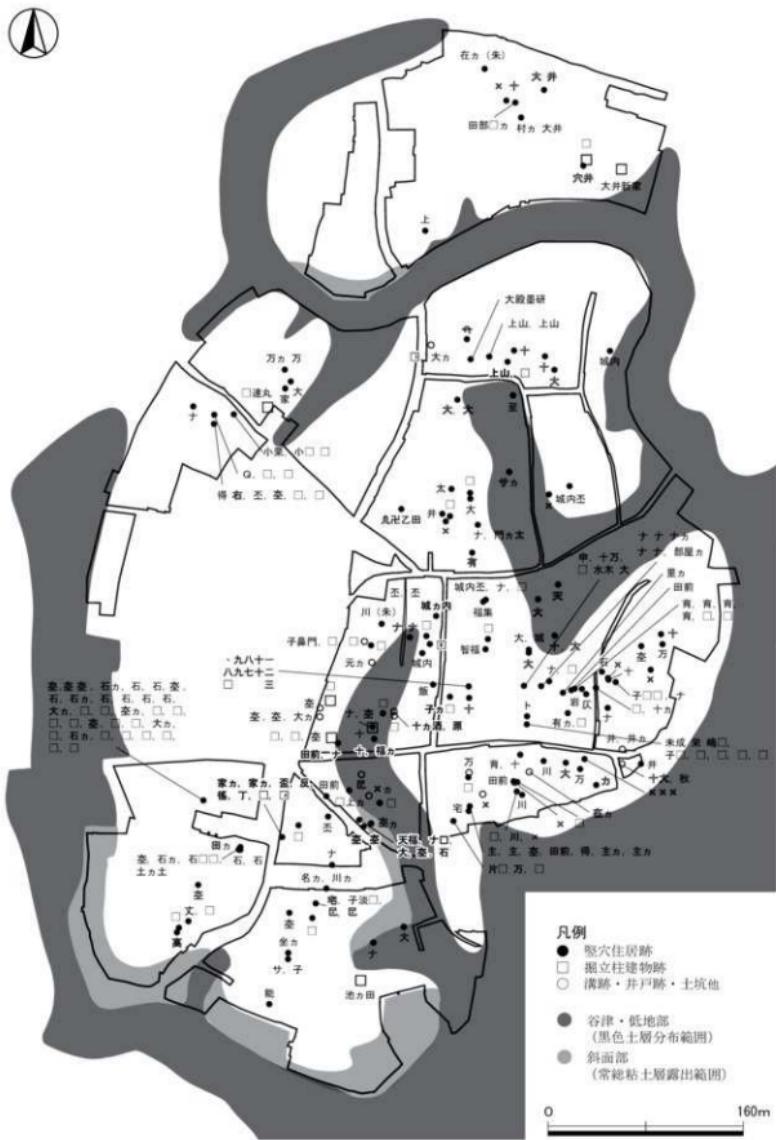
1236・1241・1741・2453号住居跡、第886号土坑（9世紀中葉）、第249・299・308・713・1069・2365号住居跡（9世紀後葉）、第539A号住居跡（10世紀前半）、第2963号住居跡（10世紀後半）から19点が出土しており、北部や北東部を除く台地上の広範囲に分布している。9世紀代に盛行する文字であり、記された部位の75%が体部である。

「山人」は、薪拾いや樵夫などの「山」を生業とする集団あるいは水田域からみた高所にあたる台地上に居住している集団を示すと考えられる。18点（「山人・山人」1、「山人」11、「山／山」1、「山山」3、「□山」1、「□山□□水」1）が出土しており、今回が初出である。「山人」は8世紀代に盛行し、「山山」は9世紀中葉まで残っている。「山人」は各期を通じて「人」の二画目を大きく下方へ払うのが特徴的で、「山山」はいずれも上下の字形が異なっている。

「麻」は、布の原料、麻布の生産に從事する集團、地名、音表記などの意味が考えられるが特定はできない。11点（「下麻主」1、「麻生」2、「麻」7、「止田・裏麻新家」1）が出土している。今回が初出資料であり、8世紀中葉に出土数が多く、高台付器種が半数を占める特徴は、「宅」「新殿」と共通している。

「家」は、10点（「邑／中家／邑」1、「大家・田前」1、「止田／裏麻新家」1、「坊家」1、「中家」2、「口家」4）が出土している。有力者層の居宅を示していると考えられ、「坊家」は条坊のような方形区域内の「家」あるいは僧の住まいを意味していると考えられる。これまでの調査では、第403号掘立柱建物跡（8世紀後葉）から「大井新家」、第1730A号住居跡（9世紀後葉）と第2375号住居跡（10世紀前半）から「家」4点が出土している。

その他の文字としては、8世紀代に出現する区画溝との関連を示唆する「城内」、台地上の集落域から20点が出土している「壺」、仏教思想との関わりがうかがえる「寺」「智」吉祥句の「万」「千」「福」、方位を示す「南」「西」、台地上でも確認されている「子鼻門」「小栗」「池田」などがあり、当集落を性格づける上で、その手がかりとなる資料といえる。



第 156 図 墨書き器分布図

4 水場の性格について

以上の検討を踏まえ、遺構、遺物からみた水場の性格について述べる。

水場は、7世紀前葉から8世紀前葉が素掘りの井戸、8世紀中葉から9世紀前葉が木製の貯水施設や足場を伴う井戸を湧水点に設置し、そこから溢れた水が溝や凹地を流れていく構造である。凹地の埋没が進んだ9世紀中葉には、井戸枠と作業場が設けられた大形の井戸が構築され、9世紀後葉に廃絶されている。

水場を構成する井戸跡、遺物集中地点から出土した土器は供膳具（坏、高台付坏、蓋、皿、盤）を中心で、煮炊き具、特に土師器壺と瓶の出土量は極めて少ないので特徴である。852点にのぼる墨書・箋書き土器が出土しており、集落域よりも出土土器に占める割合²⁾が高く、集落域での出土数が希少な時期³⁾であることから、水場が非日常的な空間であり、祭祀の場であったと推測できる。

水場での祭祀は、7世紀代の第203・211号井戸跡から土師器壺と農具（堅杵、横植）が投棄された状態で出土しており、第2号遺物集中地点から多くの木製農具類が出土していることから、古墳時代からの伝統的な農耕儀礼を基軸とした在地色の強いものであったと考えられる。8世紀以降の井戸跡や遺物集中地点から出土した墨書・箋書き土器をはじめとする多量の供膳具類や挽物（漆器高台付坏、漆器皿）、朝物、曲物などの木製容器類は、水場祭祀における神への供獻と共同飲食に用いられた器であり、灯明具の油煙付着土器や一部が炭化した刀形木製品などは儀礼に関わる祭祀具と考えられる。また、1,017点の桃核やクリ、ヒヨウタン、クルミ、ウリなどの種子類は供物と考えられ、それぞれの収穫時期が異なることから、祭祀が夏や秋の季節に応じて行われたことを示している。

文字資料については、「鳴名」「尼」「多前」「宅」「新殿」「山人」「麻」などが8世紀代、「川」「田前」「ナ」「万」「南」「空」などが9世紀代にそれぞれ盛行する特徴がみられる。同様に出現時期のピークは、水場が8世紀中葉から9世紀前葉、集落域が9世紀中葉から後葉であり、9世紀中葉を画期とした文字の意味や用途、管理制度の転換を指摘することができる。その背景には、墨書き土器を用いた祭祀が、共同体の紐帯を強めるために集落全体で執り行われるものから、富豪層などの特定集団や個人で行われるものへ変化したことが推測でき、水場は前者における中核的な位置を担い、後者にはその役割を終えたと推測することができる。

5 おわりに

『常陸國風土記』には、序文や新治、信太、茨城、行方、香島、那賀、久慈郡の各条に井戸に関する記述があり、清浄な井戸の周間に集い、酒宴や祭祀を行う人々の様子が数多く描かれている。また、行方郡条には、水田開発にあたり夜刀（谷戸）の神（＝蛇）を祭る説話が記されている。今回の調査成果は、こうした風土記の世界を彷彿とさせるものであり、歴史資料の実像を具体的に考察する上での貴重な資料といえる。

註

- 1) 当遺跡の既刊の報告書は、「第2章 位置と環境 第2節 歴史的環境」註3に掲載している。
- 2) 主な出土地点の供膳具類に占める墨書き土器の割合は、第204号井戸跡が7.8%（309／3960点）、第2号遺物集中地点が65%（368／5679点）である。集落域では、最も多い第3022号住居跡が53%（32／599点）で、次いで第1315号住居跡が19%（8／421点）、第1730号住居跡が19%（8／418点）であり、その他も概ね4%以下の数値を示している。
- 3) 集落域ではこれまでの調査で315点が出土している。8世紀前葉が4点、8世紀中葉が12点、8世紀後葉が12点、9世紀前葉が18点、9世紀中葉が67点、9世紀後葉が81点、10世紀前半が29点、10世紀後半が13点、11世紀前半が4点、時期不明が28点、中世が1点である。

参考文献

- ・茨城県史編さん原始古代史部会 「常陸國風土記」「茨城県史料=古代編」 茨城県 1968年11月
- ・吉野裕訳 「風土記」 平凡社ライブラリー 328 2000年2月

墨書土器一覽表

番号	図版	遺物番号	形・文	種別	材質	器種	部位・方向	遺構	時期	備考
1	20	26	□	墨書	須恵器	环	底部	SE205	8C中	
2	20	27	面	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE205	8C中	
3	22	33	足	墨書	須恵器	环	底部	SE209	8C前	
4	22	34	□(川 _レ)	墨書	須恵器	环	底部内面	SE209	8C前	
5	24	38	山人	墨書	須恵器	环	底部	SE210	8C中	
6	24	39	*	瓦青	須恵器	环	底部	SE210	8C中	
7	26	47	□(城 _レ) 内／月	墨書	須恵器	高台付环	体部・左/底部	SE212	8C中	
8	31	55	□	墨書	須恵器	环	底部	SD262	8C中	
9	39	63	川／川	墨書	灰褐陶器	段盤	体部・正位/底部	SE204	9C中	
10	39	64	土	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	9C中	
11	39	65	子・千	墨書	土師器	环	体部・左・右	SE204	9C中	
12	39	66	土	墨書	土師器	高台付环	体部・左	SE204	9C中	
13	39	67	千・千	墨書	土師器	环	体部・左・右	SE204	9C中	
14	39	68	千	墨書	土師器	环	体部・左	SE204	9C中	
15	39	69	土	墨書	須恵器	高台付环	体部・右	SE204	9C中	
16	40	72	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C中	
17	40	73	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C後	
18	40	74	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C中	
19	40	75	□□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C中	
20	40	76	川	墨書	須恵器	环	体部・逆位	SE204	9C中	
21	40	77	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
22	40	78	大	墨書	須恵器	环	体部・正位	SE204	8C後	
23	40	79	井	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	9C後	
24	40	82	成／成	墨書	土師器	环	体部・正位/底部	SE204	9C中	
25	40	83	止	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	9C前	
26	40	84	新殿	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	8C後	
27	41	85	十。	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	8C中	
28	43	112	足・鶴名	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C後	
29	43	113	足 _レ ・名 _レ	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C中	
30	43	114	鶴	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C中	
31	43	115	鶴	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C後	
32	43	116	鶴。	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C中	
33	43	117	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C前	
34	43	118	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C前	
35	43	119	足	墨書/漆張	須恵器	环	体部・右/底部	SE204	8C中	
36	43	120	足	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	8C前	
37	43	121	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C中	
38	43	122	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C中	
39	43	123	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C中	
40	44	124	足	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	8C後	
41	44	125	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C後	油煙
42	44	126	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C後	
43	44	127	足	墨書	須恵器	环	体部・左	SE204	8C後	
44	44	128	足	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	8C後	
45	44	129	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
46	44	130	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	

番号	国版	遺物番号	被 文	種 別	材 質	器 種	部 位 - 方 向	遺 構	時 期	備 考
47	44	131	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
48	44	132	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
49	44	133	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
50	44	134	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
51	44	135	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
52	44	136	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
53	44	137	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
54	44	138	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
55	45	139	足／中家／足	墨書	須恵器	环	体部・右／底部外／内面	SE204	9C中	
56	45	140	足／足	墨書	須恵器	环	底部外／内面	SE204	9C中	
57	45	141	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C中	
58	45	142	足	墨書	須恵器	环	体部・正位	SE204	9C中	
59	45	143	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C中	
60	45	144	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C中	
61	45	145	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C中	
62	45	146	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C中	
63	45	147	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C中	
64	45	148	足	墨書	須恵器	环	体部・正位	SE204	不明	
65	45	149	足	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	不明	
66	45	150	足	墨書	須恵器	环	体部・正位	SE204	不明	
67	45	151	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
68	45	152	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
69	45	153	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
70	45	154	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
71	45	155	足	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
72	45	156	足	墨書	土器器	坏	体部・右	SE204	9C後半	
73	45	157	足	墨書	土器器	坏	体部・右	SE204	9C後半	
74	45	158	足	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	8C中	
75	45	159	足	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	9C前	
76	45	160	足	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	8C中	
77	45	161	足	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	8C後	
78	46	162	足	墨書	須恵器	高台付环	体部・右	SE204	9C前	
79	46	163	足	墨書	須恵器	蓋	体部内面・右	SE204	8C前	
80	46	164	足	墨書	須恵器	盤	体部・右	SE204	9C前	
81	46	165	足	墨書	須恵器	蓋	底部	SE204	9C中	
82	46	166	足	墨書	須恵器	蓋	底部	SE204	9C中	
83	46	167	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C後	油煙
84	46	168	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C後	
85	46	169	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
86	46	170	川	墨書	須恵器	环	体部・正位	SE204	9C前	
87	46	171	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
88	46	172	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
89	46	173	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
90	46	174	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
91	46	175	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
92	47	176	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
93	47	177	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
94	47	178	川	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	

番号	図版	遺物番号	积 文	種 別	材 質	器 類	部 位・方 向	遺 横	時 期	備 考
95	47	179	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	9 C 前	
96	47	180	川/四	墨書	頸壺器	环	体部・正位/底部	SE204	9 C 前	
97	47	181	川/川	墨書	頸壺器	环	体部・逆位/底部	SE204	9 C 中	
98	47	182	川/川	墨書	頸壺器	环	体部・正位/底部	SE204	9 C 中	
99	47	183	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	9 C 中	
100	47	184	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	9 C 中	
101	47	185	川/川	墨書	頸壺器	环	底部外/内面	SE204	9 C 中	
102	47	186	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	9 C 中	
103	47	187	川	墨書	頸壺器	环	体部・右	SE204	9 C 中	
104	47	188	川	墨書	頸壺器	环	体部・正位	SE204	9 C 中	
105	47	189	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	9 C 中	
106	47	190	川	墨書	頸壺器	环	体部・逆位	SE204	9 C 中	
107	47	191	川	墨書	頸壺器	环	体部・逆位	SE204	9 C 中	
108	47	192	川入	墨書	頸壺器	环	体部・逆位	SE204	不明	
109	47	193	川	墨書	頸壺器	环	体部・正位	SE204	不明	
110	47	194	川	墨書	頸壺器	环	体部・逆位	SE204	不明	
111	47	195	川	墨書	頸壺器	环	体部・逆位	SE204	不明	
112	48	196	川	墨書	頸壺器	环	体部・正位	SE204	不明	
113	48	197	川	墨書	頸壺器	环	体部・正位	SE204	不明	
114	48	198	川/川	墨書	頸壺器	环	体部・正位/底部	SE204	不明	
115	48	199	川	墨書	頸壺器	环	体部・正位	SE204	不明	
116	48	200	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	不明	
117	48	201	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	不明	
118	48	202	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	不明	
119	48	203	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	不明	
120	48	204	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	不明	
121	48	205	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	不明	
122	48	206	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	不明	
123	48	207	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	不明	
124	48	208	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	不明	
125	48	209	川	墨書	頸壺器	环	底部	SE204	不明	
126	48	210	川	墨書	土師器	环	底部	SE204	9 C 後半	
127	48	211	川	墨書	頸壺器	高台付环	底部	SE204	8 C 後	
128	48	212	川	墨書	頸壺器	高台付环	底部	SE204	8 C 中	
129	48	213	川	墨書	頸壺器	高台付环	底部	SE204	8 C 後	
130	48	214	川	墨書	頸壺器	高台付环	底部	SE204	8 C 後	
131	48	215	川	墨書	頸壺器	高台付环	底部	SE204	8 C 後	
132	48	216	川	墨書	土師器	高台付脚	底部	SE204	9 C 後半	
133	48	217	川	墨書	頸壺器	蓋	天井部内面	SE204	9 C 前	
134	48	218	川	墨書	頸壺器	高台付脚	体部内面・正位	SE204	9 C 中	
135	48	219	ナ/ナ	墨書	頸壺器	环	体部・右/底部	SE204	9 C 前	
136	48	220	ナ	墨書	頸壺器	环	体部・正位	SE204	9 C 前	
137	48	221	ナ	墨書	頸壺器	环	体部・左	SE204	9 C 中	
138	48	222	ナ	墨書	頸壺器	环	体部・逆位	SE204	9 C 中	
139	49	223	ナ	墨書	頸壺器	高台付环	底部	SE204	9 C 前	
140	49	224	ナ	墨書	頸壺器	高台付环	体部・逆位	SE204	9 C 中	
141	49	225	ナ	墨書	土師器	高台付脚	底部	SE204	9 C 後半	
142	49	226	ナ	墨書	頸壺器	蓋	体部・正位	SE204	9 C 前	

番号	国版	遺物番号	表 文	種 別	材 質	器 種	部 位 - 方 向	造 構	時 期	備 考
143	49	227	宅	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9 C 前	
144	49	228	宅	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8 C 中	
145	49	229	宅	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8 C 後	
146	49	230	宅	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9 C 前	
147	49	231	宅	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	9 C 中	
148	49	232	南	墨書	須恵器	环	底部内面	SE204	9 C 前	
149	49	233	南	墨書	須恵器	环	底部内面	SE204	9 C 中	
150	49	234	南／南	墨書	須恵器	环	底部外／内面	SE204	不明	
151	49	235	南	墨書	須恵器	环	体部内面・左	SE204	9 C 中	
152	49	236	南	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
153	49	237	山入	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8 C 前	
154	49	238	山山	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9 C 中	
155	49	239	□山	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	9 C 中	
156	49	240	山／山	墨書	須恵器	环	体部・左／底部内面	SE204	8 C 後	
157	50	241	田前	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9 C 前	漆
158	50	242	田	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	8 C 後	
159	50	243	□田／匁	墨書	須恵器	环	底部外／内面	SE204	9 C 前	
160	50	244	段	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
161	50	245	前□	墨書	土器器	环	体部・右	SE204	9 C 後半	
162	50	246	十／井上・□	朱墨／墨書	須恵器	环	体部・正位／底部	SE204	8 C 中	
163	50	247	井上	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	9 C 前	
164	50	248	智／福	墨書	須恵器	环	体部・正位／底部	SE204	8 C 後	
165	50	249	智	墨書	須恵器	环	体部・正位	SE204	9 C 中	
166	50	250	麻生	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8 C 後	
167	50	251	□家	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
168	50	252	墓	墨書	須恵器	环	体部・左	SE204	9 C 前	
169	50	253	墓	墨書	須恵器	环	体部・左	SE204	9 C 前	
170	50	254	子鼻門	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9 C 中	
171	50	255	子佐古	墨書	土器器	环	体部・右	SE204	9 C 後半	
172	50	256	□堀	墨書	須恵器	高台付环	体部・正位	SE204	8 C 中	
173	50	257	野・漫	墨書	須恵器	环	底部内面	SE204	不明	
174	50	258	秋□	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	8 C 後	
175	50	259	長□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
176	50	260	楓	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	8 C 中	
177	50	261	城□(内)	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
178	50	262	香	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	不明	
179	50	263	条	墨書	土器器	环	体部・正位	SE204	9 C 後半	
180	51	264	西	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	9 C 中	
181	51	265	夫	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	9 C 前	
182	51	266	十	墨書	須恵器	环	体部・正位	SE204	9 C 前	
183	51	267	ノ	墨書	土器器	环	体部・正位	SE204	9 C 後半	
184	51	268	十	朱墨	須恵器	环	底部	SE204	8 C 後	
185	51	269	十。	朱墨	須恵器	环	底部	SE204	8 C 中	
186	51	270	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9 C 前	
187	51	271	□(田)	墨書	須恵器	环	体部・正位	SE204	9 C 前	油漆
188	51	272	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9 C 中	
189	51	273	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9 C 中	

番号	図版	遺物番号	積文	種別	材質	器種	部位・方向	遺構	時期	備考
190	51	274	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
191	51	275	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
192	51	276	□□□(城内至)	墨書	須恵器	环	底部内面	SE204	9C中	
193	51	277	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C後	
194	51	278	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
195	52	279	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C後	
196	52	280	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C後	
197	52	281	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	9C前	
198	52	282	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	8C後	
199	52	283	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
200	52	284	□(III.)	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
201	52	285	□□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
202	52	286	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
203	52	287	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
204	52	288	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
205	52	289	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
206	52	290	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
207	52	291	□/□	墨書	須恵器	环	体部・不明/底部	SE204	不明	
208	52	292	□(馬)	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
209	52	293	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
210	52	294	□(中.)	墨書	須恵器	环	体部・正位	SE204	不明	
211	53	295	□	墨書	須恵器	环	体部・正位	SE204	不明	
212	53	296	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
213	53	297	□	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	不明	
214	53	298	□	墨書	須恵器	环	体部内面・不明	SE204	不明	
215	53	299	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
216	53	300	□	墨書	須恵器	环	体部内面・不明	SE204	不明	
217	53	301	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
218	53	302	□	墨書	須恵器	环	体部内面・不明	SE204	不明	
219	53	303	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
220	53	304	□	墨書	須恵器	环	体部内面・不明	SE204	不明	
221	53	305	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
222	53	306	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
223	53	307	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
224	53	308	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
225	53	309	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
226	53	310	□□	墨書	須恵器	环	体部・右	SE204	不明	
227	53	311	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
228	53	312	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
229	53	313	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
230	53	314	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
231	53	315	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
232	53	316	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
233	53	317	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
234	53	318	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
235	53	319	□(III.)	墨書	須恵器	环	体部内面・正位	SE204	不明	
236	53	320	□(+)	墨書	須恵器	环	体部・逆位	SE204	不明	

番号	出版	遺物番号	種 文	種 別	材 質	器 種	部 位 - 方 向	遺 構	時 期	備 考
237	53	321	□	墨書	頸巻器	环	体部内面・不明	SE204	不明	
238	53	322	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SE204	不明	
239	53	323	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SE204	不明	
240	53	324	□ (新)	墨書	頸巻器	环	体部・右	SE204	不明	
241	53	325	□	墨書	頸巻器	环	体部・正位	SE204	不明	
242	53	326	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
243	53	327	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
244	53	328	□ (川)	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
245	53	329	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
246	53	330	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
247	53	331	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
248	53	332	□ (希)	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
249	53	333	□	墨書	頸巻器	环	底部内面	SE204	不明	
250	53	334	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
251	53	335	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
252	53	336	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
253	53	337	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
254	53	338	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
255	54	339	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
256	54	340	□ (記)	墨書	頸巻器	环	底部内面	SE204	不明	
257	54	341	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
258	54	342	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
259	54	343	□/□	墨書	頸巻器	环	体部・不明/底部	SE204	不明	
260	54	344	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
261	54	345	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SE204	不明	
262	54	346	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
263	54	347	□ (記)	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
264	54	348	□ (記)	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
265	54	349	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
266	54	350	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
267	54	351	毛	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
268	54	352	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
269	54	353	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
270	54	354	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
271	54	355	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
272	54	356	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
273	54	357	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
274	54	358	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SE204	不明	
275	54	359	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
276	54	360	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
277	54	361	□ (毛)	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
278	54	362	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
279	54	363	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
280	54	364	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
281	54	365	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
282	54	366	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	
283	54	367	□	墨書	頸巻器	环	底部	SE204	不明	

番号	国版	遺物番号	积 文	種 別	材 質	器 種	部 位・方 向	遺 様	時 期	備 考
284	54	368	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
285	54	369	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
286	54	370	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
287	54	371	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
288	54	372	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
289	54	373	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
290	55	374	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
291	55	375	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
292	55	376	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
293	55	377	□ (起。)	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
294	55	378	□	墨書	須恵器	环	体部・不明	SE204	不明	
295	55	379	□ (出。)	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
296	55	380	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
297	55	381	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
298	55	382	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
299	55	383	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
300	55	384	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
301	55	385	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
302	55	386	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
303	55	387	□	墨書	土師器	环	体部・不明	SE204	9 C 後半	
304	55	388	□ (大。)	墨書	土師器	环	体部・定位。	SE204	9 C 後半	
305	55	389	□	墨書	土師器	环	体部・正位。	SE204	9 C 後半	
306	55	390	□	墨書	土師器	环	体部・不明	SE204	9 C 後半	
307	55	391	□	墨書	土師器	环	体部・不明	SE204	9 C 後半	
308	55	392	□□	墨書	土師器	环	底部	SE204	9 C 後半	
309	55	393	□	墨書	土師器	环	底部	SE204	9 C 後半	
310	55	394	□ (出。)	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	9 C 前	
311	55	395	□□	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	8 C 後	
312	55	396	□ (新。)	墨書	須恵器	高台付环	底部	SE204	9 C 前	
313	55	397	□	墨書	須恵器	环	底部	SE204	不明	
314	55	398	□	墨書	須恵器	蓋	体部内面	SE204	不明	
315	55	399	□	墨書	須恵器	蓋	底部	SE204	8 C 後	軋用鏡
316	55	400	□	墨書	須恵器	盤	底部	SE204	9 C 前	
317	55	401	□ (底。)	墨書	須恵器	盤	体部・不明	SE204	9 C 前	
318	76	444	鳥	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8 C 中	
319	76	445	鳥	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8 C 中	
320	76	446	□ (鶴。)	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8 C 後	
321	76	447	足	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8 C 中	
322	76	448	足	墨書	須恵器	环	体部・右	SX 1	8 C 中	
323	76	449	足	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8 C 中	
324	76	450	足	墨書	須恵器	环	体部・右	SX 1	9 C 中	
325	76	451	足	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	9 C 前	
326	76	452	足	墨書	須恵器	环	底部内面	SX 1	9 C 前	
327	76	453	足	墨書	須恵器	环	体部・右	SX 1	9 C 中	
328	76	454	足	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
329	76	455	足	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
330	76	456	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	

番号	国版	遺物番号	表文	種別	材質	器種	部位・方向	造構	時期	備考
331	77	458	川	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8C後	
332	77	459	川	墨書	須恵器	环	体部・逆位	SX 1	9C中	
333	77	460	川	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	9C後	
334	77	461	川／川	墨書	須恵器	环	体部・正位／底部	SX 1	9C中	
335	77	462	川	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8C中	
336	77	463	川	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8C後	
337	77	464	川	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	9C前	
338	77	465	川	墨書	須恵器	环	体部・逆位	SX 1	9C中	
339	77	466	川	墨書	須恵器	环	体部・逆位	SX 1	不明	
340	77	467	川	墨書	須恵器	环	体部・逆位	SX 1	不明	
341	77	468	川	墨書	須恵器	环	体部・逆位	SX 1	不明	
342	77	469	川	墨書	須恵器	环	体部内面・正位	SX 1	不明	
343	77	470	川	墨書	土師器	环	体部・正位	SX 1	9C後半	
344	77	471	川	墨書	土師器	环	底部	SX 1	9C後半	
345	77	472	川	墨書	土師器	黑	体部・逆位	SX 1	9C後半	
346	77	473	ナ	墨書	須恵器	环	体部・正位	SX 1	9C前	
347	77	474	ナ	墨書	須恵器	环	底部内面	SX 1	9C中	
348	77	475	ナ	墨書	須恵器	环	体部・正位	SX 1	9C前	
349	77	476	ナ	墨書	須恵器	环	体部・正位	SX 1	不明	
350	78	477	ナ	墨書	土師器	环	体部・正位	SX 1	9C後半	
351	78	478	ナ	墨書	土師器	环	体部・逆位	SX 1	9C後半	
352	78	479	ナ	墨書	土師器	环	体部・逆位	SX 1	9C後半	
353	78	480	ナ	墨書	土師器	环	体部・正位	SX 1	9C後半	
354	78	481	ナ	墨書	土師器	环	体部・正位	SX 1	9C後半	
355	78	482	ナ	墨書	土師器	环	体部・正位	SX 1	9C後半	
356	78	483	ナ	墨書	須恵器	高台付環	体部・正位	SX 1	9C後半	
357	78	484	前	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8C後	
358	78	485	田苗	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	9C中	
359	78	486	田苗	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
360	78	487	跋	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8C中	油樺
361	78	488	跋	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8C中	
362	78	489	新	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	9C中	
363	78	490	桑	墨書	土師器	环	体部・正位	SX 1	9C後半	
364	78	491	桑	墨書	土師器	黑	体部・正位	SX 1	9C後半	
365	78	492	桑	墨書	土師器	黑	体部・正位	SX 1	9C後半	
366	78	493	池□(田 ₁)	墨書	須恵器	环	体部・逆位	SX 1	9C前	
367	78	494	池田	墨書	須恵器	环	体部・正位	SX 1	9C中	
368	79	457	宅	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 1	8C中	
369	79	495	宅	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 1	8C中	
370	79	496	宅	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 1	8C中	
371	79	507	宅	墨書	須恵器	环	体部・正位	SX 1	8C前	
372	79	509	宅	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	8C中	
373	79	497	山山	墨書	須恵器	环	体部・右	SX 1	9C中	
374	79	498	大□(万 ₁)	墨書	土師器	环	体部・右	SX 1	9C後半	
375	79	499	万	墨書	土師器	高台付輪	底部	SX 1	9C後半	
376	79	500	栗	墨書	須恵器	环	体部・正位	SX 1	不明	
377	79	501	伍	墨書	土師器	环	底部	SX 1	9C後半	

番号	国版	遺物番号	积 文	種 別	材 質	器 類	部 位・方 向	遺 標	時 期	備 考
378	79	502	~	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	8C後	
379	79	503	T	墨書	頸巻器	高台台环	底部	SX 1	不明	
380	79	504	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
381	79	505	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	8C中	
382	79	506	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	8C中	
383	79	508	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	8C中	
384	79	510	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	8C中	
385	79	511	□□ (山人+)	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	8C前	
386	79	512	□ (麻+)	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
387	80	513	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
388	80	514	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
389	80	515	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
390	80	516	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
391	80	517	□	墨書	頸巻器	环	体部・右	SX 1	不明	
392	80	518	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
393	80	519	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
394	80	520	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
395	80	521	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
396	80	522	□ (川+)	墨書	頸巻器	环	体部・逆位	SX 1	不明	
397	80	523	□	墨書	頸巻器	环	体部内面・逆位	SX 1	不明	
398	80	524	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
399	80	525	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
400	80	526	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
401	80	527	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
402	80	528	□ (川+)	墨書	頸巻器	环	体部・右	SX 1	不明	
403	80	529	□	墨書	頸巻器	环	体部・右	SX 1	不明	
404	80	530	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
405	80	531	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
406	80	532	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
407	80	533	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
408	80	534	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
409	80	535	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
410	80	536	□	墨書	頸巻器	环	体部・不明	SX 1	不明	
411	80	537	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
412	80	538	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
413	80	539	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
414	80	540	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
415	80	541	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
416	80	542	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
417	80	543	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
418	80	544	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
419	80	545	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
420	80	546	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
421	81	547	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
422	81	548	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
423	81	549	□ (井+)	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	
424	81	550	□	墨書	頸巻器	环	底部	SX 1	不明	

番号	国版	遺物番号	被文	種別	材質	器種	部位 - 方向	造構	時期	備考
425	81	551	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
426	81	552	□ (田 _二) □	墨書	須恵器	环	底部内面	SX 1	不明	
427	81	553	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
428	81	554	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
429	81	555	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
430	81	556	前	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
431	81	557	記 _二	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
432	81	558	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
433	81	559	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
434	81	560	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
435	81	561	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 1	不明	
436	81	562	□	墨書	土器	环	体部・不明	SX 1	9C後半	
437	81	563	□	墨書	土器	环	体部・不明	SX 1	9C後半	
438	81	564	□	墨書	土器	环	体部・右	SX 1	9C後半	
439	81	565	□	墨書	土器	环	体部・不明	SX 1	9C後半	
440	81	566	□	墨書	土器	环	体部・不明	SX 1	9C後半	
441	81	567	□	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 1	9C後半	
442	81	568	□□	墨書	土器	高台付环	底部	SX 1	9C後半	
443	81	569	□	墨書	土器	直	体部・不明	SX 1	9C後半	
444	93	636		墨紙	須恵器	高台付环	底部	SX 2	不明	軸用鏡
445	99	675	記・名	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
446	99	676	鷦名	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C後	
447	99	677	鷦名	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C後	
448	99	678	鷦名	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C後	
449	99	679	鷦名	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
450	99	680	鷦名	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
451	100	681	鷦名・記	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
452	100	682	鷦名	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
453	100	683	□(鷦 _二)名	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
454	100	684	鷦名・□(記 _二)	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
455	100	685	□(鷦 _二)	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C前	
456	100	686	鷦	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C後	
457	100	687	鷦	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
458	100	688	鷦	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C前	
459	100	689	鷦名	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
460	100	691	鷦	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	9C前	
461	100	692	新・鷦	墨書	須恵器	盤	底部	SX 2	8C中	
462	100	693	鷦名・記	墨書	須恵器	盤	底部	SX 2	9C前	
463	100	694	記	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C前	
464	100	695	記	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C前	
465	100	696	記	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C前	
466	100	697	記	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C前	
467	101	698	記	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
468	101	699	記	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
469	101	700	記	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
470	101	701	記	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
471	101	702	記	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
472	101	703	記	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	

番号	国版	遺物番号	疾文	種別	材質	器種	部位・方向	遺構	時期	備考
473	101	704	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C中	
474	101	705	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C中	
475	101	706	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C中	
476	101	707	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C中	
477	101	708	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C中	
478	101	709	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C中	
479	101	710	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C中	
480	101	711	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C中	
481	101	712	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
482	102	713	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
483	102	714	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
484	102	715	忌	墨書	頬患器	环	体部・右	SX 2	8C後	
485	102	716	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
486	102	717	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
487	102	718	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
488	102	719	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
489	102	720	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
490	102	721	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
491	102	722	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
492	102	723	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
493	102	724	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
494	102	725	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
495	103	726	忌/忌	墨書	頬患器	环	体部・右/底部	SX 2	8C後	油煙
496	103	727	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
497	103	728	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	9C前	
498	103	729	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
499	103	730	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	9C前	
500	103	731	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	9C前	
501	103	732	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	9C前	
502	103	733	忌	墨書	頬患器	环	体部・左	SX 2	9C前	
503	103	734	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	9C前	
504	103	736	忌	墨書	頬患器	环	底部内面	SX 2	9C前	
505	103	737	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	9C前	
506	103	738	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
507	103	739	忌	墨書	頬患器	环	体部・右	SX 2	8C後	
508	103	740	忌	墨書	頬患器	环	体部・左	SX 2	不明	
509	103	741	忌	墨書	頬患器	环	体部・右	SX 2	不明	
510	103	742	忌	墨書	頬患器	环	体部・右	SX 2	不明	
511	104	743	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	8C後	
512	104	744	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	不明	
513	104	745	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	不明	
514	104	746	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	不明	
515	104	747	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	不明	
516	104	748	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	不明	
517	104	749	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	不明	
518	104	750	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	不明	
519	104	751	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	不明	
520	104	752	忌	墨書	頬患器	环	底部	SX 2	不明	

番号	出版	遺物番号	表 文	種 別	材 質	器 種	部 位 - 方 向	造 構	時 期	備 考
521	104	753	足	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	不明	
522	104	754	足	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	不明	
523	104	755	足	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	不明	
524	104	756	足	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	不明	
525	104	757	足	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	不明	
526	104	758	足	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	不明	
527	104	759	足	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	不明	
528	104	760	足	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	不明	
529	104	761	足	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	不明	
530	104	762	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
531	104	763	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
532	104	764	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
533	104	765	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
534	104	766	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
535	104	767	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
536	104	768	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	9 C 前	
537	105	769	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
538	105	770	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
539	105	771	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
540	105	772	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
541	105	773	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
542	105	774	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
543	105	775	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
544	105	776	□・水・足・足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
545	105	777	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
546	105	778	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	9 C 前	
547	105	779	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
548	105	780	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	9 C 前	
549	105	781	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
550	105	782	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	9 C 前	
551	105	783	足	墨書	頸巻器	高台付环	底部	SX 2	不明	
552	106	784	足	墨書	頸巻器	蓋	天井部内面	SX 2	8 C 中	
553	106	785	足	墨書	頸巻器	盤	底部	SX 2	9 C 前	
554	106	786	足	墨書	頸巻器	盤	底部	SX 2	8 C 後	
555	106	787	足	墨書	頸巻器	盤	底部	SX 2	9 C 前	
556	106	788	足	墨書	頸巻器	盤	底部	SX 2	9 C 前	
557	106	789	川	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	8 C 中	油煙
558	106	790	川	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	8 C 後	
559	106	791	川	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	8 C 後	
560	106	792	川	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	8 C 後	
561	106	793	川	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	9 C 前	
562	106	794	川	墨書	頸巻器	环	体部・正位	SX 2	9 C 前	
563	106	795	川	墨書	頸巻器	环	体部・正位	SX 2	9 C 前	漆
564	106	796	川	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	9 C 前	
565	106	797	川	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	9 C 前	
566	106	798	川	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	9 C 前	
567	107	799	川	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	9 C 前	
568	107	800	川	墨書	頸巻器	环	底部	SX 2	9 C 前	

番号	国版	遺物番号	积 文	種 別	材 質	器 類	部 位・方 向	道 横	時 期	備 考
569	107	801	川	墨書	頸済器	环	体部内面・逆位	SX 2	9 C 前	
570	107	802	川・□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
571	107	803	川	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	9 C 前	
572	107	804	川	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 中	
573	107	805	川	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
574	107	806	川	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
575	107	807	川	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	不明	
576	107	808	川	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
577	107	809	川	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	9 C 前	
578	107	810	川	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
579	107	811	川	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
580	107	812	川	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
581	107	813	川	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
582	107	814	川	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
583	107	815	川	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
584	107	816	川	墨書	頸済器	蓋	天井部内面	SX 2	8 C 後	
585	108	817	□前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 前	
586	108	818	多前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 前	
587	108	819	多前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 前	
588	108	820	多前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 中	
589	108	821	多前／多前	墨書	頸済器	环	体部・右／底部	SX 2	8 C 後	
590	108	822	田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 前	
591	108	823	大家・田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 中	
592	108	824	田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 中	
593	108	825	田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 後	
594	108	826	田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 後	
595	108	827	田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	9 C 前	
596	108	828	田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	9 C 前	
597	108	829	田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
598	108	830	田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
599	108	831	田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
600	108	832	田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
601	108	833	田□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
602	108	735	□田	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	9 C 前	
603	109	834	□前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 前	
604	109	835	田前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 中	
605	109	836	前	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 前	
606	109	837	新	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 前	
607	109	838	新	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 中	
608	109	839	新□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 後	
609	109	840	□(新。)段	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 中	
610	109	841	新段	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 後	
611	109	842	新段	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	8 C 後	
612	109	843	新段	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	9 C 前	
613	109	844	新□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	9 C 前	
614	109	845	新段	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
615	109	846	新	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
616	109	847	新	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	

番号	国版	遺物番号	積文	種別	材質	器種	部位・方向	造構	時期	備考
617	109	848	新□(殿。)	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	8C後	
618	109	849	新殿	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	8C後	
619	109	850	新	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	不明	
620	109	851	新燈	墨書	須恵器	蓋	天井部内面	SX 2	9C前	
621	109	852	新殿	墨書	須恵器	蓋	天井部内面	SX 2	8C後	
622	109	853	新殿	墨書	須恵器	蓋	天井部内面	SX 2	8C後	
623	110	854	宅	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C前	
624	110	855	宅	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
625	110	856	宅	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
626	110	857	宅	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
627	110	858	宅	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
628	110	859	宅	墨書	土師器	环	底部	SX 2	9C後半	
629	110	860	宅	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	8C後	
630	110	861	宅	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	8C後	
631	110	862	宅	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	9C前	
632	110	863	宅	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	8C後	
633	110	864	宅	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	不明	
634	110	865	宅	墨書	須恵器	蓋	天井部内面	SX 2	8C後	
635	110	866	山人	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
636	110	867	山人	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
637	110	868	山人	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
638	110	869	山人	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C後	
639	110	870	山人	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C後	
640	110	871	山人	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
641	111	872	山人	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	9C前	
642	111	873	山山	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	9C前	
643	111	874	麻	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
644	111	875	麻	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
645	111	876	麻□	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	8C中	
646	111	877	下麻主	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	8C中	
647	111	878	麻生	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	9C前	
648	111	879	麻	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	8C中	
649	111	880	麻□	墨書	須恵器	蓋	天井部内面	SX 2	9C前	
650	111	881	万	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
651	111	882	大万	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	9C前	
652	111	883	千万	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	9C中	
653	111	884	万	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
654	111	885	大万	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	不明	
655	111	886	坊家	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
656	111	887	中家	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C後	
657	111	888	中家	墨書	須恵器	盤	底部	SX 2	8C後	
658	111	889	□家	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	9C前	
659	112	890	ナ	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	9C前	
660	112	891	ナ	墨書	須恵器	环	体部・正位	SX 2	8C後	
661	112	892	ナ	墨書	須恵器	环	体部内面・正位	SX 2	9C前	
662	112	893	ナ	墨書	土師器	环	底部	SX 2	9C中	
663	112	894	○	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
664	112	895	○	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	

番号	国版	遺物番号	积 文	種 別	材 質	器 種	部 位・方 向	道 横	時 期	備 考
665	112	896	○	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
666	112	897	○	墨書	頬巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
667	112	898	○	墨書	頬巻器	糸	つまみ部	SX 2	9 C 前	
668	112	899	城内。	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
669	112	900	城	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 中	
670	112	901	城	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	9 C 中	
671	112	902	大多□	墨書	頬巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
672	112	903	大多△□	墨書	頬巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
673	112	904	□器	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 後	
674	112	905	器	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 後	
675	112	906	禾	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 中	
676	112	907	禾	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 中	
677	113	908	子上山／□	墨書	頬巻器	环	体部・逆位／底部	SX 2	9 C 中	
678	113	909	□山□□水	墨書	頬巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
679	113	910	淡水	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
680	113	911	小栗	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
681	113	912	井上	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	9 C 中	
682	113	990	□郎	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
683	113	913	長□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 中	
684	113	914	楓	墨書	頬巻器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
685	113	915	寺	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 中	
686	113	916	佐	墨書	頬巻器	环	体部・右	SX 2	不明	
687	113	917	夫	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 前	
688	113	918	仕	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 中	
689	113	919	辻	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 後	
690	113	920	×	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 前	
691	113	921	×	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
692	113	922	×	墨書	頬巻器	糸	底部	SX 2	不明	
693	113	923	—	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
694	113	924	父	墨書	頬巻器	环	体部内面・正位	SX 2	不明	
695	114	925	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 中	
696	114	926	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 中	
697	114	927	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	9 C 前	
698	114	928	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 後	
699	114	929	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	9 C 中	
700	114	930	□／□	墨書	頬巻器	环	体部・不明／底部内面	SX 2	9 C 中	
701	114	931	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	9 C 前	
702	114	932	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 前	
703	114	933	□（宅 _ア ）	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	9 C 前	
704	114	934	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 中	漆
705	114	935	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
706	114	936	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
707	114	937	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
708	114	938	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
709	114	939	□田 _ア	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 後	
710	114	940	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	不明	
711	114	941	□（III _ア ）	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	9 C 前	
712	115	942	□	墨書	頬巻器	环	底部	SX 2	8 C 中	

番号	国版	遺物番号	表文	種別	材質	器種	部位・方向	造構	時期	備考
713	115	943	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C前	
714	115	944	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C前	
715	115	945	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
716	115	946	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
717	115	947	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
718	115	948	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	9C前	
719	115	949	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
720	115	950	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C後	
721	115	951	□(前)	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C後	
722	115	952	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
723	115	953	□(家)	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
724	115	954	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
725	115	955	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C後	
726	115	956	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
727	115	957	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	9C前	
728	116	958	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
729	116	959	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C前	
730	116	960	山人	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
731	116	961	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C中	
732	116	962	□(多)	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C後	
733	116	963	□(略)	墨書	須恵器	环	体部、正位	SX 2	不明	
734	116	964	□	墨書	須恵器	环	体部、不明	SX 2	不明	
735	116	965	□(宅)	墨書	須恵器	环	体部、右	SX 2	不明	
736	116	966	□	墨書	須恵器	环	体部、右	SX 2	不明	
737	116	967	□□(万)	墨書	須恵器	环	体部、右	SX 2	不明	
738	116	968	□	墨書	須恵器	环	体部、不明	SX 2	不明	
739	116	969	□	墨書	須恵器	环	体部、不明	SX 2	不明	
740	116	970	□	墨書	須恵器	环	体部、不明	SX 2	不明	
741	116	971	□	墨書	須恵器	环	体部、不明	SX 2	不明	
742	116	972	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
743	116	973	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	8C前	
744	116	974	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
745	116	975	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
746	116	976	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
747	116	977	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
748	116	978	□(宅)	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
749	116	979	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
750	116	980	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
751	116	981	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
752	116	982	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
753	116	983	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
754	116	984	上□(山)	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
755	116	985	□(寺)	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
756	116	986	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
757	116	987	□	墨書	須恵器	环	体部、不明	SX 2	不明	
758	116	988	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	
759	116	989	□	墨書	須恵器	环	底部	SX 2	不明	

番号	国版	遺物番号	积 文	種 別	材 質	器 類	部 位 · 方 向	道 横	時 期	備 考
760	116	990	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
761	116	991	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
762	116	992	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
763	117	993	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
764	117	994	□	墨書	頸済器	环	底部·不明	SX 2	不明	
765	117	995	□ (麻。)	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
766	117	996	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
767	117	997	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
768	117	998	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
769	117	999	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
770	117	1000	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
771	117	1001	□ (宅。)	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
772	117	1002	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
773	117	1003	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
774	117	1004	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
775	117	1005	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
776	117	1006	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
777	117	1007	禾	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
778	117	1008	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
779	117	1009	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
780	117	1010	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
781	117	1011	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
782	117	1012	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
783	117	1013	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
784	117	1014	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
785	117	1015	鷦	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
786	117	1016	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
787	117	1017	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
788	117	1018	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
789	117	1019	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
790	117	1020	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
791	117	1021	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
792	117	1022	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
793	117	1023	□ 家	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
794	117	1024	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
795	117	1025	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
796	117	1026	□	墨書	頸済器	环	底部	SX 2	不明	
797	117	1027	□	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
798	117	1028	□	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
799	118	1029	可。	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
800	118	1030	□	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	9 C 前	
801	118	1031	宅	墨書・墨底	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	軸用範
802	118	1032	□ (宅。)	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	9 C 前	
803	118	1033	□	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	9 C 前	
804	118	1034	□	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 中	
805	118	1035	□	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	
806	118	1036	□□	墨書	頸済器	高台付环	底部	SX 2	8 C 後	

番号	国版	遺物番号	被文	種別	材質	器種	部位・方向	遺構	時期	備考
807	118	1037	□	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	8C後	
808	118	1038	□	墨書	須恵器	高台付环	底部	SX 2	不明	
809	118	1039	□	墨書	須恵器	蓋	体部・不明	SX 2	8C前	
810	118	1040	□	墨書	須恵器	蓋	底部	SX 2	不明	
811	118	1041	□	墨書	須恵器	更	口縁部・右	SX 2	不明	
812	143	1058	鷲名	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	8C中	
813	143	1059	足	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	8C中	
814	143	1060	足	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	9C前	
815	143	1061	足	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	9C前	
816	143	1062	足	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	8C中	
817	143	1063	足	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	8C中	
818	143	1064	足	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
819	143	1065	足	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
820	143	1066	足	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
821	143	1067	足	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
822	143	1068	足	墨書	須恵器	环	体部・右	遺構外	不明	
823	143	1069	足	墨書	須恵器	高台付环	底部	遺構外	8C後	
824	143	1070	川	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	8C後	
825	143	1071	川	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
826	143	1072	川	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
827	143	1073	川・川	墨書	土器器	环	体部・正位・底部	遺構外	9C後半	
828	143	1074	川	墨書	須恵器	高台付环	底部	遺構外	8C後	
829	143	1075	田□(前)	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	9C前	
830	143	1076	田前	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
831	143	1077	□□(多・前)	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
832	143	1078	前	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
833	143	1079	前	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
834	144	1080	宅	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	8C後	
835	144	1081	宅	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	8C中	
836	144	1082	□□(折・鍔)	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
837	144	1083	山人・山人	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	8C中	
838	144	1084	止田・裏麻新家	墨書	須恵器	高台付环	底部	遺構外	8C中	
839	144	1085	桑	墨書	土器器	高台付环	体部・正位	遺構外	9C後	
840	144	1086	西	墨書	須恵器	环	体部・右	遺構外	不明	
841	144	1087	禾	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
842	144	1088	中	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	8C後	
843	144	1089	○	墨書	須恵器	高台付环	底部	遺構外	不明	
844	144	1090	□	朱墨	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
845	144	1091	□(川)	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	8C後	
846	144	1092	□	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	8C後	
847	144	1093	□	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
848	144	1094	□	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
849	144	1095	□	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
850	144	1096	□	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
851	144	1097	□	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
852	144	1098	□	墨書	須恵器	环	底部	遺構外	不明	
853	144	1099	□	墨書	土器器	环	体部・不明	遺構外	不明	
854	144	1100		墨机	須恵器	高台付环	底部	遺構外	不明	転用瓶

付 章

島名熊の山遺跡出土木製品の樹種調査結果

(株) 吉田生物研究所

1 試料

試料は、工具 2 点、農具 11 点、紡織具 1 点、服飾具 2 点、容器 31 点、文房具 1 点、祭祀具 4 点、雑具 1 点、建築部材 38 点、土木具 7 点、用途不明品 11 点の合計 109 点である。

2 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3 結果

樹種同定結果(針葉樹 5 種、広葉樹 10 種)の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

(1) イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ (*Cephalotaxus Harringtonia K. Koch f. drupacea Kitamura*)

(W24・W115・W142 写真 1 : W 142)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は漸進的で、晩材の幅は非常に狭く、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はトウヒ型で 1 分野に 1 ~ 2 個ある。仮道管内部には螺旋肥厚が見られる。短冊形をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続（ストランド）して存在する。板目では放射組織はほぼ単列であった。イヌガヤは本州（岩手以南）、四国、九州に分布する。

(2) マツ科モミ属 (*Abies sp.*)

(W 4・W 8・W 12・W 13・W 28・W 145 写真 2 : W 12)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで晩材部の幅は狭い。柾目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で 1 分野に 1 ~ 4 個ある。板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ、モミ、シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

(3) スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica D.Don*)

(W32・W 38・W 121・W 150 写真 3 : W 38)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で 1 分野に 1 ~ 3 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

(4) ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis sp.*)

(W 25・W 26・W 33・W 39・W 94・W 96・W 98 ~ W 100・W 117・W 123・W 124・W 126・W 127・

W 128・W 131・W 133～W 140・W 143・W 146・W 147・W 149 写真4：W 128)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州（福島以南）、四国、九州に分布する。

(5) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)

(W 3・W 27・W 36・W 37・W 125 写真5：W 37)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2～4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

(6) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*)

(W 101・W 103・W 109 写真6：W 109)

放射孔材である。木口では年輪に關係なくまちまちな大きさの道管（～200 μm）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1～3細胞幅の独立帶状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は單穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で横状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

(7) ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* Endlicher sect. *Cerris*)

(W 1・W 5・W 6・W 7・W 9・W 10・W 11・W 51・W 58・W 61・W 62・W 65～W 69・W 71・W 72・W 73・W 102・W 108・W 110・W 112・W 113・W 144 写真7：W 6)

環孔材である。木口では大道管（～430 μm）が年輪界にそって1～数列並んで孔圈部を形成している。孔圈外では急に大きさを減じ、厚壁で円形の小道管が単独に放射方向に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に幅の広い放射組織がある。柾目では道管は單穿孔と対列壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には横状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。クヌギ節はクヌギ、アベマキがあり、本州（岩手、山形以南）、四国、九州、琉球に分布する。

(8) ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Sect. *Prinus* Loudon syn. *Diversipilosae*, *Dentatae*)

(W 79・W 105 写真8：W 105)

環孔材である。木口では大道管（～380 μm）が年輪界にそって1～3列並んで孔圈部を形成している。孔圈外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは2～3個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は單穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

- (9) ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)
(W 14・W 19・W 30・W 41～W 50・W 52・W 53・W 55～W 57・W 59・W 63・W 64・W 70・W 74・W 78・W 148 写真9：W 55)

環孔材である。木口では円形ないし梢円形で大体単独の大道管 ($\sim 500 \mu\text{m}$) が年輪にそって幅のかなり広い孔圈部を形成している。孔圈外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2～3個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は單穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の單列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木纖維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

- (10) ニレ科ニレ属 (*Ulmus* sp.)
(W 77 写真10：W 77)

環孔材である。木口では大道管 ($\sim 300 \mu\text{m}$) が2～3列で孔圈部を形成している。孔圈外では小道管が多数接合して複合管孔を形成し、花束状、斜線状、接線状に比較的規則的に配列する。軸方向柔細胞は周間状が顕著である。柾目では大道管は單穿孔と側壁に交互壁孔を持つ。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔は横状の壁孔が存在する。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ $\sim 740 \mu\text{m}$ である。ニレ属はハルニレ、アキニレ、オヒヨウがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

- (11) ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)
(W 116・W 119 写真11：W 116)

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管 ($\sim 270 \mu\text{m}$) が1列で孔圈部を形成している。孔圈外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集團管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圈部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は1～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は單穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少數の1～3列のものと大部分を占める6～7細胞列のはば大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

- (12) マンサク科イスノキ属イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.)
(W 114 写真12：W 114)

散孔材である。木口ではやや小さい道管 ($\sim 50 \mu\text{m}$) がおおむね単独で、大きさ数とも年輪全体を通じて変化なく平等に分布する。軸方向柔細胞は黒く接線方向に並び、ほぼ一定の間隔で規則的に配列している。放射組織は1～2列のものが多数走っているのが見られる。柾目では道管は階段穿孔と内部に充填物（チロース）がある。軸方向には黒いすじの柔細胞ストランドが多数走っており、一部は提灯状の細胞になっている。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1～2細胞列、高さ $\sim 1 \text{ mm}$ で多数分布している。イスノキは本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布する。

- (13) バラ科サクラ属 (*Prunus* sp.)
(W 118 写真13：W 118)

散孔材である。木口ではやや小さい道管 ($\sim 100 \mu\text{m}$) がほぼ一定の大きさで、単独あるいは放射方

向ないし斜方向に連なり分布している。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔及び螺旋肥厚を有する。道管内には着色物質が見られる。放射組織は同性ないし異性で中央部の平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなる。板目では放射組織は1～4細胞列、高さ～1mmからなる。サクラ属はサクラ、ヤマナシなどがあり、本州、四国、九州、琉球に分布する。

(14) ムクロジ科ムクロジ属ムクロジ (*Sapindus Mukorossi Gaertn.*)

(W 34 写真 14 : W 34)

環孔材である。木口ではやや大きい道管(～300μm)が数列で孔圈部を形成している。孔圈外では小道管が团塊状に集合している。軸方向柔細胞は幅の広い帯状をなして接線方向に連続している(帯状柔組織)。柾目では大道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ～400μmからなる。ムクロジは本州(中南部)、四国、九州、琉球に分布する。

(15) ツバキ科ヒサカキ属 (*Eurya sp.*)

(W 2 写真 15 : W 2)

散孔材である。木口では極めて小さい道管(～50μm)が単独ないし2～4個複合して平等に分布する。柾目では道管は階段穿孔と側壁に對列ないし階段壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏、方形、直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は對列状ないし階段状壁孔が存在する。板目では放射組織は1～4細胞列で、高さ～5mmからなる。木纖維の壁には有縫壁孔が一列に多数並んでいるのが全体で見られる。ヒサカキ属はヒサカキ、ハマヒサカキがあり、本州(岩手、秋田以南)、四国、九州、琉球に分布する。

参考文献

- 林昭三『日本産木材顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所 1991年
伊東隆夫『日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V』 京都大学木質科学研究所 1999年
島地謙・伊東隆夫『日本の遺跡出土木製品叢観』 雄山閣出版 1988年
北村四郎・村田源『原色日本植物図鑑木本編 I・II』 保育社 1979年
奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇』 1985年
奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇』 1993年

使用顕微鏡

Nikon DS-Fi1

写真1 イスガヤ科イスガヤ属イスガヤ

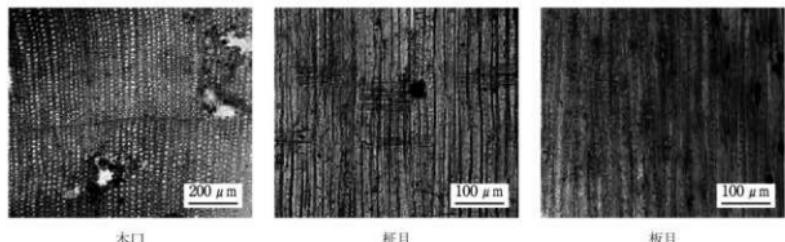


写真2 マツ科モミ属

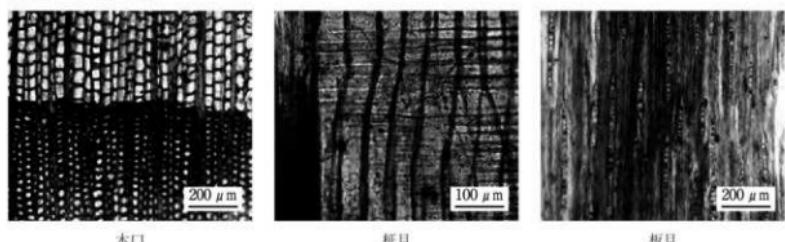


写真3 スギ科スギ属スギ

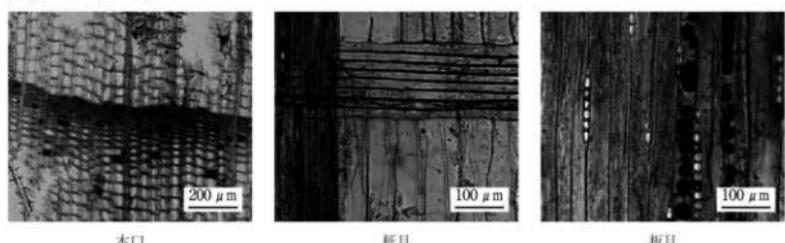


写真4 ヒノキ科ヒノキ属

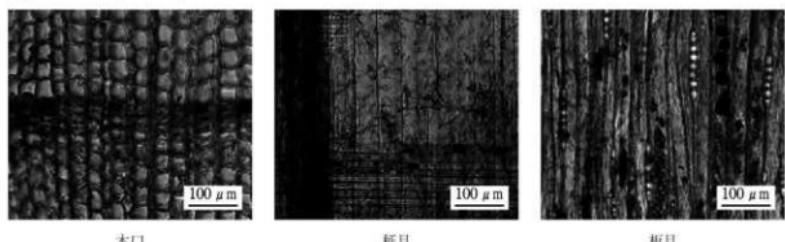


写真5 ヒノキ科アスナロ属

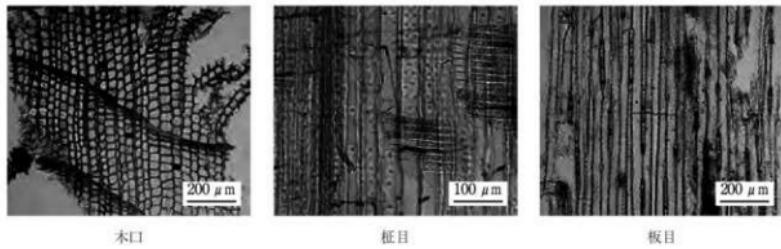


写真6 プナ科コナラ属アカガシ亜属

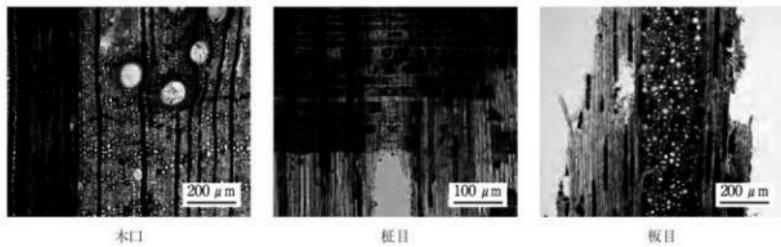


写真7 プナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節

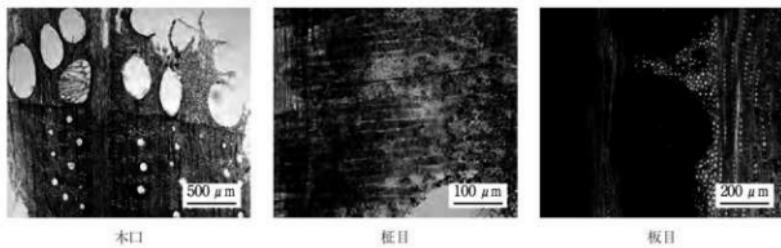


写真8 プナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節

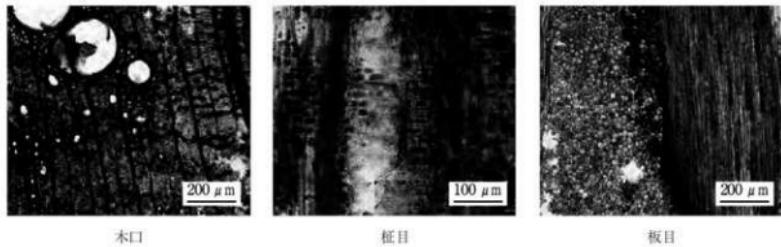


写真9 ブナ科クリ属

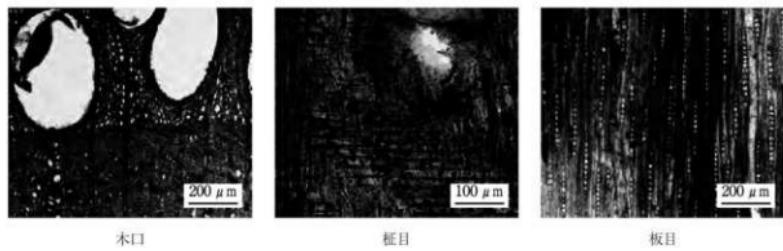


写真10 ニレ科ニレ属

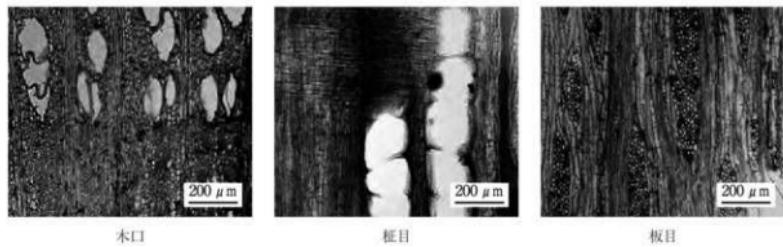


写真11 ニレ科ケヤキ属ケヤキ

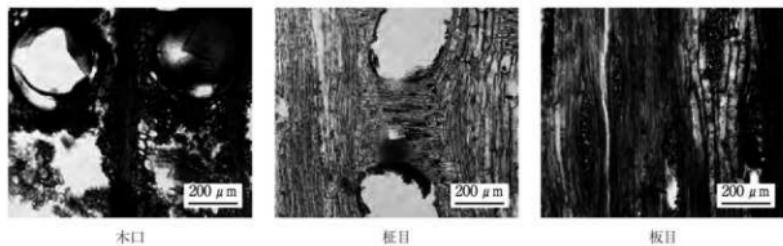


写真12 マンサク科イスノキ属イスノキ

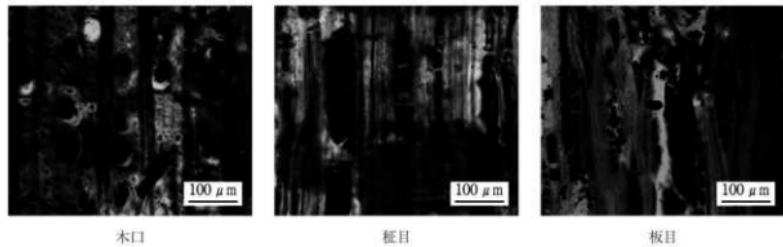
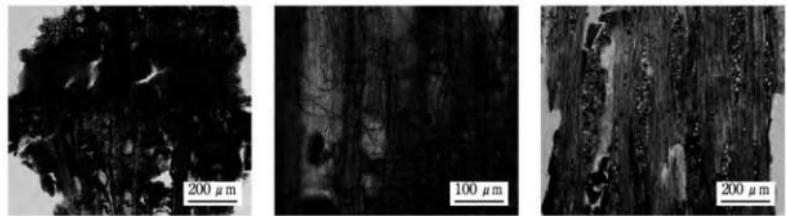


写真13 バラ科サクラ属

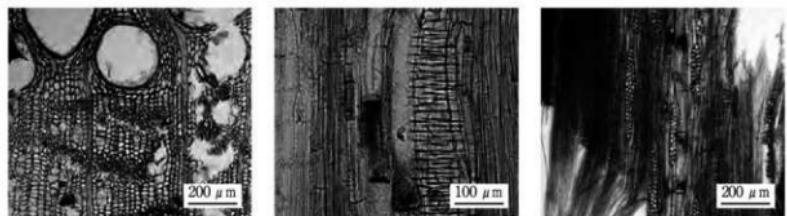


木口

柾目

板目

写真14 ムクロジ科ムクロジ属ムクロジ

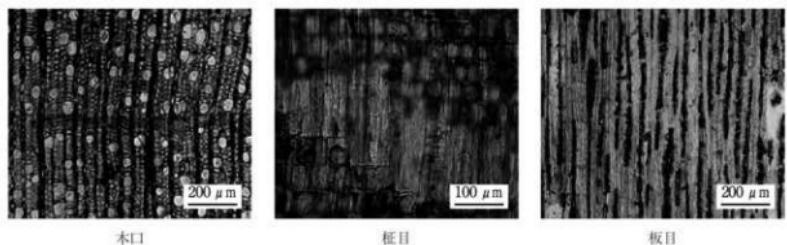


木口

柾目

板目

写真15 ツバキ科ヒサカキ属



木口

柾目

板目

写 真 図 版



第204号井戸跡 遺物出土状況



調査区北部 全景（南から）



調査区北部 全景（北から）

PL2



調査区南部 全景（南から）



調査区南部 全景（北から）



調査区南部第1次面 完掘状況（西から）



調査区南部第2次面 完掘状況（西から）

PL.4



第1号遗物集中地点 完掘状况



第1号遗物集中地点 遗物出土状况



第204号井戸跡 完掘状況①



第204号井戸跡 完掘状況②

PL6



第204号井戸跡 完掘状況③



第204号井戸跡 遺物出土状況



第2号遗物集中地点 遗物出土状况①



第2号遗物集中地点 遗物出土状况②



第2号遗物集中地点 遗物出土状况③



第2号遗物集中地点 遗物出土状况④



第2号遗物集中地点 遗物出土状况⑤



第2号遗物集中地点 遗物出土状况⑥



第2号遺物集中地點
鋸先出土狀況

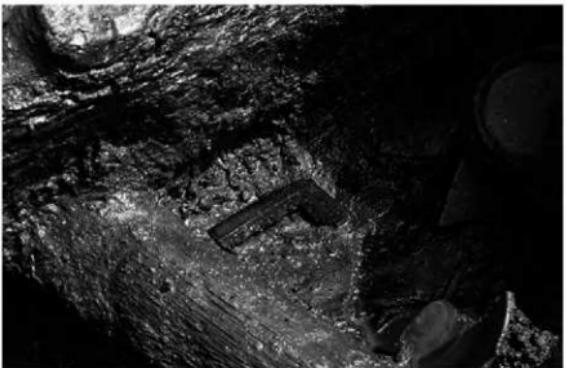


第2号遺物集中地點
橫樁出土狀況



第2号遺物集中地點
豎杆出土狀況

第2号遗物集中地点
梯出土状况



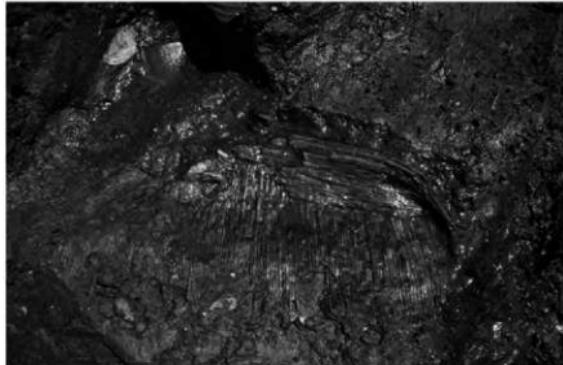
第2号遗物集中地点
挽物高台付环出土状况



第2号遗物集中地点
曲物·弓出土状况



PL12



第2号遺物集中地點
曲物出土狀況



第2号遺物集中地點
刀形出土狀況



第2号遺物集中地點
荷札狀木製品出土狀況



第203号井戸跡
遺物出土状況



第203号井戸跡
完掘状況



第211号井戸跡
遺物出土状況

PL14



第206号井戸跡
完掘状況



第207号井戸跡
完掘状況



第210号井戸跡
遺物出土状況



第210・211号井戸跡
完掘状況



第212号井戸跡
完掘状況 ①

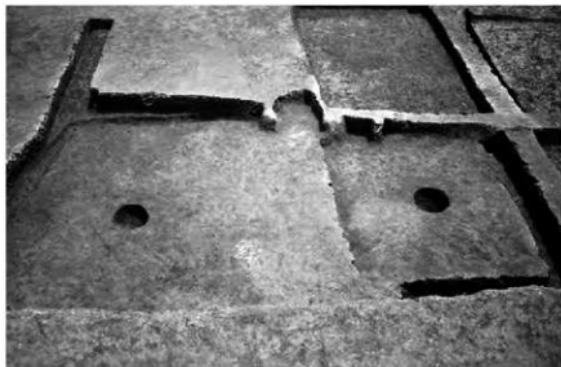


第212号井戸跡
完掘状況 ②

PL16



第3110号住居跡
遺物出土状況



第3110号住居跡
完掘状況



第583号据立柱建物跡
掘方完掘状況



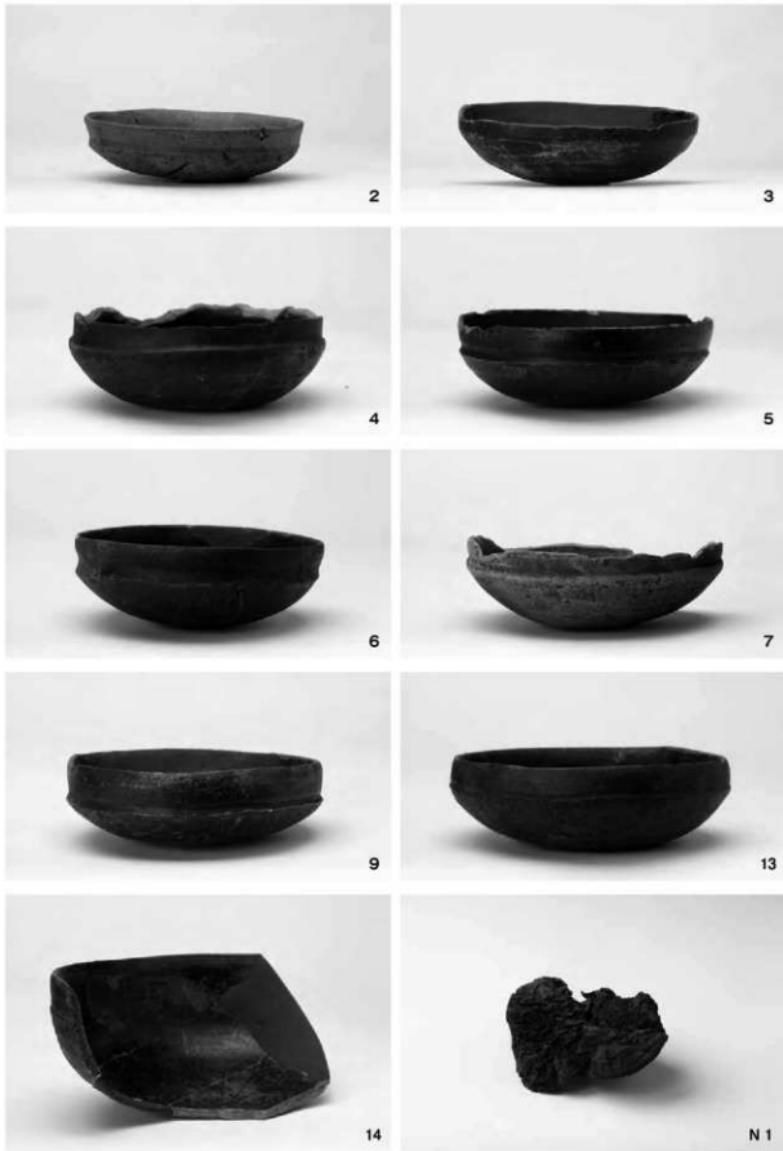
第 6903 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 556 号 满 跡
遗 物 出 土 状 况



第 556 号 满 距
完 挖 状 况



第203号井戸跡出土遺物



SE203-W 1



SE211-W 2



SE211-15



SE211-16



SE209-W 3



HG3-22



HG3-20



HG3-21

HG3-23

第203·209·211号井戸跡、第3号遺物包含層出土遺物



SE210-35



SE210-37



SE210-W 4



SE210-W 5



SE212-45



SE212-47



SD562-W24



SD562-W25

PL21



W8・W10



W11・W12・W13・W14

第212号井戸跡出土遺物



SD562-W26



SD562-W27



SI 3110-57



SI 3110-58



SI 3110-59



SI 3110-60



SI 3110-61



SE204-70



SE204-71

第562号溝跡、第3110号住居跡、第204号井戸跡出土遺物



79

第204号井戸跡出土遺物

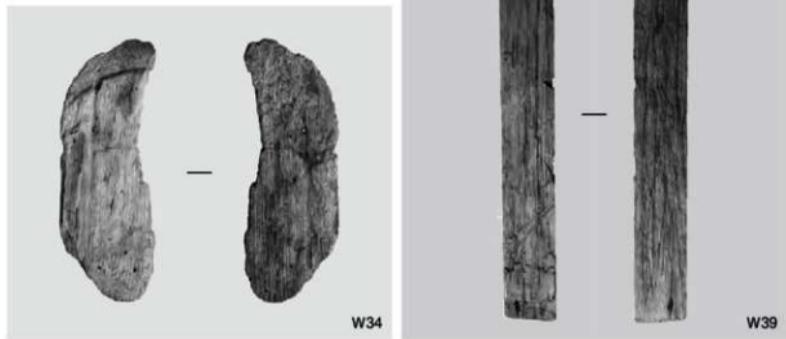
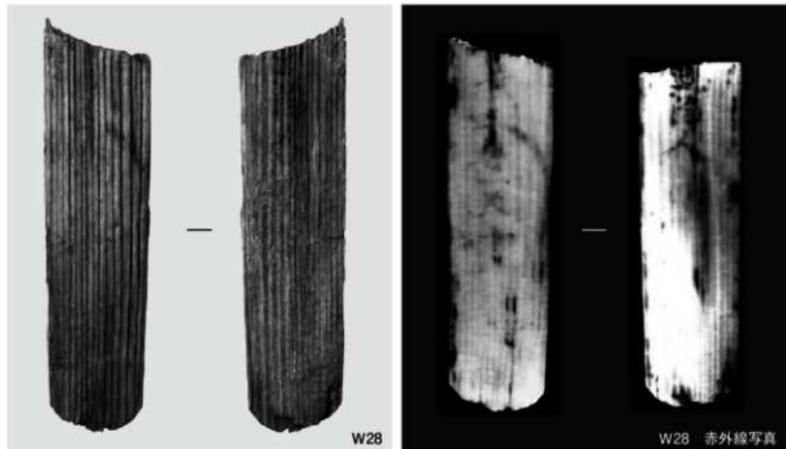


第204号井戸跡出土遺物

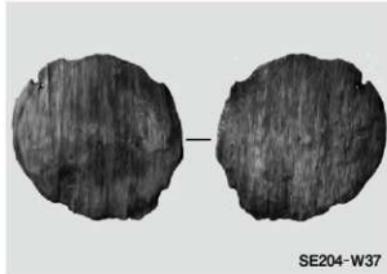


第204号井戸跡出土遺物

PL26



第204号井戸跡出土遺物



SE204-W37



SE204-W38



SE204-W41



SE204-W30



SE204-W32



SE204-W56



SX2-W60



SX2-W65

第204号井戸跡・第2号遺物集中地点出土遺物

PL28



W42 · W74



W43 · W44

第204号井戸跡出土遺物



W45 · W46 · W55 · W70



W47 · W48 · W49

第204号井戸跡出土遺物

PL30



SX2-W53・W58・W68・W69



SE204-W50・W51・W52, SX2-W57

第204号井戸跡・第2号遺物集中地点出土遺物



第204号井戸跡・第2号遺物集中地点出土遺物

PL32



SX 2-W59 · W66 · W67

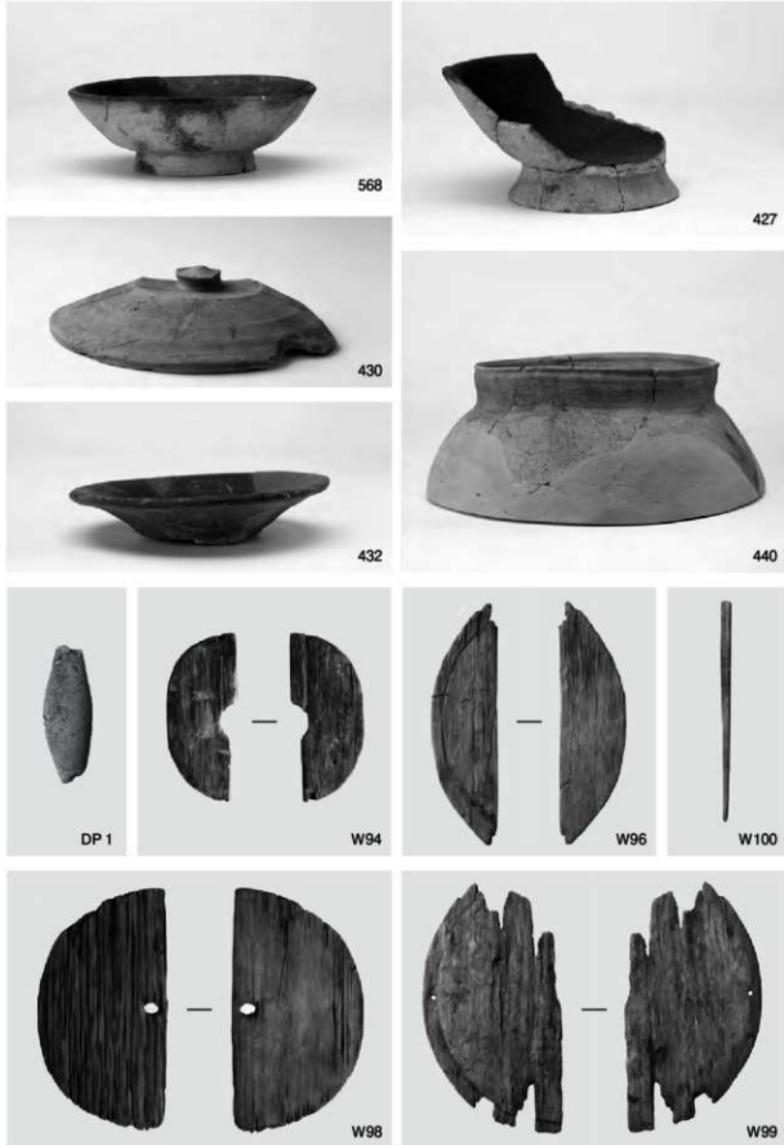


SE204-W79, SX 2-W77 · W78

第204号井戸跡・第2号遺物集中地点出土遺物



第1号遗物集中地点出土遗物



第1号遗物集中地点出土遗物



第2号遗物集中地点出土遗物



604



608



609



613



614



615



617



619



620



621



第2号遗物集中地点出土遗物



637



638



639



646



648



652



DP 2



Q 1



M 1

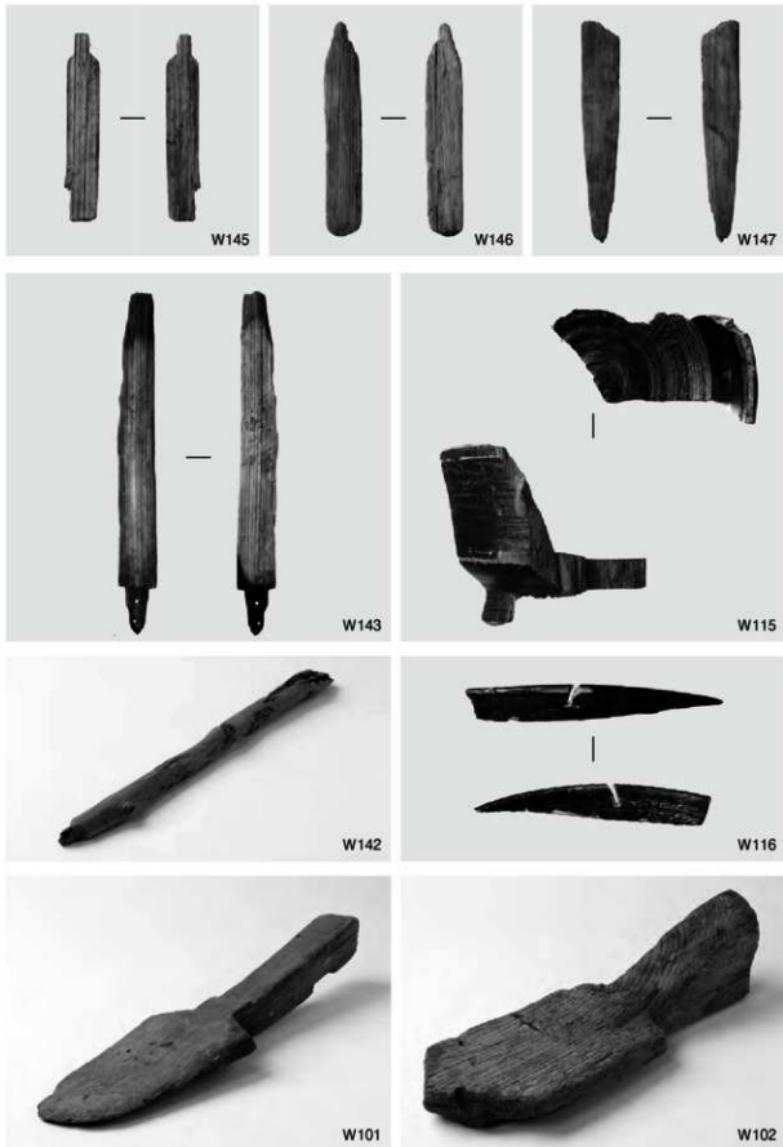


N 3

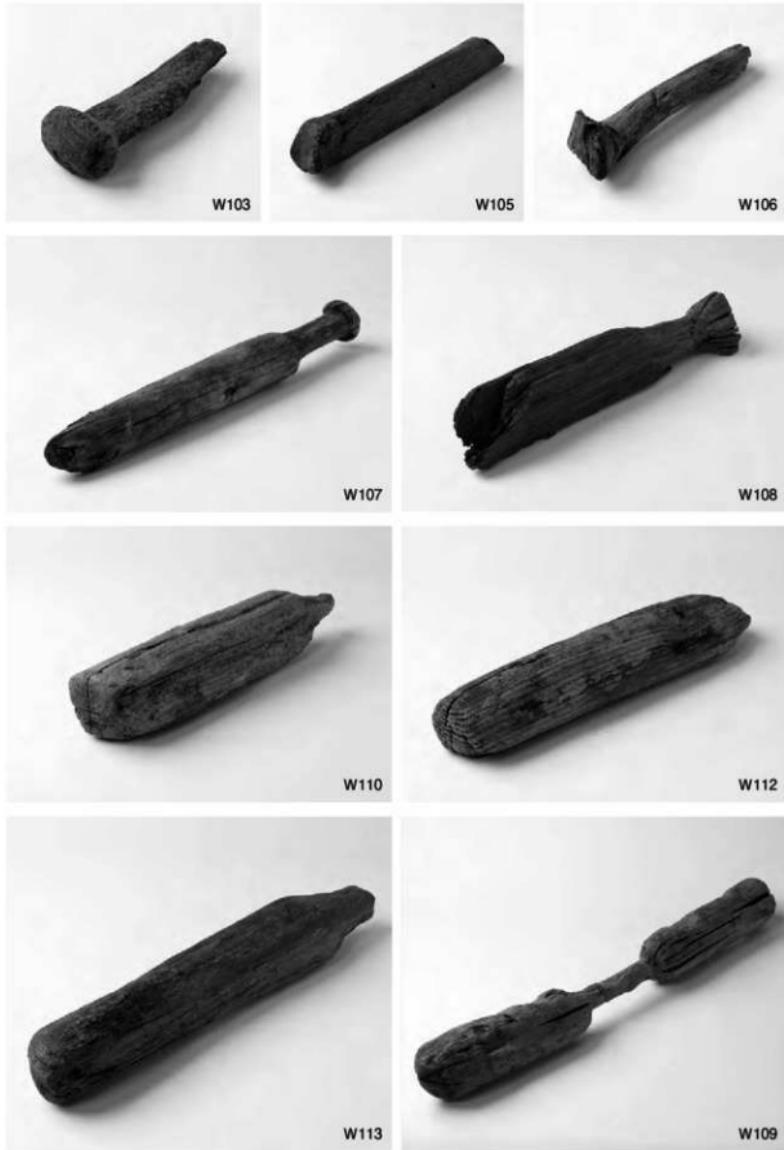


W 114

第2号遗物集中地点出土遗物



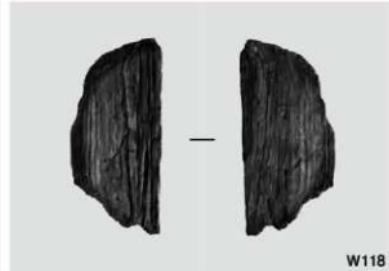
第2号遗物集中地点出土遗物



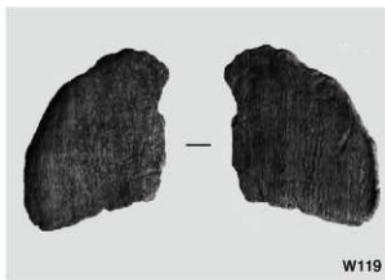
第2号遗物集中地点出土遗物



W117



W118



W119



W121



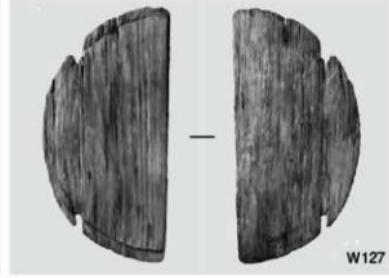
W124



W125

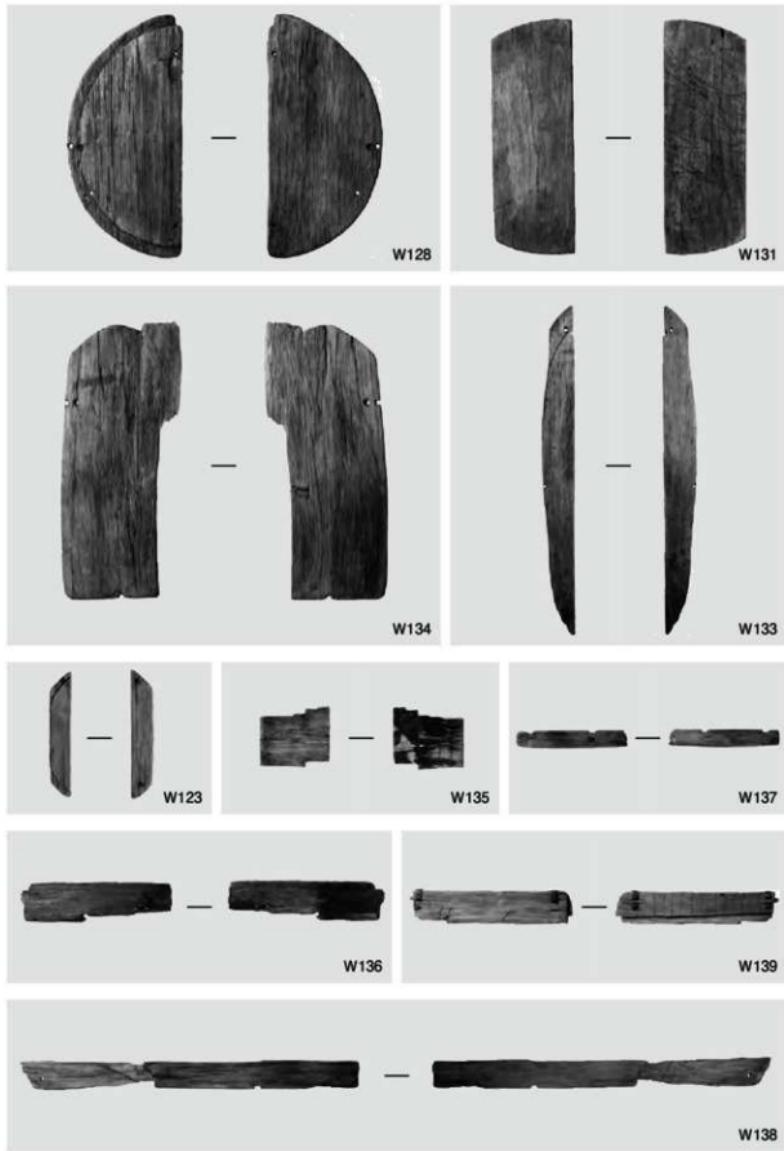


W126



W127

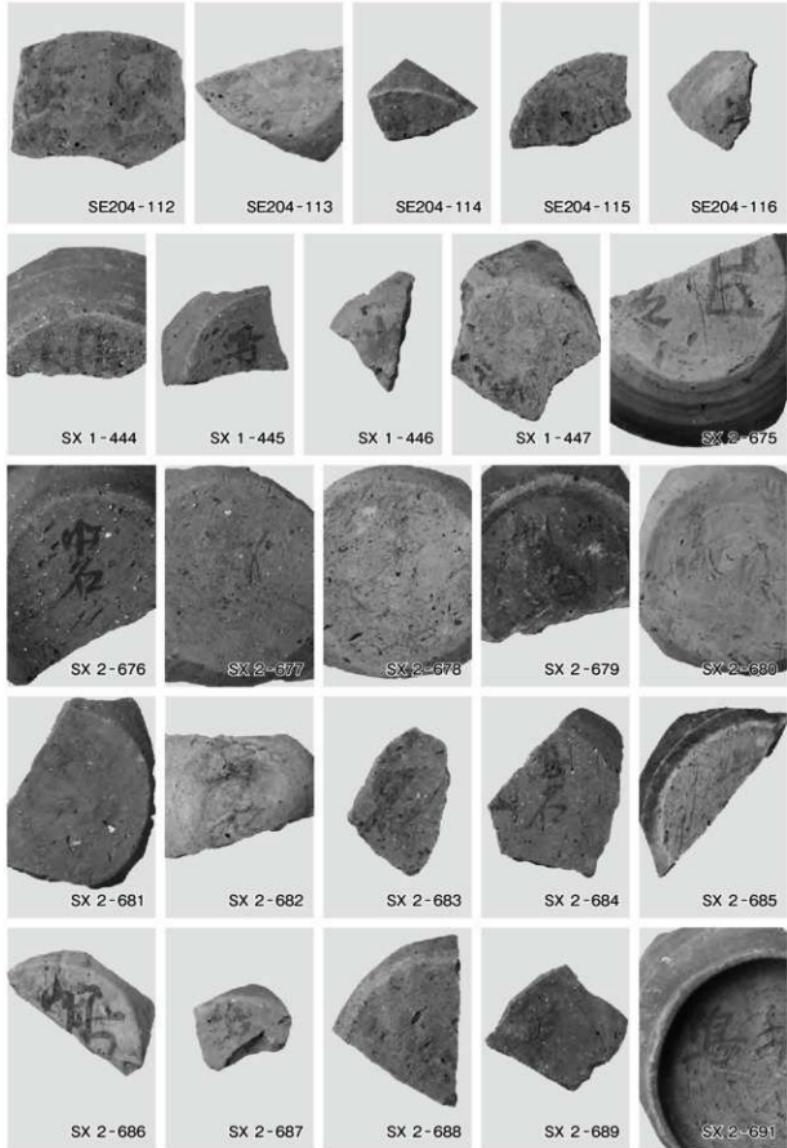
第2号遗物集中地点出土遗物



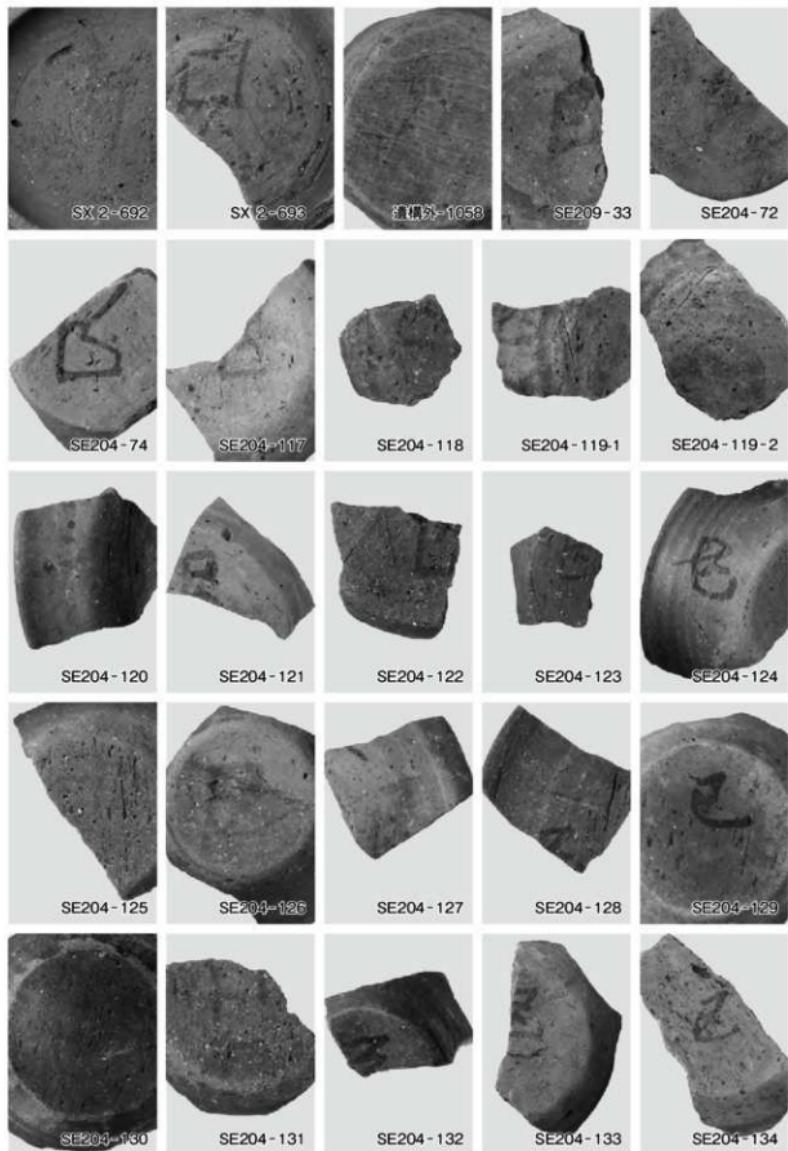
第2号遗物集中地点出土遗物



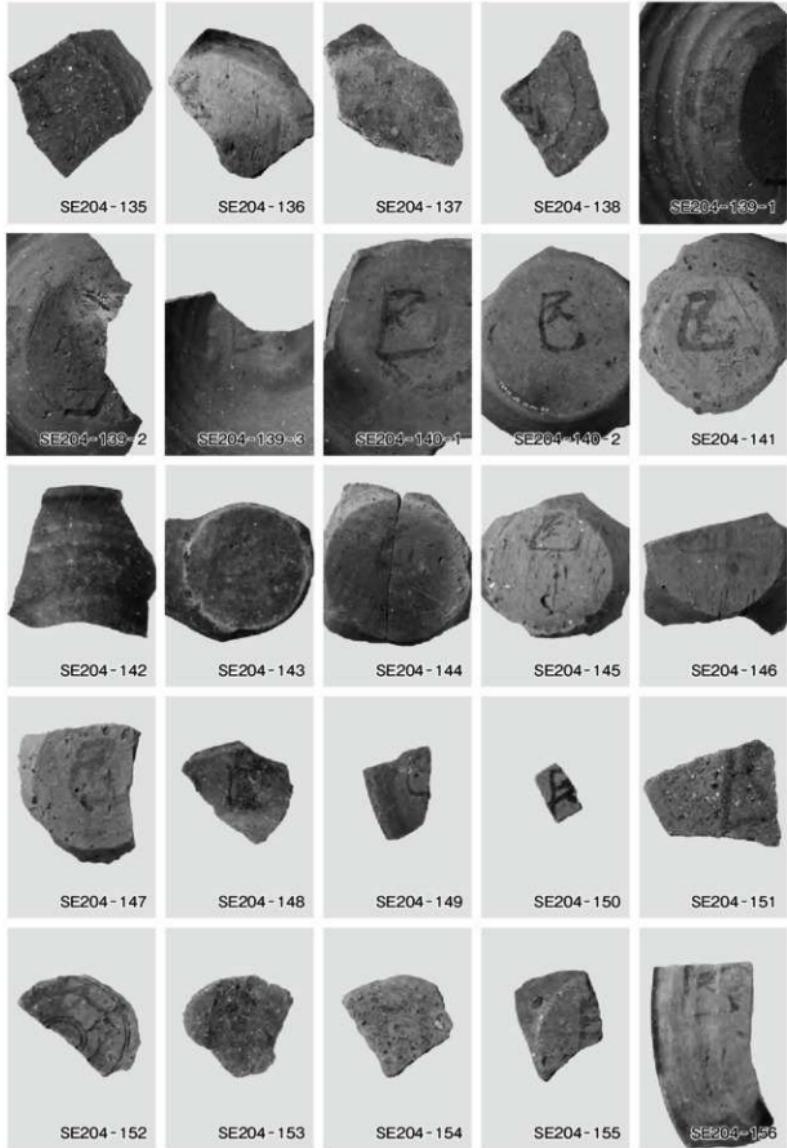
第556号溝跡、第61号ピット群、遺構外出土遺物



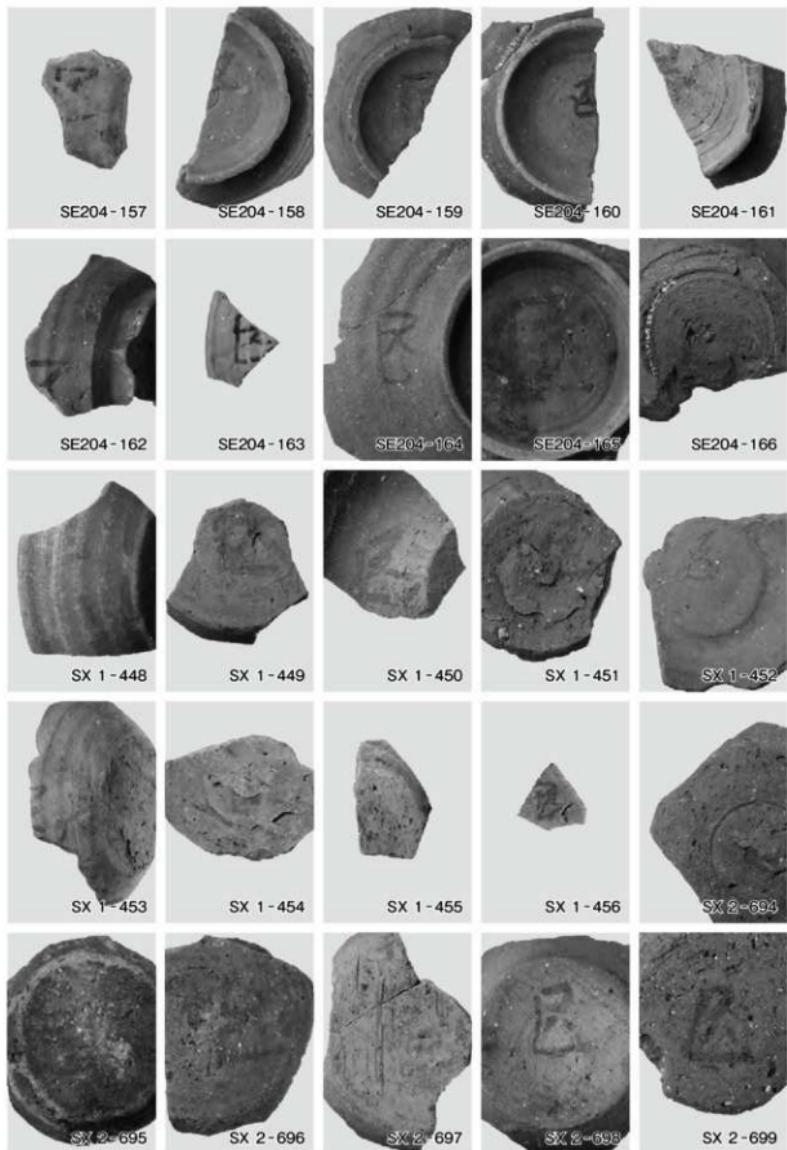
「鳩、鳩名、匱・名、鳩名・匱」墨書土器



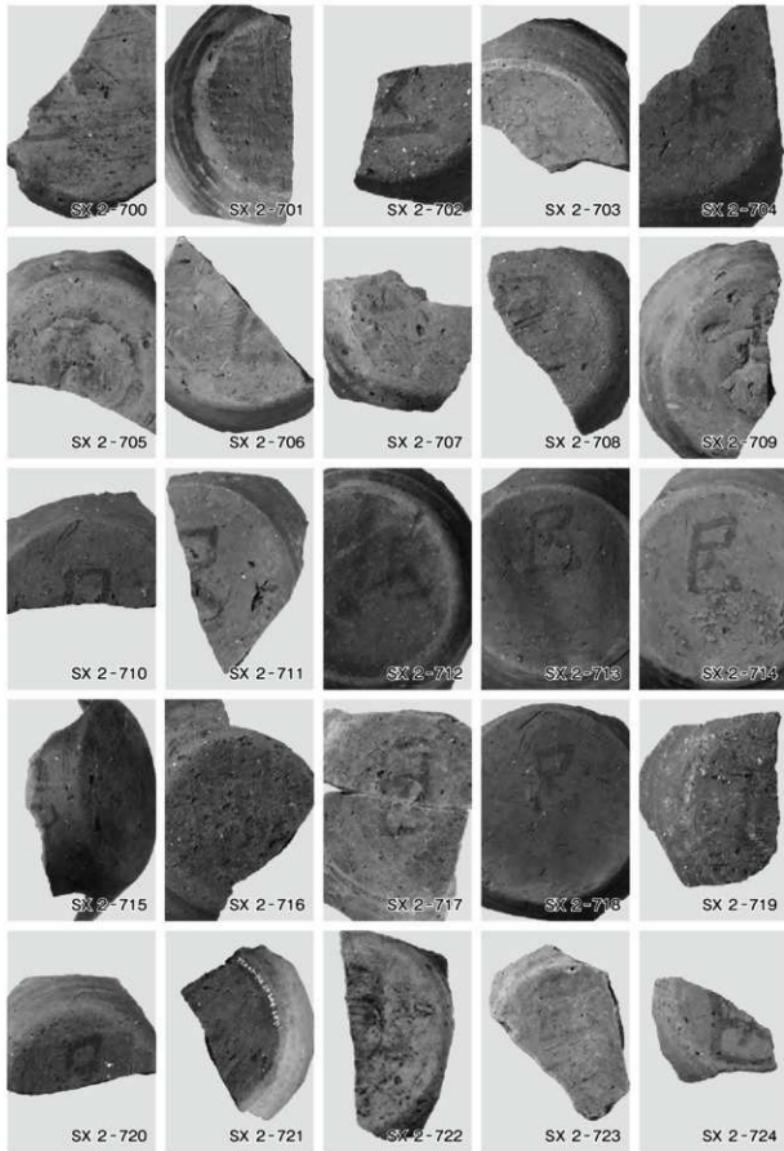
「新・鷦，鷯名・𠂔，𠂔」墨書土器



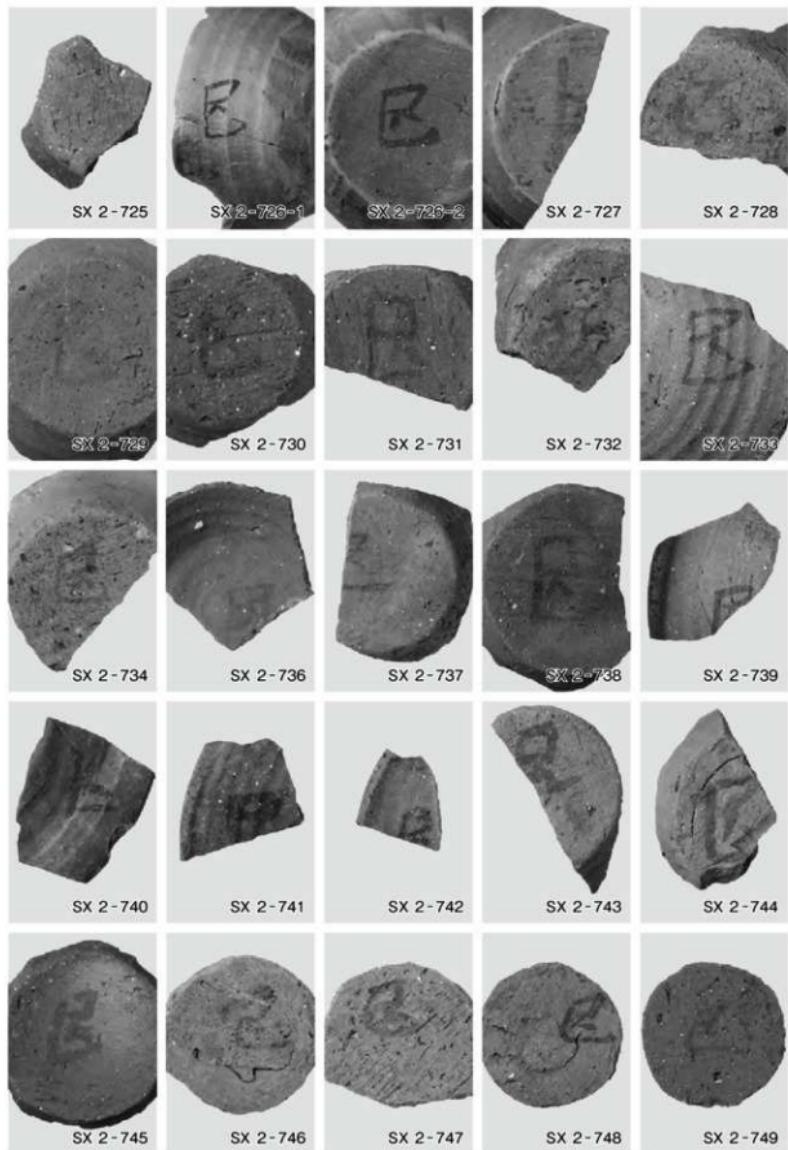
「匚、匚／中家／匚」墨書土器



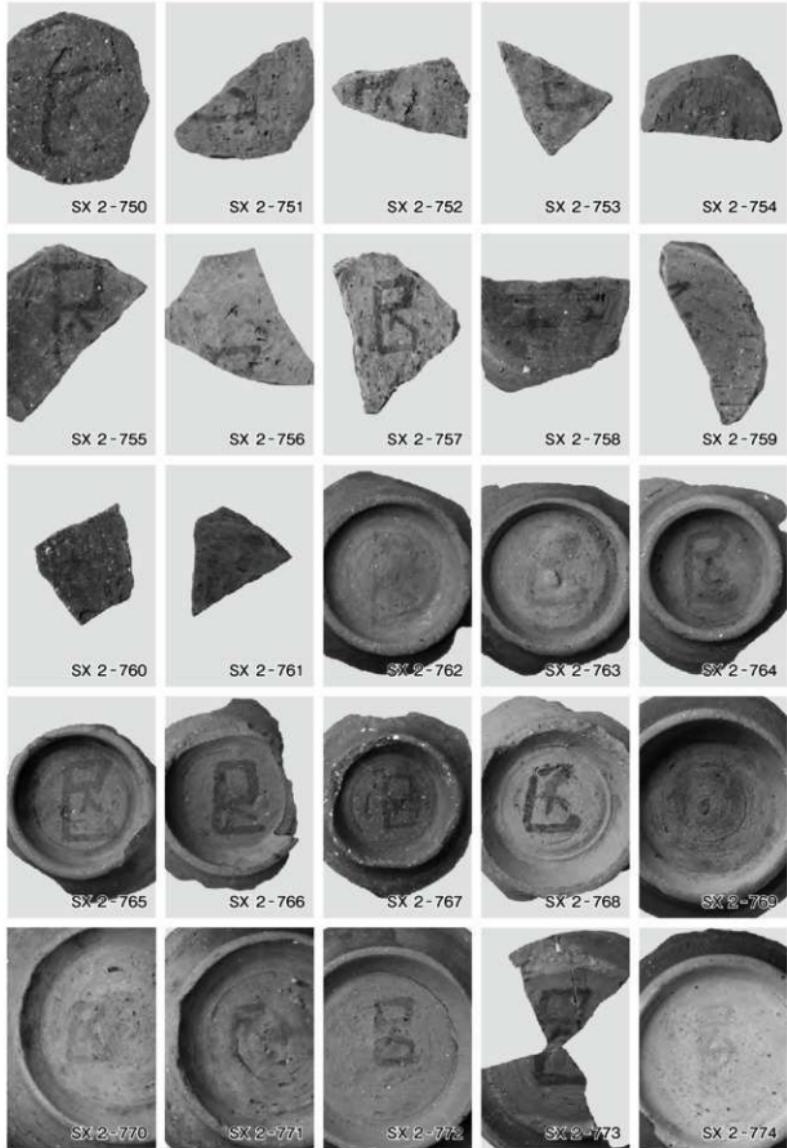
「匸」墨書土器



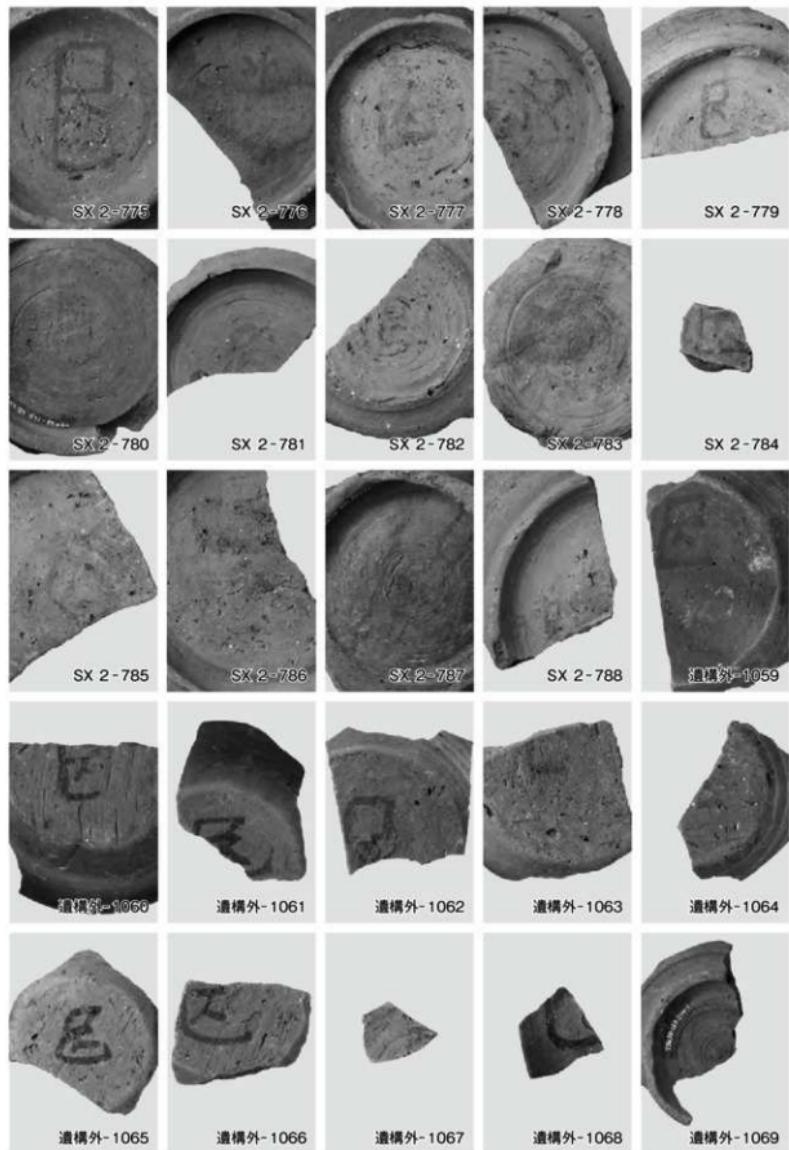
「図」墨書土器



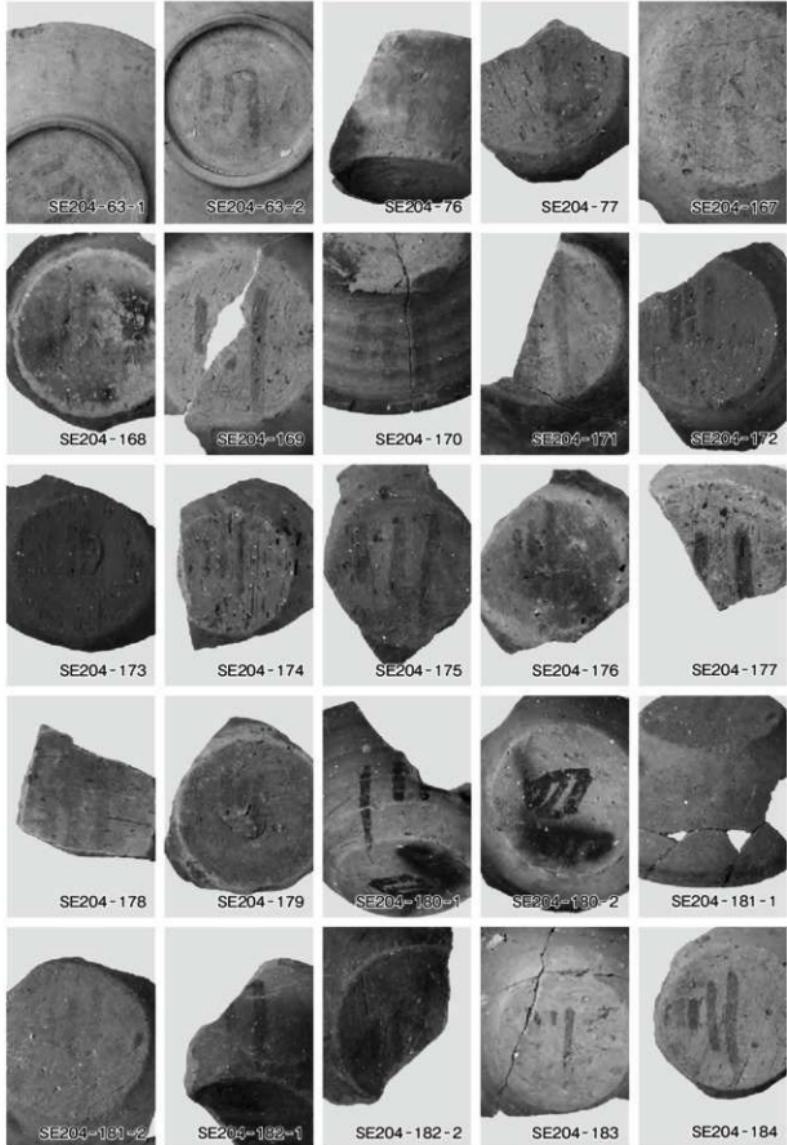
「匚」墨書土器



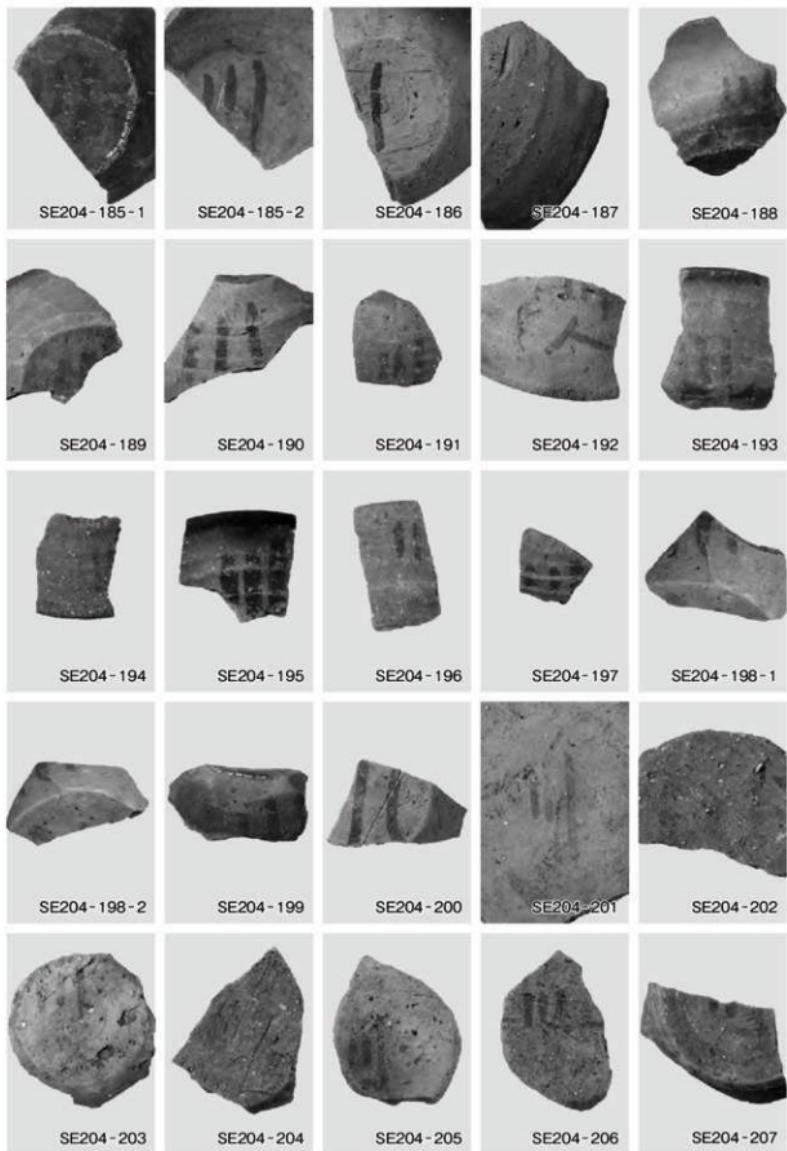
「匸」墨書土器



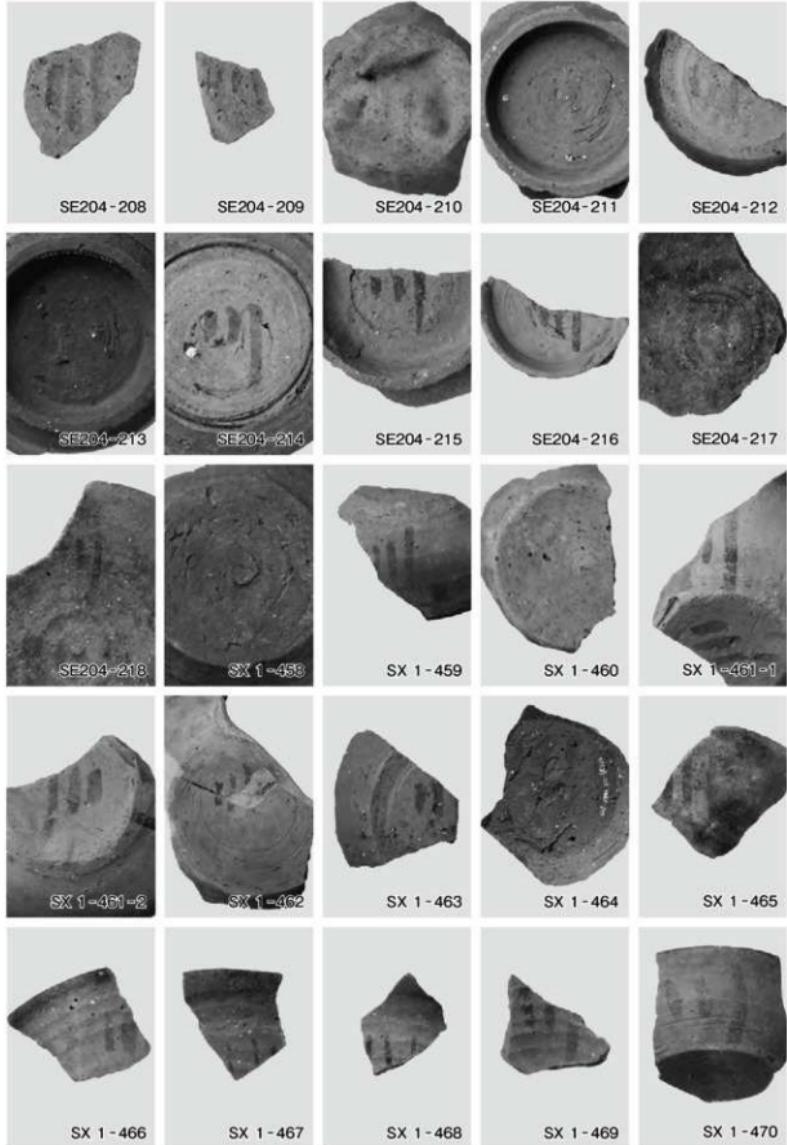
「匱, □・水・匱・匱」墨書土器



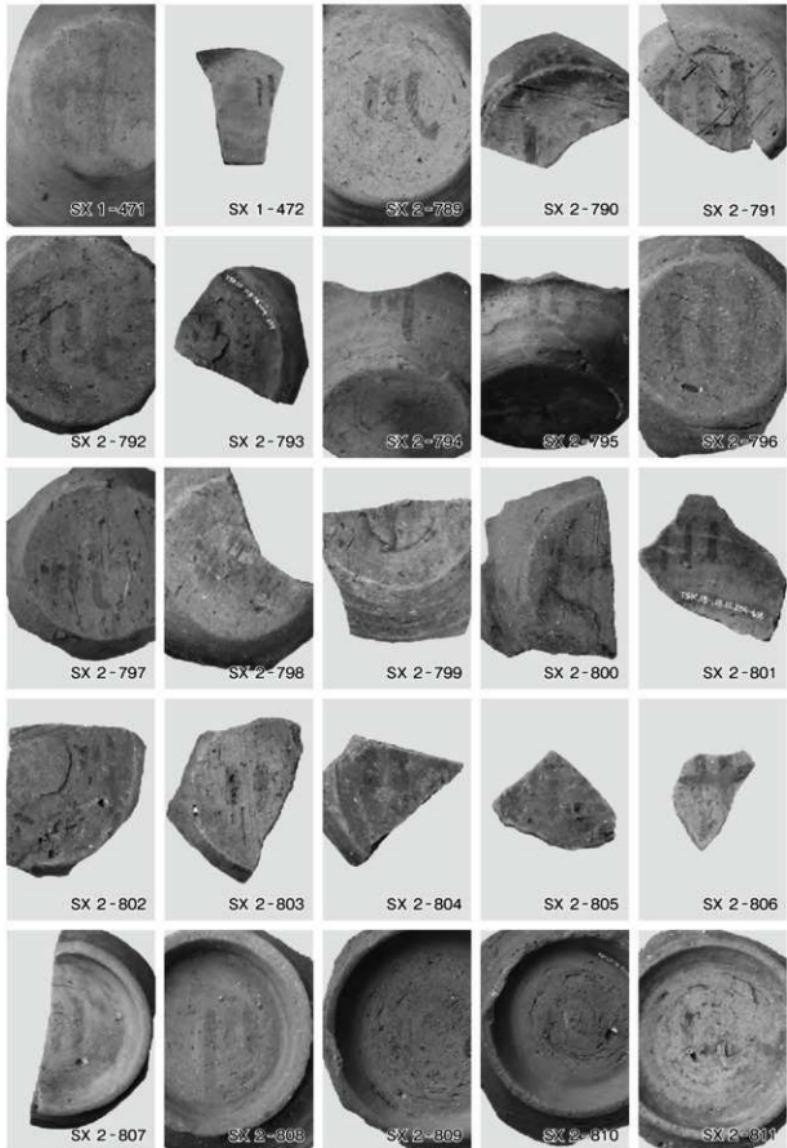
「川／川，川，川／四」墨書土器



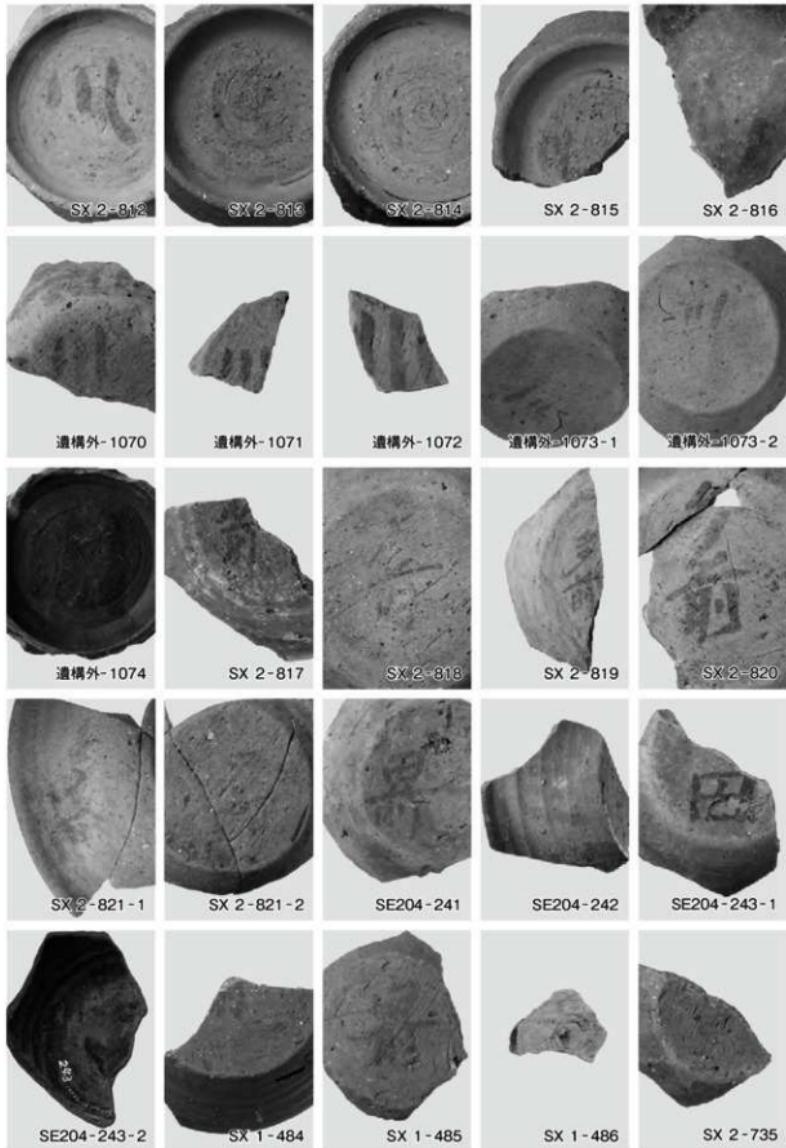
「川, 川/川, 川人」墨書土器



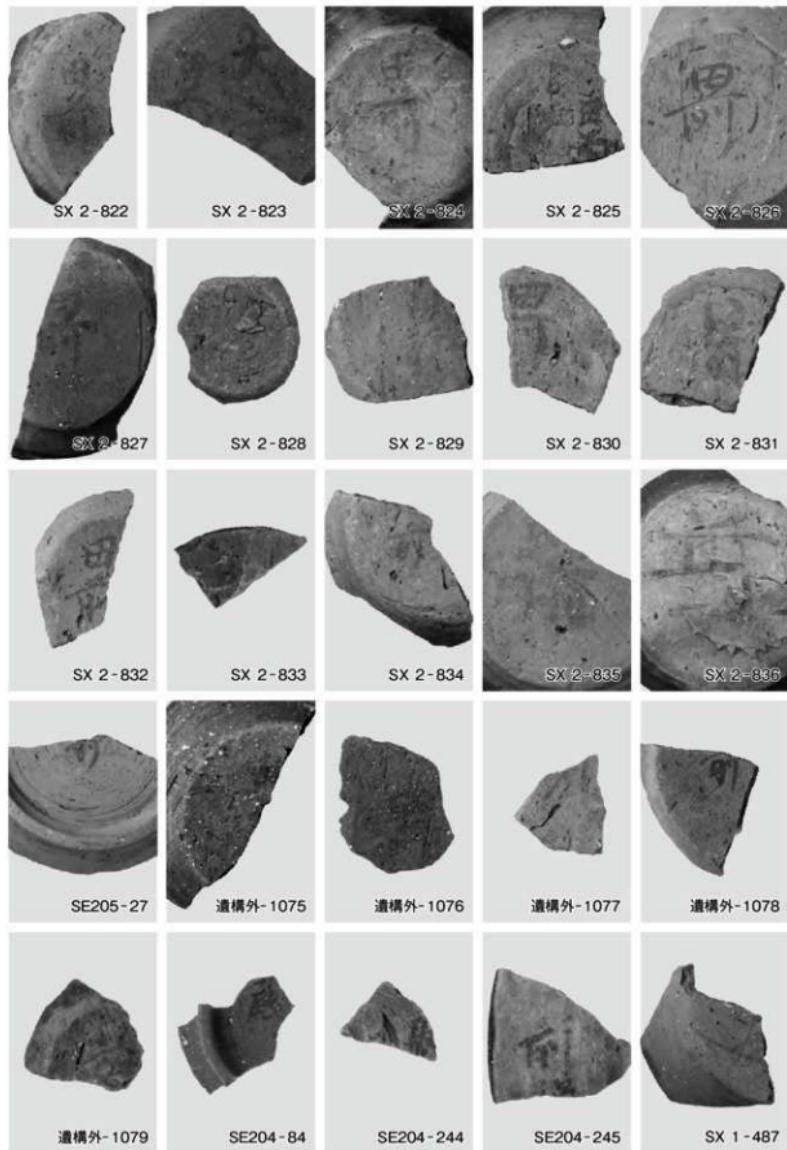
「川, 川/川」墨書土器



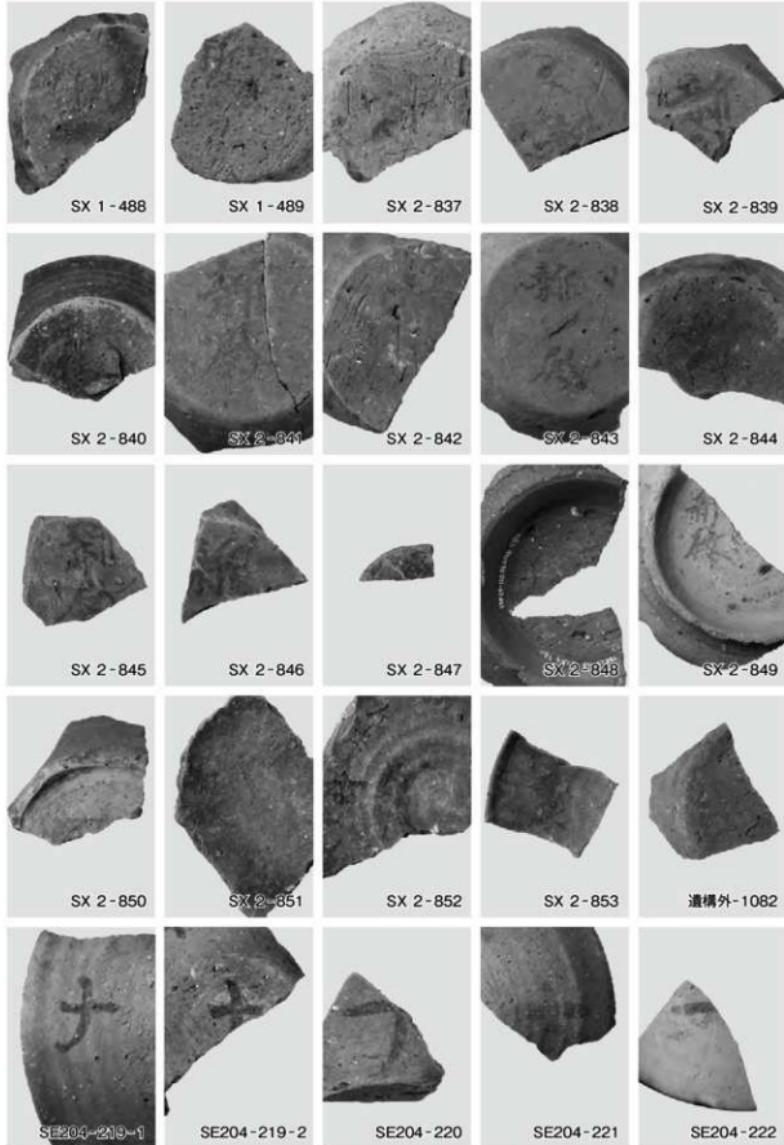
「川」墨書土器



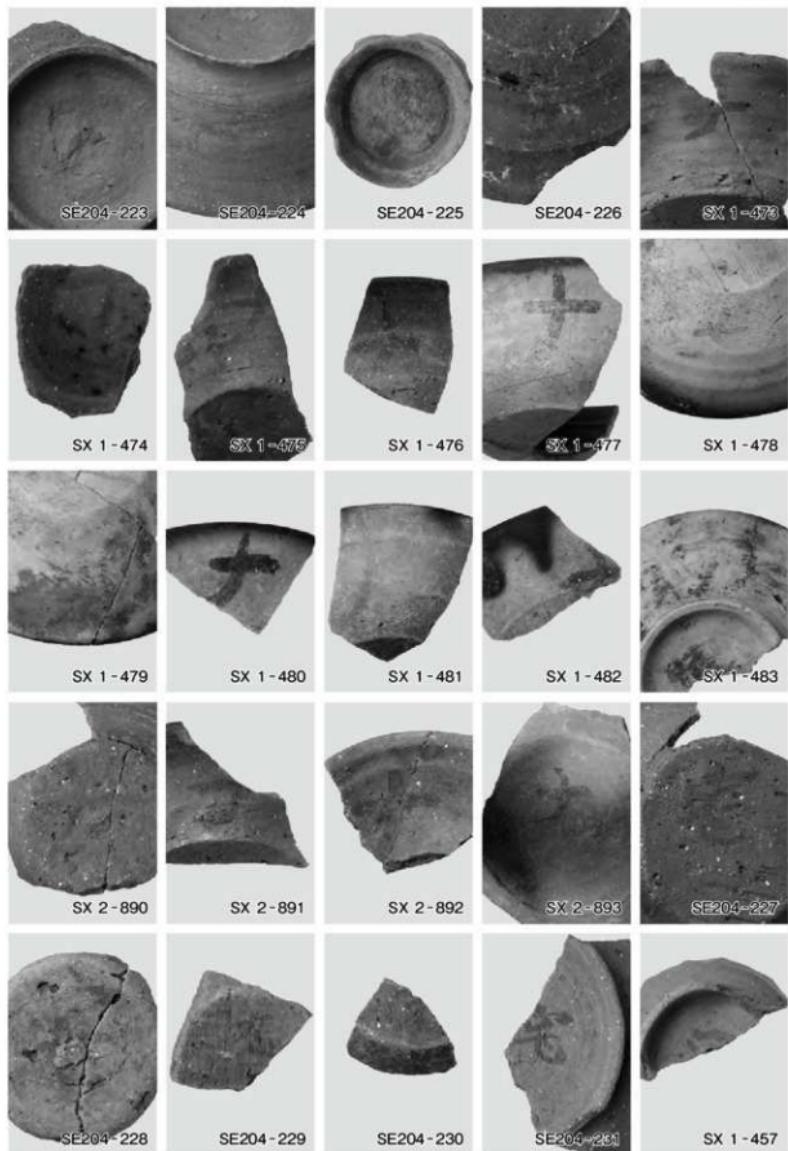
「川, 多前, 田前, 田, 前」墨書土器



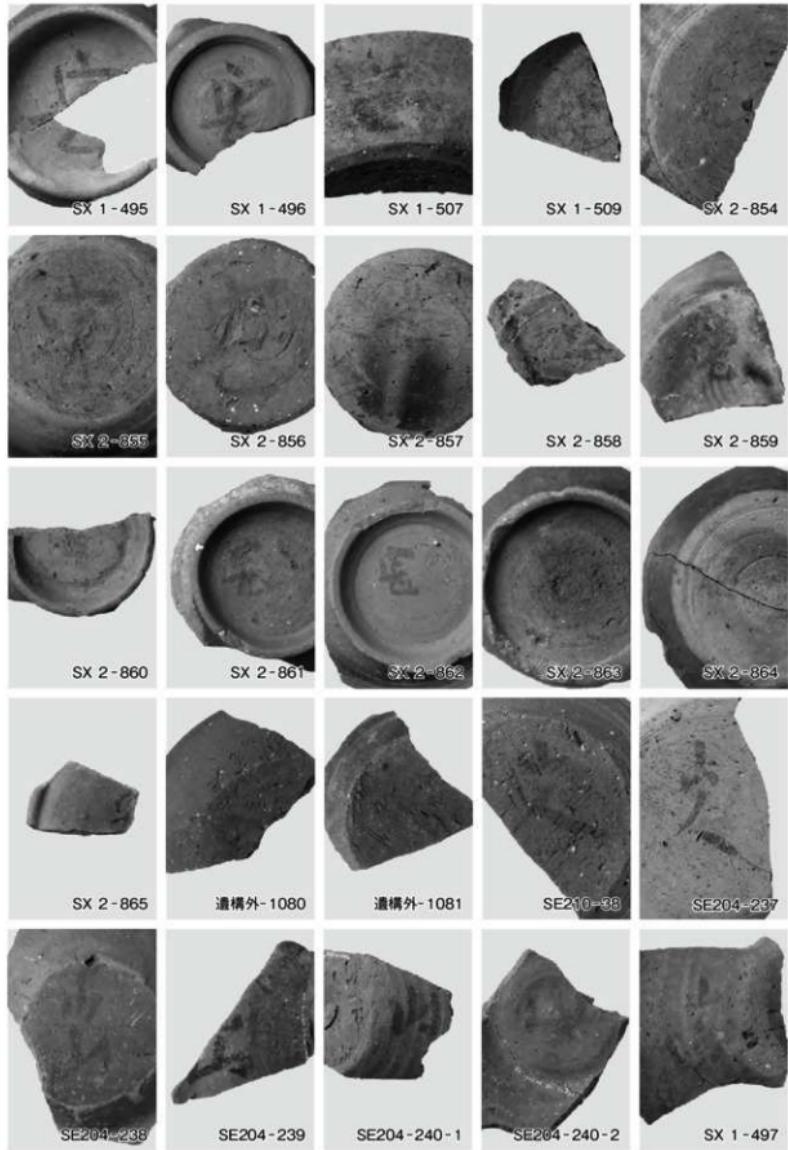
「田前，大家・田前，前，殿」墨書土器



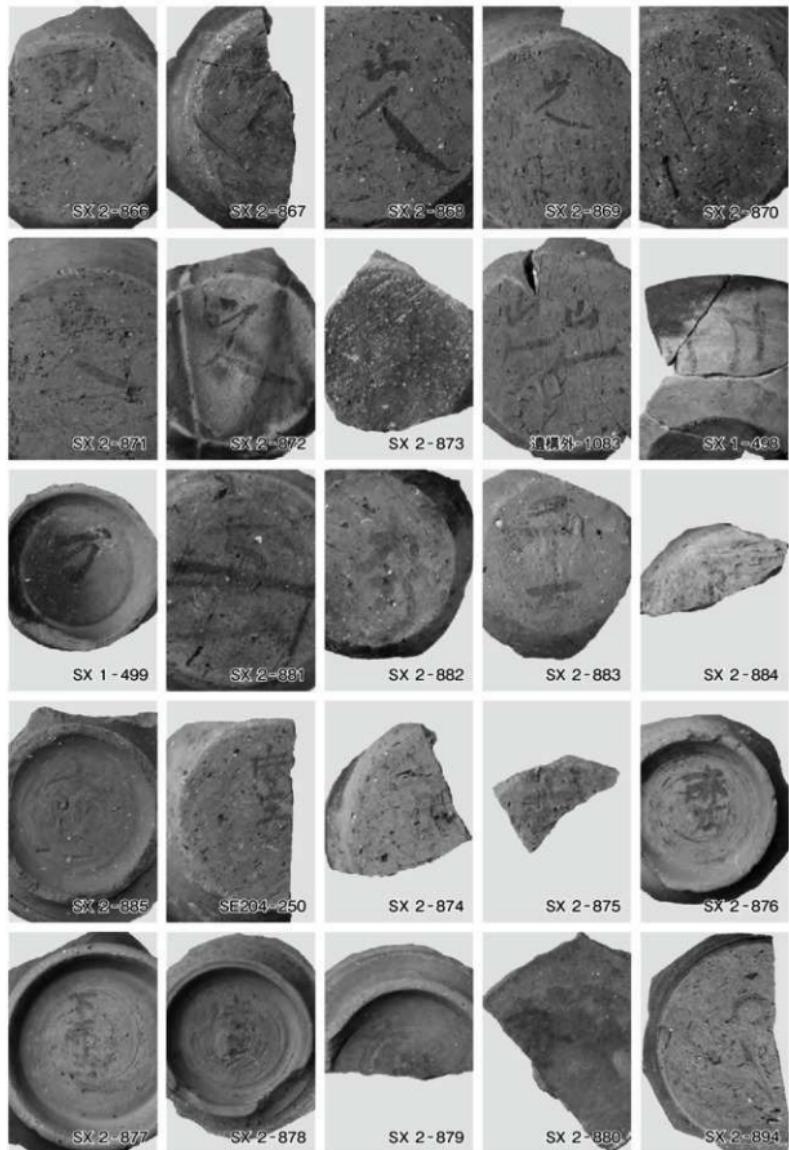
「殿，新，新殿，ナ」墨書土器



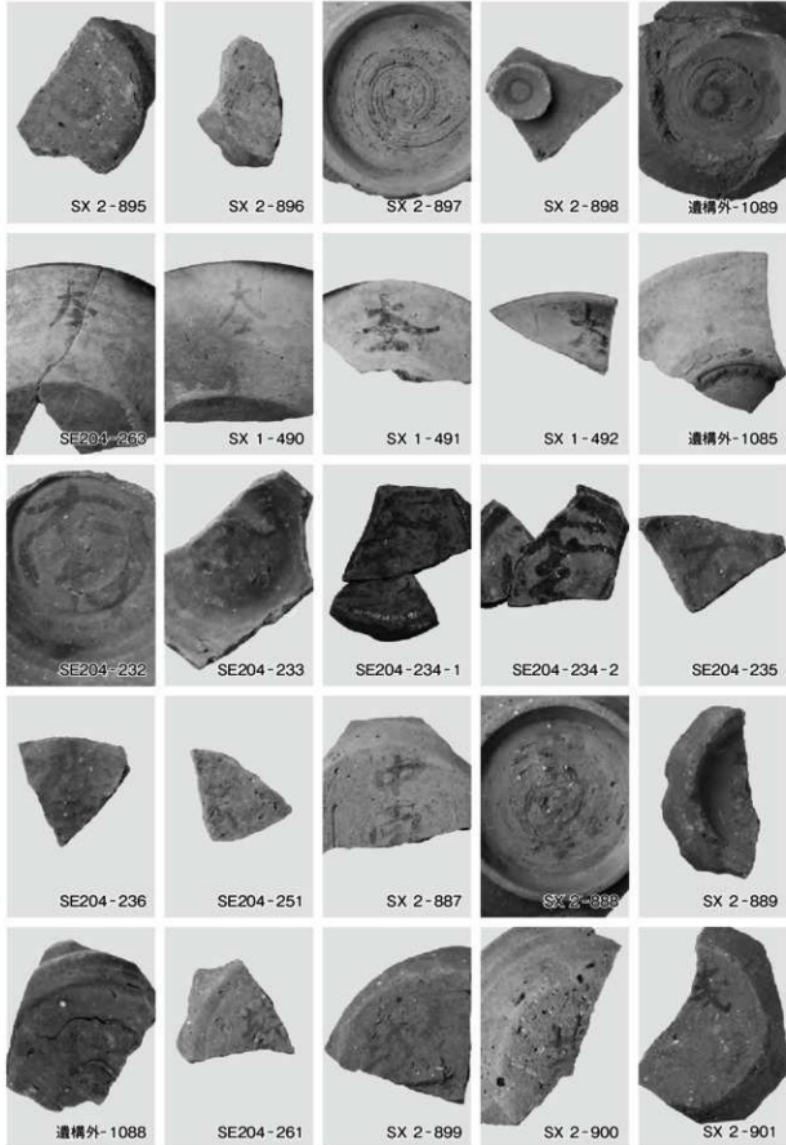
「ナ、宅」墨書土器



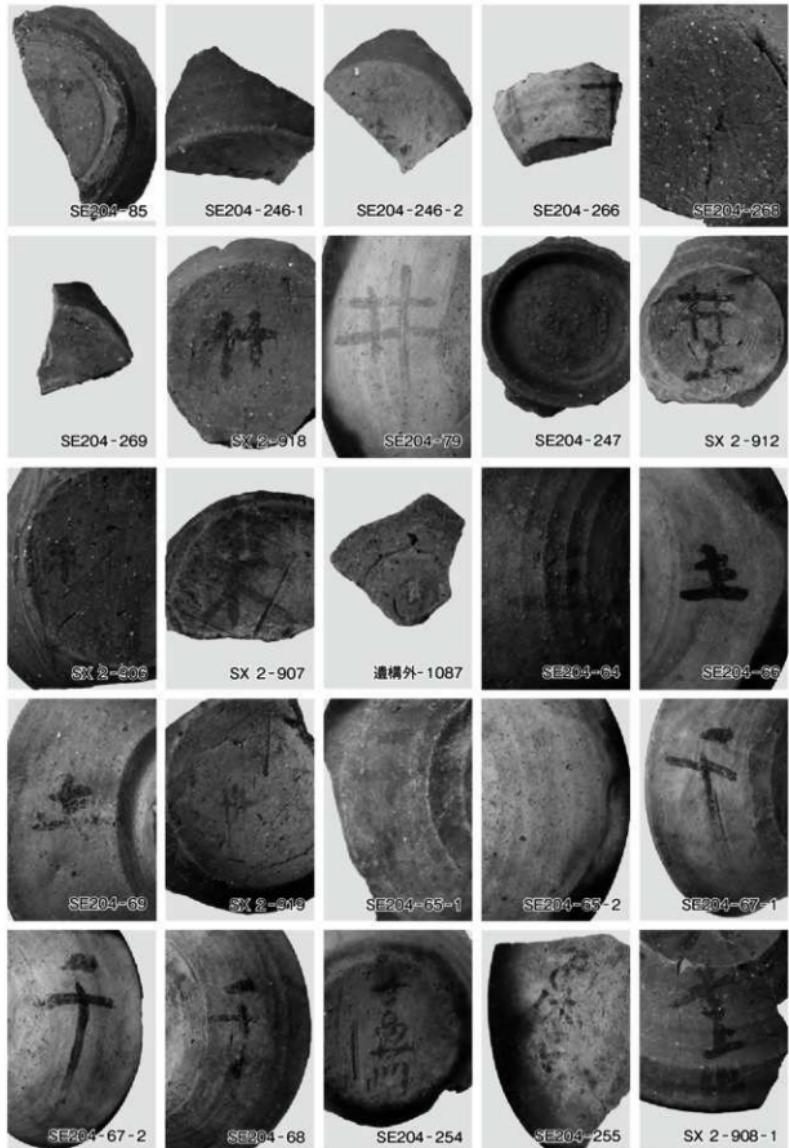
「宅，山人，山山，山／山」墨書土器



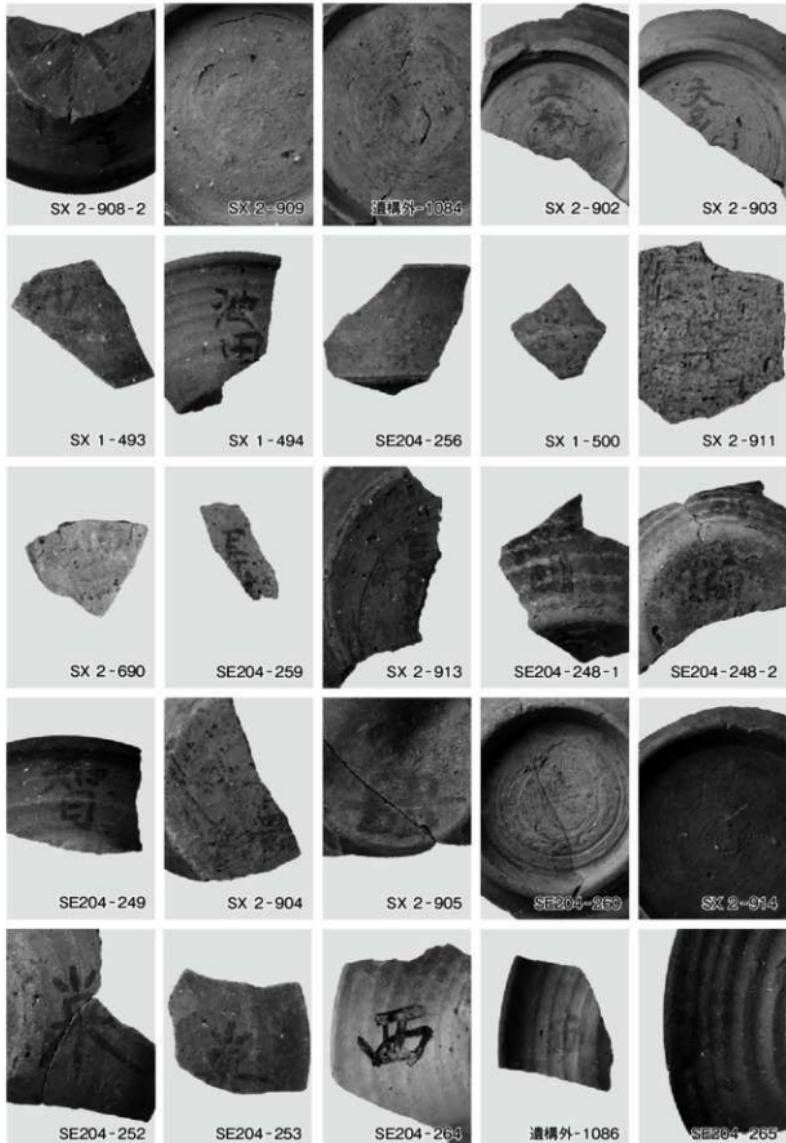
「山人，山人·山人，万，大万，千万，麻生，麻，下麻主，○」墨書土器



「○, 空, 南, 南／南, 中家, 家, 中, 城」墨書土器



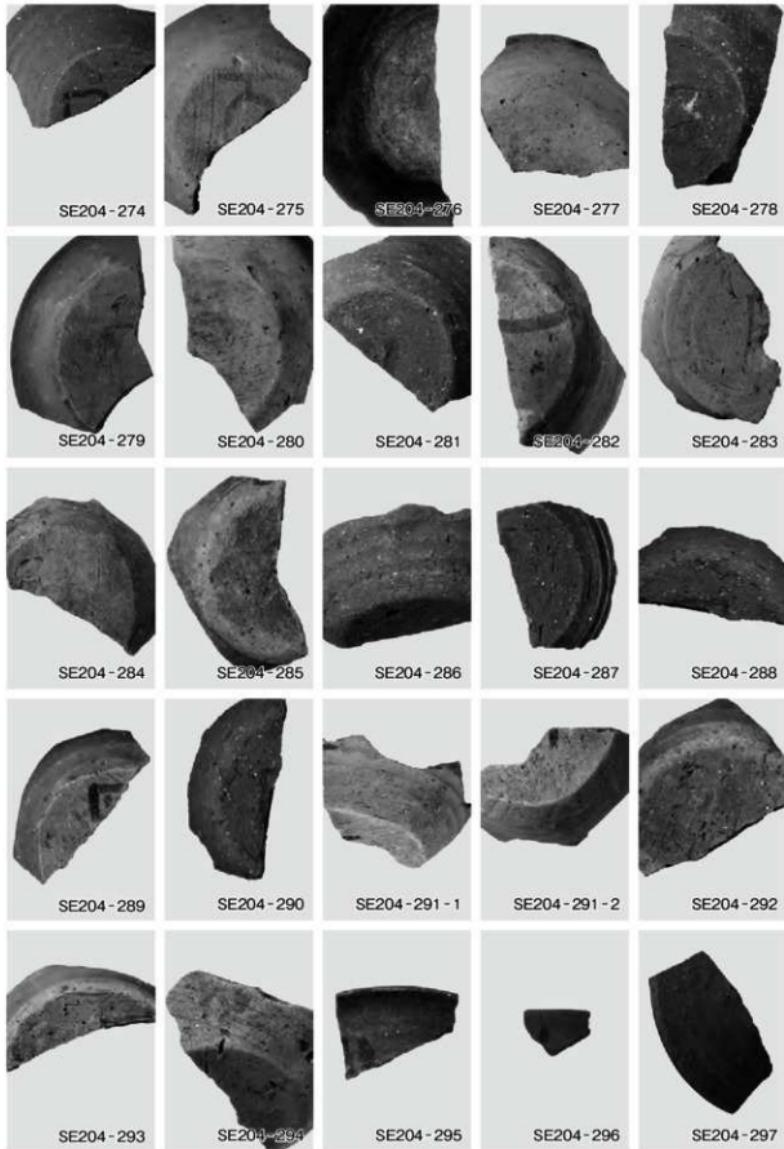
「十, 什, 井, 井上, 禾, 土, 卅, 干, 子鼻門, 子佐古, 子上山/□」墨書土器



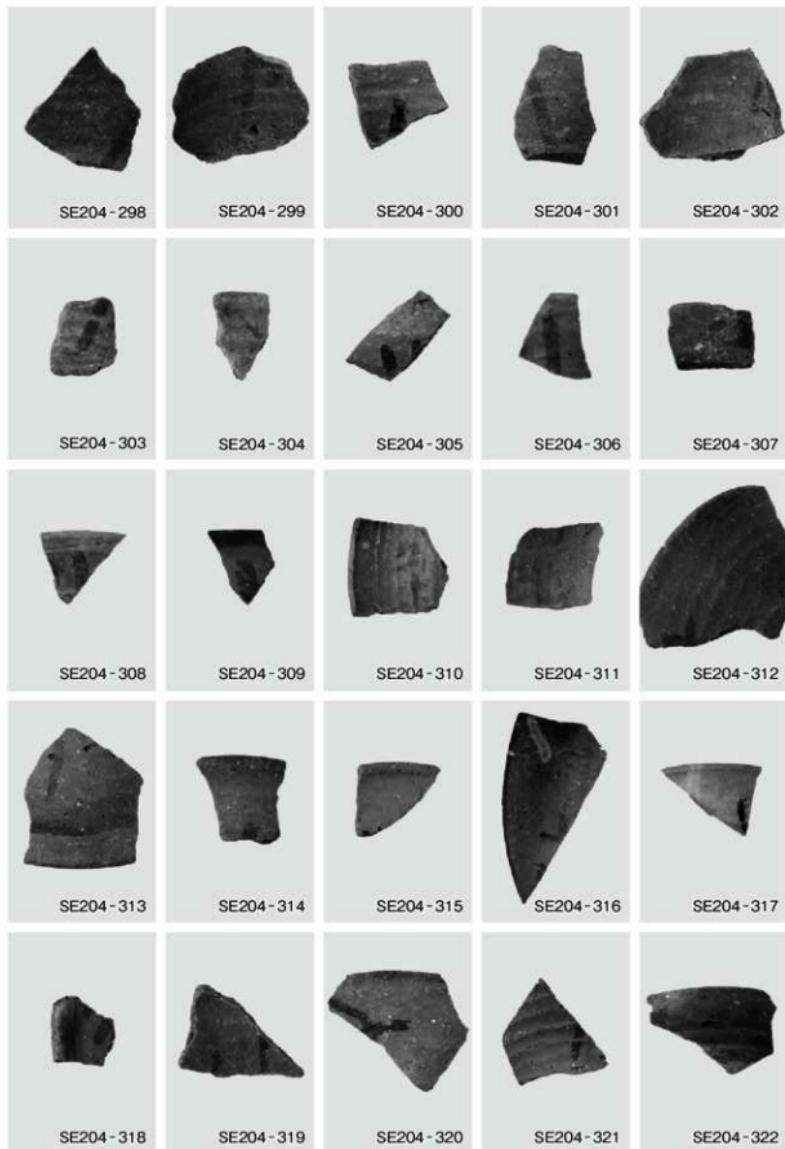
「子上山／□，□山□□水，止田，裏麻新殿，大多，池田，栗，小栗，□部，長□，智／福，智，器，槻，
巢，西，夫」墨書土器



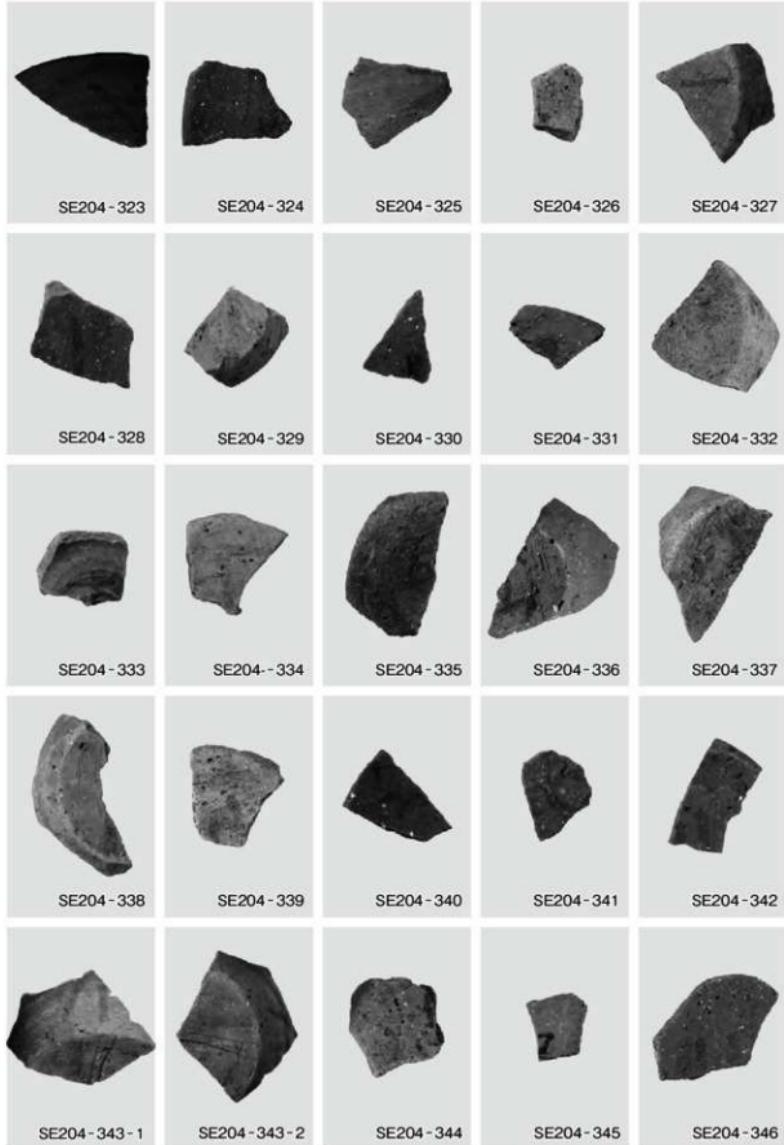
「夫，成／成，野，邊，坊家，淡水，稅，□，香，寺，月，伍，佐，止，大，ノ，不明」墨書土器



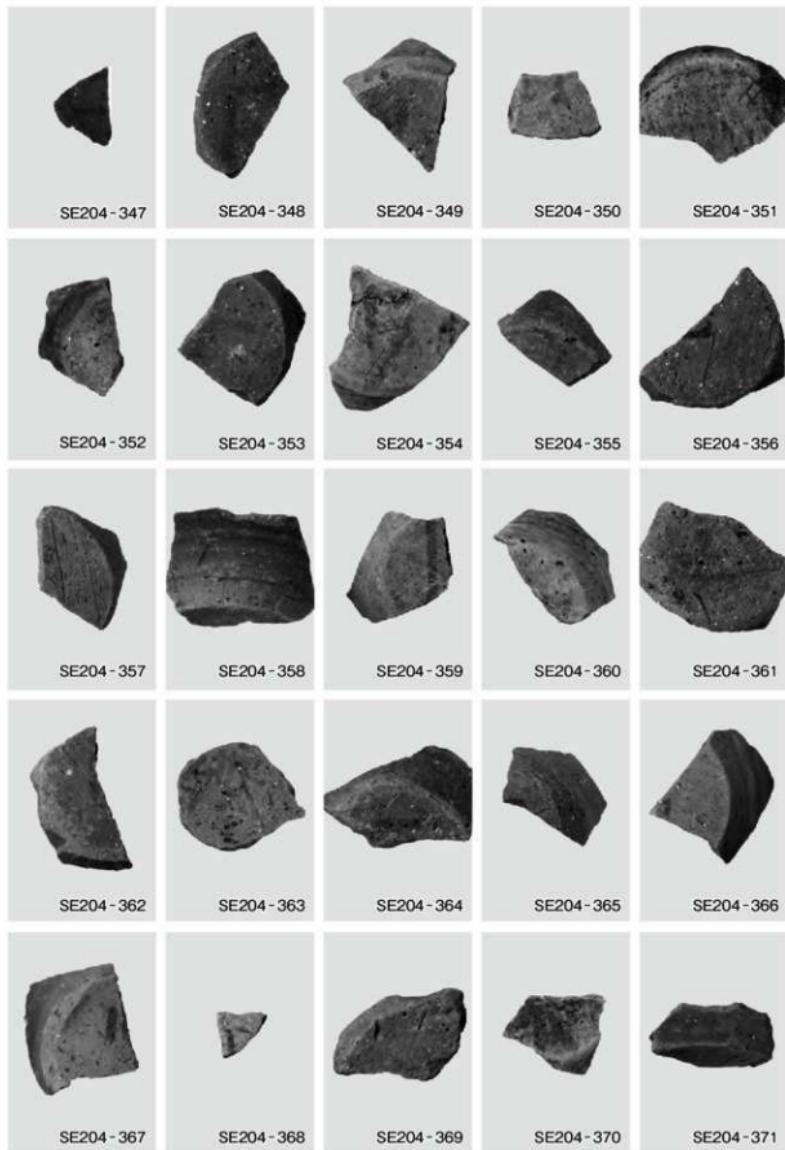
「不明」墨書土器



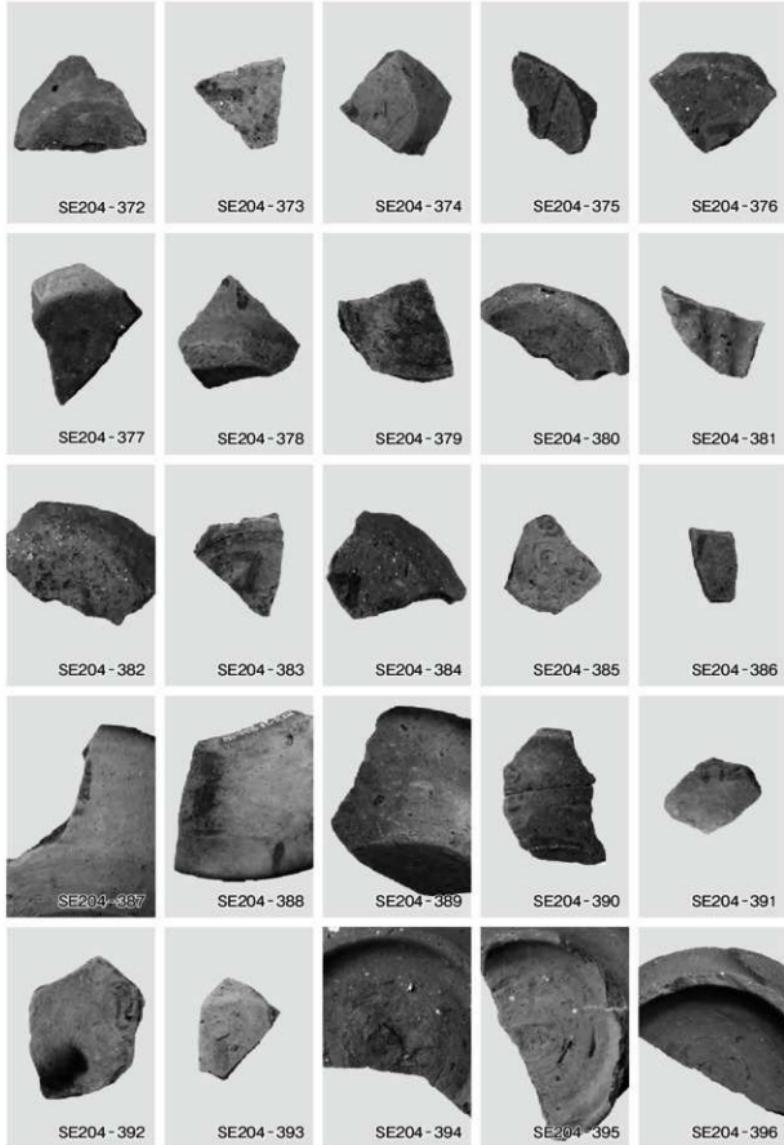
「不明」墨書土器



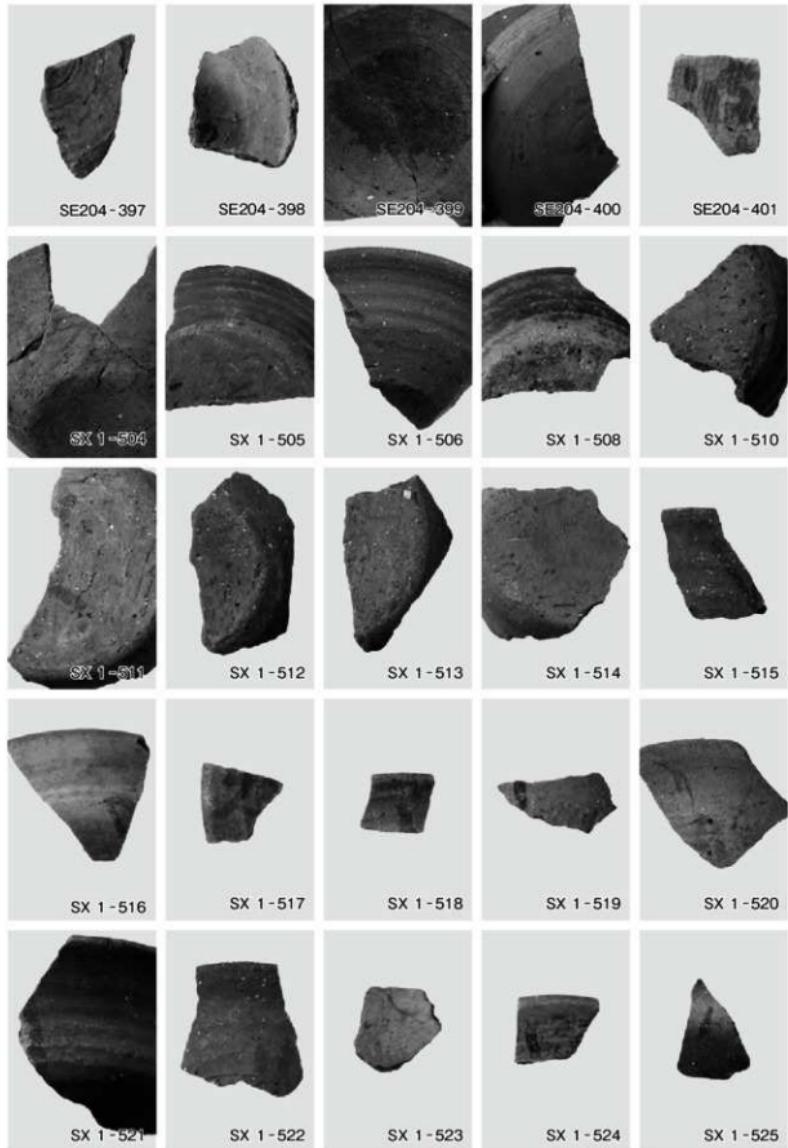
「不明」墨書土器



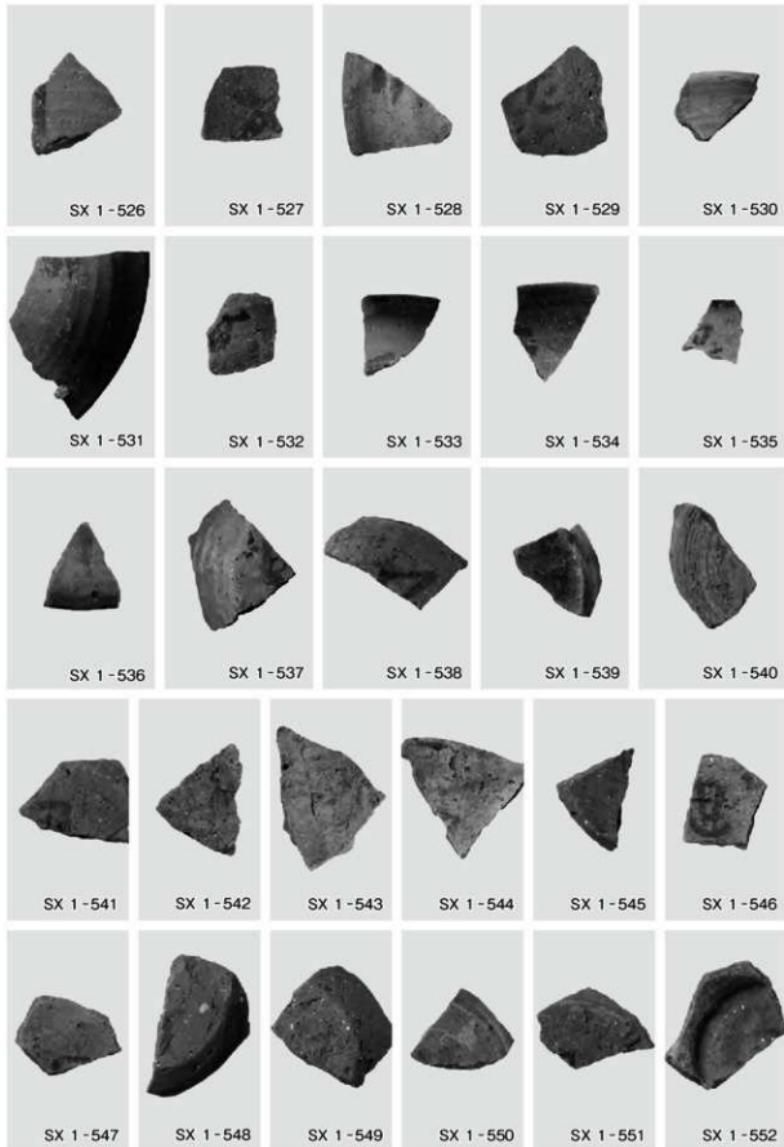
「不明」墨書土器



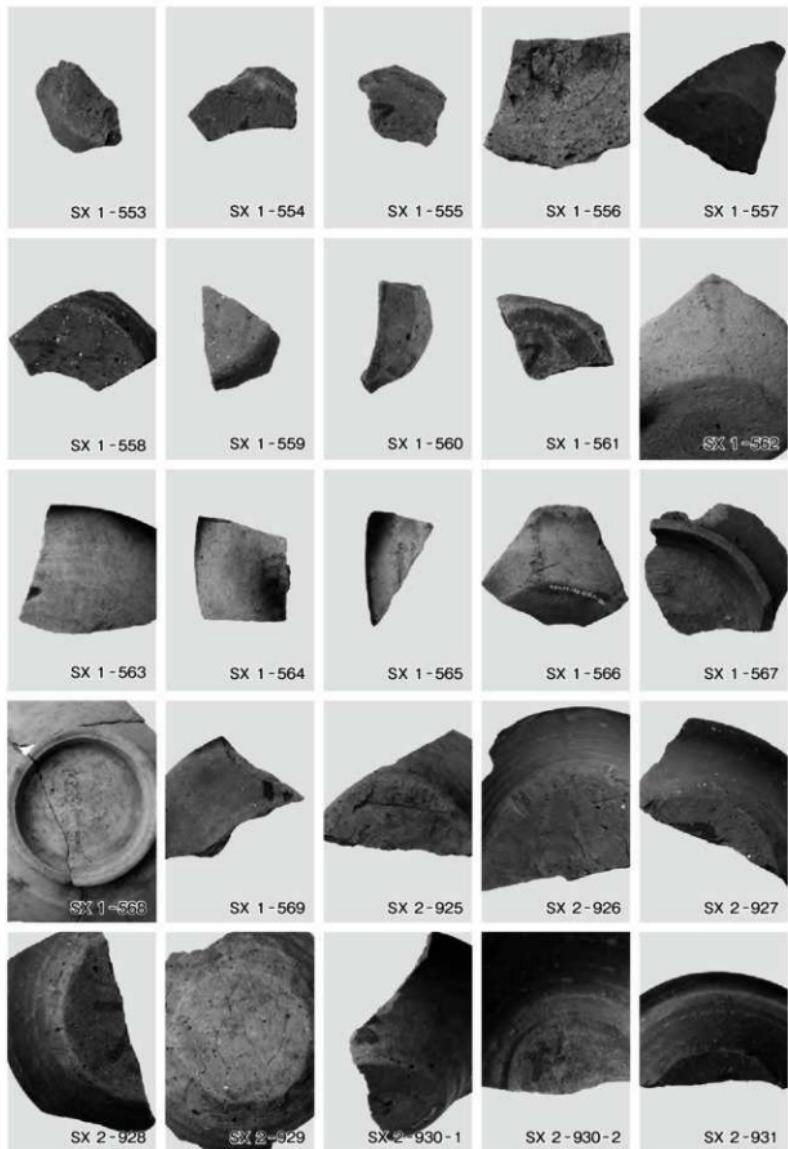
「不明」墨書土器



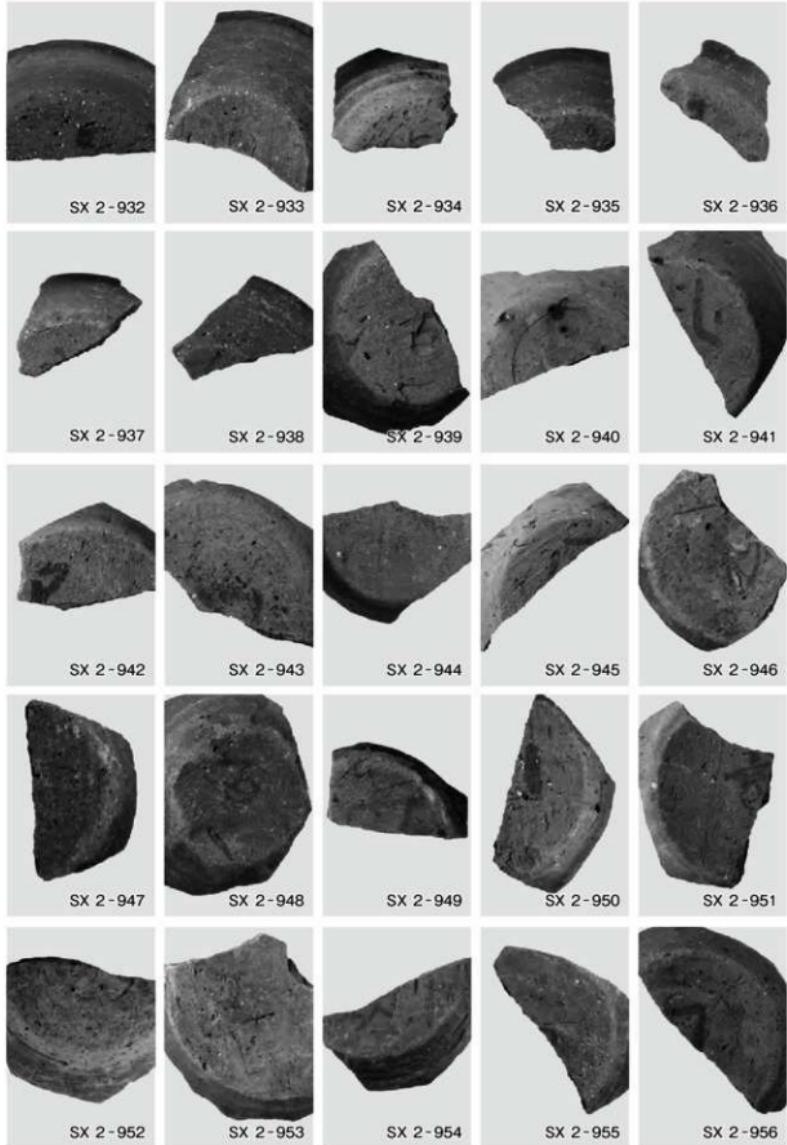
「不明」墨書土器



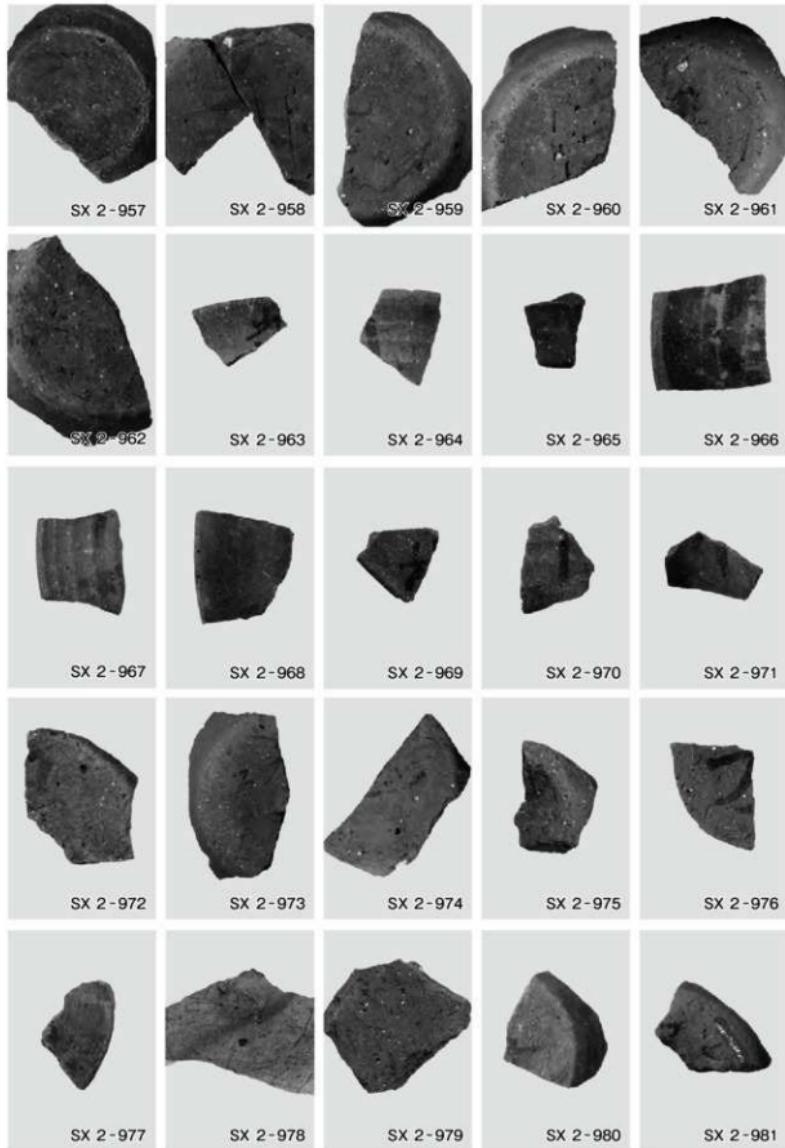
「不明」墨書土器



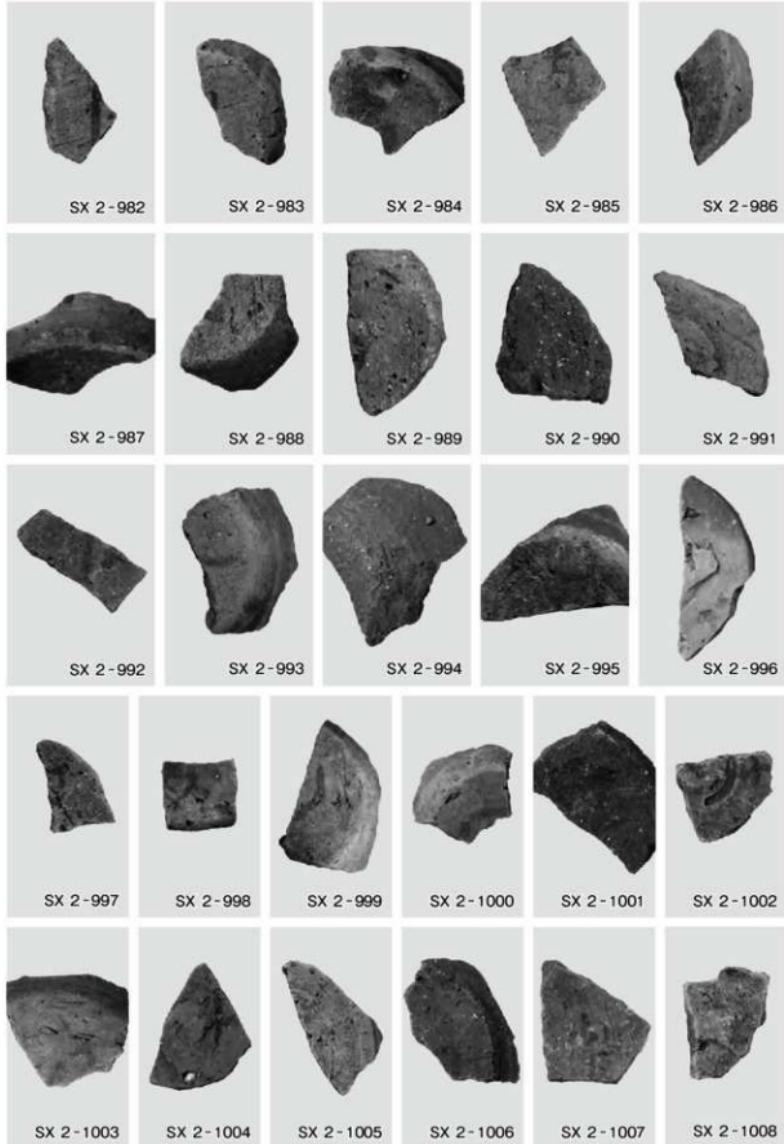
「不明」墨書土器



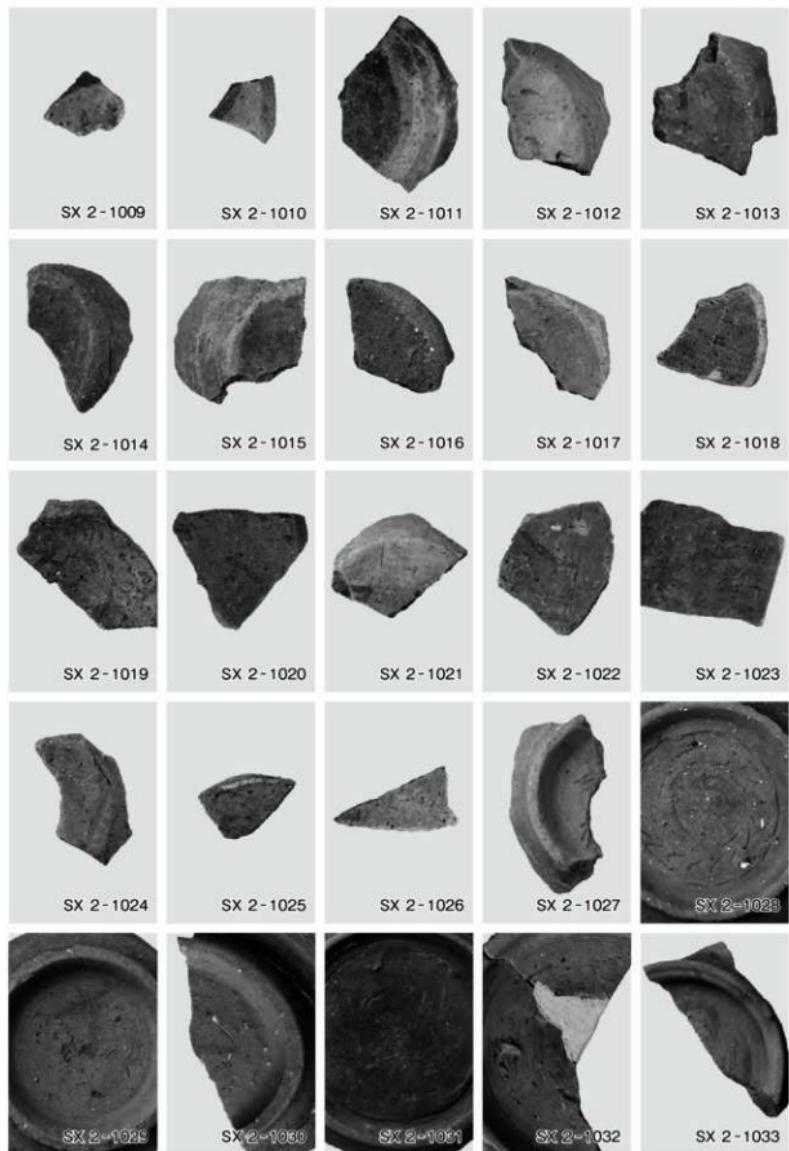
「不明」墨書土器



「不明」墨書土器

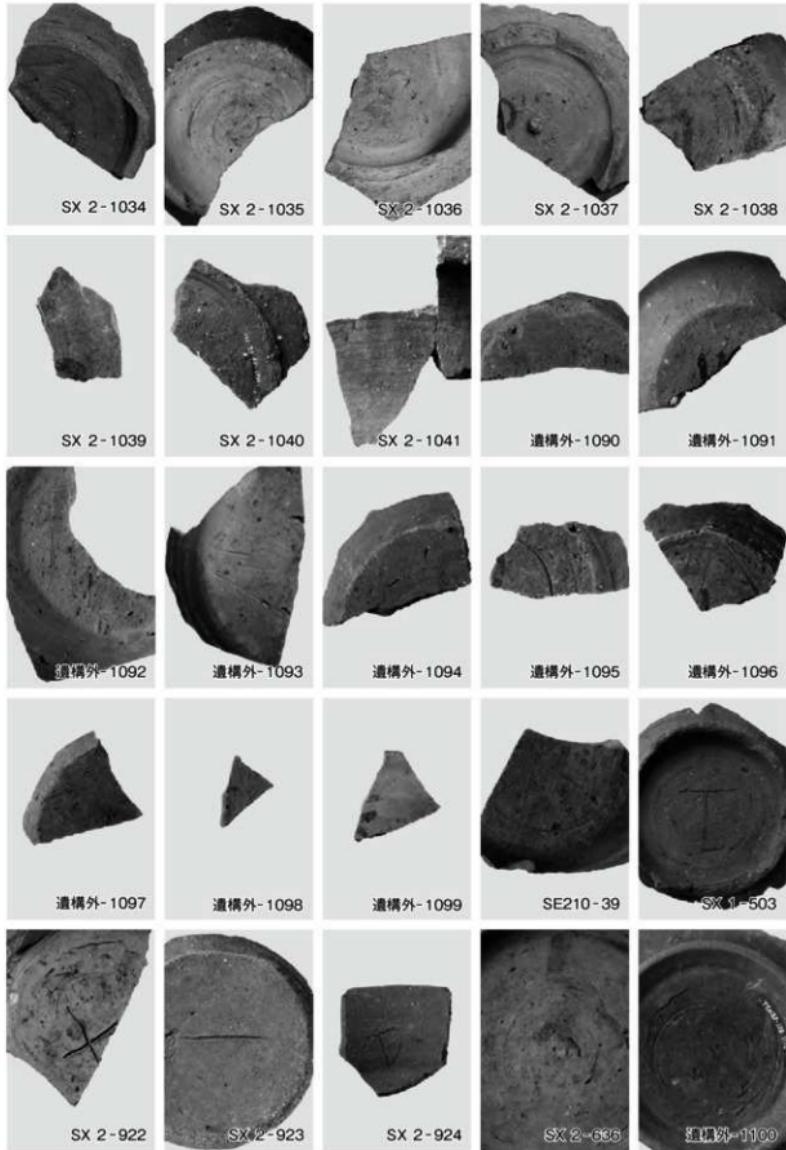


「不明」墨書土器



「不明」墨書土器

PL78



「不明」墨書土器，範書土器，墨痕

抄 錄

印 刷 仕 様

編 集 O S Microsoft Windows XP
Professional Version2002 Service Pack 3
レイアウト Adobe InDesign CS 3
図版作成 Adobe Illustrator CS 3
写真調整 Adobe Photoshop CS 4
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
組 版 OpenType13級リュウミンPro・L 基本
Adobe InDesign CS 3
印 刷 オフセット印刷
写真製版 スクリーン線数 モノクロ175線 カラー210線
・印刷所へは、Adobe InDesign CS 3でレイアウトしたもの入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第380集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地地区画
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成25（2013）年 3月12日 印刷

平成25（2013）年 3月15日 発行

発行 公益財團法人茨城県教育財团

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 いばらき印刷株式会社

〒319-1112 那珂郡東海村村松3115-3

TEL 029-282-0370